

國ノ字ノ下ニ者ノ字ヲ添テ看ヨ、苦ハ懇切ノ義ナリ、斷絶ハタツト訓ミ、絶ノ復語ナリ、白黒ハ利害得失ヲ指シ言フ、乃チ利得ハ白ト陽トニ當テ、害失ハ黒ト陰ニ當テシ者ナリ、

〔文〕此節ハ他ノ策士ノ論說ヲ聽クノ不可ナルヲ説ク、

燕ハ織リ物ノ名、蓑ハカハコロモト訓ム、楯ハタチハナ、楯ハユツ、湯沐ハユアミト訓ム、奉ハ資金ヲ指ス、父兄ハ年長ノ者ナリ、封侯ハ封セラレテ大名トナルコト、包ハ井呑

ノ義、五伯ハ五霸ナリ、齊ノ桓公晋ノ文公等ノ五大名ヲ指ス、禽ハ擒ノ古字、拱ハコマメクト訓ム、拱手ハ手出シテセメコト、有ハ所有スルナリ、

〔文〕此節ハ合従策ヲ用ルノ利ヲ説ク、

與ハ黨與ノ與ナリ、弱ハ衰微スルヲ云フ、

孰ハ熟ノ古字、孰計ハ熟ト考ルノ義、援ハタスケト訓ム、

劫ハチヒヤカスト訓ム、包ハツ、ム

得安。故夫謀人之主伐人之國。常苦出辭斷絶人之交也。

願君慎勿出於口。請別白黑。所以異陰陽而已矣。

フ政テ外ヨリ來ル所ノ患害ノ人民ヲ苦ムル者ヲ述ヘン、夫レ齊ト秦トカ兩方カラシテ趙ニ敵スレハ則チ人民ハ安樂ヲ得スシテ苦シムハ、是レ今日ノ形勢ナリ、刈ルカ故ニ人民ノ主君ヲ欺キ謀ツテ人

ノ國ヲ征伐シテ利益ヲ得ント欲スル所ノ士ハ、常々懇切ニ巧ミナル辭ヲ出シテ人君ノ交際ヲ斷ツコトノミヲ務メルナリ、故ニ伏シテ願クハ後來ハ貴殿慎テ隣交ヲ斷ツ事ヲ口舌ヨリ出ス勿レ、因テ又隣交ヲ擇フニ就テ是非黑白得失利害ヲ辨別スルコトヲ請フ、其得失利害ヲ辨別スルノ法ハ、敢テ難キニ非ラス、只陰ト陽トノ異ナルカ如キノミ矣。君誠能聽臣。燕必致旃裘狗馬之地。齊必致魚鹽之海。楚必致橘柚之園。韓魏中山皆可使致湯沐之奉。而貴戚父兄皆可以受封侯。夫割地包利五伯之所以覆軍禽將而求也。封侯貴戚湯武之所以放弑而爭也。今君高拱而兩有之。此臣之所以爲君願也。

等ヲ產出スル土地ヲ献上致シ、齊ノ君王ヨリシテハ魚鹽等ヲ產出スル海ヲ献上致シ、楚ノ君王ヨリシテハ橘柚等ノ產出スル園ヲ献上致シ、韓魏王及ヒ中山ノ君ヨリシテハ貴殿カ湯沐ノ爲メニ費ス所ノ金ヲ献上致サシム可シ、其上貴キ御親戚及ヒ父兄方ハ皆々右等ノ國々ヨリノ献上スル土地ヲ以テ封地ヲ受テ大名ト爲ル可シ、サテ人ノ領地ヲ割キ取リ利益ヲ井呑スルハ昔ノ五霸ト呼ハレタル大名共カ其軍兵ヲ顧覆サレ其將軍ヲ捕縛サレテモ欲シ求メタル所ナリ、貴キ親戚カ封セラレテ大名ト爲ル事ハ殷ノ湯王ヤ周ノ武王ノ若キ聖人モ其君ヲ放逐シタリ其君ヲ弑シタリシテモ利ヲ爭ヒシ所ナリ、今然ルニ枕ヲ高クシ手ヲ拱ヒテ五霸ト湯武ノ兩方ノ利益ヲ一齊ニ有ツテ得、此レソ臣カ計略ヲ運ラシテ貴殿ノ爲メニ願フ所以ノモノニ

ソア 今大王與秦則秦必弱韓魏。與齊則齊必弱楚魏。

シ臣ノ合従策ヲ聽カス秦ニ黨スレハ則チ秦王必ス韓ト魏ト兩國ヲ衰弱セシムルニ至リ、大王カ齊ニ黨スレハ、則チ齊王ハ必ス楚ト魏ト兩國ヲ衰弱セシムルニ至ルハ、則チ勢ヒナリ、

弱則割河外。韓弱則效宜陽。宜陽效則上郡絕。河外割則道不通。楚弱則無援。此三策者。不可不孰計也。

スレハ則チ河外ノ地ヲ割テ秦ニ與ヘ、韓カ衰弱スレハ則チ宜陽ノ城ヲ秦王ニ献上致スナリ、宜陽ノ城ヲ秦ニ献上致セハ則チ上郡ノ道路絶ヘ、河外ノ地ヲ割テ秦ニ與レハ則チ道路通セス、楚カ衰弱スレハ則チ趙ノ援兵無シ、此ノ三ノ策略ニ就テハ、大王ハ爲ト勘考シナクテハナラヌナリ、

夫秦下軹道則南陽危。劫韓包周則趙氏自操兵。據衛取淇卷則齊必入朝秦。秦



ト訓ミ、井呑ノ義、將ハ向ト同シ、忠ハウレフルト訓ミ、心配スルノ義、

〔文〕此節ハ秦齊ノ兩國ニ就テ皆ヲ述フ、

建國ハ大名ヲ指シ云フ、

帶甲ハ軍兵ヲ指シ云フ、

支ハサツフト訓ム、

〔文〕此節ハ趙ノ盛強ヲ誇言ス、

皆ハサマダケト訓ム、然レハ如此トナリ、隣ハ隣ト爲シ看ヨ、

欲己得乎山東則必舉兵而嚮趙矣。秦甲渡河踰漳據番吾

則兵必戰於邯鄲之下矣。此臣之所爲君患也。夫秦兵力輒道

則于南陽危ク、韓王ヲ劫カシ周ノ國ヲ井呑スル時ハ則チ趙王自ラ兵器ヲ執テ之ヲ禦カサルチ

得ス、秦ノ軍勢カ衛ノ國ニ割據シ淇卷ノ地ヲ攻メ取ル時ハ則チ齊王カ秦ニ入朝スルハ必然ナ

リ、秦王カ若シ山東ニ意ヲ得ント欲スル時ハ則チ軍兵ヲ引率シテ趙ニ向テ攻メ入ルヤ必然ナ

リ、若シ秦ノ甲兵カ河ヲ渡リ漳山ヲ踰ヘ番吾ノ地ニ屯セハ則チ秦ト趙ノ兩軍ハ邯鄲城ノ下ニ

合戦スルハ必然ナリ、是等ノ事ハ臣ノ當今之時、山東之建國莫彊於

趙。趙地方二千餘里。帶甲數十萬。車千乘。騎萬匹。

粟支數年。西有常山。南有河漳。東有清河。北有燕國。

燕固弱國。不足畏也。今日ニ在テハ山東ノ諸大名ノ中ニ於テハ趙ノ國ヨリ

千輛ニシテ、騎兵ノ數ハ一萬匹、五穀ハ數年ノ兵糧ニ供スルニ足レリ、且チ其要害ヲ云ヘハ、

四ニ常山ノ險有リ、南ニ河漳ノ流有リ、東ニ清河ノ水有リ、北ニハ燕ノ國有リ、以テ他ノ

國トノ隔チ爲ス、燕ハ本ヨリ弱キ國ナレハ、畏ル、ニ足ラサルナリ、秦之所害於天下者莫如趙。然而

秦不敢舉兵伐趙者何也。畏韓魏之議其後也。然則韓魏

趙之南蔽也。秦之攻韓魏也。無有名山大川之限。稍蠶

食之。傳國都而止。韓魏不能支秦。必入臣於秦。秦無

韓魏之規。則禍必中於趙矣。此臣之所爲君患也。秦王ノ天

下中ニ於テ妨害ト爲ス所ノ者ハ趙ニ如ク者莫シ、斯ク有リナカラ秦王ノ致テ軍兵ヲ舉テ征伐セサ

ルハ何故ソヤト云ヘハ、韓兵ト魏軍ト其後ヲ虞フチ畏ル、カラナリ、是ニ由リ之ヲ觀レハ韓

魏ノ兩國ハ趙ノ南ノ屏風ノ如ク敵ヲ禦クノ要害ナリ、秦軍ノ韓ヲ攻メ取ルヤ、名高キ山

ヤ大キナ川ノ隔テ無シ、是ヲ以テ秦軍カ韓魏ノ兩國ヲ攻取ルハ譬ヘハ蠶カ桑ノ葉ヲ食フ如ク

次第ノ攻メ取リ、韓魏兩國ノ都迄攻メ取ルニ至テ軍ヲ止メルト云フ勢ヒナリ、劉ルカ故

ニ韓魏ノ兩國ニシテ若シ秦軍ヲ防キ支ヘルコト能ハザルノ場合ニ至レハ、兩國ノ君王ハ秦ニ

入朝シテ其臣下トナルハ必然ナリ、而シテ秦カ韓魏兩國ノ隔テ無キノ日ニ至レハ、則チ秦

軍攻撃ノ禍カ直ニ趙ノ國ニ來ルハ必然ナリ、此レ臣ノ貴殿ノ爲メニ深ク心配スル所ナリ、

臣聞堯無三夫之分。舜無咫尺之地。以有天下。禹無百

人之聚。以王諸侯。湯武之士。不過三千。車不過三百

敵ハチホヒト訓ミ、屏風ナリ、要害ナリ、限ハヘタテト訓ミ、間隔ナリ、傳ハイタリト訓ミ、至ト同シ、支ハ防キ止ルチ云フ、規ハヘタテト訓ミ、國策ニハ隔ニ作ル、

〔文〕此節ハ韓魏ハ敵ニ非スシテ却テ趙ノ爲メニ南方一種ノ護衛爲ルチ論ス、

三夫ハ三人ナリ、聚ハムラト訓ム、乃チ聚落ノ聚ナリ、

〔文〕此小節ハ道ヲ得レハ事ノ爲シ易キノ理ヲ説

乘。卒不過三萬。立爲天子。誠得其道也。臣カ聞キシニ唐堯ハ

領分無カリシモ、虞舜ハ一寸一尺ノ地面ノ所有モ無カリシモ、道徳ヲ以テ天下ヲ有ツ、夏禹

ハ百人ノ人民カ集リ住ム程ノ村ヲ領スルコト無カリシモ、道徳ヲ以テ諸大名ノ中ニ於テ帝王



ク、  
料ハハカルト訓  
ム、度モハカルト  
訓ム、  
獲ハケアヒト訓  
ム、乃チ機會ナ  
リ、形ハアラハル  
ト訓ム、捨ハチホ  
ハルト訓ミ、掩ト  
同シ、冥々ハ曖昧  
ナリ、  
〔文〕此小節ハ明  
主ハ自ラ事ヲ決  
シ遊説ノ士ノ爲  
メニ迷サル、コ  
ト無キチ言フ、  
案ハ考ノ如シ、  
料度ハハカルト訓  
ム、卿ハ向ト同  
シ、并ハアハスト  
訓ム、  
〔文〕此小節ハ六  
國合従ノ利ヲ説  
ク、

トナリタリ、殷ノ湯王ヤ周ノ武王ノ士官ハ、三千人ニ過キス、戰ヒニ用ル車ハ三百輛ニ過キ  
ス、歩卒ハ三万人ニ過キサリシモ、位ニ立テ天子ト爲リタルハ、誠ニ天下ヲ統ヘ治ルノ道ヲ  
得タルニ依  
ツテナリ、  
是故明主外料其敵之疆弱、内度其士卒賢不肖、  
不待兩軍相當而勝敗存亡之機固已形於智中矣、  
豈捨  
於衆人之言而以冥々決事哉、  
此ノ故ニ道理ニ明カナル君主ハ外ニ於テハ  
其敵國ノ強キヤ弱キヤヲ考ヒ料リ、内ニ在  
テハ則チ其臣爲ル所ノ士官兵卒等ノ賢劣ナルヤ不肖ナルヤヲ試驗シテ度リ知ルナリ、夫レ然  
リ、此ノ故ニ敵味方ノ兩方ノ軍勢カ未タ接戦セサル前ニ於テ勝ツカ敗北スルカ國カ存スルカ  
亡フルカノ機カ早ク胸ノ中ニ形ハレテ見ユルナリ、ナンシニ衆多ノ遊説ノ士  
ノ言論ニ胡麻化サレテ曖昧ノ仕方ヲ以テ事ヲ決スルカ如キノ所作有ランヤ、  
臣竊以  
天下之地圖案之、諸侯之地五倍於秦、料度諸侯之卒于  
倍於秦、六國爲一、并力西郷而攻秦、秦必破矣、今西  
面而事之、見臣於秦、夫破人之與見破於人也、臣人之  
與見臣於人也、豈可同日而論哉、  
臣竊カニ天下ノ地圖ヲ開ラキ算下之  
テ考ルニ、山東諸大名ノ領地ハ秦ノ  
領分ニ五倍セリ、因テ諸大名ノ兵卒ノ員數ヲ料リ見ルニ秦ノ兵卒二十倍セリ、刈ルカ故ニ山  
東ノ六箇國ノ大名カ合従シテ一國ト爲リ、勢力ヲ合ハセテ四ニ向テ秦ヲ攻撃セハ、秦ノ破ル

東西即チ横ニ大名  
ヲ一致セシムル策  
ヲ遊説ト云ヒ、而  
シテ之ヲ策スル者  
ヲ衡人トモ、連衡  
ノ士トモ云フ、合  
従ノ反ナリ、予ハ  
アタフト訓ミ、與  
ト同シ、成ハ成就  
ナリ、竿ハ箭ノ  
類、樓闕軒轅ハ共  
ニ家屋ノ名、長校  
ハ美ナルチ云フ、  
患ハ禍ナリ、與ハ  
關係ナリ、憂ハ心  
配スルナリ、恐傷  
ハチトカスト訓  
ム、孰ハトクト訓  
ム、計ハ考ト爲シ  
看ヨ、  
〔文〕此小節ハ述  
衡ノ士ノ弊害ヲ  
述フ、  
絶ハチキルト訓  
ム、屏ハフサクト  
訓ミ、斷チ切ルノ

コト必然ナリ、今秦キ大名ノ身分ヲ以テ西ニ面テ向ケテ秦王ニ事フレバ、是レ秦王ノ爲メ  
ニ臣下トナル、ナリ、夫レ人ヲ擊テ破ルト人ニ打破ソル、ト人ヲ臣下トスルト人ニ臣下ト  
サル、ト、ナンシニ  
同日ノ談ナランヤ、  
夫衡人者皆欲割諸侯之地以予秦、秦成  
則高臺榭、美宮室、聽卒瑟之音、前有樓闕軒轅、後  
有長校美人、國被秦患、而不與其憂、是故夫衡人日夜  
務以秦權恐禍諸侯以求割地、故大王孰計之也、  
夫ノ連衡ノ  
策ヲ主張ス  
ル人ハ皆山東諸大名ノ領地ヲ割キ分ケテ秦王ニ與ヘント欲ス、然ル所以ノ者ハ、秦ノ帝業カ  
成就スル時ハ、夫ノ衡人共ハ褒賞ヲ受ケテ、則チ臺榭トテウテ高クシ、宮室トテ家屋ヲ  
美麗ニシ、竿瑟トテ琴ヤ三味線ノ音ヲ聽ク等ノ愉快ヲ盡クシテ得ルナリ、斯クナル時ハ夫ノ  
衡人輩ハ、前ニハ樓闕軒轅トテ榮麗ニ飾リ立テタル御殿ノ愉快有リ、後ニハ長校美人トテ年  
若ニシテ柔婉ナル別品ノ御舞ノ塵拂ノヒ有リ、然リ而シテ其國カ雖ヘ秦ノ攻撃ノ患害ヲ被ル  
モ、而モ夫ノ衡人輩ハ少シモ其心配ニ關係有ラス、斯ル故チ以テ夫ノ衡人共ハ朝晩務テ秦王  
ノ威權ヲ以テ大名ヲ嚇シ切カシテ領地ヲ割キ分ケテ秦王ニ獻スルコ  
トヲ望ムナリ、刈ルカ故ニ大王ノ是等ヲ爲ト勘考スルチ願フナリ、  
臣聞明主絶  
疑去讒、屏流言之迹、塞朋黨之門、故尊主廣地彊兵之  
計、臣得陳忠於前矣、  
臣力會テ聞キシニ道理ヲ明カニ知ル所ノ主君ハ疑ハシ  
キ事ヲ絶テ捨テ讒言ヲ云フ者ヲ退ケ去リ、決シテ流言



義、  
 [文]此節ハ遊説ノ士ヲ信ス可カラサルヲ云フ、從ハ合従ナリ、昨ハソムクト訓ミ、背ト同シ、洹水ハ河ノ名、上ハホトト訓ム、質ハ割符ヲ指シ云フ、通ハトリカハセルナリ、割ハサクト訓ム、盟ハ誓ヒナリ、要約ハ大略ナリ、經ハタチキルト訓ム、天下ハ山東ノ六國ヲ指ス、蓋六國ヲ中國ト爲シ、獨々秦ヲ夷狄ト爲スノ見解ナリ、佐ハ加勢シテ戰フヲ云フ、塞ハフサクト訓ム、涉ハソタルト

チ信用セス、徒黨ヲ起ス事ヲ禁スレト云ヘリ、斯ク有ツテこそ主君ノ身分ヲ余クシ領地ヲ廣メ兵勢ヲ強クスルノ計略ヲ以テ、臣十分ニ忠告ヲ大王ノ前ニ陳ルヲ得ルナリ、  
 竊爲大王計。莫如一韓魏齊楚燕趙以從親以畔秦。令天下之將相會於洹水之上。通質割白馬而盟。要約曰。秦攻楚。齊魏各出銳師以佐之。韓絕其糧道。趙涉河漳。燕守常山之北。  
 則楚絕其後。齊出銳師以佐之。趙涉河漳。燕守雲中。秦攻齊。則楚絕其後。韓守城臯。魏塞其道。趙涉河博關。燕出銳師以佐之。  
 若シ秦軍カ韓ト魏ヲ攻メル時ニハ、則チ

訓ム、  
 實ハソリソクト訓ミ、撤ノ古字、乃チ撤斥スルノ義、函谷ハ關所ノ有ル所ニシ、要害ノ所ナリ、  
 [文]此節ハ盟約スル箇條ノ大要ヲ述フ、

楚ノ軍兵ハ不意ニ起ツテ其後路ヲ斷チ切り、齊王ハ銳烈ナル軍勢ヲ繰リ出シテ韓魏ヲ佐ケ、趙ノ軍兵ハ河漳ヲ涉リ應援ヲ爲シ、燕ノ軍兵ハ關中ヲ守固ス、是レ其盟ホノ二條ナリ、若シ秦兵カ齊ノ國ヲ攻メル時ハ、則チ楚ノ軍兵ハ秦兵ノ後路ヲ斷チ切り、韓兵ハ城臯ヲ守固シ、魏ノ軍勢ハ奮テ秦兵ノ通路ヲ塞キ止メ、趙ノ兵ハ河博關ヲ涉リ應援ヲ爲シ、燕王ハ銳敏ナル軍勢ヲ繰リ出シテ齊軍ヲ佐ス、是レ其盟ホノ三條ナリ、  
 秦攻燕。則趙守常山。楚軍武關。齊涉渤海。韓魏皆出銳師以佐之。秦攻趙。則韓軍宜陽。楚軍武關。魏軍河外。齊涉清河。燕出銳師以佐之。諸侯有不和約者。以六國之兵共伐之。六國從親以賓秦。則秦甲必不敢出於函谷以害山東矣。如此。則霸王之業成矣。  
 若シ秦兵カ燕ノ國ヲ攻メル時ハ、則チ趙ノ軍勢ハ常山ノ要害ヲ守リ固メ、楚ハ武關ニ出軍シ、齊ハ勃海ヲ涉テ聲援シ、韓ト魏ハ皆銳烈ナル兵士ヲ繰リ出シテ燕ヲ佐ケ、秦カ趙ヲ攻メル時ハ、則チ韓王ハ宜陽ニ出軍シ、楚王ハ武關ニ出軍シ、魏ノ國ハ河外ニ出軍シ、齊ノ軍兵ハ清河ヲ涉リ應援シ、燕ノ國ハ銳敏ナル軍兵ヲ繰リ出シテ趙ヲ佐ケ可シ、若シ山東ノ大名ノ中ニ盟約ノ如クナラサル者有ル時ニハ、六箇國共同ノ軍勢ヲ以テ共ニ之ヲ征伐スル事ト爲シ、六箇國カ合従和親シ以テ秦軍ヲ防キ撤クナハ、則チ秦ノ甲兵ハ敢然函谷ノ外ニ出テ以テ山東諸國ノ要害ヲ爲サス、果シテ此ノ如キ時ハ、則チ大王カ屹然ト趙ノ國ニ立テ霸王爲ルノ大業カ成就スル矣ト、  
 趙王曰寡人年



少ハロカント訓  
ム、社稷ハ祭ノ  
名、今ノ所云國家  
ト云フカ如シ、上  
客ハ蘇秦ヲ敬ヒ指  
シ云フ辭、先生ノ  
二字ト爲シ若ク、  
敬ハツ、シムト訓  
ム、繼双純ノ三ハ  
數ノ名、  
〔文〕此節ハ蘇秦  
カ趙侯ノ賛成ヲ  
得テ遊説ニ出掛  
ル事ヲ叙ス、  
昨ハヒモロキト訓  
ミ、供物ナリ、  
且ハ將ト同シ、東  
ハヒカシセント訓  
ミ、勳賞ナリ、  
〔文〕此小段ハ張  
儀ヲ秦ニ行ル事  
ヲ叙ス、張儀ハ  
連衡策士ノ魁ナ  
リ、故ニ茲ニ之  
ヲ劍掃ス、

少。立國日淺。未嘗得聞社稷之長計也。今上客有意存  
天下安諸侯。寡人敬以國從。乃飾車百乘。黃金千鎰。白  
璧百双。錦繡千純。以約諸侯。』  
趙ノ國王蘇侯乃チ其説ヲ賛成シ曰寡人ハ年尙少  
壯ニシ、趙ノ國王位ニ立テ年月少クナシ、是  
チ以テ國家ヲ統治スル長大ノ計策ヲ聞キシゴト無シ、今然ルニ上客先生乃チ天下ノ永存ヲ謀  
リ諸大名ヲ安心セシムルノ計策ヲ立テ玉ヘハ、寡人慎テ以テ趙ノ國ノ全力ヲ盡シテ先生ノ説  
ニ從ハントテ、乃チ百輛ノ車ヲ飾リ立テ、蘇秦ノ供物ヲ揃ヒ、大名方ニ獻上物トシ、黃金カ  
千鎰白キ玉カ百双錦繡カ千純夫レ等ノ獻上物ヲ以テ蘇秦ヲシテ山東ノ諸大名ニ盟約ヲ立テ定  
メシ  
是時周天子致文武之胙於秦惠王。惠王使犀首攻魏  
禽將龍賈。取魏之雕陰。且欲東兵。蘇秦恐秦兵之至  
趙也。乃激怒張儀入之于秦。』  
文王ト武王ノ靈前ニ供ヘタル物ヲ賜ハルハ、  
大名ノ名譽ノ事ニツアル、而ルニ是ノ時  
丁度周ノ天子ヨリシテ文王ト武王ノ靈前ニ供ヘタル物ヲ秦ノ惠王ニ賜ハリケレハ、惠王ハ之  
ヲ吉兆ナリトシ犀首ト云ヘル者ニ命シテ魏ノ國ヲ攻メシメ、魏ノ將軍龍賈ヲ擒ニシ、魏ノ雕  
陰ヲ乘ツ取リ、其勢ヒニ乘シ將ニ軍兵ヲ東ニ向ケントス、蘇秦此有様ヲ視テ秦ノ軍兵カ趙ニ  
亂入シテ合從ノ策ヲ破ルヲ恐ル、ヤ、乃チ殊更ニ張儀ヲ激シ怒ラシメ秦ノ國ニ至ラシメ、其  
軍兵ヲ引キ上ル  
機ニ爲シタリ、  
於是說韓宣惠王曰。韓北有鞏洛成臯之固。

固ハカタメト訓  
ミ、要害ナリ、塞  
モ、亦要害ナルヲ  
云フ、鞏ハツヨ  
ユミナリ、勁弩ハ  
ツヨキイシユミナ  
リ、谿子少府時力  
距來ノ四ハ皆弩ノ  
名、超ハアケルト  
訓ミ、舉ト同シ、  
括ハヤハツナリ、  
敵ハカケルト訓  
ミ、隘ノ義、洞ハ  
貫クナリ、鏑ハカ  
アラナリ、奔ハオ  
ホフト訓ミ捨ノ古  
字、斷ハ切ルナ  
リ、截ハ切ルナ  
リ、甲ハヨロヒナ  
リ、革ハ盾ナリ、  
革抉ハ弓矢ニ附屬  
ノ品、吸芮ハ盾ヲ  
ツナク紐ナリ、蹠  
ハフミト訓ミ、踏  
ト同シ、利ハスル

西有宜陽商阪之塞。東有宛穰洧水。南有廛山。地方九  
百餘里。帶甲數十萬。天下之彊弓勁弩皆從韓出。谿子  
少府時力距來者皆射六百步之外。韓卒超足而射。百發  
不暇止。遠者括蔽洞胷。近者鏑奔心。韓卒之劍戟皆出  
於冥山。棠谿墨陽。合鄆鄧師。宛馮龍淵。太阿。皆陸斷平馬。  
水截鵠鴈。當敵則斬。堅甲鐵幕。革抉吸芮。無不畢具。以  
韓卒之勇。被堅甲。蹠勁弩。帶利劍。一人當百。不足  
言也。』  
蘇秦是ニ於テ韓ノ宜惠王ニ遊説シ曰、韓ノ國ハ北方ニ登洛ト成臯ノ堅固ナル要害有  
二廛山ノ要害有リ、領地ノ廣サ四方各九百餘里、甲冑ヲ着テ戰フ可キ者數十萬人ナリ、天下  
評判ノ強キ弓ヤ強キ弩ハ皆韓ノ國ヨリ産出シ、谿子ト云フ所ヨリ産スル弩ヤ少府ヨリ出ル弩  
ヤ時力ヨリ産スル弩ヤ距來ヨリ出ル弩ハ皆射レハ六百步ノ外ニ飛ヒ、而シテ韓ノ卒カ足ヲ舉  
テ弩ヲ踏テ射出ス矢ハ、百發百中ナルヲ以テ之ヲ防キ止メルニ暇アラズ、然ルカ故ニ遠クニ  
居ル敵ハ弩ノ括カ隠ル、迄矢カ敵ノ胸ニ貫キ通リ、近クニ居ル敵ニハ鏑カ心胸ヲ堅スレハ息  
カ絶ヘテ死スルニ至ルナリ、韓ノ兵卒ノ持ツ劍戟ハ皆冥山ト云フ所棠谿ト云フ所墨陽ト云フ



トシト訓ミ、鏡ト  
義稍同シ、

〔文〕此小節ハ韓  
ノ隆盛強銳ナル  
ヲ誇言シ、以テ  
韓王ヲ諷ス、  
勁ハ少ヨキナリ、  
羞ハハツカシメト  
訓ム、

〔文〕此小節ハ韓  
ヲ以テ秦ニ降參  
スルノ非ヲ言  
フ、

今茲ハイマコ、ニ  
ト訓ム、今年ニ非  
ラス、效ハ致ト同  
シ、給ハアムフト  
訓ミ、與ト同シ、  
奔ハ棄ト同シ、  
逆ハムカフト訓  
ム、應ノ字ト代  
テ、市ハカフト  
訓ミ、買ト同シ、

所合傳ト云所郭帥ト云所宛馮ト云所龍淵ト云所太阿ト云所産出シ、右等ノ所ヨリ産出  
スル名作ハ、皆陸ニ於テハ牛ヤ馬ヲ切ル可ク、水中ニ於テハ鵝ヤ鴨ヲ切ル可ク、又敵人ニ向  
テ接戦スル時ニハ堅キ甲ヤ鉄ノ楯ヲモ切ルヲ得ルナリ、其外革挾トテ弓ノ附風品ヤ吸茵トテ  
楯ヲ結フ紐ノ類マテ一切備ハラサル無シ、故ニ韓ノ兵卒ノ勇氣ヲ以テ、堅固ナル甲冑ヲ着テ、  
強キ怒ヲ踏ミテ其矢ヲ放テ、銳利ナル刀劍ヲ腰ニ帶テ、戰フ時ハ  
一人ニシテ百人ノ敵ニ當ツテ戰フバ、言フニ及ハサル勢ヒニソアル、  
夫以韓之勁  
與大王之賢、乃西面事秦、交臂而服、羞社稷而爲天下

笑、無大於此者矣。是故願大王執計之。  
夫レ韓ノ兵士ノ勁銳ナル  
ト大王ノ賢明トヲ以テ、

乃チ西ノ方ニ面テ秦王ニ奉公シ、大名同志五ニ臂ヲ交ヘテ事ヘ秦王ニ畏服シ、國家人民  
ヲ蓋カシメテ、天下中ノ笑ヒト爲ルハ、此レヨリ大ナル大恥ト大笑ヒハ無シ、刈ルカ故ニ願  
クハ大王駕ト  
大王事秦、秦必求宜陽成臯、今茲效之、明  
年又復求割地、與則無地以給之、不與則弃前功而受後

禍、且大王之地有盡、而秦之求無已、以有盡之地、而  
逆無已之求、此所謂市怨結禍者也、不戰而地已削矣、

今大王カ秦王ニ奉公スルト假リ定メテ此ヲ爲セハ、秦王ハ急度宜陽ノ地ヲ成臯ノ地ヲ所望ス  
ルニ相違無シ、因ノ今其所望ニ應シテ宜陽成臯ノ地ヲ献上致セハ、翌年ニナリ、又復領地ヲ

〔文〕此小節ハ秦  
ニ降參スルニ就  
テ起ル所ノ禍害  
ヲ甚言ス、

諺ハコトワザト訓  
ム、寧ハイツツト  
訓ム、後ハ尻ナ  
リ、  
挾ハサシハサミト  
訓ミ、所有ノ義、  
羞ハハツト訓ム、

〔文〕此小節ハ秦  
ニ降參スルハ恥  
辱ノ大ナル者爲  
ルヲ言フ、  
勃然ハムツトスル  
貌、作色ハ面色ヲ  
カヘル也、攘ハマ  
クルト訓ム、曠ハ  
イカリト訓ミ、按  
ハ撫テマハスナ

對キ與ヘルコトヲ所望スルニ相違無シ、因テ割キ與ヘテ献上ヘル時ハ則チ終リニハ大王ノ領  
地ハ與フ可キ無キニ至リ、割キ與ヘテ献上セリル時ニハ則チ秦王ハ前ニ領地ヲ献上シタル功  
ヲ棄テ大王ヲ取リ扱フカ故ニ大王ハ後來禍害ヲ受ルニ相違無シ、且ヤ斯クスレバ、大王ノ領  
地ハ盡キ果テ、必ス無クナルノ日カ有ツテ、而シテ秦王ノ領地ヲ割クコトヲ所望スルノ慾念  
ハ止ムノ時節無シ、今夫レ盡キテ無クナル期有ルノ領地ヲ以テ、而シテ止メ度ノ無キ慾念ニ  
應セントスルハ、此レソ俗ニ申ス人ノ怨ミヲ求メテ禍ヲ招クト申ス者ナリ、斯ク有レバ、秦  
ト合戰セスシテ大王ノ領地ハ既ニ秦王  
ノ爲メニ盡ク削リ取ラレテ仕舞フナリ、  
臣聞鄙諺曰、寧爲雞口、無爲

牛後。今西面交臂而臣事秦、何異於牛後乎。夫以大王  
之賢、挾疆韓之兵、而有牛後之名、臣竊爲大王羞之。

人ノ諺ニ、二ツ取リナラハ雞ノ口喙ト爲ルトモ、牛ノ後ニ爲ル勿レト曰フコトヲ聞ケリ、  
蓋口喙ハ小ナレトモ上ニ位スルノ故ヲ以テ貴ク、牛ノ後尾ハ大ナレトモ尻ニ在ルノ故ヲ以テ  
賤シキヲ謂フナリ、今然レニ大王西ニ面テ向テ大名同志カ互ヒニ臂ヲ交ヘテ秦王ニ臣下トナ  
リ奉公スルハ、何ソ牛ノ尻タルニ異ナランヤ、サテ大王ノ賢明ヲ以テ強盛ナル韓國ノ兵士ヲ  
所有シナカラ、牛ノ尻タルノ名義有ルハ、拙者  
ノ内々大王ノ爲メニ恥辱ト思フ所ノ者ニソアル、  
於是韓王勃然作色、攘臂

曠日按劍仰天太息曰、寡人雖不肖、必不能事秦。今主  
君詔以趙王之教、敬奉社稷以從、



リ、主君ハ蘇秦ヲ指シ云フ、詔ハ告也、  
 【文】以上ノ小段ハ蘇秦カ韓王ヲ説キ伏セタル事ヲ叙ス、  
 鴻溝淮潁河外等ハ皆地名、  
 界ハサカヒナリ、雖ハタトヘト訓ム、曾ハ則ナリ、鄒ハマクサト訓ミ、馬チ飼フ草ナリ、牧ハ野ノ草ヲ以テ飼フナリ、轉々ハ車ノ音、殷々モ亦車ノ音ナリ、  
 【文】此小節ハ魏國ノ隆盛ヲ誇言ス、  
 豎ハハカルト訓ム、俟ハチドスト訓ミ、恐レシムルナリ、不順ハ頓首

怒レル色ヲ顯ハシ臂サマクリ日ヲ怒ラシノ柄ニ手ヲ掛ケ面ヲ仰ノキ太甚シク歎息シテ曰、寡人雖ヘ不肖モノナルモ、急度降参シテ秦王ニ奉公セス、今貴君等ヒニ告ルニ趙王ノ教ヲ以テスレバ、寡人敬シ國家人民ヲ擧ケ以テ合從同盟ノ一人爲ル可シト、  
 又說魏襄王曰大王之地、南有鴻溝陳汝南許鄆昆陽召陵舞陽新都新鄆、東有淮潁、煮棗、無胥、西有長城之界、北有河外卷衍酸棗、地方千里、地名雖小、然而田舍廬之數、曾無所芻牧、人民之衆、車馬之多、日夜行不絕、轉々殷殷、若有三軍之衆、  
 蘇秦又魏國ノ襄王ニ遊説シテ曰、大王ノ領地ハ、南方ニ鴻溝陳汝南許鄆召陵舞陽新都新鄆等ノ州有リ、東方ニ淮潁潁川煮棗無胥等有リ、西ニ長城ノ界有リ、北ニ河外卷衍酸棗等ノ地方有ツテ、其領地ノ廣サハ四方各千里ナリ、故ニ領地ノ名義上ヨリ云ヘハ雖ヘ小國ナルモ、然モ田舍ニ至ルマテハ民ノ家屋ノ員數ハ充滿シ、則チ鄒ヲ刈リ牛羊ヲ牧スル程ノ空地無シ、家屋ノ領地ニ充滿スルヤ此ノ如シ、故ニ社會人民ノ衆多ナル、通行スル車馬ノ夥多ナル、日夜往來絡繹シテ絶ヘス、ガラ／＼ゴロ／＼トシ、其狀大軍ノ推シ寄セル勢ヒノ如シ、  
 臣竊量大王之國不下楚、然衡人怵王交彊虎狼之秦以侵天下、卒有秦患、不顧其禍、夫挾彊秦之勢以內劫其

セメナリ、挾ハ借ノ字、爲シ看目、劫ハオヒヤカスト訓ム、  
 【文】此小節ハ連衡策ヲ總キ用ルノ愚ナルヲ極言ス、  
 敵ハツカレト訓ミ、弊ノ古字、禽ハトリコニスルナリ、于ハ水ノ傍ラノ地ナリ、遂ハトシテ子ナリ、掩ノ古字、豎其士卒衆哉ハ非其士卒衆也ノ反語ナリ、  
 過ハマサルト訓ミ、優ト同シ、

主。罪無過此者。魏天下之彊國也。王天下之賢主也。今乃有意西面而事秦、稱東藩、築帝宮、受冠帶、祠春秋。臣竊爲大王恥之。  
 抑者カ内々大王ノ國ヲ測量シテ見ルニ決シテ楚ノ國ニ下ラス、然ルニシテ天下ノ大名ヲ使シ害シ、竟ニ秦ノ患害ヲ國ニ起スコト有ルモ、彼輩ハ少シモ其禍害ヲ頓着スルコト無シ、サテ強暴ナル秦王ノ勢ヒヲ借リ夫レヲ以テ己レノ主君ヲ劫カス、抑是レヨリ甚シキハ莫シ、魏ハ實ニ天下屈指ノ強盛ナル國ナリ、大王ハ天下屈指ノ賢明ナル王ナリ、今然ルニ大王ハ四ニ面ヲ向ケ降参シテ秦王ニ奉公シ自分カラ東藩大名ト云ヒ秦王ノ爲メニ爲メニ大恥辱ノ事ト思フナリ、  
 臣聞越王勾踐戰敵卒三千人、禽夫差於干遂、武王卒三千人、革車三百乘、制紂於牧野、豈其士卒衆哉、誠能奮其威也、今竊聞大王之卒、武士二十萬、蒼頭二十萬、奮擊二十萬、厮徒十萬、車六百乘、騎五千匹、此其過越王勾踐武王遠矣、  
 臣カ聞キ及ヒタルニ越王勾踐ハ疲弊セル兵卒三千人ヲ戰ハセテ、吳王夫



〔文〕此小節ハ魏國ノ威勢ハ遠ニ周ヤ越ニ優ルヲ云フ、

群臣ハ多クノ家來ナリ、

國已虧ハ國カカテテナクナルナリ、

倫ハヌスムト則テ挾ハ借ノ字ト爲シ石、

〔文〕此小節ハ連衡策ヲ主張スル者ノ姦邪ヲ極言ス、

蓋チ江邊ノ邊道ニ於テ樹ニシ、周ノ武王ノ兵卒ハ三千人、皮革製ノ戰車カ三百輛シカ無カリシモ、殷ノ紂王ヲ牧野ニ於テ擊テ亡シタリ、畢竟戰ヒハ、ナンシニ其士卒ノ衆多ナルニ依ラシヤ、只眞誠ニ能ク其軍威ヲ奮フニ在ルノミ、今竊ガニ聞キ及フニ大王ノ軍卒ハ、武士ノ籍ニ在ル者ノ員數カ二十萬人、若頭トテ青キ頭巾ヲ被ル者カ二十萬人、奮擊突戰スル者カ二十萬人、斯徒トテ輜重兵ノ如キ者カ十萬人、戰車カ六百輛、騎兵カ五千疋ナリト、斯ク有レバ、此レ越王句踐ヤ周ノ武王ニ優ルヤ遙カナリ、

臣之説、而欲臣事秦、夫事秦必割地以効實、故兵未用而國已虧矣、凡群臣之言事秦者、皆姦人、非忠臣也、

ルニ連衡策ヲ主張スル所ノ群臣ノ邪説ヲ信シ聽キ、因テ降参シ秦王ノ臣下トナリ奉公セント欲スル何ソヤ、サテ降参シ秦王ニ奉公セント欲セハ是非トモ領地ヲ割テ献上シ以テ己レノ誠實ヲ現ハサ、ルヲ得ス、別ルカ故ニ軍兵ヲ用ヒスシテ國ハ既ニ削リ取ラレ、ナリ、凡ソ臣下ノ身分ニシテ秦王ニ降参シテ臣事スルコトヲ大王ニ勸メテ奴原ハ、皆々姦佞ノ小人ニシテ、

決シテ忠臣ニ非ラサルナリ、夫爲人臣、割其主之地以求外交、偷取一時之功而不顧其後、破公家而成私門、外挾疆秦之勢、以

内劫其主以求割地、願大王孰察之、

周書曰綿々

不絶、蔓々奈何、毫釐不伐、將用斧柯、前慮不定、後

有大患、將奈之何、大王誠能聽臣、六國從親、專心并

力壹意、則必無疆秦之患、故敝邑趙王使臣効愚計奉明

約、在大王之詔詔之、

魏王曰寡人不肖、未嘗得聞明教、今主

君以趙王之詔詔之、敬以國從、

因東說齊

〔文〕以上ノ小段ハ蘇秦カ魏王ヲ

主君ハ猶貴殿ト云フコトシ、

〔文〕以上ノ小段ハ蘇秦カ魏王ヲ

蘇々ハ草木ノ芽生エテ指シ云フ、

蔓々ハ草木ノ繁茂ヲ云フ、絶ハ切ルナリ、毫釐ハヌスムト則テ挾ハ借ノ字ト爲シ石、

〔文〕此小節ハ連衡策ヲ主張スル者ノ姦邪ヲ極言ス、

〔文〕此小節ハ魏國ノ威勢ハ遠ニ周ヤ越ニ優ルヲ云フ、

群臣ハ多クノ家來ナリ、

國已虧ハ國カカテテナクナルナリ、

倫ハヌスムト則テ挾ハ借ノ字ト爲シ石、

〔文〕此小節ハ連衡策ヲ主張スル者ノ姦邪ヲ極言ス、

〔文〕以上ノ小段ハ蘇秦カ魏王ヲ

主君ハ猶貴殿ト云フコトシ、

〔文〕以上ノ小段ハ蘇秦カ魏王ヲ



説キ落シタル事ヲ叙ス、邪ノ音ハヤナリ、

一ニ云五家ノ兵ハ、管仲ノ制ナリト、知ラス然ルヤ否ヤナ、

倍ハ越ルノ義、倍泰山ハ泰山ノ外ノ里程ヲ倍シテ出ルヲ云フ、絶ハヨコキリヲタルト訓ム、度ハハカルト訓ム、固ハモトト訓ム、實ハミツト訓ム、竿ハ箭ノ類、鼓ハヒクト訓ム、

宣王曰。齊南有泰山。東有琅邪。西有清河。北有勃海。此所謂四塞之國也。齊地方二千餘里。帶甲數十萬。

粟如丘山。蘇秦ハ既ニ魏王ヲ説キ落セシニ因テ又東ノ方ニ往キ齊ノ宣王ヲ遊説シ、齊ノ國ノ南ニハ泰山ノ嶺々タル有リ、東ニハ琅邪ノ要害有リ、西ニハ清河ノ

激流有リ、北ニハ狂浪ノ起ル勃海有レハ、此レ兵學家ノ申ス四方塞カレル要害堅固ノ國ナリ、齊ノ領地ハ四方各二千餘里ニシ、中冑ヲ著テ戰フ可キ者ノ員數ハ數十萬人有リ、領地豐饒

ノ故ヲ以テ、家々ニ五三軍之良。五家之兵。進如鋒矢。戰如

雷霆。解如風雨。即有軍役。未嘗倍泰山。絕清河。涉勃海

也。國王ノ率ル軍勢ノ精良ト、五大夫ノ家ヨリ出ス所ノ兵トハ、戰ヒニ熟練スルノ故ヲ以テ、其進ムノ銳キ恰モ餘尖ヲ突キ出ス如ク又矢ノ飛フカ如ク、其退フ勢ヒノ烈シキ恰モ雷

ノ鳴リ波ルカ如ク、其兵ヲ引キ上ルノ早キ恰モ風ノ止ミ雨ノ止ムカ如クニシ、且又誰ヘ軍役有ツテ出軍スルモ、未タ嘗テ泰山迄ノ里程ヲ越ヘテ出軍シタリ清河ヲ横切テ渡ツタリ又勃海

ヲ渡ツタリスル等ノ如キ遠方ヨリ軍勢ヲ募ル事ハアラヌナリ、臨菑之中七萬戶。臣竊度之。不下

戶三男子。三七二十一萬。不待發於遠縣而臨菑之卒固

已二十一萬矣。臨菑甚富而實。其民無不吹竿鼓瑟彈琴

擊筑。鬪雞走狗。六博。蹋鞠者。臨菑之塗。車轂擊。人肩摩。

連衽成帷。舉袂成幕。揮汗成雨。家殷人足。志高氣

揚。臨菑ノ中ニハ戶數七萬戶有リ、臣因テ内々之ヲ度ルニ、男子ノ員數ハ戶毎ニ三人ニ下

徵募ス可キ兵卒ノ員數ハ本トカラ既ニ二十一萬人ナリ、臨菑ノ人民ハ甚々資財ニ富ミテ金カ

充溢セリ、故ニ其人民ハ笛ヲ吹キタリ琵琶ヲ引キタリ琴ヲ彈キタリ五弦琴ヲ彈キタリ雞ヲ蹴

合ハセリ狗ヲ走ラシタリ双六ヲ行ツタリ蹴毬ヲ行ツタリシテ愉快ヲ盡サヌ者ハ一人モ無シ、

臨菑ノ道ニ於テハ、車ト車トカ當リ合ヒ、往來スル人ト人トノ肩カ摺レ合フナリ、故ニ多ク

ノ人ノ衽ヲ攢ケテ戸張リヲ成スノ勢ヒ有リ、袂ヲ振り舉テ幕ヲ張ルノ勢ヒ成シ、汗ヲ揮ヒ

散ラセハ雨ヲ降ラスノ勢ヒ有リ、其往來ノ繁キ此ノ如シ、故ニ家々邑邑ハ人カ一杯住ミ、人々

ノ志望ハ高尚ニシ氣象至テ壯ン、夫以大王之賢與齊之疆。天下莫能當。今

乃西面而事秦。臣竊爲大王羞之。サテ大王ノ賢明ト齊ノ軍兵ノ強大ト

者無シ、今然ルニ降参シ西ニ面テ向ケテ秦王ノ臣下爲ルハ、是レソ臣カ内々大王ノ爲メニ恥辱ト思フ所ニソアル、且夫韓魏之所以重

畏秦者。爲與秦接境壤界也。兵出而相當。不出十日而

戰勝存亡之機決矣。韓魏戰而勝秦則兵半折。四境不守。

筑ハ五弦琴ナリ、六博ハ双六ノ類、蹋鞠ハケマリノ類、轂ハコシキト訓ム、擊ハ當リ合フナリ、蹶ハスレト訓ム、衽ハツマナリ、帷ハ戸張リナリ、袂ハタモトナリ、股ハサカント訓ミ、盛ト同シ、足ハ充ルノ義、

〔文〕此小節ハ秦ノ強兵富國ヲ誇言ス、當ハ敵ト爲シ看目、

〔文〕此小節ハ秦ニ臣事スルノ非ナルヲ述フ、重ハ甚ト爲シ看目、



折ハナルト訓ミ、其勢ヒノ挫ルヲ云フ、重ハ憚ト爲シ看目、輕ハタヤスクト訓ミ、容易ナリ、是レ輕重ノ二字ヲ割用スルナリ、

〔文〕此小節ハ韓魏ノ好テ秦ニ臣事スル所以ヲ論シ、以テ反形ス、

倍ハ越ト爲シ看目、徑ハワタリト訓ミ、通行スルナリ、乎ハナト訓ム、方ハナラフト訓ミ、並下同シ、雖ハタトヘト訓ム、入則ノ字ハ而ノ字ニ換ヘ用ル者

戰而不勝則國已危。亡隨其後。是故韓魏之所以重與

秦戰而輕爲之臣也。且夫ノ韓ト魏ト甚シク秦ヲ畏ル、所以ノ理由ハ、秦ト其國ヲ接ス、故ニ惣方ノ軍兵カ其國界マテ出レハ直ニ互ニ鋒ヲ交ヘテ戰フコトナルカ故ニ、十日

間ヲ出テサル間ニ其戰ヒノ負ケ勝チト其國ノ存在スルト滅亡スルトノ機カ決シ定ルナリ、韓

ニモモ魏ニモモ戰フテ秦ニ勝ツ時ハ則チ其軍兵ノ半分ヲ失フニ至ルナリ、故ニ四方ノ國

界ヲ守衛スルコトナラヌノ場合ニ落チ入り、若シ戰テ秦ニ勝タサル時ハ則チ國ノ勢ヒ既ニ危

クナリ、其滅亡カ其戰ヒノ後ニ隨ヒ來ルナリ、則チカ故ニ韓ト魏トハ乃

今秦之攻齊、則不然。倍韓魏之地。過衛陽晉之道。徑乎元父之險。

車不得方軌。騎不得比行。百人守險。千人不敵過也。

秦雖欲深入則狼顧。恐韓魏之議其後也。是故恫疑虛喝

驕矜而不敢進。則秦之不能害齊亦明矣。サテ秦ノ齊ヲ攻ルニ就テハ則チ右ノ如クナリス、

秦カ齊ヲ攻メントスルヤ、或ハ韓魏ノ地ヲ越ヘル乎、或ハ衛ノ陽晉ト云ヘル道ヲ經過スルカ、然ラサレハ元父ノ險阻ヲ徑リ越ヘル乎ナリ、而モ元父ノ險阻ハ、二個ノ車ヲ並ラヘテ通行スルヲ得ス、騎馬武者カ二人駢ランテ行クヲ得ス、故ニ百人ノ兵士カ其險阻ノ所ヲ守衛スレハ、千人ノ軍勢モ敢テ其處ヲ經過スルコトハナラヌナリ、則チカ故ニ秦兵ハ雖ヘ深ク齊ノ國

ナリ、憚ハナトスト訓ミ、嚇ト同シ、虛嚇ハ大袈裟ノ事ヲ云ヒ嚇スナリ、驕矜ハホコリヲナスナリ、

〔文〕此小節ハ秦ノ決シテ齊ヲ害スル能ハサルノ由ヲ推原ス、計過ハ考ヒ差ヒナリ、

〔文〕此節ハ合從ニ同意スレハ、則チ名實共ニ完美スルヲ云ヒ、以テ上ヲ結フ、窮道ハ道ノ盡キハテル所ナリ、詔之ノ詔ハ、告ルナリ、

〔文〕以上ノ小段ハ齊ノ宣王ヲ合從ニ同意セシメシ事ヲ叙ス、

ニ攻メ入ラント欲スルモ而モ狼ノ如ク後口計リテ振リ返ヘリ見ル緣由ハ、韓魏ノ兩國カ秦軍ノ後口ヲ斷チ切ル事ヲ評議スルヲ恐ル、カガナリ、是ノ故ニ秦人ハ狡猾手段ヲ出シ、恫疑トテ齊人ヲシテ恐レ疑ハシムルカ爲メニ虛嚇ノ言ヲ吐キ高慢ナル事ヲ云ヒ觸ラヌモ而モ敢テ進テ齊ニ攻メ入ラス、是ニ由リ之ヲ觀レハ、則チ秦ノ齊ヲ害スル能ハサルヤ明白ナリ、

夫不深料秦之無奈齊何。而欲西面而事之。是群臣之計

過也。今無臣事秦之名。而有疆國之實。臣是故願大王

少留意計之。今夫レ秦ハ連モ齊ノ國ヲ堂トモスルコトカ出來メト云フ理ヲ深ク考ヒ料ラス、而シテ西ノ方ニ面ヲ向ケテ秦王ニ事ヘンコトヲ欲シ願フハ、

是レ齊ノ群多ナル臣下ノ考ヒ差ヒナリ、今然ルニ合從ノ策ニ同意ヲ表スレハ、大王ニ於テ秦王ニ臣事スルノ汚名無ク、而シテ齊ハ則チ天下第一ノ強國ト云フノ實事有リ、臣則チカ故ニ

大王カ少シク意ヲ茲ニ留メテ合從ノ利益ヲ考ヒ玉フヲ願フ也。 齊王曰寡人不敏。僻遠守海窮道東

境之國也。未嘗聞餘教。今足下以趙王詔詔之。敬以國

從。齊王是ニ於テ答テ曰寡人ハソツ、カ者ナルニ、其上齊ハ支那本部中ニ於テ偏僻ニ在テ路遠ク海濱ヲ守リ往キ盡キル道ノ東方ニ於ル國界ノ國ナリ、則チカ故ニ常ニ村學先生

ノ教ヲ聞クモ、末々昔テ中國堂々ノ教訓ノ餘分ヲモ聞キシ事無シ、今然ルニ足下遠ク來リ趙王ノ詔勅ヲ以テ之ヲ告ケラル、ハ、實ニ國家ノ大幸ナリ、寡人則チカ故ニ慎ミ敬ヒ國家ヲ學

ク以テ同意

乃西南說楚威王曰。楚天下之疆國也。王天下



強國ハ強キ國ナリ、

支ハサソフ、持チコタヘル也、

章臺ハ秦ノ臺ノ名、

孤ハ一人リホツチニスルナリ、

之賢王也。西有黔中巫郡。東有夏州海陽。南有洞庭蒼梧。北有涇塞郇陽。地方五千餘里。帶甲百萬。車千乘。騎萬匹。粟支十年。此霸王之資也。

是ニ於テ蘇秦益々意ヲ得乃チ西南ノ方ニ往キ楚ノ威王ニ遊

説シ曰、楚ハ實ニ天下評判ノ強國ナリ、大王ハ天下評判ノ賢明ナル君王ナリ、而シテ領地ノ概チ云ヘハ、西ノ方ニ於テハ黔中地方ト巫郡地方ナリ、東ニ於テハ夏州地方ト海陽地方ヲ領

有シ、南ニ於テハ洞庭地方ト蒼梧地方ヲ領有シ、北方ニ在テハ涇塞ノ要害有リ又郇陽縣有リ、領地ノ方面ハ五千餘里、刀劍ヲ帶ヒ甲冑ヲ着ル軍兵ノ員數ハ百萬有リ、戰車ノ員數ハ千輛

騎兵ノ乘ル馬ノ數ハ萬匹ニシ、兵糧ノ粟米ハ能ク十年ノ籠城ヲ支フ可シ、是レソ霸王ノ業ヲ成ス可キノ資本ナリ、今乃欲西面而事秦

則諸侯莫不西面而朝於章臺之下矣。夫レ楚國ノ強盛ハ上文ニ述ルカ如シ、今然ルニ大王卑怯ノ

念ヲ起シ西ニ面シ以テ秦王ニ臣事セント欲スル乎、則チ山東ノ諸大名モ夫レニ隨ヒテ四面シ以テ秦ノ章臺ノ下ニ朝覲セサル者莫キニ至ル、此レ必然ノ勢ヒナリ、秦之

所害莫如楚。楚疆則秦弱。秦疆則楚弱。其勢不兩立。故爲大王計。莫如從親以孤秦。大王不從。秦必起兩軍。

一軍出武關。一軍下黔中。則鄢郢動矣。臣聞治之其

未亂也。爲之其未有也。患至。其後憂之則無及已。故願大王蚤熟計之。

天下ノ諸大名中ニ於テ、秦ノ妨害ト爲ス所ノ國ハ楚ニ及フ無シ、何ナレハ楚カ強クアレハ秦ハ弱クナリ、秦カ強クアレハ楚ハ弱クナリ、到底秦楚ノ二箇國ハ兩方駢ランテ社會ニ立ツ能ハサルニ依テナリ、刈ルカ故ニ大王ノ爲メニ計略ヲ運ラシナハ、山東ノ諸大名カ合從親睦シ以テ秦ヲ孤立セシムルヨリ楚ノ策

莫シ、大王カ若シ合從ノ策ニ從ハサル時ニハ、秦王ハ急度兩軍ヲ起シ、一軍ハ乃チ武關カラシテ打テ出テ、一軍ハ則チ黔中カラ攻メ下レハ、則チ楚ノ鄢郢ト郡トハ騷動スルナリ、臣カ

學ヒ聞キシニ凡ソ事ハ之ヲ其未タ亂レサル前ニ治メテ附ケ置クナリ、之ヲ其未タ騷動ノ起ラサル前ニ處置ヲ爲スチ法ト爲ス者ナリト、既ニ禍害災患カ至ルニ及ヒ、其後ニ彼是レ心配シテハ逆モ致シ方無キナリ、故ニ大王カ早ク爲

大王誠能聽臣。臣請令山東之國奉四時之獻。以承大王之明詔。委社稷。奉宗廟。

練士厲兵。在大王之所用之。大王真誠ニ能ク臣カ建白スル所ノ合從策ヲ聽キ用ルナラハ、臣請フ山東ノ諸大名

ノ國カラシテ春夏秋冬ノ獻上物ヲ奉ラシメシメ、因テ以テ山東ノ諸大名カ大王ノ聖明ナル詔勅ヲ受ルカラニハ、社稷國家ノ事ヲ委任シタリ、宗廟ヲ祭リ奉リタリ、士卒ヲ訓練シ軍兵

ヲ勵マシタリスル等、凡ソ是等ノ事ハ、一切總テ大王ノ意見ヲ以テ思フマニク之ヲ用ルチ得ルナリ、大王誠能用臣之愚計

則韓魏齊燕趙衛之妙音美人必克後宮。燕代橐駝良馬

後宮ハ與御殿ナリ、克ハ充滿ナ

奉四ノ奉ハ、進呈ノ義、

委ハ任ナリ、奉宗ノ奉ハ、祭祀ノ義、

風ハハケマスト則ミ、勵ノ古字、妙音ハ其聲ノ美妙ナルヲ言フ、

後宮ハ與御殿ナリ、克ハ充滿ナ



リ、厥ハムマヤ、  
實ハミツト訓ミ、  
虛ノ反、滿ノ義、  
釋ハ捨ナリ、

〔文〕此小節ハ合  
從ノ利ヲ言フ、

仇讎ハ和名アタカ  
タキ、

奉ハ事ト同シ、

篇中許多ノ天下ノ

二字ハ、皆山東ヲ

指シ、若クハ山東

ノ大名ヲ指スノ辭

ナリ、

挾ハサシハサミト

訓ム、借ノ字ト爲

シ者ミ、

劫ハチヒヤカス、

必實外厖。故從合則楚王。衡成則秦帝。今釋霸王之業

而有事人之名。臣竊爲大王不取也。〔大王誠ニ能ク臣ノ愚ナル合從ノ

齊燕趙衛ノ六箇國內ニ生ル、弦歌上ニ於テ妙音ノ譽レテ得タル所ノ美人カ來テ大王ニ侍事シ

テ必ス與御殿ニ充滿ス可ク、又燕ノ地方ヤ代ノ地方ニ於テ産スル所ノ駱駝ヤ其馬ハ必ス内

外ノ厖ノ内ニ充滿ス可シ、故ニ合從策ニ同意スル大名ノ意カ合休スル時ハ楚ハ即チ霸王ト爲

リ、連衡ノ策カ成就スル時ニハ秦ハ即チ帝王ナリ、今然ルニ霸王爲ルヲ得ル事業ヲ捨テ、夷

狄ノ人ニ臣ト爲リ事フルノ名義有ルハ、此 夫秦虎狼之國也。有吞天下

之心。秦天下之仇讎也。衡人皆欲割諸侯之地以事秦。

此所謂養仇而奉讎者也。〔夫ノ秦ハ豨ヘハ虎ヤ狼ノ如キ國ナリ、何ナレハ秦ハ

即チ山東大名ノ仇讎ナリ、故ニ山東大名カ一致シテ其仇ヲ報シ其讎ヲ復ス可シ、然ルニ夫ノ

連衡策ヲ主張スル人々ハ皆山東大名ノ領地ヲ割キ献上物トシ夫レヲ以テ秦王ニ事ヘント欲ス

ルハ、此レソ俗ニ謂フ仇ヲ養

フテ讎ニ事フルト云フ者ナリ、 夫爲人臣割其主之地以外交彊虎狼

之秦以侵天下。卒有秦患不顧其禍。夫外挾彊秦之威以

內劫其主以求割地。大逆不忠無過此者。故從親則諸侯

割地以事楚。衡合則楚割地以事秦。此兩策者。相去遠

矣。二者大王何居焉。故敝邑趙王使臣效愚計奉明約。

在大王詔之。〔夫レ人君ノ臣下爲ル身分トシテ其主君ノ領地ヲ割キ献上ル事ヲ勸メ夫

東大名ヲ侵シ害シ、俄ニ秦ノ爲メニ起ル患害有ルモ其災禍ニ頓着セス、夫レ外ニ於テ強キ秦

王ノ威權ヲ借り夫ヲ以テ其主君ヲ劫カシテ其領地ヲ割テ秦王ニ献上ル事ヲ願ヒ求ル者ハ、

大逆不忠此上モ無キ者ナリ、別ルカ故ニ山東大名カ合從親睦スル時ニハ山東ノ大名カ其領

地ヲ割キ献上シ以テ楚王ニ事ヘ、連衡ノ大名カ合休スル時ニハ楚王ハ領地ヲ割キ献上シ以テ秦王

ニ事ヘ子ハナラヌ場合ニ落入ルナリ、合從ト連衡ノ此ノ兩策ノ利害得失ハ、天地雲泥ノ相違

ナリ、合從ト連衡ノ二策中ニ於テ大王ハドチラノ策ヲ取ラル、ソ、別ルカ故ニ弊村ノ趙王カ

今般臣蘇秦ヲシテ愚ナル合從ノ計略ヲ言上シ明カナル約 楚王曰寡人之國

東ヲ受ケ結ハシム、其返答ノ如キハ大王ノ意ニ在ルナリ、 西與秦接境。秦有舉巴蜀并漢中之心。秦虎狼之國。不

料ハハカルト訓

ム、當ハ敵ナリ、

反ハ叛ノ古字、

舉ハ奪ノノ義、

舉ハ奪ノノ義、

舉ハ奪ノノ義、

可親也。而韓魏迫於秦患。不可與深謀。與深謀。恐反

人以入於秦。故謀未發而國已危矣。寡人自料。以楚當

秦不見勝也。內與群臣謀。不足恃也。寡人臥不安席。



搖々然ハ其動クノ甚キヲ形ス辭、縣ハ懸ノ古字、漣ハ至ナリ、無所終薄ハ落着ノ附カヌヲ云フ、收ハマドメルノ義、奉ハサ、ケルト訓ム、捧ノ古字、社稷ハ國家ノ如シ、奉社稷ハ國ヲサラゲ出シテト云フ如シ、從約長ハ職ノ名、即チ合從ノ約束ノ事務ヲ司ル所ノ長官ナリ、  
 [文]此節ハ上チ束下ニ移ルノ過渡、  
 車騎云々  
 諸侯各發使車騎輔

食不甘味。心搖々然如縣旌。而無所終薄。今主君欲一  
 天下收諸侯存危國。寡人謹奉社稷以從。』  
 楚ノ威王是ニ於テ答テ曰寡人ノ國ハ、西ノ方ハ秦ノ國ト界ヲ接セリ、而ルニ秦王ハ巴ト蜀ヲ奪ヒ取リ漢中ヲ并吞スルノ心ナリ、實ニ秦ハ虎ヤ狼ノ如キ國ナリ、故ニ親シミ交ルハ不可ナリ、而シテ韓ト魏ト兩國ノ如キハ秦ノ推寄セテ其謀議ヲ以テ秦ノ仲間入りナスル事ヲ恐ル、ナリ、劉ルカ故ニ其謀議ノ策略カ未タ表發セサル間ニ國家ハ既ニ危キ場合ニ落入ルナリ、寡人夫レ是レニ就テ自分ト考ヒ料リ見ルニ、左レハトテ楚ノ一國ヲ以テ秦ノ軍勢ニ敵スルモ、逆テモ勝算ヲ見サルナリ、左レハトテ内ニ於テ群多ノ臣下ト謀計ヲ運ラヌモ、依頼スルニ足ラサルナリ、是カ爲メニ寡人ハ臥シテモ蒲團ノ上ニ安心シテ居ラレス、物ヲ食フテモ味ノ甘キヲ感セス、心ノ動クハ恰モ竿ニ懸ケタル旌ノ如シ、斯クシテ竟ニ考ヒカ落着カス、今然ルニ貴殿能ク合從ノ策ヲ立テ山東チ一致セシメ諸大名ヲ一ト纏メニシ弊國ノ如キ危キ國ヲ永ク世ニ保存セシメント欲スルカラニハ、寡人謹テ國家ヲ舉テ以テ服從スト、於是六國從合、而并力焉。蘇秦爲從約長。并相  
 六國。北報趙王。』  
 是ニ於テ韓魏齊楚燕趙ノ六箇國カ合從シテ兵力ヲ合併シテ一大國ト爲ル、蘇秦因テ從約長ト爲リ、并ニ六國ノ宰相ヲ兼務ス、  
 乃チ北ニ往キ事趙王ニ報知ス、乃行過雒陽。車騎輜重諸侯各發使送之甚衆。擬於王者。周顯王聞之恐懼除路。使人郊勞。』  
 蘇秦カ北ニ往キ趙王ニ

重以送之甚衆ノ米成句、  
 [文]此小節ハ蘇秦ノ行ノ盛大ヲ叙シ、以テ次文ヲ叙スルノ地ト作ス、  
 瞳子毗ニ向テ視ルチ側ト云フ、側ノ訓ハソハタツ、嫂ハ和名アニヨメ、蒲服ハ匍匐ト同シ、ハフナリ、嚼然ハ感シ覺ヘス口ヨリ發スル聲チ形ス、  
 畏懼ハ恐ノ複語、輕易ハ侮ルノ複語ナリ、  
 都ノ郭ノ邊ニ其田多シ、故ニ其郭ノ田ト云フ、頁ハ臨ムナリ、  
 頃ハ百畝ナリ、周ノ俗ハ其嫂小叔

報セントスルニ就テ、乃チ行テ雒陽ヲ經過スルニ及ンテヤ、車及ヒ騎馬及ヒ輜重等ヲ以テ諸大名カ各自ニ使者ヲ發シ之ヲ送ル人数ハ甚タ衆多ニシ、其儀式ハ周王ノ行列ノ式ニ習ラフタリ、周ノ顯王此様子ヲ聞テ恐レテ道路ノ掃除ヲ爲シ、且別ニ人ヲシテ郊野ノ邊マテ出テ、蘇秦ノ勞苦ヲ慰メシメタリ、蘇秦之昆弟妻嫂側目不敢仰視。俯伏侍食。蘇秦笑謂其嫂曰。何前倨而後恭也。嫂委蛇蒲服以面掩地而謝曰。見季子位高金多也。蘇秦喟然歎曰。此一人之身。富貴則親戚畏懼之。貧賤則輕易之。况衆人乎。且使我有雒陽負郭田二頃。吾豈能佩六國相印乎。  
 蘇秦ノ兄弟女房及ヒ兄ノ嫁等カ横目テ僅ニ蘇秦ヲ見ルモ敢テ面ヲ仰キテ視ス、ヒレ伏シテ食ヒ物ヲ奉ル、蘇秦因テ笑ビナカラ其兄嫁ニ謂テ、堂シテ以前ハ大面シテ今日ハ恭シク敬フヤト曰ヘハ、兄ノ嫁ハ蛇ノメダクタ道フカ如クヒレ伏シ面ヲ地ニ着ケ叩キ謝シテ、今日ハ季子カ位高ク金チ多ク持ツカラナリト曰フ、蘇秦是ニ於テヤアト聲ヲ發シ溜メ息チツキ曰、此方一人ノ身ノ上ニテ、金ニ富ミ位カ貴クアル時ハ親類兄弟共力之ヲ恐レ、貧乏テ賤シキ時ハ之ヲ侮ル、况ヤ凡庸ノ身ニ於テオヤ、宜ナリ貧乏テ賤ケレハ侮ラルベナリ、因テ思フニ我チシテ周ノ都ナル雒陽ニ於テ城ノ郭ニ近キ所ノ其田二頃ヲ所有セシメシ者ナラハ、吾必ス六國ノ宰相ノ印章チ此身ニ佩ルニ至ル能ハサル也ト、於是散千金以賜宗族朋友。初蘇秦之燕。貸百



チ呼テ季子ト曰フ、故ハワケト訓ミ、分也、宗族ハ一家親類ヲ指ス、貸ハ借用スルナリ、償ハ返スナリ、偏ハ殘ラスノ義、德ハ惠ナリ、前ハ進ナリ、易水ハ燕ニ在ル河ノ名、望ハ望ナリ、  
 [文]此小節ハ蘇秦力錦ヲ若テ故郷ニ販リシ事ヲ叙シ、以テ起筆ト相應シ、以テ上文ヲ收束ス、  
 投ハ與ナリ、陶ハウカ、フト訓ム、  
 [文]此ハ是レ上文ヲ結束スルノ節、

錢爲資。及得富貴以百金償之。偏報諸所嘗見德者。其從者有一人獨未得報。乃前自言。蘇秦曰我非忘子。子之與我至燕。再三欲去我易水之上。方是時我困。故望子深。是以後子。子今亦得矣。  
 國ニ往クノ日ニ當テヤ、百文錢ヲ貸リ以テ旅資ト爲セリ、富貴ノ身分トナリシニ依テ百圓ノ金ヲ以テ之ニ返却致シ、且殘ラス以前惠チ被リシ諸人ニ其恩ヲ報ヒタリ、而ルニ以前蘇秦ニ從ヒ行キシ者ノ中ニテ一人未タ其報酬ヲ受ケサル者有リケレハ、乃チ彼ハ蘇秦ノ前ニ進ミ出テ自分ト其事ヲ言フ、蘇秦之ヲ聞テ曰我決シテ吾子ノ事ヲ忘ル、ト云フニ非ラス、左レト往年吾子ト我ト燕ニ至リシ時ニ、吾子ハ二度モ我ヲ易水ノ河邊ニ捨テントセシニ非ラスヤ、而ルニアノ時ハ我實ニ困却ヲ極メタリ、刈ルカ故ニ吾子ヲ怨ムヤ甚シカリシ、是ノ故チ以テ吾子ヲ跡マハシニセリ、左レトモ吾子モ亦只今報酬チ得ルヨト、乃チ之ニ金ヲ與ヘケリ、  
 蘇秦既約六國從親歸趙。趙肅侯封爲武安君。乃投從約書於秦。秦兵不敢闕函谷關十五年。  
 夫ハ捨テ置キ、蘇秦既ニ韓魏齊楚燕趙ノ六箇國ノ合從和親ノ事ヲ約束シテ趙ニ販リケレハ、趙ノ肅侯ハ大ニ喜ヒ其功ヲ賞スルカ爲メニ土地人民ヲ賜リ封シ武安君ト曰フ、蘇秦乃チ山東大名ノ合從ノ約束書ヲ秦ニ贈リ秦ト斷ツ、秦ノ軍兵之ニ恐レ致テ函谷關ヨリ出テ、山東大名ノ隙ニ乘シ以テ攻撃チナササルコト凡ソ十五年

欺ハ俗語ダマス、與共ハ一致ノ如シ、讓ハ貴ナリ、  
 [文]此節ハ合從ノ約破レシ事ヲ叙シ、以テ下文ノ引起ト爲ス、  
 引起ノ事ハ、文法學講義ニ詳ナリ、而シテ該講義ヲ刊行スルハ、則チ東京九段ノ富士見町ノ益友社ナリ、  
 往日ハ往年ナリ、資ハ遊説スル爲メノ資ナリ、乃チ旅資及ヒ献上物等ヲ

ノ久シキ間ニソアル、○[文]起首ヨリ茲ニ至ル迄、文勢ハ恰モ大瀝暴瀾ノ千里ノ大洋ヨリ起リ、洋々靡々ト進ミ來リ、一躍シ以テ峴巖ヲ擊テ忽然住止スルカ如シ、故ニ之ヲ一段ト爲ス、  
 其後秦使犀首欺齊魏與共伐趙。欲敗從約。齊魏伐趙。趙王讓蘇秦。蘇秦恐請使燕必報齊。蘇秦去趙而從約皆解。  
 其後秦王乃チ犀首ト云フ謀士ヲシテ齊ト魏ト欺キ一致シ趙ヲ攻メ伐タシメ、因テ以テ山東大名ノ合從ノ約束チ敗ラント欲シケルニ、其謀略固ニ中リ、齊ト魏トハ欺カレテ趙ヲ伐ツ、趙王固テ蘇秦ノ忘リナ貴ム、蘇秦乃チ恐レ使者ト爲リ先ツ燕ニ至リ而シテ必ス齊王カ約ニ背キタル怨ミヲ報セン事ヲ請フ、蘇秦許サル趙ノ國チ去リ出立セシニ依テ、山東大名ノ合從ノ約束ハ悉ク解ケテ前ニ復ス、  
 秦惠王以其女爲燕太子婦。是歲文侯卒。太子立。是爲燕易王。易王初立。齊宣王因燕喪伐燕取十城。  
 合從ノ約束カ解ケタルニ依テ、秦ノ惠王乃チ其娘ヲ以テ燕ノ太子ノ婦人ト爲シ、其歲ノ中ニ在テ燕ノ文王ハ卒去ス、太子乃チ王位ニ立ツ、是ヲ燕ノ易王ト曰フ、易王ノ初テ王位ニ立ツヤ、齊ノ宣王乃チ燕ノ易王ノ父ノ喪ニ居ルニ附込ミ燕ヲ攻伐チ燕ノ十城ヲ攻メ取ル、  
 易王謂蘇秦曰。往日先生至燕。而先王資先生見趙。遂約六國從。今齊先伐趙。次至燕。以先生之故爲天下笑。先生能爲燕得



指ス、  
惑ハ恥ナリ、

〔文〕此小節ハ齊  
カ約ニ背クノ故  
ヲ以テ蘇秦爲ニ  
燕王ノ貴メヲ受  
ケシ事ヲ叙ス、  
申ハ死セシ人ヲ申  
フナリ、

烏啄ノ一名ヲ烏頭  
ト曰フ、和名カア  
トキク、毒草ナ  
リ、而興ノ而ハ則  
ナリ、克ハ滿ナ  
リ、患ハ苦ナリ、  
少婿ハワカキム  
ニ、婿ハ婿ナリ、  
鷹ハ鷹ノ隊長ヲ指  
ス、鷹行ハ衆ヲ引  
率シテ先陣スルヲ  
云フ、  
敵ハオホフト則  
ミ、敵ノ古字、

侵地乎。蘇秦大慙曰。請爲王取之。

〔蘇ノ易王是ニ於テ蘇秦ニ謂テ、  
往年先生乃チ燕ニ至レリ、而シ

テ先王文侯乃チ先生ニ遊説スル所ノ種々ノ品物ヲ與ヘテ趙王ニ謁見セシメ、遂ニ以テ六國ノ  
合從ヲ約セシメタリ、今然ルニ齊王其約ニ背テ趙ヲ攻伐テ、次ニ燕ニ至リ十城ヲ奪ヒ取レリ、  
寡人ハ先生ノ不取計ヲヒノ故ヲ以テ天下ノ笑ヒ草ト爲ル、先生其レ燕ノ爲メニ齊ニ使奉サ  
レタル領地ヲ取返ヘシ得ルヲ能クスル乎ト曰ヘハ、蘇秦ハ之ヲ聞テ大ニ恥入り曰、臣敢テ請  
フ大王ノ爲メニ  
之ヲ取返サント、  
蘇秦見齊王再拜。俯而慶。仰而弔。齊王曰。

是何慶弔相隨之速也。蘇秦曰臣聞飢人。所以飢而不

食。烏啄者。爲其愈克腹而與餓死同患也。今燕雖弱小。

即秦王之少婿也。大王利其十城而長與疆秦爲仇。今使

弱燕爲鷹行而疆秦敵其後以招天下之精兵。是食烏啄之

類也。蘇秦往テ齊王ニ謁見シ先ツ再ヒ拜テ爲シ、乃チ其身ヲ俯シテ慶賀ヲ述ヘ、乍チ面ヲ  
仰キテ申フ謂テ述ヘケレハ、齊ノ宣王ノ怪ミ曰、是レ堂シテ慶賀ヲ述ヘルト申フ

謂テ述フル互ニ楛ゲテスルノ速カナルヤト、蘇秦是ニ於テ説シ曰臣カ聞キ及ヒタルニ飢饉年  
ニ腹ノ飢ヘタル者共カ、幾羅腹カ飢ヘテモ決シテ烏頭ヲ食ハヌ理由ハ、烏頭ヲ食ヒ愈々腹一  
杯ニ滿ル時ニハ餓死スルト其苦シミヲ同クスルニ依テナリ、此譬ヘハ雖ヘ卑キモ大王ノ行爲  
ニ譬フ可シ、今燕ノ國ハ雖ヘ弱ク且小ナルニモセヨ、即チ秦王ノ婿殿ナリ、然レハ輕ヤシク

精兵ハ選リ拔キタ  
ル兵、

愀然ハ心ニ憂フル  
ヲ形ス、

齊ハ捨ナリ、

虛辭ハソラコトナ  
リ、

之ヲ侮ル可ケンヤ、然ルニ大王ハ之ヲ察セス今般燕ノ十個ノ城ヲ攻取リ以テ利益ヲ得ルト爲  
シテ長ク強大ナル秦ノ國ト仇敵ノ勢ヒチ爲スハ、誠ニ危シ矣、何ナレハ弱燕ノ易王ヲシテ鷹  
ノ隊長カ多クノ鷹ヲ連レテ飛ヒ行ク如ク率先シ先陣シテ進ミテ疆大ナル秦王カ其尻推シテ爲  
シ其勢ヒチ以テ山東大名ノ精兵ヲ招募セシメテ共ニ齊ニ亂入スレハ、必ス其勢ヒハ禦ク可カ  
ラサレハナリ、左スレハ大王カ燕ノ十城ヲ利益トスルハ、乃チ  
是レ夫ノ腹ノ飢ヘタル者カ烏頭ヲ食フテ腹ニ滿ルノ類ナリト、  
齊王愀然變色

曰。然則奈何。蘇秦曰臣聞古之善制事者。轉禍爲福。

因敗爲功。大王誠能聽臣計。即歸燕之十城。燕無故而

得十城必喜。秦王知以己之故而歸燕之十城亦必喜。此

所謂弄仇讎而得石交者也。齊王ノ之ヲ聞テ心ニ愀然ト憂ヒ恐レ面色ヲ變ヘテ、  
左ラハ堂政シタナラハ宜キヤト曰ヘハ、蘇秦

得タリ賢シト誓テ説シ曰臣カ曾テ古昔ノ巧ミニ起リシ事ヲ制服セシ者ハ、災禍ヲ轉化シテ幸  
福ト爲シ、失敗ニ附込テ功績ヲ爲セシト聞キ及ヒタルカ如ク、大王誠ニ能ク臣ノ計略ヲ聽  
キ用ルトナラハ、早速侵奪シタル所ノ燕ノ十城ヲ取セヨ、斯クスレハ燕王ハ戰闘ノ故無クシ  
テ十城ヲ得ルニ依テ大ニ喜フヤ必然ナリ、シテ又秦王モ亦己ノ婿殿タルノ故ヲ以テ大王カ燕  
ノ十城ヲ取ヘシタル者ナル事ヲ知テ喜フヤ必然ナリ、此レソ乃チ世人  
ノ申ス仇敵爲ルノ念ヲ捨テ、石ノ如キ堅キ交リヲ結フト云フ者ナリ、  
夫燕秦俱事

齊。則大王號令天下莫敢不聽。是王以虛辭附秦。以十



〔文〕此小段ハ蘇秦カ口舌ヲ以テ齊ニ奪ハレタル燕ノ城ヲ取歸ヘシタル事ヲ叙ス、

毀ハ毀ノ古字、反覆ハ心ノ變シ易キヲ言フ、

〔文〕此節ハ乃チ下文ノ爲メニ案ヲ立ル者、

攻得十城ハ、所云衛士ノ險語、卻ハ退ケルナリ、

傷ハキツ、クト訓ミ、説ノ義、

城取天下。此霸王之業也。王曰善。於是乃歸燕之十城。

夫ノ燕王ト秦王カ城ヲ取ヘサレタル恩ニ感シ俱ニ齊ニ臣事スル日ニハ、則チ大王ノ命令ハ天下一人モ敢テ聽カサル莫シ、是レソ有リモセメ恩ヲ有ルカ如クニ云ヒ立テ、秦サテナ附ケ、僅々タル十個ノ城ヲ以テ天下ヲ取ルノ計略ナレハ、此レ乃チ霸王ト爲ルノ事業ニソアルト、齊王其計略ヲ賛成シテ妙々ト曰ヒ、是ニ於テ乃チ燕ノ十城ヲ取ヘシケリ、

有毀蘇秦者曰。左右賣國反覆之臣也。將作亂。蘇秦恐

得罪。歸。而燕王不復官也。人有り蘇秦ヲ誹リ齊王ニ説シ曰、彼ハ左ニ

鳥ノ如ク其志操カ變ハリ易キ者ナリ、彼ハ將ニ謀ヲ運ラシ國亂ヲ起サントスト、蘇秦乃チ罪ヲ齊王ニ得ルヲ恐レ、是ニ於テ燕ニ歸ル、而シテ燕王ハ蘇秦ヲ本ノ宰相ノ官職ニ復セサルナリ、

蘇秦見燕王曰。臣東周之鄙人也。無有分寸之功。

而王親拜之於廟。而禮之於廷。今臣爲王卻齊之兵而攻

得十城。宜以益親。今來而王不官者。人必有以不信傷

臣於王者。臣之不信王之福也。蘇秦因テ燕王ニ謁見シ曰、臣ハ本是レ東周雒陽ノ鄙賤ナル人物ナリ、故ニ一分一

寸ノ功有ル無シ、而ルニ大王躬親シク先祖ノ廟所ニ於テ臣ヲ拜シ容卿ト爲シ、大王親ク朝廷ニ於テ臣ニ禮ヲ爲シ謀師トナセリ、今ヤ然ラス、臣敢テ三寸ノ舌ヲ掉ヒ大王ノ爲メニ齊ノ軍

兵ヲ追ヒ退ケテ十個ノ城ヲ攻メ取リ得タル、其功ハ大ナラスヤ、夫レ臣此大功ヲ立テシカラニハ、宜ク其功ノ故ヲ以テ益々親シミ愛セラル、答ナリ、然ルニ今般齊ヨリ歸リ來テモ大王カ本ノ官職ニ復セサル者ハ、誰人カ必ス臣ハ不信義ナリト云フ口實ヲ以テ臣ノ事ヲ大王ニ説言スル者有ルニ依テナリ、左レト説者ノ所云臣ノ不信實ハ却テ大王ノ幸福ナリ、臣請フ下文ニ於テ此意ヲ明ニ説カン、

臣聞忠信者所以自爲也。進取者所以爲人也。

且臣之說齊王。曾非欺之也。臣奔老母於東周。固去

自爲。而行進取也。今有孝如曾參。廉如伯夷。信如尾

生。得此三人者以事大王何若。王曰足矣。臣カ學ヒ聞キンニ忠信ト云フ者ハ萬ノ事

ヲ以テ其躬自身ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取ル所ノ者是レナリ、進取乃チ進ミ取ルト云フ者ハ萬ノ事ヲ以テ他人ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取ル者是レナリト、且ヤ臣ノ齊王ヲ遊説シテ十城ヲ取返ヘシタルハ、則チ之ヲ欺キシニハ非ラサル者ナリ、道理ヲ説テ感服セシメタルニ依ルナリ、臣敢テ老母ヲ東周ニ捨置テ、遊説ヲ以テ務メト爲スハ、本是レ其躬自身ノ爲メニスルト云主義ヲ捨テ、而シテ他人ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取り行フ者ナリ、今親ニ孝行ナル事ハ曾參ノ如クニシ、行爲ノ廉潔ナル事ハ伯夷ノ如クニシ、信義ヲ守ルノ堅キハ尾生ノ如キ者有リト假リ定メテ之ヲ云ヘハ、若シ其身ニ此三人ノ行爲ヲ備ヘ以テ大王ニ事ヘナハ如何カアルヤ、燕ノ易王答テ曰ソソナ人ナラハ實ニ滿足ナリ、故ニ寡人ハソソナ臣ヲ得ルヲ喜ムナリ、

蘇秦曰。孝如曾參。義不離其親。一宿於外。王又安能

忠信ハチノレノタメニスルト訓ム、曾參伯夷尾生ノ行爲ノ如キヲ云フ、常ニ言フ忠信トハ、其義大ニ異レリ、曾ハ則チナリ、奔ハ捨ルナリ、信如ノ信ハ、乃チ信義ノ信ナリ、上ノ忠信トハ異レリ、

卷之二

蘇秦列傳第九

二百五



使之步行千里而事弱燕之危王哉。

蘇秦是ニ於テ舌ヲ掉ヒ曰、孝行ヲ以テ之ヲ言ヘハ夫ノ曾參ハ忠信ヲ好ミ

此千里ハ東周ヨリ燕マテ遠キヲ指ス、  
三ノ安能ハ、不能ノ反語、  
肯ハカヘンスト訓ミ、承知ナリ、  
此以下二ノ千里ハ、燕ヨリ齊マテノ遠キヲ指ス、

其躬自身ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取り其親ノ側ヲ離レテハ雖ヘ一晚テモ外ノ家ニハ宿セサル如キ者ナレバ、大王其上ニ又曾參ヲシテ東周ヨリ燕マテ千里ノ遠キ道ヲ歩行シテ來リ弱キ燕ノ國ノ齊ニ攻メラレ危ク有ル所ノ大王ニ事ヘシムルコトカ出來マスカヤ、  
廉如伯夷義不爲孤竹君之嗣不肯爲武王臣不受封侯而餓死首陽山下。有廉如此。王又安能使之步行千里而行進取於齊哉。

廉如伯夷義不爲孤竹君之嗣不肯爲武王臣不受封侯而餓死首陽山下。有廉如此。王又安能使之步行千里而行進取於齊哉。

廉如伯夷義不爲孤竹君之嗣不肯爲武王臣不受封侯而餓死首陽山下。有廉如此。王又安能使之步行千里而行進取於齊哉。

而死。有信如此。王又安能使之步行千里却齊之疆兵哉。

梁ハハシト訓ミ、橋梁ノ梁ナリ、抱ハダキ、ダクト訓ミ、カ、ヘルナリ、却ハ退ナリ、

信ヲ以テ之ヲ言ヘハ尾生ハ女子ト約束シ橋梁ノ下ニ於テ出遇フヲ望ミシニ女子ハ約ニ背キテ來ラサル間ニ洪水力溢レ至リタルカ故ニ尾生ハ橋ノ柱ニ抱キ附テ水ニ流サレタルカ如キ、若シ其躬自身ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取り其信義ヲ堅ク守ル此ノ尾生ノ如キ者有ラハ、大王其上ニ又尾生ヲシテ燕ヨリ齊マテ遠キ千里ノ路ヲ歩ミ行キ三寸ノ舌ヲ掉ヒ以テ夫ノ齊ノ國ノ行ハシムルコトカ出來マス乎、  
信如尾生與女子期於梁下女子不來水至抱柱而死。有信如此。王又安能使之步行千里却齊之疆兵哉。

臣所謂以忠信得罪於上者也。

夫レ臣蘇秦ヲ上ニ述ル三人ノ行

此忠信ノ二字ハ、忠義ノ二字ト同シ、上ノ忠信ノ字ト同視スル勿レ、下欄ノ講說ヲ玩味シ、以テ史記ノ如キ古文ニハ、字句ノ外ニ於テ、別ニ義ヲ含ムノ多キ者ナルノ理ヲ悟レヨ、  
若ハ汝ト同シ、不忠信ハ不忠ト云フ如シ、  
客ハ或者ヲ指シ云フ辭、  
憂ハ心配ナリ、  
藥酒ハ毒ヲ浸シタル酒ナリ、

強キ軍兵ヲ追ヒ退ケルコトカ出來マスカ乎、  
爲ニ較レハ、全ク反對ノ點ニ居テ、好テ他人ノ爲メニスルト云フ進取主義ヲ取ル故ヲ以テ、母ヲ捨テ東周ヨリ千里ノ路ヲ遠シトセスシテ弱キ燕ニ來リ、齊軍ニ攻メラレテ危キ場合ニ落入りタル大王ニ事ヘ、又燕ヨリ千里ヲ遠シトセスシテ齊ニ歩キ行キ、奮テ齊王ニ遊說シ十城ヲ取り返シタルハ、大王ハ本ノ官ナル宰相ニ復職スル管ナルニ、蘇秦ハ不信義ヲ有ルト云フ讒言ノ爲メニ、大王ハ臣ヲシテ復職セシメスシテ今日ニ至レバ、此レソ臣カ申ス他人ノ爲メニスルト云フ主義ヲ取り大王ニ忠義ヲ盡シ信義ヲ盡シテ罪ヲ主上ニ得ルト云フ者ニソアルト、  
○此ノ忠信ハ、忠義ヲ指ス、故ニ常ニ言フ忠信ト同シ、因テ看ナサレヨ、蘇秦等ノ遊說ノ士カ、好テ此ノ如キ怪シキ隱語ヲ用ヒ、以テ千乘萬乘ノ耳ヲ驚カシ、一瞬ノ間ニ希世ノ大功ヲ立テシ舌鋒ノ奇絶ナルコトヲ、居士カ史記ニハ險語有リ解シ難シト云フハ、乃チ是等ノ處ヲ指ス也、  
燕王曰若不忠信耳。

豈有以忠信而得罪者乎。蘇秦曰不然。燕王之問曰幾羅巧ニ辨解ヲ爲スモ汝ハ則チ不忠者ナリ、ナンシニ忠義ノ働キヲ以テ罪ヲ得ル者有ランヤ、蘇秦曰然ラス、請フ下文ニ於テ其然ラサル所以ノ理ヲ述ヘン、  
臣聞客有遠爲吏而其妻私於人者。其夫將來。其私者憂之。妻曰勿憂。吾已作藥酒待之矣。

臣聞客有遠爲吏而其妻私於人者。其夫將來。其私者憂之。妻曰勿憂。吾已作藥酒待之矣。

將ニ家ニ飯リ來ラントス、其私通スル男之ヲ心配セリ、スルト妻ハ落附キハラヒ曰心配スル勿レ、吾既ニ毒酒ヲ作り以テ之ヲ待ツト、  
居三日其夫



主母ハ和名カミサ  
 ナ、詳ハイツハリ  
 下訓ミ、伴ト古昔  
 通用セリ、低ハタ  
 ホレト訓ム、  
 答ハムチウツト訓  
 ミ、又ムチウタル  
 、ト訓ム、覆ハヒ  
 ツクリカヘスト訓  
 ム、存ハ活ノ如  
 シ、惡ハイツクニ  
 ト訓ミ、何所ナ  
 リ、過ハトカメト  
 訓ミ、答メテ受ル  
 ナリ、故官ハ本ノ  
 官ナリ、  
 過ハアツカフト訓  
 ム、  
 乃ハ而ト同シ、

果至。妻使妾舉藥酒進之。妾欲言酒之有藥。則恐其逐  
 主母也。欲勿言乎。則恐其殺主父也。於是乎詳僮而弃  
 酒。主父大怒答之五十。二三日ヲ經テ其夫案ノ如ク到着セリ、妾因テ妾ナシ  
 テ毒酒ヲ出シテ且那ニ飲マシム、妾時ニ酒ノ中ニ毒  
 藥有ル事ヲ言ハント欲レハ、則チ且那カ女房ヲ逐ヒ出スチ恐ル、ナリ、左レハトテ音ハスニ  
 居ラント欲スル乎、則チ女房カ且那ヲ殺ス事ヲ恐ル、ナリ、是ニ於テヤ僮リトテ酒ヲ投ケ  
 出シテ捨テケレハ、且那ハ大ニ  
 怒リ鞭ヲ取テ之ヲ打ツ五十ナリ、故妾一僮而覆酒。上存主父。下存  
 主母。然而不免於答。惡在乎忠信之無罪也。夫臣之過  
 不幸。而類是乎。燕王曰先生復就故官。益厚遇之。夫レ  
 然リ  
 故ニ妾一度レテ毒酒ヲ引クリ返ヘシ、因テ上ハ且那ヲ助ケ、下ハ女房ヲ助ケタリ、故ニ  
 厚ク褒メラル、答ナリ、然ルニ鞭打タル、チ免レサレハ、何所ノ罪ニ在リマスソヤ忠義ヲ盡  
 シテ罪ニ過ハヌ人ガ、夫レ臣ノ答メテ受ルハ不仕合セナリ、斯クシテ是ノ譬ヘニ類似シマセ  
 ウト、燕ノ易王是ニ至リ始テ蘇秦ノ罪無キヲ悟リ謝シ曰、蘇先生再ヒ前ノ宰相ノ官ニ就ケト、  
 爾來前ニ倍シ大切ニセリ、○〔文〕此小段ハ易王  
 ナ説伏セテ、蘇秦カ再ヒ燕ノ宰相爲ル事ヲ叙ス、易王母文侯夫人也。與  
 蘇秦私通。燕王知之。而事之加厚。蘇秦恐誅乃説燕王

客卿ハ一ノ官ナ  
 リ、當時諸侯ニ客  
 爲ル者衆多ナリ、  
 中ニ就テ公卿ノ取  
 扱ヒテ爲ス者、之  
 チ客卿ト曰フ、  
 〔文〕此小節ハ蘇  
 秦カ燕チ去リ齊  
 ニ事ル由チ叙  
 ス、  
 當時大名獵チ好ミ  
 苑圃チ大ニス、齊  
 宣ノ圃ハ四十方里  
 ト、孟子ニ見ユ、  
 苑圃和名ソノ、又  
 ニハ、破敵ハヤフ  
 ルノ複語、  
 〔文〕此小節ハ蘇  
 秦カ齊ニ在テ忠  
 チ燕ニ盡セシ事  
 チ叙ス、  
 漢ノ合ニ、或狄罪  
 有レハ殊ニ當ツ

日。臣居燕不能使燕重。而在齊則燕必重。燕王曰。唯  
 先生之所爲。於是蘇秦詳爲得罪於燕而亡走齊。齊宣王  
 以爲客卿。易王ノ母ハ燕ノ文侯ノ夫人ナリ、而ルニ蘇秦ト私通ス、燕ノ易王此事チ知  
 レテ燕王ニ説キ勸メ曰、臣空シク燕ニ居リテハ燕ノ國ノ目方チシテ重カラシムル能ハス、左  
 レトモ臣カ齊ノ政府ニ在レハ燕ノ目方ハ急度重シト、燕王之ニ答テ曰、只先生ノ意ノ如ク之  
 チ爲セヨト、是ニ於テ蘇秦僞リ燕ニ於テ罪ヲ得ルト云ヒ觸ラシテ逃亡シ  
 走り齊ニ至ル、齊ノ宣王其謀ナルヲ悟ラス蘇秦チ以テ客ノ公卿ト爲ス、齊宣王卒。  
 潛王即位。説潛王厚葬以明孝。高宮室大苑圃以明得  
 意。欲破敵齊而爲燕。齊ノ宣王卒シ、潛王ノ初テ齊國ノ王位ニ即クニ及テヤ、  
 蘇秦乃チ時チ得テ潛王チ説キ勸メ其父宣王チ葬送ス  
 ル儀式ヲ手厚クセシメ夫チ以テ潛王ハ親孝行ナリトノ意チ明カニ領内及ヒ隣國ノ人民ニ示シ、  
 且ツ土木ヲ盛ニ起シテ御殿チ高大ニ建築シタリ宣王ノ四十方里ノ苑圃チ更ニ廣大ナラシメ  
 夫チ以テ明カニ潛王カ意チ天下ニ得タリトノ意チ人民ニ示シ、是チ以テ  
 金銀チ浪費濫用セシメ、齊ノ國チ疲弊セシメテ燕ノ爲メニセント欲ス、燕易王卒。  
 燕噲立爲王。其後齊大夫多與蘇秦爭寵者。而使入刺。  
 蘇秦不死殊而走。齊王使人求賊。不得。蘇秦且死。



ト、注ニ云、殊ハ死ナリト、然レハ殊死ハ死ノ復語ナリ、  
車裂ハ和名リルマサキ、  
御ハイヒフラスト訓ム、  
甚矣ハ其慘刻ノ甚キヲ慨スルノ聲、

〔文〕此一節ハ蘇秦ノ車裂ノ刑ニ過ソタル事ヲ叙ス、

泄ハ漏ナリ、乃ハ而ト同シ、途ハトクルト訓ム、

乃謂齊王曰。臣即死。車裂臣以徇於市曰。蘇秦爲燕作

亂於齊。如此。則臣之賊必得矣。於是如其言。而殺蘇

秦者果自出。齊王因而誅之。燕聞之曰。甚矣齊之爲蘇

生報仇也。〔蘇ノ易王カ卒スルニ及ヒ、燕ノ哈カ立チ王ト爲ル、其後齊ノ大夫中ニ蘇秦

トセリ、故ニ車裂キノ刑ニ處スト、此ノ如ク云ヒ觸ラセハ、則チ臣ヲ刺シ殺サシメタリ、然

ハ出テ來テ捕ラヒ得ラル、必セリト、是ニ於テ其遺言ノ如クセリ、斯クシテ蘇秦ヲ殺サント

ニ於テ蘇秦ノ屍骸ヲ車裂キニシタル評判ヲ聞テクヤシガリ曰、慘刻デハナイカ齊王カ蘇先生

ノ爲メニ仇ヲ報スルノ手段ハト、切齒扼腕セサル無シ、○〔文〕以上ノ一大段ハ、合從策ノ敗

レタル後ノ事ヲ叙シ、以テ蘇秦ノ傳ヲ完結ス、○是ヨリ以下篇尾ニ至ルマテハ、則チ蘇厲蘇

代等ノ附傳ニシテ、一大段ト爲ス、然モ分界至テ多シ、故ニ分テ數段ト爲シ講明ス可シ、讀

者察セ 蘇秦既死。其事大泄。齊後聞之乃恨怒燕。燕

秦死。代乃求見燕王。欲襲故事。〔蘇秦既ニ死シ、因テ燕ノ爲メニ齊

ノ弟ヲ代ト曰ヒ、代ノ弟ヲ風ト曰フ、其兄蘇秦カ其事業ヲヤリ途ケタルヲ見テ代モ厲モ亦學

問チ爲セリ、蘇秦カ死スルニ及テヤ、蘇代乃チ燕王ニ謁 曰臣東周之鄙人也。

竊聞天王義甚高。鄙人不敏。釋鉏耜而干天王。至於鄙

鄆所見者。繼於所聞於東周。臣竊負其志。及至燕廷。

觀王之群臣下吏。王天下之明王也。〔是ニ於テ燕哈ニ謁シ曰臣蘇代ハ

々大王ノ行義ノ甚タ高キヲ聞クヤ、雖ハ鄙シキ人物ニシテ敏捷ナラサルモ、鉏耜ヲ捨テ耕作

ヲ廢止シテ大王ニ謁見スル事ヲ願ヒ求メントシ、因テ東周ヲ出立シテ、趙ノ鄆都ノ都ニ至リ

見物セシニ、東周ニ於テ話シニ聞キシヨリ劣リテ居ルカ故ニ、臣カ心ノ内ニ竊カニ志ス所ニ

ヲ考ルニ、大王ハ 燕王曰子所謂明王者何如也。對曰臣聞明

王之仇讎也。楚魏者燕之援國也。今王奉仇讎以伐援國。

罪ハ續クナリ、故事ハ遊説ヲ指ス、

〔文〕此段ハ乃チ下文ノ爲メニ伏

チ置キ綱ヲ穿ク者、

釋ハ捨ナリ、鉏ハ鋤ノ類、

干ハチカスト訓ミ、求ナリ、

緝ハチトルト訓ミ、劣ナリ、

負ハ背ナリ、楚フナリ、

善ハ善キ事ヲ舉テ褒ルナ云フ、

謁ハ告ナリ、援ハ助ナリ、

奉ハ事ナリ、其質



ハ同盟スル也、亦漢文典ノ所云蘇言ノ辭ナリ、

〔文〕此節ハ從來ノ計略ノ非ナルヲ説破ス、

固ハ本ナリ、直ハ唯ナリ、秦國ハ國ヲサラゲガシテト訓ム、委ハ任ナリ、

而荷ノ而ハ、舊本且荷ニ作ル、是レ傳寫ノ誤ノミ、今試ニ之ヲ改ム、荷ハ誠ナリ、

非所以利燕也。王自慮之。此則計過。無以聞者。非忠

臣也。聞キタルニ聖明ナル君王ハ務メ其過失ヲ言フヲ聞キ、其身ノ善キ事ヲ舉テ褒メルヲ

聞クヲ欲シ願ハスト、臣因テ請フ大王ノ過失ヲ告ケン、夫レ齊ト趙トハ實ニ燕ノ爲メニハ仇

ヘ以テ其加勢ノ國ナル楚ト魏ト伐ツハ、決シテ燕ノ國ニ利益ヲ附ケル手段ニ非ラサルナリ、

大王自分ト之ヲ考ヒ思ヘヨ、此レソ則チ計略ノ過失ナリ、然ルニ此レヲ以テ王ニ奏聞スル者

無キハ、則チ忠義ノ臣ニ非サルナリ、王曰夫齊者、固寡人之讎。所欲伐也。直

患國敵力不足也。子能以燕伐齊。則寡人舉國委子。對

曰凡天下戰國七。燕處弱焉。獨戰則不能。有所附則無

不重。南附楚楚重。西附秦秦重。中附韓魏韓魏重。而

苟所附之國重。此必使王重矣。燕王曾因テ問ヒ曰夫齊ト云フ國ハ、本

欲スル所ナリ、而モ只妾リニ征伐スレハ國家カ疲弊スルト勢力ノ不足トチ心配スルナリ、吾

子能ク寡人ヲ助ケテ齊ヲ征伐スルト云フナラハ、則チ寡人敢テ國家ヲサラゲ出シテ吾子ニ軍

國ノ事ヲ委任ス可シ、蘇代之ニ答テ曰凡ソ天下中ニ在テ戰ヒテ事トスル國カ七ツ有リ、其中

燕ノミカ兵勢弱シ、此ノ故ニ獨リ燕ノ軍勢ノミチ以テ戰ヘハ勝ツ能ハス、孰レノ國ニカ附キ

從フ者ナラハ燕ノ國モ目方カ重クナラサル無シ、因テ之カ例ヲ言ヘハ、燕ノ國カ南ニ於テ楚ニ附キ從ヘハ楚國ノ目方カ重クナリ、西ノ方秦ニ附キ從ヘハ秦ノ目方カ重クナリ、中ニ於テ韓魏ノ兩國ニ附從ヘハ韓魏ノ目方カ重クナルカ如シ、斯クシテ誠ニ其附從フ所ノ國ノ目方カ重クナレハ、此レ急度大王ノ國ノ目方カ重カラシムルナリ、

今夫齊、長主而自用也。南攻楚五年。畜聚竭。西因秦三年。士

卒罷敝。北與燕人戰。覆三軍得二將。然而以其餘兵南面

舉五千乘之大宋。而包十二諸侯。此其君欲得。其民力

竭。惡足取乎。且臣聞之。數戰則民勞。久師則兵敝矣。

長ハ多ク年ヲ取リタルヲ云フ、畜ハ貯ナリ、聚ハ集ナリ、竭ハ盡キルナリ、覆注三軍ヲ以テ齊ノ三軍ト爲ス、笑フ可シ、舉ハ乘ツ取ルナリ、包ハ服從ヲ云フ、惡足取乎ハ、不足取也ノ反語、師則ハイクサスレハト訓ム、敵ハ弊ノ古字、〔文〕以上ハ則チ宜ク楚魏ニ依頼スヘクシテ、齊ハ恃ムニ足ラサ

從フ者ナラハ燕ノ國モ目方カ重クナラサル無シ、因テ之カ例ヲ言ヘハ、燕ノ國カ南ニ於テ楚ニ附キ從ヘハ楚國ノ目方カ重クナリ、西ノ方秦ニ附キ從ヘハ秦ノ目方カ重クナリ、中ニ於テ韓魏ノ兩國ニ附從ヘハ韓魏ノ目方カ重クナルカ如シ、斯クシテ誠ニ其附從フ所ノ國ノ目方カ重クナレハ、此レ急度大王ノ國ノ目方カ重カラシムルナリ、

今夫齊ノ潘王ハ其年カ長スル主君ニシテ臣下ノ云フ事ヲ聽カスシテ自分ト軍國ノ事務ヲ執リ行フ君ナリ、因テ南方ニ於テハ五箇年カ間續ケテ楚ヲ攻メ、夫カ爲メニ貯ヘタル金モ集メタル兵糧モ盡キハテタリ、西ノ方ニ於テハ秦ヲ攻メ苦メシヨト三年ノ間ナリ、是カ爲メニ士卒ハ疲弊ヲ極メタリ、北ノ方ニ於テハ燕ノ國人ト戰ヒ燕ノ三軍ヲ轉覆シ燕ノ二人ノ大將ヲ捕子トセリ、斯クシテ又其餘レル兵勢ヲ振ヒ南ニ面テ向ケテ戰車五千輛ヲ出ス力ノ有ル所ノ大宋ヲ攻取リ、斯クシテ十二人ノ大名ヲ籠絡シテ臣服セシメタリ、此ノ故チ以テ齊ノ君王ノ情慾ハ氣儘放題ナル行爲ヲ得テ、齊ノ人民ノ精力ハ竭キハテタレハ、取ルニ足ラサルナリ、何チ以テ取ルニ足ラスト云ヘハ、臣カ兵法ヲ學ヒ聞キタルニ、數回合戰スレハ人民カ疲勞シ、久シク軍勢ヲ出セハ兵卒カ疲弊ヲ極ルニ依テナリ、

燕王曰吾聞、齊有清濟濁河可以爲



ルナ論ス、  
 鉅防ハ和名ヲホキ  
 ナドテ、齊ノ長城  
 ハ大山ノ西ヨリ河  
 ニ沿テ鄒鄒至ニ至  
 リ海ニ入ル、長サ  
 一千里、閔王之ヲ  
 築ク、  
 罷ハ疲ナリ、古昔  
 其根ノ通スルヲ以  
 テ互ニ用フ、  
 惡足以爲塞ハ、不  
 足以爲塞也ノ反語  
 ナリ、  
 異日ハ往年ヲ指  
 ス、不師ハイクサ  
 セスト訓ミ、軍勢  
 ナ起サスノ義、  
 封ハ領分ナリ、  
 「文」此小節ハ齊  
 ハ雖ハ要害有ル  
 モ、疲弊ナ極ル  
 ノ故ヲ以テ、恐  
 ル、ニ足ラサル  
 ノ意ヲ極言ス、

固。長城鉅防足以爲塞。誠有之乎。對曰天時不與。雖  
 有清濟濁河。惡足以爲固。民力罷敝。雖有長城鉅防。  
 惡足以爲塞。燕王嗚又問曰昔カ聞キ及ヒタルニ、齊ノ國ニハ清濟河ト濁河ト云フ大  
 河有リ以テ要害ノ固メト爲ス可ク、又梁ノ惠王ノ二十年ニ齊ノ閔王カ築  
 キタル一千里ノ長城有リ大ナル堤防ノ如キ要害有リ夫ヲ以テ敵ノ通路ヲ塞キ止メルニ足ルト、  
 誠ニ此ノ二個ノ要害カ有リマス乎、蘇代之ニ答テ曰雨雪寒暑ノ天ノ時候カ其時ニ適セサル  
 者ナラハ、雖ハ清濟ト濁河カ有ルモ、夫ヲ以テ要害ノ固メト爲スニ足ラサルナリ、人カノ精  
 カカ疲弊ナ極ルカラニハ、雖ハ長城ノ如キ大ナル堤塘有ルモ、夫ヲ以テ敵ヲ塞キ止メルニ足  
 ラサルナリ、○惡足以爲  
 固ハ不足爲固ノ反語ナリ、  
 且異日濟西不師。所以備趙也。河北  
 不師。所以備燕也。今濟西河北盡已役矣。封內敝矣。且  
 レ往年濟西地方ニ於テ軍役ノ爲メニ人民ヲ募集シテ軍勢ヲ起サ、ルハ、何ノ故ソヤト云ヘハ、  
 ソハ夫ヲ以テ趙ヲ防ク爲メニ備ヘ置キタルカラナリ、河北地方ニ於テ軍役ノ爲メニ人民ヲ  
 募リテ軍勢ヲ起サ、リシハ、何ノ故ソヤト云ヘハ、ソハ夫ヲ以テ燕ノ亂入ヲ防クカ爲メニ備  
 ヘ置キシ者ナリ、今日ニ至テハ濟西地方テモ河北地方テモ殘ラズ募集シテ人民ヲ役スルニ至  
 リシナリ、故ニ齊ノ領分  
 內ハ盡ク疲弊スルナリ、  
 夫驕君必好利。而亾國之臣必貪於財。  
 王誠能無羞寵子母弟以爲質。寶珠玉帛以事左右。彼

上ニ舉五千乘之火  
 宋ト云ヒシハ、居  
 士所云策士ノ險怪  
 ノ語ニシ、眞ニ亡  
 シタルニ非ラス、  
 故ニ此ノ亡宋ノ字  
 ニ就テ、拘泥ノ見  
 ナ爲ス勿レ、  
 「文」此小節ハ齊  
 ナ欺キ亡スノ策  
 ナ説ク、  
 羞ハ恥ナリ、  
 受ハ任ノ字ト爲シ  
 看ヨ、  
 囚ハトラヘルト訓  
 ム、委ハタテマツ  
 ルト訓ム、呈ト義  
 同シ、質ハ臣爲ル  
 者ノ土産物ナリ、  
 猶弟子ノ束脩ノコ  
 トシ、  
 「文」此節ハ燕王  
 カ蘇代ノ策ヲ用  
 ヒ、以テ其子息  
 ナ齊ニ人質ニ遣

將有德燕而輕亾宋。則齊可亾已。燕王曰。吾終以子受  
 命於天矣。夫レ齊ノ潛王ノ如キ驕奢ナル君王ハ急度利慾ヲ好ミ、而シテ齊ノ如ク亡ヒ  
 大王誠ニ能ク寵愛ナル子女寵愛ナル母寵愛ナル兄弟ヲ以テ人質ト爲シタリ、又寶珠玉帛ヲ相  
 帛等ノ物ヲ賄賂トシ夫ヲ以テ齊王ノ左右ニ近侍スル者ノ機嫌ヲ取り御器ノ塵ヲ拂フ事ヲ恥辱  
 トスルコト無キナラハ、彼ノ齊ノ君臣ハ將來必ス燕王ヲ以テ利徳有ル者トシテ輕クシク軍兵  
 ナ出シテ宋ノ國ヲ擊チ亡ホス事ヲ務メトセントス、斯ク有ルナラハ其隙ニ乘シテ齊ノ國ハ擊  
 亡ホス可キナリト、燕王是ニ至リ其策ニ感服シ曰、寡人將ニ吾子ノ策略ニ從ヒ以テ運命ヲ天  
 ニ任カセントスルナリト、○「文」上ノ王曰夫齊者ヨリ茲ニ至ル迄ヲ以テ一大節ト爲ス、此節  
 ハ長シト雖モ、先ッ楚韓魏ニ附從一致ス可キヲ言ヒ、次ニ齊ハ疲弊スルヲ以テ恐ル、ニ足ラ  
 サルナリ云ヒ、終ニ人質賄賂ヲ以テ齊ヲ欺キ亡スノ策ヲ言フ、而シテ燕王カ之ヲ聽ケハ、此節  
 ノ策ハ、則チ是レ陽ニ齊ト和シ陰ニ楚  
 魏ト合シ以テ齊ヲ亡スヲ謀ル者ナリ、  
 燕乃使二子質於齊。而蘇厲因  
 燕質子而求見齊王。齊王怨蘇秦欲囚蘇厲。燕質子爲謝  
 已遂委質爲齊臣。是ニ於テ燕王乃チ一人ノ子息ヲシテ齊ノ國ニ人質ト爲ラシ  
 メ、斯クシテ蘇厲乃チ燕ノ人質ノ子息ニ依頼シテ齊王ニ謁  
 見スル事ヲ願ヒ求メシニ、齊王ハ蘇秦カ燕ノ爲メニ齊ヲ衰敗セシメタル事ヲ怨ミテ蘇厲ヲ捕  
 ラヘント欲ス、燕ノ人質ノ子息乃チ之カ辨解ヲ爲シ事止ムヲ得タリ、既ニシ蘇厲遂ニ土産物  
 ナ進呈シ以テ齊ノ臣ト爲ル、○「文」此段ハ則チ蘇代カ其兄蘇秦ニ倣フヒ  
 一説シ以テ燕ノ謀臣ト爲リ、其弟蘇厲モ亦因テ齊ノ臣ト爲リシ事ヲ叙ス、  
 燕相子之



ル事ヲ叙ス、  
側ニ在テ事ヘルナ  
侍ト曰フ、  
其ハ豈ト同ク、ナ  
ントト問ム、

待ハ取リ扱フナ  
リ、

〔文〕此節ハ子之  
ノ亂ノ故ヲ以  
テ、蘇代蘇厲ハ  
皆齊ニ歸シテ其  
臣ト爲ル事ヲ叙  
ス、

執ハトラフト訓  
ム、必ハ決ノ字ノ

與蘇代婚而欲得燕權。乃使蘇代侍質子於齊。齊使代報

燕。燕王噲問曰。齊王其霸乎。曰不能。曰何也。曰不

信其臣。於是燕王專任子之。已而讓位。燕大乱。齊伐

燕。殺王噲子之。燕立昭王。而蘇代蘇厲遂不敢入燕。皆

終歸齊。齊善待之。燕ノ宰相子之ト云ヘル者蘇代ト婚縁ヲ結ビ蘇代ヲ手ニ入レ  
テ謀略ヲ通シテ燕ノ國ノ最上權ヲ奪ヒ取ラント欲シ、代ト

婚スルノ後、乃チ蘇代ヲシテ齊ニ往テ人質ノ子息ノ側ニ侍シテ事ヘシメタリ、幾ハクナラズ

齊王乃チ蘇代ヲ使者トシテ人質ノ子息ノ事ヲ燕王ニ報知セシメタルハ、則チ子之ト蘇代カ會

テ謀リシ策略ニソアル、燕王噲ハ其策略ナルヲ悟ラスシテ之ニ問ヒ、齊ノ潛王ハナント霸王

トナリマヌ乎ト曰ヘハ、蘇代ハ答テ霸王トナル能ハスト曰フ、燕王カ又問テ何ノ故ソヤト曰

ヘハ、蘇代ハ答テ齊王ハ其臣下ヲ信用セサルニ依テノ故ナリト曰フ、是ニ於テ燕王ハ安心シ

テ其後ハ專ラ國家ノ政事ヲ子之ニ任セテ頼着セス、既ニシテ上古堯舜カ相讓リシ例ニ倣ラヒ

國王ノ位ヲ子之ニ讓リケレハ、燕ノ國ハ是カ爲メニ大ニ亂レタリ、齊王ハ得テ軍

勢ヲ起シ燕ヲ征伐シ以テ王噲ト子之トヲ殺ス、燕ノ國人是ニ於テ昭王ヲ王位ニ立テ以テ回復

ヲ謀ル、斯クシテ蘇代蘇厲兄弟ハ遂ニ敢テ燕ノ國ニ入ラス、蘇代過魏。魏爲燕

兄弟皆終ニ齊王ニ服服スレハ、齊王ハ手厚ク之ヲ扱ヘリ、蘇代過魏。魏爲燕

執蘇代。齊使人謂魏王曰。齊請以宋地封涇陽君。秦必

不受。秦非不利有齊而得宋地也。不信齊王與蘇子也。

秦信齊。齊秦合。涇陽君有宋地。非魏

之利也。故王不如東蘇子。秦必疑齊而不信蘇子矣。齊

秦不合。天下無變。伐齊之形成矣。於是出蘇代。

〔文〕此小段ハ蘇  
代カ魏ニ囚ハレ  
テ放タレタル事  
ヲ叙シ、以テ次  
文ニ於テ代カ宋  
ヨリ齊ヲ燕王ニ  
贈ル事ヲ叙スル  
ノ地ト作ス、  
之宋ノ之ハ、往ナ  
リ、

蘇代カ魏ノ領地ヲ通リ過ケル時ニ、魏人ハ燕人ヲ爲メニ蘇代ヲ執ラヒタリ、スルト齊王乃  
チ遊説ノ人士ヲシテ魏王ニ遊説セシメテ曰、先キ頃齊王乃チ使者ヲ秦ニ遣ハシ攻メ取ツタル  
宋ノ土地ヲ以テ秦ノ公子涇陽君ヲ封スル事ヲ秦王ニ請願セシニ、秦王ハ此請願ヲ受ケサルニ  
決シタリ、受ケサルニ決シタル理由ハ、ナニモ秦王カ齊ノ國ヲ領有スル上ニ宋ノ土地ヲ得ル  
ヲ以テ利益トセザルト云フ理由ニハ非ラサルナリ、ソ  
ハ秦王ハ齊王ト蘇代子トヲ信用セザルニ依テナリ、  
今齊魏不和如此其甚、  
則齊不欺秦。秦信齊。齊秦合。涇陽君有宋地。非魏  
之利也。故王不如東蘇子。秦必疑齊而不信蘇子矣。齊  
秦不合。天下無變。伐齊之形成矣。於是出蘇代。  
カ執ハレタル故ヲ以テ齊ト魏トノ和セサル此ノ如ク其レ甚シケレハ、則チ齊王ハ秦ト和スル  
ヲ願フテ秦王ヲ欺カス、左スレハ秦必ス齊ヲ信スルニ相違無シ、秦カ齊ヲ信スレハ、齊ト秦  
トハ合體シ、涇陽君ハ封セラレテ宋ノ土地ヲ領有スルニ至ル可シ、左スレハ魏國ノ利ニ非ラ  
スシテ不利ナリ、刈ルカ故ニ大王ハ蘇代子ヲ放ツテ東ノ方齊ニ歸ヘラシムルヲ以テ上策ト爲  
スナリ、左スレハ秦王ハ急度齊王ヲ疑フテ蘇代子ヲ信仰セサルナリ、果シテ爾レハ、齊ト秦  
トハ合体スル事カ出來スシテ、山東大名ノ中ニ變ノ起ル氣使ヒ無シ、夫レ然リ、然レハ則チ  
大王カ齊ヲ征伐スル形勢成就スルナリト、  
魏王是ニ於テヤ蘇代子ヲ放チ國ヲ出タス、  
代之宋。宋善待之。齊伐宋



遺ハ贈ト同シ、  
寄ハアツケルナ  
リ、又入ルナリ、  
卑ハイヤシ、  
奉ハ事ナリ、  
殘ハ屠ナリ、  
肥大ハコヤシナホ  
キクスルナリ、  
且ハ尙ナリ、  
取ハ得ノ如シ、  
加ハ益ナリ、  
過ハアヤマチ、

〔文〕此節ハ燕王  
ノ奪ヲ以テ節ヲ  
風シ齊ノ部下ニ  
屬スルノ非ナル  
ヲ言フ、

井ハ合併スルナ  
リ、益ハマスト訓

宋急。蘇代乃遺燕昭王書曰。蘇代ハ魏ヨリ出テ、宋ノ國ニ往キシニ、宋ノ  
君厚ク之ヲ扱フ、時ニ齊軍來テ宋ヲ攻伐チ宋  
ノ形勢危急トナル、蘇代乃チ手紙ヲ燕ノ昭王ニ贈ル  
其手紙ノ文言ニ曰、○此以下ハ乃チ手紙ノ文ナリ、  
夫列在萬乘而寄質於齊

名卑而權輕。奉萬乘助齊伐宋。民勞而實費。夫破宋

殘楚淮北肥大齊。讎疆而國害。此三者。皆國之大敗也。

然且王行之者。將以取信於齊也。齊加不信於王而忌

燕愈甚。是王之計過矣。夫レ大王ハ列シテ萬乘ノ大名ノ中ニ位スル身分テア  
リナカラ入質チ齊ノ國ニ入レ置ク時ハ、大王ノ名義

カ卑シクナリテ大王ノ威權カ輕クナル、是レ一失ナリ、萬乘ノ齊王ニ奉事シ齊ノ軍勢ヲ助ケ  
テ宋ヲ征伐スレハ、燕ノ人民ハ疲勞シテ實際ニ兵糧金銀力費ヘル甚シ、是レ二失ナリ、夫レ

宋ヲ打破リ楚ノ淮北地方ヲ屠リ齊ノ國ヲ肥シ大ナラシムレハ、雖ナル齊ハ強クナリテ燕ノ國  
ノ害ナリ、是レ三失ナリ、故ニ此三ノ失策ハ、皆燕ノ國ノ大ニ敗レル者ナリ、故ニ大王ハ決

シテ此三ノ失策ヲ行ハサル筈ナルニ、然ルニ尙大王カ之ヲ行フ理由ハ、將ニ夫ヲ以テ信用チ  
齊王ニ得ント欲スルカラナリ、而ルニ齊王ハ益々大王ヲ信用セスシテ燕ヲ忌ミ惡ム愈々甚シ、

是レソ大王ノ計略  
夫以宋加之淮北。疆萬乘之國也。而齊

并之。是益一齊也。北東方七百里。加之以魯衛。疆萬

乘之國也。而齊并之。是益二齊也。夫一齊之疆。燕猶

狼顧而不能支。今以三齊臨燕。其禍必大矣。夫レ宋ノ一國ヲ  
以テ之ニ楚ノ淮

北ノ地方ヲ増シ加ルハ、乃チ萬乘ノ國ヲ強大ニスル者ナリ、而シテ今齊王ハ之ヲ合併シ領ス  
ト假定ムレハ、然レハ是レ齊ニ又一個ノ齊ノ國ヲ増シ加ヘルト云フ者ナリ、北夷ハ其領地ノ

廣キ方七百里ナリ、桓公ノ時ヨリ齊之ヲ領セリ、此七百里ノ北夷ノ地ニ増シ加ルニ魯ト衛ト  
兩國ヲ以テスレハ、乃チ萬乘ノ國ヲ強大ニスル者ナリ、而シテ今齊王ハ合併シ此三地ヲ領ス

ト假定ムレハ、是レ齊ニ又二個ノ齊ノ國ヲ増シ加ルト云フ者ナリ、夫レ一個ノ齊ノ國テスラ、  
燕人猶狼カ行ク時ニ後ヲ顧ミルカ如クニ齊ヲ恐レ禦リ能ハサルハ、從來ノ事實ナリ、今然

ルニ三個ノ齊國ノ軍兵ヲ以テ燕ニ推寄  
雖然智者舉事。因禍爲福。轉

敗爲功。齊紫敗素也。而賈十倍。越王勾踐棲於會稽。

復殘疆吳而霸天下。此皆因禍爲福轉敗爲功者也。大王ノ失  
策ト燕ノ

危キハ、雖ハ此ノ如キモ智者カ事ヲ爲スノ巧ナルヤ、災禍ニ附込ミテ幸福ヲ作り爲シ、失敗  
ヲ變シテ功績ト爲ス者ナリ、因テ之カ一二ノ例ヲ舉示シナハ、世間評判ノ齊ノ紫ハ本是レ古

キ白キ絹ナリ、古キ白キ絹ハ價ノ至テ賤シキ者ナリ、而ルニ其古キ白キ絹ヲ紫ヲ以テ染メ上  
ケレハ忽チ評判ノ齊ノ紫ト爲リ其價カ十倍モ貴クナル、越王勾踐カ敗北スルヤ逃ケテ會稽山

ノ山ノ上ニ住ミ僅カニ生命ヲ繋キシモ、再ヒ旗ヲ舉ケ強キ吳ノ國ヲ屠リ亡ホシテ天下ノ  
大名中ニ於テ稱ト爲レリ、此等ハ皆災禍ニ依テ幸福ト爲シ失敗ヲ變ジテ功ト爲ス者ナリ、

ミ、増ト同シ、  
狼力往ク時ハ物ノ  
顧フチ恐レテ後チ  
顧ミル、因テ以テ  
恐レルノ野ト爲  
ス、支ハ禦ナリ、  
〔文〕此小節ハ燕  
カ齊ヲ助ケ宋ヲ  
伐チ楚ノ淮北ヲ  
攻取リタリ、魯  
衛ト勸メテ齊ノ  
部下ニ屬シタリ  
スルノ非チ辨  
ス、  
轉ハ變ト爲シ解セ  
ヨ、敗素ハフルキ  
白キ絹ナリ、  
賈ハ價ノ古字、  
殘ハ屠ナリ、  
韓子ニ云、齊ノ桓  
公紫ヲ好ミ、一國  
悉ク紫ヲ服シ、十  
紫ヲ以テスルモ  
一紫ヲ得スト、此  
レ敗素絹モ之ヲ染



ムルニ紫子以テス  
レハ忽チ貴トナル  
所以ナリ、  
挑ハトリモツト訓  
ミ、執リ持ツナ  
リ、焚ハヤクト訓  
ム、秦符ハ秦ヲ封  
スルノ割符ナリ、  
太上ハ最上ト云フ  
ニ同シ、  
〔文〕此節ハ上ニ  
述ヘシ失策ト其  
危トナ脱スル爲  
メニ、其計策ヲ  
説ク、  
挾ハラレト訓ム、  
助動詞ナリ、資ハ  
取ノ古字、  
窮ハケルシムルト  
訓ム、憚ハ恐ナ  
リ、以國ハ國ヲ投  
ケ出スト云フ如  
シ、  
二ノ者ハ、ワケト  
訓ム、

今王若欲因禍爲福轉敗爲功。則莫若挑霸齊而尊之。使  
使盟於周室焚秦符曰。其太上計破秦。其次必長賓之。夫  
然リ、故ニ大王若シ賊ニ上ノ例ニ倣ラヒ災禍ニ附込ミ幸福ヲ作リ爲シ失敗ヲ變シテ大功ト爲  
サント欲スルナラハ、則チ執リ持ツテ齊王ヲ以テ山東大名中ノ霸王ト爲シテ之ヲ尊ヒ、而シ  
テ山東大名ハ各自使者ヲシテ周ノ王室ニ於テ誓ヒテ立テ周王ノ御前ニ於テ周王曾テ秦ヲ封シ  
以テ大名ト爲シタル割符ヲ焚キ捨テ大名ノ列ヲ除キ去リ、其第一番ノ計策ハ山東大名カ合從  
一致シテ秦ヲ取チ破リ、其次ノ計策ハ將來長ク秦ヲ退ケテ山東大名ノ仲間ニ入レヌト  
曰ハシム、是レソ乃チ災禍ニ附込ミ幸福ヲ作り失敗ヲ變シ功ト爲スノ妙策ニソアル、 秦  
挾賓以待破。秦王必患之。秦五世伐諸侯。今爲齊下  
秦王之志苟得窮齊。不憚以國爲功。然則王何不使辨士  
以此言說秦王。 果シテ上ニ述ヘタル計略ヲ實施スル者ナラハ、則チ秦ハ山東大名ニ  
心配スルハ必然ナリ、夫レ秦ハ國ヲ建テシヨリ以來五代ノ間雄威ヲ振テ山東大名ヲ伐チ擣マ  
セタリ、今然ルニ撤斥サレテ齊王ノ下ト爲レハ、秦王ノ志願ハ誠ニ齊王ヲ苦シムルノ策ヲ得  
ル者ナリハ、秦ノ國家ヲ投ケ出シテモ恐レヌ行リ送ケルニ相違無シ、斯ク有ルカラニ  
ハ大王何爲レソ一人ノ辨士ヲシテ次ニ述ル所ノ論說ヲ以テ秦王ニ遊說セシメサルソ、 曰  
燕趙破宋肥齊尊之爲之下者。燕趙非利之也。燕趙不利

接ハ突ナリ、  
收ハ其心ヲ取リ收  
ルチ云フ、  
則ハカクアレハト  
訓ム、

反ハ返ノ古字、  
竝ハナラフト訓  
ム、

而勢爲之者。以不信秦王也。然則王何不使可信者接收  
燕趙。令涇陽君高陵君先於燕趙。秦有變。因以爲質。  
則燕趙信秦。 辨士チシテ遊說セシムル其論說ノ大略ハ次ノ如シ、曰燕王ト趙王トカ加  
ト趙トカ夫レ利益トスル緣山ニ非ラサルナリ、今燕ト趙トカ夫レ利益トセスシテ勢ヒ止ム  
無ク夫チ爲ス理由ハ、燕ト趙トカ夫レ利益トスルヲ以テノ故ナリ、若シ秦王チ信用スルナラ  
ハ、決シテ斯ル馬鹿ナ所作ハナサズナリ、斯ク有レハ則チ秦王ハ何爲レソ信用ノ出來ル者チ  
シテ燕ト趙トニ交際セシメテ其心ヲ取リ入ラシメサルソ、夫レ然リ、刈ルカ故ニ燕人ト趙人  
ノ心ヲ取ルカ爲メニ高陵君顯ト涇陽君悝トチシテ先シ燕ト趙トニ遊ハセ交際ヲ結ハシメ、後  
來若シ秦ニ變ノ起ル有ル日ニ、因テ兩君チ以テ燕ト趙トニ人質ニ渡セヨ、斯ク有レハ燕ト趙  
トハ秦王チ信  
用スルナリ、 秦爲西帝。燕爲北帝。趙爲中帝。立三帝以  
令於天下。韓魏不聽則秦伐之。齊不聽則燕趙伐之。天  
下孰敢不聽。天下服聽。因驅韓魏以伐齊曰。必反宋地。  
歸楚淮北。反宋地歸楚。淮北燕趙之所利也。竝立三帝  
燕趙之所願也。 燕ト趙トカ秦チ信スル上ハ、秦王ハ乃チ四方地方ノ帝王ト爲リ、燕  
ハ乃チ北ノ地方ノ帝王ト爲リ、趙ハ中央地方ノ帝王ト爲ル、三個ノ



弁ハ捨ナリ、  
脱ハメクト訓ム、  
履ハ屣ト通ス、  
國家ノ勢力ヲ以テ  
伐ツ之ヲ國伐ト云  
フ、贊ハ助ナリ、

帝ヲ立テ夫ヲ以テ天下ヲ命令シ、韓ト魏カ其命令ヲ聽カマナラハ秦帝カ之ヲ征伐シ、齊カ其  
命令ヲ聽カマシハ燕ト趙カ之ヲ征伐セハ、天下中ニ於テ孰人カ敢テ其命令ヲ聽カサランヤ、  
天下カ既ニ三帝ニ服シ其命令ヲ聽クニ至ラハ、其勢ニ因テ韓ト魏トヲ驅役シ以テ齊ヲ征伐シ  
其罪ヲ責テ曰、是非トモ宋ノ土地ヲ返セヨ、楚ノ淮北ヲ歸ヘセヨト、宋ノ地ヲ取返ヘシ楚ノ  
淮北ヲ取歸ヘスハ燕ト趙ノ利益トナス所ナリ、五德形  
ニ三箇ノ帝ヲ天下ニ以テ立ルハ燕趙ノ願フ所ナリ、  
夫實得所利、尊得所  
願、燕趙奔齊、如脱躡矣。今不收燕趙、齊霸必成。諸  
侯贊齊而王不從、是國伐也。諸侯贊齊而王從之、是名  
卑也。今收燕趙國安而名尊、不收燕趙國危而名卑。夫

去尊安而取危卑、智者不爲也。夫實益ニ於テハ利益トスル所ノ宋ノ地  
所ヲ得ルナラハ、燕ト趙トカ齊ヲ捨ルハ、皆ハハ人カ破レ草履ヲ脱キ捨ル如キナリ、今日ニ  
於テ秦王カ早ク燕人趙人ノ人心ヲ取リ收メサレハ、齊王ノ霸業ハ必ス成就ス、夫レ諸大名カ  
齊王ノ業ヲ贊成シテ秦王カ服從セサレハ、是レ國家ノ征伐ヲ受ル者ナリ、諸大名カ齊王ノ業  
ヲ贊成シテ秦王カ服從スレハ、是レ秦ノ政府ノ名目ハ卑キナリ、今秦王カ燕趙ノ人心ヲ收メ  
レハ秦ノ國ハ安穩ニシテ秦帝爲ルノ名義尊シ、燕趙ノ人心ヲ收メサレハ秦ノ國ハ危クシテ其  
名義卑シ、夫レ帝爲ルノ尊ト國家ノ安穩トヲ捨テ、國ノ危キト名義ノ卑キトヲ取ルハ、智惠  
ノ有ル者ハ爲サ、ルナリ、  
○ 秦王聞苦說、必若刺心、然則王何

不使辨士以此苦言說秦、秦必取、齊必伐矣。夫取秦厚  
交也。伐齊正利也。尊厚交務正利、聖王之事也。秦王カ上  
如キ辨士ノ遊說ヲ聞ケハ、其心ニ感スルコト恰モ針ヲ以テ心ヲ刺サル、如クナル可シ、斯ク  
有レハ則チ燕ノ大王何爲レソ辨士ヲシテ右ノ苦味ノ有ル言論ヲ以テ秦王ヲ遊說セシメサルソ  
遊說セシムル者ナラハ、秦王ハ急度之ヲ取リ用ヒ、齊ハ急度征伐サル、ナリ、夫レ遊說ノ  
言論ヲ秦王ニ取リ用ヒラルハ、ハ手堅キ國家ト國家ノ交際ヲ得ルナリ、齊ヲ伐ツテ領地ヲ廣ム  
ルハ公正ノ利益ヲ得ルナリ、國家同志手堅キ交際ヲ奪ヒテ公正ノ利益ヲ  
取ルヲ務メルハ、則チ是レ聖王ノ務ル事業ナリ、  
○ 文 手紙ハ茲ニ畢ル、  
燕昭王善  
其書曰、先人嘗有德蘇氏、子之之乱而蘇氏去、燕欲  
報仇於齊、非蘇氏莫可、乃召蘇代、復善待之、與謀伐  
齊、竟破齊、湣王出走、  
燕ノ昭王乃チ上ニ述ル所ノ書中ノ計略ヲ妙ナリト  
シテ曰、吾先王文侯及ヒ易王世テ蘇氏ニ恩德ヲ施  
シタリ、然ルニ子之ノ亂ニ依テ蘇氏ハ燕ヲ捨テ去レリ、左レトモ吾カ燕カ誠ニ仇ヲ齊ニ報セ  
ント欲スルナラハ、蘇氏ニ非ラサレハ共ニ謀議ス可キ者莫シトテ、乃チ蘇代ヲ宋ヨリ召シ寄  
セ、又手厚ク蘇代ヲ待カヒ、共ニ謀リ議シ齊ヲ征伐シ、竟ニ齊軍ヲ打破リ、齊ノ湣王ハ爲メ  
ニ國ヲ出テ、他ニ走ル、  
○ 文 此段ハ蘇代カ齊ヲ贈リ説ク、因テ燕ノ昭王ニ取用ヒラレシ事  
ヲ叙ス、  
久之秦召燕王、燕王欲往、蘇代約燕王曰、楚得枳

必伐矣ハ、必被伐  
矣ノ略、  
取秦ハ、取於秦ノ  
略、  
厚交ハ堅交ノ如  
シ、

〔文〕此節乃チ手  
紙ノ意ハ、人質  
ヲ得テ秦ト交リ  
ヲ結ヒ、以テ連  
衡シ齊ヲ伐ツノ  
策ヲ述フ、  
先人ハ先祖ト云フ  
如シ、

〔文〕此節ハ蘇代  
カ燕ノ昭王ヲ助  
ケ齊ヲ伐チシ事  
ヲ叙ス、

約ハ引キ止メルナ  
リ、



國亡ハ其國ノ衰微ニ傾クテ云フ、是モ亦所云辨士ノ險語、深ハ甚ナリ、

正ハアラハニト訓ム、

〔文〕以上ノ一節ハ乃チ下文ノ爲メニ綱領ヲ聚ク、

華ハ和名ハヤフサ、鷹ノ一類、形小ニシテ敏シ、

〔文〕此ハ是レ秦ノ暴ヲ算ヘル初府、

而國亡。齊得宋而國亡。齊楚不得以有枳宋而事秦者何也。則有功者秦之深讎也。

後ニ久シキ年月ヲ經テカラ秦王乃チ燕ノ昭王ヲ招ク、燕王因テ秦ニ往カント欲ス、時ニ蘇代乃チ燕王ヲ引キ止メ諫メタル其言ニ曰、楚ノ國ハ攻テ損ノ地方ヲ取リ得タルニ依テ楚ノ國力滅亡シ、齊ハ攻テ宋ノ地ヲ奪ヒ得タルニ依テ齊國力滅亡セリ、今夫レ齊ト楚トカ枳ト宋トヲ領有シタルノ故ヲ以テ秦王ニ事ヘルコトカナラヌト云フ者ハ何ノ故ソヤト曰ハハ、ソハ則チ功ノ有ル者ハ秦王ノ甚々惡ム仇讐ナルノ故ヲ以テ秦軍ニ改立テラル、カラナリ、

取天下。非行義也。暴也。秦之行暴。正告天下。

ノ主義ハ、仁義ヲ行フト云フニハ非ラサルナリ、亂暴ヲ爲スナリ、秦王ノ亂暴ヲ行フヤ、アラハニ之ヲ天下ニ廣告セリ、請フ下文ニ其証ヲ舉ケン、告楚曰。

蜀地之甲乘船出於巴乘夏水而下漢。五日而至郢。漢中之甲乘船出於巴乘夏水而下漢。五日而至五渚。寡人積

甲宛東下隨。智者不及謀。勇士不及怒。寡人如射隼矣。

王乃欲待天下之攻函谷。不亦遠乎。楚王爲是故十七

年事秦。

正ハニ楚ニ報告シ曰、蜀ノ地方ノ甲冑ヲ着ル所ノ軍兵力船ニ乘込ミ汶水ニ浮ヒ夏時霖雨ノ爲ニ河水力溢ル、勢ヒニ乘シテ江水ヲ下ルナラハ、僅カ五日ニシテ

正ハ陽ト同シ、顯然ノ義、

二ノ平ハ、ヨリト訓ム、

觸ハツクト訓ミ、突クト義同シ、

〔文〕此ハ乃チ秦ノ暴ヲ算ヘル二府、鄭ハ韓ノ國部ナリ、新鄭トモ曰フ、

楚ノ首都ナル郢都ニ到着ス可シ、漢中ノ甲冑ノ勇士力船ニ乘リ巴ヨリ出テ、夏季河ノ水ノ滿ルノ時ニ乘シテ汶水ヲ下ル者ナラハ、僅カ四日ニシテ楚領ノ五渚ニ到着ス可シ、華ハ銳敏ナル鳥ナリ、故ニ之ヲ射ルハ手早クス可シ、因テ事ノ早キヲ射ルニ譬フ、夫レ寡人カ甲冑兵器ヲ宛ニ於テ積ミ東ニ向ヒ隨邑ヲ攻メ下ルニ及テヤ、何如ナル智者モ考ヒ謀ルノ暇無ク、何如ナル勇士モ怒テ禦ク暇無シ、故ニ寡人カ兵ヲ用ルノ神速ナルハ恰モ華ヲ射ルカ如キナリ、然ルニ楚王ハ乃チ山東大名カ函谷關ヲ攻ルノ日ヲ待テ寡人ト戰ハント欲スルモ、亦迂遠ナル事ナラスヤト、楚王ハ此虛喝ニ嚇サレシカ爲メノ故、

少曲。一日而斷大行。我起乎宜陽而觸平陽。二日而莫

不盡繇。我離兩周而觸鄭。五日而國舉。韓氏以爲然故

事秦。

秦乃チ陽ハニ韓ニ報告シ曰、夫レ大行ハ上黨ノ通路ナリ、故ニ韓ニ在テハ第一ノ要路ナリ、又平陽ト新鄭トノ如キハ、韓ノ都府ノ最要ナル者ナリ、然ルニ我秦軍カ會テ韓ヨリ奪取リシ小曲ヨリ起リ推寄セレハ、僅カ一日ニシテ大行ノ要路ヲ斷チ切ル可シ、又韓ヨリ奪取リシ宜陽カラシテ我軍兵ヲ起シ平陽ノ都ニ突キ入レハ、僅カ二日ニシテ韓ノ國ハ盡ク動搖セサル莫カル可シ、我軍勢カ兩周ノ道ヲ經テ新鄭ト云フ都ニ突キ入レハ、僅カ五日ニシテ韓ノ國ハ拔キ取ルチ得ント、韓王此策略ヲ以テ當然ノ計ト爲シタルカ故ニ恐レテ秦ニ事ヘタ

秦正告魏曰。我舉安邑塞女戟。韓氏太原卷。我

下軹道南陽封冀。包兩周。乘夏水浮輕舟。疆弩在前。



倍ハシカケユミト訓ム、  
鏃ハスルトキト訓ミ、利ト同シ、  
戈ハ槍ノ類、  
決ハ溜メタル水ヲ切リハナスナリ、

〔文〕秦ノ暴ヲ算ヘル三層、

則ハ於是ト爲シ看  
委ハユタ子ト訓ム、任ナリ、  
爲木ノ爲ハ、作ナリ、寫ハカタトルト訓ミ、其人ニ擬ラフヲ訓フ、  
〔文〕更ニ秦ノ暴ヲ算ヘルノ初層、

鏃戈在後

決滎口魏無大梁

決白馬之口魏無外黃濟陽

陸攻則擊河內

水攻則滅大

梁魏氏以爲然故事秦

秦乃陽魏ニ告ケ曰、我軍カ推出シ安邑ヲ攻拔キ女駃ノ路ヲ塞ク者ナラハ、韓領ノ太原ハ筵席ヲクル

ト卷ク如ク手易ク攻取ル可シ、我軍カ軹道南陽封豨ノ道ヲ推下タル者ナラハ、風呂敷ヲ以テ物ヲ包ムカ如ク兩周ヲ乗ツ取ル可シ、且又夏ノ雨水ニ乘シ輕キ舟ヲ河ニ浮ヘ、強キ弓矢ハ備テ舟ノ前ニ在リ、槍長刀等ハ備テ舟ノ後ニ在リ、我軍カ此ノ如ク出テ立チニテ、滎口ニ貯ヘシ水ヲ切リ離シテ勢ヒニ乘シ推寄セルナラハ魏ハ忽チ大梁ノ首府ヲ乘取ラル、ナル可シ、白馬ノ津口ニ貯ヘシ水ヲ切離シ勢ヒニ乘シ推寄セルナラハ魏ハ外黃ト濟陽ノ地方ヲ乘取ラルルナル可シ、宿胥ノ渡口ニ貯ヘシ水ヲ切離シ勢ヒニ乘シ攻ルナラハ魏ハ虛ト頓丘ヲ奪ハルルナル可シ、我軍ハ陸ヨリ攻ムレハ河内ヲ攻取リ、水路ヨリ攻ムレハ大梁ヲ擊チ亡スノ便利有リ、故ニ魏王ノ振ヒ命スル所ニ隨ヒ、何所カラテモ攻メ入ル可シト、魏王ハ乃チ此ノ策ヲ以テ當然ト爲スカ故ニ恐レテ秦ニ事ヘタリ、夫レ秦ノ暴ト此三例ノ如シ、抑々更ニ甚キ者有リ、請フ吾ヲ走ラシ更ニ其甚キ者ヲ語ラン、

恐齊救之

則以宋委於齊曰

宋王無道爲木人以寫

寡人射其面寡人地絕兵遠不能攻也王苟能破宋有之

寡人如自得之已得安邑塞女駃因以破宋爲齊罪

テ宋ノ安邑ヲ攻取ラント欲シタリ、而モ齊軍カ來テ宋ヲ救フヲ恐ル、是ニ於テヤ宋ヲ以テ齊ノ攻取ルニ任セ曰、宋王ハ無道ナリ、何ナレハ木像ヲ作リ以テ秦王ナリト云ヒ爾ラシ弓矢ヲ以テ木像ノ面ヲ射テ樂ミト爲セハナリ、夫レ寡人今此恥辱ヲ受ケ忿怒ニ耐ヘサルモ、寡人ノ領地トハ道カ絶ヘ軍兵ヲ以テ推寄セルニハ遠クシテ攻メルコトカナラヌナリ、刈ルカ故ニ齊王誠ニ能ク宋ヲ攻破ツテ領有シ玉フナラハ、寡人カ自分テ宋ヲ領有スルト同様ナリト、神ナラヌ齊王ハ其謀略ナルヲ知ラス、其言ヲ信シ軍ヲ起シ、既ニ宋ノ安邑ヲ取得テ女駃ノ道ヲ塞キケレハ、秦王ハ附込ミ宋ヲ打破リシ事ヲ以テ齊ノ罪ト爲シタリ、

秦欲攻韓恐天下救之則以齊

委於天下曰齊王四與寡人約四欺寡人必率天下以攻

寡人者三有齊無秦有秦無齊必伐之必亡之已

得宜陽少曲致蘭石因以破齊爲天下罪

秦以前ニ韓ヲ攻ント欲ス、而ルニ天下乃チ山東大名カ一致シテ之ヲ救フヲ恐ル、是ニ於テヤ齊ヲ以テ山東大名ノ攻取ルニ任セ曰、齊王ハ曾テ四度寡人ト約束シ四度寡人ヲ欺キタリ、且又山東大名ヲ引率シ以テ寡人ヲ攻取ルニ決心スル者三度ナリ、夫レ此ノ如シ、社會ニ齊カ有ルノ日ニハ秦無ク、秦カ有レハ齊無シ、是レ勢ヒナリ、故ニ寡人ハ之ヲ征伐スルニ決シ、又之ヲ擊亡スニ決スト、山東大名ハ其言ヲ信シテ齊ヲ代チ、既ニ齊領ノ宜陽ト少曲ヲ攻取リ蘭石ヲ拔テ秦ニ獻シケレハ、秦ハ附込ミ齊ヲ打破リシ事ヲ以テ山東大名ノ罪ト爲セリ、

秦欲攻魏重楚則以南陽委於楚曰寡人固與韓且絕矣殘均陵

天下ハ山東大名ヲ指ス、  
三ノ必ハ、決ノ字ト爲シ解ス、  
致ハ獻ノ如シ、  
因ハツケコムト訓ム、  
〔文〕更ニ秦ノ暴ヲ算ヘル二層、  
重ハハ、カルト訓ミ、恐レ憚ルナリ、  
殘ハ屠ナリ、



齊ハ捨ナリ、

〔文〕更ニ秦ノ暴ヲ算ヘル三層、

講ハ和親ナリ、實ハ舊本ニ至ニ作ル、古人早ク之ヲ誤ト爲ス、

屬ハタノミト訓ミ、囑ノ古字、

〔文〕更ニ秦ノ暴ヲ算ヘル四層、

傷ハ疵ヲ受ルナリ、收端ヲ開クナリ、

劫ハチヒヤカス、祗ハ勝ツナリ、

〔文〕更ニ秦ノ暴ヲ算ヘル五層、

塞郿阨。苟利於楚。寡人如自有之。魏奔與國而合於秦。

因以塞郿阨爲楚罪。秦前ニ魏ヲ攻ント欲ス、而モ楚ヲ憚カル、是ニ於テヤ南陽ヲ以テ楚ノ取ルニ任セヨ、寡人ハ本カラ韓ト將ニ絶交

セントスルナリ、故ニ均陵ヲ屠リ、郿阨ヲ塞クハ、楚王ノ了見次第ナリ、誠ニ楚國ニ利益有ル者ナラハ、寡人カ自ラ利益ヲ得ルト同一ナリト、魏王之ニ欺カレテ同盟國ヲ捨テ、秦ニ合

休シテ其旨ノ如クシケレハ、秦ハ附込ミ、郿阨ヲ塞キタル事ヲ以テ楚ノ罪ト爲ス、

兵困於林中。重趙。以膠東、委於燕。以濟西委於趙。趙得講於魏質公子延。因犀首

屬行而攻趙。魏ヲ攻ルノ日ニ秦ノ軍兵カ河南ノ林郷中ニ苦シメラルヤ、趙ヲ恐ル、

取ルニ任セタリ、既ニシテ趙ノ骨折リニテ魏ト和親スルヲ得テ魏ノ公子延ヲ秦ニ入質トスルニ至ル、然レハ趙ノ功ハ大ニ賞ス可キ者ナリ、而ルニ後ニ至リ魏ノ將軍犀首カ魏ヲ伐ツ時ニ

附込ミ犀首カ行ル軍勢中ニ秦兵ヲ組合セテ趙ノ國ヲ攻撃シタリ、

兵傷於譙石。遇敗於陽馬。而重魏。則以葉蔡委於魏。已得講於趙。則劫魏不爲割。困

則使太后弟穰侯爲和。嬴則兼欺舅與母。秦ノ三軍カ趙ノ國ヲ伐チ

石ニ於テ破レノ小口ヲ開ラキ、爲メニ陽馬ニ於テ敗北ニ遇ヒ、而シテ魏ノ攻撃ヲ恐レ懼レリ、是ニ於テヤ葉蔡地方ヲ魏ノ攻取ルニ任セタリ、既ニシテ趙ト和親スルヲ得ルニ及ンテヤ、則

適ハ貴メ立テルナリ、五ノ者ノ字ハ則ト同シ、

此必ノ必ハ、是レ衍字、

令ハツカフト訓ミ、使ト同シ、

循環ハマハルト訓ミ、玉ノクルクル

マハルチ云フ、盡ハ和名イナゴ、乃

チイナゴノ一種ニシテ、甚シク人ヲ

刺ス虫ナリ、〔文〕此小節ハ乃

チ上文ヲ收拾ス、

魏氏韓氏趙氏ノ三カ晋ノ領地ヲ分ケ

有ツ、之ヲ呼テ三晋ト曰フ、

父無キ者ヲ孤ト曰フ、葭水孤也ノ下

者曰以膠東。適趙者曰以濟西。適魏者曰以葉蔡。適楚

者曰以塞郿阨。適齊者曰以宋。此國令言如循環。用兵

如刺蜚。母不能制。舅不能約。今上ニ算ヘ舉ケタル事ヲ括リ約シテ之ヲ

攻ルチ以テスト曰ヒ、秦カ趙ヲ貴メル音ニハ私ニ濟西ヲ取ルチ以テスト曰ヒ、魏ヲ貴ル音ニ

ハ私ニ葉蔡ヲ攻取ルチ以テスト曰ヒ、楚ヲ貴ルニハ私ニ郿阨ヲ塞クチ以テスト曰ヒ、齊ヲ貴

ルニハ私ニ宋ヲ攻取ルチ以テスト曰フ、夫レ然リ、此レ秦カ他ノ大名ヲ欺ク爲メニ其旨詭チ

自在ニ使フハ恰モ玉ノクルクルトマハルカ如ク少シモ取リトマリ無ク、兵ヲ用ヘテ他ノ大名

ヲ害スルノ甚シキハ恰モ人ヲ刺ス蠚ノ如シ、故ニ其母ノ太后ノ慈モ之ヲ制シ止メル能ハス、其舅ナル穰侯ノ權モ約束ヲ踏ム能ハス、

龍賈之戰。岸門之戰。封陵之戰。高商之戰。趙莊之戰。秦之所殺。三晋之民數百萬。今其生者。皆死秦之孤也。秦禍如此

其大也。而燕趙之秦者。皆以爭事秦說其主。此臣之所

大患也。龍賈ノ合戰ニ於テ、岸門ノ合戰ニ於テ、封陵ノ合戰ニ於テ、高商ノ合戰ニ於テ、趙莊ノ合戰ニ於テ、秦人カ殺ス所ノ權ヲ言ヘハ、魏氏ノ領スル晋ト韓氏領ス



ニ、西河之外、上  
維之地、三川晉國  
之禍、三晉之半ノ  
四句十八字有り、  
此レ注脚ノ本文ニ  
雜入スル者、今之  
ヲ削リ去ル、

〔文〕收拾シ得テ  
何等ノ敏勁ソ、  
或不ノ不ハアラス  
ト訓ム、

マハシ者ヲシテ  
セシムルヲ反問ト

ル晋ト趙氏領スル晋トノ三晋中ノ人民ハ實ニ數百萬人ナリ、今日三晋中ニ於テ其生存シテ居  
ル者ハ、皆是レ秦ノ戰ヒノ爲メニ死セシ者ノ孤獨ノ者ナリ、夫レ秦ノ禍害ハ此ノ如ク其レ莫  
大ナリ、故ニ秦王ニ事ルコトヲ其主君ニ説キ勸メル者ハ無キ者ナリ、而ルニ燕ヲ趙ニ生レタ  
ル人ニシテ秦ノ國ニ往ク者ハ、皆其主君ニ説キ勸メルニ早ク降参シテ秦王ニ事ヘル件ヲ以テ  
ス、是レソ臣蘇代カ天下ノ爲メニ常ニ大ヒニ心配スル所ノ  
者ニソアル、○〔文〕蘇代カ昭王ヲ諫メル言ハ、茲ニ準ル、 燕昭王不行、蘇  
代復重於燕、燕使約諸侯從親如蘇秦、時或從或不、而

天下由此宗蘇氏之從約、代厲皆以壽死、名顯諸侯、  
〔是ニ於テ〕

燕ノ昭王乃チ蘇代ノ諫言ヲ納レテ秦ニ行カス、是ヨリ蘇代再ヒ燕ノ國ニ於テ重ク用ヒラレ、  
燕王カ蘇代ヲシテ山東大名ノ合從和親ヲ約束セシムルノ事務ヲ取扱ハシムルハ蘇秦ト同様ナ  
リ、因テ山東大名ハ時有り或ハ合從ヲ爲シ或ハ合從セス、斯ク有ルカラシテ山東ノ遊説ノ士  
ハ是ニ由テ蘇氏ノ合從ノ約ヲ本家本元トシ、蘇代モ蘇厲モ共ニ長壽ヲ以テ死シ、其名譽ハ諸  
大名ノ國ニ  
現ハレタリ、

太史公曰、蘇秦兄弟三人、皆游說諸侯以顯名、其術長  
於權變、太史公曰、蘇氏ナル秦代厲ノ兄弟三人ハ、皆諸大名ヲ游説シ以テ合從

事ニ妙ヲ得タリ、○〔文〕次文將ニ  
抑ントス、故ニ此小節ハ殆ッ揚々、 而蘇秦被反間以死、天下共笑之、

諱學其術

夫レ蘇秦ハ權變ノ術ニ長スレハ、諱問セラレヌ答ナリ、而ルニ蘇秦ハ  
反問セラレ以テ死ス、故ニ天下中ノ人々カ共ニ之ヲ笑ヒ、蘇秦ノ權變

然世言蘇秦多異

異時事有類之者、皆

附之蘇秦

左レトモ世間ノ人々カ蘇秦ノ事ヲ話スハ至テ異ヒ多シ、其異ヒ多キハ何故  
ゾヤト云ヘハ、凡ソ古今ヲ問ハス、其事柄ノ蘇秦ノ行爲ニ類似スル者有レ

ハ、悉ク之ヲ蘇秦ニ附會スルハ、即チ昔ノ裁判ノ巧妙ナルハ悉ク之ヲ大  
岡越前守ニ附會スルカ如シ、故ニ世人ノ語説ハ一モ信スルニ足ル者無シ、 夫蘇秦起

閭閻、連六國從親、此其智有過人者、吾故列其行事、

次其時序、母令獨蒙惡聲焉

夫レ蘇秦ハ東周ノ市町ノ中ヨリ起リ、諱ニ山  
東六國ノ合從和親ヲ連合セシ事ヲ以テ之ヲ親

レハ、此レ蘇秦其人ノ智恵ハ世人ニ賢サル者有ルヤ明カナリ、吾故ニ世人カ附會ノ話ヲ爲ス  
事ヲ防クカ爲メニ、此列傳中ニ蘇秦カ山東六國ヲ合從セシメタル行爲及ヒ齊ニ於テ反間ニ過  
フタル事件ヲ列叙シ、且問違ヒノ出來メ憶ニ、蘇秦カ事ヲ爲シタル年月ノ順序ヲ叙次セリ、  
斯ク爲ス者ハ、惡シキ評判ヲ受ク可キ者ハ、張儀蘇代等ヲ始メ遊説ノ策士皆是ナリ、故ニ蘇  
秦一人計リナシテ惡シキ評判ヲ蒙  
ラシムル勿ラシムルカ爲メナリ、

張儀列傳第十

云フ、  
〔文〕以上ハ蘇秦  
ハ大功ヲ立シ故  
ヲ以テ諱問ニ落  
入ルニ至ルヲ言  
フ、

異ハチカヒ、  
〔文〕二節ハ世間  
ノ說話ノ信スル  
ニ足ラサルヲ言  
フ、

〔文〕茲ニ獨リ史  
公ノ作りシ列傳  
ノミ信スルニ足  
ルノ意ヲ言フ、  
獨ハ一人ノミノ  
義、



以ハチモヒラクト  
訓ミ、以爲ト同  
シ、

〔文〕此節ニハ伏  
チ設ケ綱ヲ提  
ク、

意ハウタカフト訓  
ム、意ニ疑フチ云  
フ、無行ハ不行狀  
ナリ、璧ハ和名タ  
マ、掠答ハムチウ  
ツト訓ム、醜ハユ  
ルスト訓ミ、放チ  
リ、  
安得ハ不得ノ反  
語、

〔文〕張儀カ辱ニ  
過ヒ風セサル事  
ヲ叙ス、  
門下ハ家來食客等  
ノ如キ其家内ニ在  
ル者ヲ指ス、  
相負チ舊本ニ後頁  
ニ作ル、今改ム、

張儀者魏人也。始嘗與蘇秦俱事鬼谷先生學術。蘇秦自  
以不及張儀。張儀已學而游說諸侯。

楚相亡璧。門下意張儀曰。儀貧無行。必此盜相君之璧。

共執張儀。掠答數百。不服。醜之。其妻曰。嘻。子毋

讀書游說。安得此辱乎。張儀謂其妻曰。視吾舌。尙在

不。其妻笑曰。舌在也。儀曰足矣。

蘇秦已說趙王而

得相約從親。然恐秦之攻諸侯。約相負。念莫可使用的於

秦者。乃使人微感張儀曰。子始與蘇秦善。今秦已當路。

子何不往游以求通子之願。張儀於是之趙上調求見蘇

秦。蘇秦乃誠門下人不爲通。又使不得去者數日。

已而見之。坐之堂下。賜僕妾之食。因而數

讓之曰。以子之材能。乃自令困辱至此。吾寧不能言而富

貴子。子不足收也。謝去之。

張儀是ニ於テ趙ノ國ニ往キ謁見チテ願フ事ヲ言上シ蘇秦ニ謁見スル事ヲ願ヒ求メケルニ、蘇

秦乃チ門下ノ人々ニ命シ張儀ノ言フ事ヲ蘇秦ニ通スル事ヲ爲サシメス、又張儀チ去リ他ニ往

リテ得サラシム

既ニシ張儀ニ遇フ、儀チ堂ノ下ニ坐セシメ、僕妾等ノ食ヲ所ノ食ヒ物ヲ儀ニ食トシ

メ、夫ニ附込シテ數々儀チ責メ罵リ曰、吾子ノ才學藝能チ以テ自分ト困窮恥辱ノ此極度ニ至

ラシメタルハ何ソヤ、我ハ隨分國主ニ言上シテ吾子ノ身分ヲ富貴ニスル能ハサルニアラス、

左レド吾子ハ採用スルニ足ラサルナリ、免ニ謝絶シ儀チ去ラシメタリ、張儀之來也、自以爲故人、求

負ハ背ナリ、  
念ハチモフ、  
當路ハ顯職ニ居ル  
チ云フ、  
誠ハイマシメト訓  
ミ、云ヒ附ツケル  
ナリ、

〔文〕此小節ハ蘇  
秦カ張儀チ欺キ  
招キシ事ヲ叙  
ス、

謂ハ背ナリ、  
堂下ハ我儀カハノ  
如キ處チ云フ、  
上ヨリ物ヲ下ニ興  
ルチ賜ト曰フ、  
乃ハ而ト同シ、  
寧不ハ非不ノ反  
語、

〔文〕此ハ秦カ殊  
更ニ儀チ恥シメ  
去ラシムル事ヲ  
叙ス、



〔文〕此節ハ儀ガ憤怒シ秦王ヲ頼ミ、以テ仇ヲ蘇秦ニ報セント志ヲ立テシ事ヲ叙ス、

舍人ハ腹心ノ召シ使ヒテ指ス、告ハ云ヒ附ルノ義、

陰ハヒソカニト訓ム、陰奉ノ奉ハ、事ト同シ、庫カラ出スヲ發ト云フ、稍々ハシタイト訓ム、近就ハ近ツキテ懇意ニ爲ルナリ、奉以奉ノ奉ハサ、ケト訓ム、下ヨリ物ヲ上ニ與ルヲ捧ト曰フ、奉ハ捧ノ古字、

益。反見辱。怒。念諸侯莫可事。獨秦能苦趙。乃遂入

秦。張儀カ蘇秦ヲ訪ヒ來ルヤ、自分ト心ノ内ニ思フニ秦ノ奴ハ今時ヲ得ルモ本是レ友人ナレハ、身ノ利益ヲ顧ヒ求メナハ叶フ可シト、然ルニ反テ秦ノ爲メニ恥カシメラル、ヤ

此ノ如シ、儀因テ大ニ怒ル、乃チ心ノ中ニ色々考ヒ思フニ大名中ニ於テ主君ト仰キ事フ可キ程ノ人物無シ、一人リ秦王計リ趙ヲ攻メ苦メテ秦ノ奴カラ受ケタル恥辱ヲ雪クニ足ルト、乃

チ遂ニ往テ蘇秦已而告其舍人曰。張儀天下賢士。吾殆弗

如也。今吾幸先用。而能用秦柄者。獨張儀可耳。然貧

無因以進。吾恐其樂小利而不遂。故召辱之以激其意。

子爲我陰奉之。乃言趙王發金幣車馬。使人微隨張儀與

同宿舍。稍々近就之。奉以車馬金錢。所欲用。爲取給。

而弗告。蘇秦既ニシテ其舍人ニ云附ケ曰、張儀ハ天下風指ノ人傑、吾ハ連モ彼ノ伎倆ニ

ナ執ルニ堪ル者ハ、獨リ張儀ノミ其政柄ヲ執ル可キ耳、左レト彼ハ貧乏ナルニ因テ進テ其政柄ヲ執ル無シ、吾因テ彼方目ノ前ノ小利ヲ樂ミテ秦ニ往クヲ仕途ケサルヲ心配ス、刈ル方故ニ招キテ彼ヲ恥カシメ以テ其意ヲ憤激セシメタリ、右ニ就テハ吾子ヨ其レ我カ爲メニ彼ニ悟

給ハ供ヘルナリ、費スナリ、

王。惠王以爲客卿。與謀伐諸侯。張儀遂得以見秦惠

ノ公卿ト爲シ、共ニ大名ヲ伐ツヲ謀議ス、蘇秦之舍人乃辭去。張儀曰。賴子得顯

方且報德。何故去也。舍人曰臣非知君。知君乃蘇君

蘇君憂秦伐趙敗從約。以爲非君莫能得秦柄。故感怒

君。使臣陰奉給君資。盡蘇君之計謀。今君已用。請歸

報。蘇秦ノ舍人はニ於テ別チ告ケ去ル、張儀之ヲ視テ駭キ曰、吾ハ吾子ノ厚意ニ頼リ立身出

以テ去リナサルソヤ、舍人曰臣ハ本ヨリ君ノ伎倆ヲ知ルニ非ラス、君ヲ知ルハ蘇秦君ナリ、蘇君深ク秦軍カ趙ヲ征伐シテ山東大名ノ合從ノ約束ヲ敗ルヲ心配セリ、因テ君ニ非レハ能ク

今然ルニ君ハ既ニ秦王ニ採用サレタリ、故ニ張儀曰嗟乎。此吾在術中



安能謀趙乎、不能謀趙也、反語、儀何敢言ハ、儀不敢言ノ反語、儀寧渠能乎、儀不能也ノ反語、寧渠ハナンソノ複語ニシ、何ト同シ、若而ノ二ハ汝ト同シ、爲ハ作也、

順ハ衍字ノミ、  
〔文〕此段ハ儀カ復轉狀ヲ楚ノ相ニ贈リシ事ヲ叙シ、以テ下文ノ伏案ト爲ス、  
其ハ巴ナリ、險ハケハシ、狹ハセマシ、  
〔文〕此小段ハ司馬ト張カ對韓ヲ

而不悟。吾不及蘇君明矣。吾又新用。安能謀趙乎。爲吾謝蘇君。蘇君之時。儀何敢言。且蘇君在。儀寧渠能乎。

張儀ハ舍人ノ言ヲ聽キ駭キ曰ヤ、此レ吾レ蘇君ノ術中ニ在テ之ヲ悟リ知ラサルヲ以テ思ヘハ、吾ノ蘇君ノ材ニ及ハサル明白ナリ、吾其上ニ新タニ用ヒラレテ何ノ權モ無ケレハ、趙ヲ伐ツヲ謀ル能ハサルナリ、君故ニ吾カ爲メニ蘇君ニ禮謝シテ曰ヒ矣レヨ、蘇君カ合從ノ策ヲ成就スル時間ニ於テハ、此張儀ハ致テ連衡ノ策ヲ言ハサルナリ、且又蘇君カ趙

ニ在ルカラニハ、儀ハ趙ヲ伐ツ能ハサルナリト、○〔文〕此段ハ張儀カ蘇秦ノ計ニ依テ志ヲ秦ニ得タル事ヲ叙ス、

張儀既相秦。爲文檄告楚相曰。始吾從若飲。我不盜而壁。若答我。若善守汝國。我國且盜而城。

張儀カ既ニ秦ニ宰相爲ルヤ、檄文ヲ作り楚ノ宰相ニ報告シ曰、以前吾乃チ汝ニ從ヒ酒ヲ飲ミシ時ニ、我決シテ汝ノ珠ヲ盜マサリシニ、汝ハ暴ニ我ヲ鞭打ツタリ、夫レニ就テハ汝ハ能ク汝ノ國ヲ守レヨ、我ハ將ニ是カラ汝ノ城ヲ盜ントスト、且蜀相攻撃。

各來告急於秦。秦惠王欲發兵以伐蜀。以爲道險狹難至。而韓又來侵秦。秦惠王欲先伐韓。後伐蜀。恐不利。欲先伐蜀。恐韓襲秦之敝。猶豫未能決。司馬錯與張儀爭論

於惠王之前。巴ノ國ト蜀ノ國ト互ニ攻メ撃チ、兩國ノ使者カ各自ニ來リ危急ヲ秦ニ告ケ、秦ノ惠王因テ軍兵ヲ繰出シ以テ對テ征伐セント欲スルモ、蜀ノ道ハ險シク狹キカ故ニ攻メ入り難シト考ヒ思ヘリ、時ニ韓軍力又來リ秦ヲ侵シ伐ツ、是ニ於テ秦ノ惠王將ニ先ツ韓ヲ征伐シ後ニ蜀ヲ征伐セントスレハ戰ヒノ不利有ルノ恐レ有リ、因テ先ツ蜀ヲ伐ント欲スレハ韓軍力疲弊チ畏ヒ伐ツノ恐レ有リ、是ヲ以テ猶豫シ孰レヲ伐ツト決スル能ハス、因テ此事ニ就テ司馬錯ト張儀トカ惠王ノ御前ニ於テ爭論ニ及ヒタリ、

司馬錯欲伐蜀。張儀曰不如伐韓。王曰請聞其說。時ニ錯ハ先ツ蜀ヲ伐ント欲スト主張シ、張儀ハ韓ヲ伐ツニ宜シト云ヒ張ル、惠王是ニ於テ曰請フ其說ヲ聞カント、

儀曰親魏善楚。下兵三川。塞斜谷之口。當屯留之道。魏絕南陽。楚臨南鄭。秦攻新城宜陽。以臨二周之郊。誅周王之罪。以侵楚魏之地。周自知不能救。九鼎寶器必出。據九鼎案圖籍挾天子以令天下。天下莫敢不聽。

張儀乃チ論ヲ發シ曰韓ヲ征伐スルニ就テ先ツ魏ニ和親シ楚ヲ善ク取リ扱ヒ、秦ノ軍兵チ三川ニ繰出シ、斜谷ノ谷口ヲ塞テ敵ノ通路ヲ止メ、一軍ハ屯留ノ道ニ當リ備ヘテ爲シ、魏ノ軍ハ南陽ノ道ヲ斷チ切リ、遊ノ軍兵ハ南鄭ニ臨ンテ陣シ、手配リ既ニ定リナハ、秦軍ハ進テ新城ト宜陽ヲ攻伐チ、其勢ヒテ東西兩周ノ郊野ニ推寄セ、周王ノ罪ヲ責ルニ脅テ楚ト魏ト領地ヲ攻メ侵セシ事ヲ以テスルナラハ、周王ハ自分ト己ノ危急ヲ救フ能ハサ

伐ツノ利害ヲ爭論スル事ヲ叙シ、以テ此段ノ立案ト爲ス、  
〔文〕此節ハ下文ノ爲メニ更ニ綱領ヲ設ケ、

誅ハ貴ナリ、舊本罪ノ字ノ下ニ以ノ字ヲ脱ス、今因テ之ヲ補フ、九鼎ハ天子カ位ヲ傳ヘルノ證トシテ子孫ニ傳ヘル者、乃チ我神器ノ類ナリ、古昔殊ニ地圖ト、戶籍帳トヲ重セリ、蘇何カ秦ノ亡ルノ日ニ早ク收メシモ亦此二種ナ



リ、則チ以テ之ヲ  
重スルヲ視ル可  
シ、

翟ハ狄ト通用スル  
ハ、其音同キニ依  
テナリ、倫ハ人ナ  
リ、敵ハ弊ノ古  
字、

順ハ反ナリ、

〔文〕以上ノ一節  
ハ張儀力韓ヲ伐  
ツノ利ヲ説キシ  
事ヲ叙ス、

博ハ廣ト同シ、

ルヲ知リ恐ル、ニ相違無シ、然レハ帝王傳位ノ九鼎及ヒ寶物ヲ出シ和親ヲ乞フ可シ、果シテ  
然ル時ハ、秦王ハ帝王傳位ノ九鼎ヲ手ニ入レ獨リ天子ノミ所持スル所ノ支那ノ地圖及ヒ戶籍  
帳ヲ檢按シ周ノ天子ヲ抱キコミ其勢ヒヲ以テ天下中  
ニ號令ヲ下スナラハ、天下敢テ聽カサル莫キナリ、  
今夫蜀西僻之國。而

戎翟之倫也。敵兵勞衆不足以成名。得其地不足以爲利。

臣聞爭名者於朝。爭利者於市。今三川周室天下之朝

市也。而王不爭焉。顧爭於戎翟。去主業遠矣。〔今夫ノ蜀ノ  
如キハ西方

偏僻ノ國ニシ、其上ニ夷狄ノ人民ナリ、故ニ軍兵ヲ疲弊シ衆人ヲ疲勞セシメテ征伐スルモ夫  
ヲ以テ名譽ヲ成スニ足ラス、其土地ヲ奪ヒ得ルモ夫ヲ以テ利益ト爲スニ足ラス、臣カ學ヒ聞

キシニ名譽ヲ競争スル者ハ朝廷ニ於テ競争シ、利益ヲ争フ者ハ市町ニ於テ争フト云ヘリ、今  
夫ノ三川ト周室トハ天下第一ノ名譽ト利益ヲ競争スルノ朝廷市町ナリ、故ニ大王ハ進テ之ヲ

競争スル者ナルニ、而ルニ大王ハ之ヲ競争セス、却テ戎狄ニ於テ無  
益ヲ争フ、此ノ如キ、則チ遠ク帝王ノ業ヲ成スノ行爲ニ離ル、ナリ、  
司馬錯曰不

然。臣聞之欲富國者務廣其地。欲彊兵者務富其民。欲

王者務博其德。三資者備。而王隨之矣。今王地小民貧。

故臣願先從事於易。〔司馬錯反對シ曰然ラス、臣カ之ヲ學ヒ聞キシニ國ヲ富  
サント欲スル者ハ務テ其領地ヲ廣ロメ、兵勢ヲ強クセ

ント欲スル者ハ務テ其人民ノ身代ヲ富マシ、帝王ト爲ラント欲スル者ハ務テ其仁慈ノ德政ヲ  
廣ロムト、故ニ此三ノ資本カ國君ノ行爲ニ備ハリ、斯クシテ帝王爲ルノ業カ隨ヒ起ルナリ、  
今ヤ大王ノ如キハ領地カ狭小ニシ人民カ貧乏ナリ、刈  
ルカ故ニ臣ハ先ツ容易キ方ニ從テ蜀ヲ伐ツヲ願フナリ、  
夫蜀西僻之國也。而

戎翟之長也。有桀紂之亂。以秦攻之。譬如使豺狼逐群

羊。得其地足以廣國。取其財足以富民。繕兵。不傷衆

而彼已服焉。拔一國而天下不以爲憂。利盡西海而天下

不以爲貪。是我一舉而名實附也。而有禁暴止亂之名。夫

蜀ハ西ニ僻在スルノ國ナリ、其上ニ夷狄人民ノ隊長ナリ、又夏王桀ト殷王紂ノ如キ國ノ亂レ  
有リ、秦軍ヲ以テ之ヲ征伐スル、譬ヘハ暴ナル豺狼ヲシテ臆病ナル多クノ羊ヲ逐ハシムルカ  
如ク、功ヲ成ス至テ易シ、蜀ノ土地ヲ取り得レハ夫ヲ以テ十分ニ秦ノ領國ヲ廣クスル事カ出  
來、蜀ノ貨財ヲ分取リスレハ夫ヲ以テ秦民ヲ十分ニ富マス事カ出來ルナリ、一時軍備ヲ爲ス

モ、衆多ノ兵ヲ損スル事無クシテ蜀人既ニ我ニ歸服スルナリ、而シテ蜀ノ一箇國ヲ攻抜キテ  
モ天下ノ人カ秦ヲ以テ亂暴ト爲サス、西海ノ際迄悉ク利益ニナル物ヲ取ツテモ天下ノ人カ秦  
ヲ以テ貪慾ト爲サス、然レハ是レ一度軍兵ヲ起シテ名譽ト實益ノ二カ秦

ニ附クナリ、其上ニ又蜀ノ亂暴ヲ禁止シ蜀ノ國亂ヲ鎮止スルノ名義有リ、  
今攻韓劫

天子。惡名也。而未必利也。又有不義之名。而攻天下

切ハチヒヤカス、



宗室ハ天下ノ大名ノ總本家ト云フカ

如シ、

亡ハ失ナリ、

因ハ依頼ナリ、

解ハ葛藤ヲ解クナリ、

替テ救ノ字ト

爲シ看レハ、解シ

易シ、

既ハチトスト訓  
富厚ハ富強ノ如  
シ、輕ハ侮ナリ、

所不欲危矣。臣請論其故。

今夫レ韓王ヲ攻メ且周ノ天子ヲ嚇シ切カセハ、忽チ惡名ヲ被ルニ至ルナリ、其上未ダ必モ利益

アラサルナリ、且又天子ヲ劫スト云フ不義ノ名義有リ、其上ニ天下ノ人々ノ欲シ望マサル韓

周天下之宗室也。齊韓之與國也。周自知失九鼎。

韓自知亡三川。將二國并力合謀以因乎齊趙而求解乎楚

魏。以鼎與楚。以地與魏。王弗能止也。此臣之所謂危

也。不如伐蜀完。

周ノ天子ハ天下ノ大名ノ大頭領ナリ、齊ハ則チ韓ノ同盟國ナリ、周王カ自ラ帝王傳位ノ九鼎ヲ秦ノ爲メニ奪ハルルヲ知リ、韓

王カ自ラ三川ノ地方ヲ秦ニ奪ヒ取ラレ、チ知ルヤ、忿怒ト怒リ、將ニ周韓ノ二國カ勢力ヲ合

シ謀議ヲ合シ以テ齊ト趙ニ依頼シ其上ニ救ヒテ楚ト魏ニ求メントシ、因テ九鼎ヲ楚王ニ與ヘ、

三川ノ地ヲ以テ魏ニ與ヘ、周韓齊趙楚魏ノ六國カ一團トナリ秦ニ敵スルトナラハ、大王ハ

之ヲ制止スル能ハサルヤ必セリ、此レソ臣カ申ス所ノ危シト云者ナリ、故ニ蜀ヲ伐ツヲ以テ

完全ノ計ト爲スナリト、惠王曰善。寡人請聽子。卒起兵伐蜀。十月取

之。遂定蜀貶蜀王。更號爲侯。而使陳莊相蜀。蜀既屬

秦。秦以益疆。富厚輕諸侯。

惠王之チ總テ妙策妙策。寡人ハ司馬子ノ說ヲ聽キ用フト曰ヒ、卒ニ兵ヲ起シ蜀ヲ征伐

〔文〕以上ノ一段ハ、張儀ノ策ノ總キ用ヒラレサリシ事ニ叙ス、是レ叙事ノ抑法ナリ、

入ハ獻ノ字ト爲シ

看ヨ、

更ハ改ナリ、

〔文〕此節ハ儀カ

策ヲ立テ上郡少

梁ヲ得ルノ功ヲ

以テ、拔カレテ

宰相ト爲リシ事

ヲ叙ス、

襄ハ和名トリテ、

効ハ做ノ古字、

シ、十月ニ之ヲ攻取リ、遂ニ蜀ヲ秦ノ領分ト定メ蜀王ヲ其位ヨリ落シ、其名號ヲ改メ侯ト爲シ、斯クシテ陳莊ヲシテ蜀侯ノ宰相ト爲ラシメタリ、蜀カ既ニ秦ノ屬國ト爲ルヤ、秦ハ夫ヲ以テ益々強大トナリ、富強ノ故ナリ、以テ山東大名ヲ輕侮スルニ至ル、秦惠王十年使公子華與張儀圍蒲

阪降之。儀因言秦復與魏。而使公子綰質於魏。儀因說

魏王曰。秦王之遇魏甚厚。魏不可以無禮。魏因入上郡

少梁謝秦惠王。惠王乃以張儀爲相。更名少梁曰夏陽。

惠王ノ三十年ニ公子華ヲシテ張儀ト共ニ蒲阪ヲ攻メ圍マシメ之ヲ降參サセシニ、張儀其事ニ附込ミ一策ヲ秦王ニ言ヒ聽セテ蒲阪地方ヲ以テ又魏ニ返シ與ヘ、斯クシテ公子綰ヲ魏ニ人質

ニ渡シ、儀夫レニ附込ミ魏王ニ說キ、秦王カ魏ヲ招待スルハ甚ダ手厚シ、而ルニ魏ニ於テ返禮無キハ不可ナリト曰フ、魏因テ上郡ト少梁ノ地ヲ割キ之ヲ獻シ以テ秦ノ惠王ニ禮謝シタリ、

相ト爲シ、少梁ヲ改名シ夏陽ト曰フ、儀相秦四歲。立惠王爲王。居

一歲爲秦將取陝築上郡塞。其後二年。使與齊楚之相會

齧桑東。還而免相。相魏以爲秦。欲令魏先事秦而諸侯

効之。魏王不肯聽儀。秦王怒伐取魏之曲沃平周。復陰



〔文〕以上ノ一小段ハ、儀カ魏ヲシテ秦ニ事ルノ手本ヲ出サシメ諸侯ヲシテ其手本ニ倣ハシメントスルノ策ヲ施シタル事ヲ叙ス、則チ是ヲ以テ儀カ連衡策ヲ成スノ辛苦多キヲ見ル、

震恐ハフルノ震ヒ恐レルナリ、斬ハキルト訓ム、〔文〕此節ハ儀カ機會ヲ得テ再ヒ魏王ヲ説ク事ヲ叙シ、以テ次文ノ端ヲ啓ラク、

厚張儀益甚。張儀慙無以歸報。留魏四歲而魏襄王卒。哀王立。張儀復説哀王。哀王不聽。於是張儀陰令秦伐魏。

魏與秦戰敗。張儀乃秦ノ政府ニ宰相タル四年ヲ經テ、惠王ヲ立テ秦王ト爲ス、其後尙宰相ノ職ニ居ル一歲ヲ經テ秦ノ大將ト爲リ魏ノ陝ヲ

攻取リ魏領ノ上郡ノ邊ヲ築ク、其後二年ヲ經過シ、使節ト爲リ齊ト楚ノ宰相ト留桑ノ東ニ會合シ、會ヨリ還リ宰相ヲ免職シ、往テ魏ノ政府ニ宰相ト爲リ以テ秦ノ國ノ爲メニシ、魏ヲシテ先ツ秦ニ事ヘテ諸大名ヲシテ魏ノ所作ニ倣ハシメント欲シタルニ、魏王肯テ儀ノ策ヲ聽キ川ヘス、秦王固テ怒リ伐テ魏ノ曲沃ト平周ヲ攻取リ、又内々張儀ヲ大切ニスル益々甚シ、而レトモ張儀之ヲ恥テ秦ニ歸テ事ヲ報スル無シ、儀カ魏ノ相ト爲リ逗留スル四年ニシテ魏ノ襄王卒シ、哀王立ツ、張儀固テ又哀王ヲ説キ勸メ秦ニ事ヘシメントセシニ、哀王モ亦之ヲ聽用ヘス、是ニ於テ張儀止ム無ク惡手段ヲ出シ内々説キ勸メ秦

觀津。秦復欲攻魏。先攻韓申差軍。斬首八萬。諸侯震

恐。而張儀復説魏王曰。魏カ敗北シタル翌年ニ齊軍ハ其機ニ乘シ又來リ魏軍

八萬ナリ、山東ノ諸大名此評判ヲ聞テ震ヒ恐レタリ、因テ之ヲ機會トシ張儀再ヒ魏ノ哀王ヲ説シ説勸メテ曰。魏地方不至千里。卒不過二十萬。地四平。諸

侯四通輻湊。無名山大川之限。從鄭至梁二百餘里。車

馳人走。不待力而至。梁南與楚境。西與韓境。北與趙

境。東與齊境。卒戍四方。守亭鄣者不下十萬。梁之地

勢。固戰場也。梁南與楚而不與齊則齊攻其東。東與齊

而不與趙則趙攻其北。不合於韓則韓攻其西。不親於楚

則楚攻其南。此所謂四分五裂之道也。

過キス、地面ハ平坦ニシ、諸大名ノ往來スル國道カ四方ニ通スルノ故ヲ以テ、四方ノ人民カ集リ來リ、名高キ山ヤ大ナル川ノ要害ト爲ス可キ限界無ク、鄭カラ大梁ノ都迄二百餘里ハ一平地ニシ、車カ馳セマハリ人カ走り歩キ、車ニ乘レハ足力ヲ用ヒスシテ往來カ出來ルナリ、且十梁ノ國ハ南ニ於テハ楚領ト界ヲ爲シ、西ハ韓領ト界シ、北ハ趙ト界シ、東ハ齊ト界スルカ故ニ、兵卒カ常ニ四方ノ領分界ヲ守ルナリ、亭鄣ノ壘ヲ守ル兵卒計リテモ其數ハ十萬ニ下タラサル可シ、故ニ梁國ノ地勢ハ、誠ニ合戰ノ場ニソアル、刈ルカ故ニ梁ノ國ハ南ニ於テハ楚ニ同盟シテ齊ニ同盟セサル時ハ齊軍カ其東方ヲ攻メ、東ニ於テ齊ニ同盟シテ趙ニ同盟セサル時ハ趙軍カ其北方ヲ攻メ、韓ニ合從セサル時ハ韓カ其四方ヲ攻メ、楚ニ和親セサル時ハ楚兵カ其南方ヲ攻ムレハ、此レソ兵書ニ申ス四ツニ分カ、五ツニ裂ケルノ國ナリ、

且夫諸侯之爲從者。將以安

四通ハ路カ四方ニ通スルナリ、輻湊ハアツマルト訓ム、境ハサカヒシト訓ミ、動詞ナリ、戍ハマモルト訓ミ、警衛スルナリ、梁ハ魏ノ一名ナリ、此ノ四ノ與ハ、クミスト訓ミ、茲スルノ義ナリ、〔文〕此小節ハ魏ハ決シ天下ニ獨立ス可キ國ニ非ラサルヲ言フ、



刑ハ殺シテ血ヲ取  
ルヲ云フ、

侍ハタノムナリ、

〔文〕此小節ハ合  
從策ノ信スルニ  
足フサルヲ言  
フ、

據ハ陳取ルナリ、

四ノ不ハ、不可ノ  
省語、南而ノ而ハ  
則ト同シ、  
母ハ無ナリ、  
挾ハ舊本ニ折ニ作  
ル、今國策ニ從ヒ  
之ヲ改ム、  
立而須ハ其速カナ  
ルヲ云フ、須ハ待

社稷尊主彊兵顯名也。今從者。一天下約爲兄弟刑白馬

以盟洹水之上以相堅也。而親昆弟同父母尙有爭錢財

而欲恃詐僞反覆蘇秦之餘謀。其不可成亦明矣。且夫山東大

スノ理山ハ、將ニ合從ヲ以テ社稷國家ヲ安泰ニシ主君ヲ尊クシ兵勢ヲ強クシ名譽ヲ天下ニ現  
ハサントスル者ナリ、今日ノ合從ト云フ者ハ、天下乃チ山東ヲ一致セシムルカ爲メニ約束シ  
テ大名同志兄弟ト爲リ白キ馬ヲ殺シ其血ヲ互ニス、ル事ヲ以テ洹水ノ上ニ於テ互ニ誓ヒ以テ  
互ニ約束メ堅メタル者ナリ、故ニ互ニ爭フ事ハ無キ筈ナルニ、而ルニ親シキ兄弟テスラ同シ  
キ父母テスラ尙金錢ヲ貨財ヲ爭フ者カ有リ、其上ニ詐僞師テ有テ志操カクルリクルリト引ツ  
クリカヘル蘇秦ノ殘シタル謀計ヲ恃ンテスル事故、洹水長ク合從和親ノ出來ヌノモ亦明白ニ  
ソマル

大王不事秦。秦下兵攻河外。據卷衍酸棗劫衛取

陽晉則趙不南。趙不南而梁不北。梁不北則從道絕。從

道絕。則大王之國欲毋危不可得也。秦挾韓而攻梁。韓

怯於秦。秦韓爲一。梁之亡可立而須也。此臣之所爲大

王患也。爲大王計。莫如事秦。事秦則楚韓必不敢動。

無楚韓之患。則大王高枕而國必無憂矣。大王若シ屬國ト爲リ秦王

兵ヲ繰出シ河外ヲ攻打チ、因テ卷衍ト酸棗ニ陳取リ衛王ヲ嚇シ劫カシ衛ノ陽晉ヲ奪取レハ趙  
ノ軍勢ハ南方ニ打テ出ルコト出來ス、趙軍カ南方ニ出ル能ハサレハ梁ノ軍兵モ北方ニ打ツテ  
出ルチ得ス、梁軍カ北方ニ打ツテ出ルチ得サル時ニハ合從和親ノ國ノ道ハ絶ヘルナリ、合從  
和親ノ國々ノ道カ絶ヘル時ニハ、則チ大王ノ國ハ危ク無キチ願フモ叶ハヌナリ、且秦カ韓ヲ  
手ニ入レテ梁ヲ攻ントスレハ、韓ハ本ヨリ秦ヲ恐ル、カ故ニ、甚タ一致シ易シ、因テ秦軍ト  
韓軍トカ一團ト爲リ推寄セシハ、梁ノ滅亡ハ目バダク間ナリ、此レソ臣カ大王ノ爲メニ心配

スル所ナリ、依テ大王ノ爲メニ計略ヲ運ラシナハ、屬國ト爲リ秦王ニ事ルチ上策ト爲ス、誠  
ニ秦王ニ事ヘレハ楚モ韓モ敢テ軍勢ヲ動カシ手出シチスル機才事無シ、誠ニ楚ヤ韓ノ心配カ  
無キ者ナラハ、則チ大王ハ枕チ高ク  
シ安眠スルモ國ハ急度心配無キナリ、

且夫秦之所欲弱者莫如楚。而

能弱楚者莫如梁。楚雖有富大之名而實空虚。其卒雖多

然而輕走易北不能堅戰。悉梁之兵南面而伐楚。勝之必

矣。割楚而益梁。虜楚而適秦。嫁禍安國。此善事也。

大王不聽臣。秦下甲士而東伐。雖欲事秦不可得也。且夫

ナリ、

〔文〕此小節ハ合  
從ハ恃ムニ足ラ  
サルカ故ニ、秦  
ノ屬國ト爲ルチ  
上策ト爲スチ言  
フ、

空虚ハカラナリ、  
然而ハ而ノ復語、  
堅戰ハ踏ミ堪ヘテ  
手強ク難フナリ、  
適ハ叶フナリ、皆  
事ハ妙策ノ如シ、  
下ハ繰出スト云フ  
如シ、

〔文〕此小節ハ秦  
ノ爲メニ宜ク楚

王カ大名中ニ於テ弱クセント欲シ願フハ楚ヲ第一ト爲シ、而シテ能ク楚國ヲ弱クシ得ル者ハ  
梁ヲ第一ト爲ス、且楚ハ雖ハ國カ富テ大ナルノ評判有ルモ其實ハ内カ空虚ナリ、其軍卒ハ雖



チ伐ツヘキチ云フ、

へ衆多ナルニモセヨ輕々シク走り廻ハリ敗北シ易ク踏ミ堪ヘテ服フ事ハ出来ヌナリ、刈ルカ故ニ梁ノ軍兵チ盡ク繰出シ南ノ方ニ面チ向テ推寄セ楚ヲ征伐スレハ、之二勝ツハ必然ナリ、勝チナハ、楚ノ領分チ割取テ梁ノ領分チ益々廣クシ、楚ノ國チ缺キ取ツテ秦王ノ意ニ叶フチ計ル、之ヲ醫ヘナハ秦ニ攻メラル、災禍ヲ楚ニ遺ツテ國家チ安堵スルカ如シ、此レノ妙策ナリ、大王カ若シ此妙策ヲ聽キ用ヘサレハ、秦王ハ怒リ甲冑ノ士卒チ繰出シテ東ニ向テ梁ヲ征伐スルニ相違無シ、其時ニナリ雖ヘ秦ノ屬國爲ルチ願フモ叶ハヌナリ、且

夫從人多奮辭而少可信。說一諸侯而成封侯。是故天下

之游談士莫不日夜搯腕瞋目切齒以言從之便以說人主。

人主賢其辨而牽其說。豈得無眩哉。且夫合從主張スル人ハ奮怒

可キ事ハ少キモ、一大名チ説キ伏セレハ封セラレテ大名ト成ル事カ出来ルナリ、是ノ故チ以テ天下中ノ游説ノ士ハ夜日盡モ腕マクシ目チ怒ラシ口カラ泡チ吹キ偉語權審シテ合從ノ便利ナル事チ言ヒ立テ、人君國主チ游説スル事チ務メヌ者無シ、刈ルカ故ニ、臣聞之積

羽沉舟。群輕折軸。衆口鑠金。積毀銷骨。故願大王審

定計議。且賜骸骨。辟魏。臣カ聞キシ格言ニ澤山ニ積メル羽毛ハ小舟チ水

ハ車ノ軸チ折ルニ至リ、衆人ノ口カラ吐出ス熱キ息ハ金チ溶カスニ至リ、衆ノ積モル諸リハ骨肉ノ親ミチ無クスルニ至ルト云フカ如ク、合從チ主張スル衆多ノ士カ積ニ臣ノ事チ大王ニ

俟而ノ而ハ則ト同シ、搯ハ袖チ卷クリ上ルナリ、瞋ハイカラシ、切齒ハ齒カミスルナリ、辨ハ舊本辨ニ作ル、是レ誤書ナリ、今改ム、眩ハ迷ノ如シ、  
〔文〕合從チ主張スル者チ辨服ス、  
縹ハトカス、毀ハ毀ノ古字、銷ハ消スナリ、辟ハ避ノ古字、  
〔文〕此小節ハ説

ヲ避ルカ爲メ退去チ乞フ事チ叙ス、  
倍ハソムキト訓ミ、背ト同シ、

〔文〕此節ハ魏王カ竟ニ秦ニ屈事スル事チ叙ス、

〔文〕此一節ハ下文ノ爲メニ先ツ案チ提ク、  
虛ハアケト訓ミ、空ニズルナリ、館ハヤトラシト訓ミ、動詞ナリ、僻陋ノ國ハ僻ル辭ナリ、數ハ令ノ如シ、箕ハ箕チ數弁スルナリ、箝ハ箝チ以テ塵チ拂フナリ、妾ハ侍婢ナリ、

設スレハ、臣ノ身ハ實ニ危シ、故ニ大王カ詳ニ計ハ設儀一定メテ運籌策ヲ贊成スル事チ願ヒ、且ツ又御暇マテ願フナリ、臣請フ魏チ避ケ讓テ免カレン、  
哀王於

是乃倍從約而因儀請成於秦。張儀歸復相秦。三歲而魏

復背秦爲從。秦攻魏取曲沃。明年魏復事秦。張儀カ或ハ勸メ

上文ノ如シ、哀王是ニ於テ漸ク水知シ乃チ合從ノ約束ニ背キテ儀ニ依頼シ和親チ秦王ニ請願ス、張儀乃チ秦ニ歸リ再ヒ秦ノ宰相ト爲ル、三年ノ後魏ハ秦ニ背キ合從ノ約チ爲ス、秦乃チ魏チ攻メ曲沃チ拔キ取ル、哀王恐レ、明年ニ至リ魏再ヒ屬國ト爲リ秦王ニ事フ、○

〔文〕以上ノ一段ハ、儀カ多年ノ辛苦チ以テ魏王チ説伏ヒ、以テ運籌ノ基チ成ス事チ叙ス、

秦欲伐齊。齊楚從親。於是張儀往相楚。秦王將ニ齊チ征伐セント

判ナ聞キ恐レテ合從和親チ爲ス、是ニ於テ張儀往テ楚ノ宰相ト爲ラントス、楚懷王聞張儀來。虛上舍而自

館之曰。此僻陋之國。子何以教之。儀說楚王曰。大王

誠能聽臣閉關絕約於齊。臣請獻商於之地六百里。使秦

女得爲大王箕帚之妾。秦楚娶婦嫁女。長爲兄弟之國。

此北弱齊而西益秦也。計無便此者。楚王大說而許之。楚



此レ離リ育フ  
〔文〕此節ハ儀カ  
一説シテ懷王ヲ  
説落シタル事ヲ  
叙ス、

申之ハ喪ヲ問フノ  
禮ヲ行フナリ、釋  
シ不吉ト爲スト云  
フ可シ、

〔文〕此小節ハ先  
ツ其論ノ端ヲ發  
ス、

懷王乃チ秦ノ宰相張儀カ來ルト聞キ、上等ノ客命ノ物ヲ片附ケサセテ空ニシテ自分ト出迎ヒ  
夫ノ上舍ニ宿ラセテ曰、楚ハ此レ邊僻卑陋ノ國、故ニ命合スルニ足ラズ、而ルニ吾子今來リ  
何等ノ事ヲ以テ楚ニ命合スルソト、張儀イキナリ楚王ニ説シ曰、大王誠ニ能ク臣カ言フ説ヲ  
聽用ヒ北方ノ關門ヲ閉テ合從ノ約束ヲ齊ニ斷テ切ルナラハ、臣請フ秦領ノ商於ノ土地六百萬  
里ヲ献上致シ、秦ノ國ニ生レタル婦女ヲシテ大王ノ寵數ヲ掃除スル侍婢爲ラシメン、且將來  
ハ秦人ト楚人カ女房ヲ娶リタリ處女ヲ嫁ニ遣ツタリシ、長ク兄弟ノ國ト爲ルヲ請フ、此レソ  
北方ニ於テハ齊ノ國ヲ衰弱セシメテ西ノ方ニ於テ秦ノ勢ヒ増スノ策ナリ、今日ノ  
計略ハ是レヨリ便利ナル無シト、楚王早吞ミ込ミニ大ニ喜テ儀ノ説ヲ聽用ルヲ許ス、

臣皆賀、陳軫獨弔之、楚王怒曰、寡人不與師發兵得六

百里地、群臣皆賀、子獨弔何也、陳軫對曰不然、以臣

觀之、商於之地不可得而齊秦合、齊秦合、則患必至矣、

是ニ於テ群臣ハ皆賀儀ヲ述ヘタルニ、陳軫一人計リハ之ヲ不吉トス、楚王因テ怒リ曰、寡人  
ハ軍勢ヲ募リ興サス又軍ヲ繰出サスシテ烏渡ノ間ニ廣大ナル六百萬方里ノ領地ヲ得タリ、因テ  
群臣ハ皆賀儀ヲ述ルニ、吾子獨リノ不吉トスルハ何ノ故ソヤ、陳軫之ニ答テ曰否、臣ヲ以  
テ儀ノ遊説ヲ觀ルニ、此レ僞リノミ、故ニ商於ノ地ハ手ニ入レル事ノ出來サル前ニ齊ト秦ハ  
早く合休スルニ相違無シ、齊ト秦ト合休スレ  
ハ、則チ楚ヲ攻撃スルノ禍患カ急度來ルナリ、

楚王曰有説乎、陳軫對曰  
夫秦之所以重楚者、以其有齊也、今閉關絕約於齊則

楚孤、秦奚貪夫孤國而與之商於之地六百里、張儀至秦

必負王、是北絕齊交、西生患於秦也、而兩國之兵必俱至、

善爲王計者、不若陰合而陽絕於齊、使人隨張儀、苟與

吾地、絕齊未晚也、不與吾地、陰合謀計也、楚王曰願

陳子閉口、毋復言、以待寡人得地、乃以相印授張儀、厚

賂之、

楚王乃チ詰リ曰夫レニハ別ニ説有リ乎、陳軫答テ曰有リ、夫レ秦カ楚ヲ重シシ憚ル  
所以ノ理由ハ、ソハ乃チ楚ニハ齊ノ後援有ルヲ以テノ故ナリ、今然ルニ關門ヲ閉サ  
シ合從ノ約束ヲ齊ニ斷絶スル時ハ楚ハ孤立ノ國ナリ、然レハ秦何ソ夫ノ孤立ノ國ヲ食リ取ラ  
ントシテ楚ニ商於ノ地六百里ヲ與ヘンヤ、張儀カ歸リ秦ニ到答スルノ日ニハ急度大王トノ約  
ニ背クナラン、左スレハ是レ北ニ於テハ齊ノ交際ヲ斷絶シテ西ニ於テ患禍ヲ生スルト云  
者ナリ、而シテ秦齊兩國ノ軍兵カ推寄セルノ患禍カ急度一時ニ至ルナリ、故ニ今善ク大王ノ  
爲メニ計策ヲ運ラスナラハ、裏面ニ於テハ齊ト合休シテ表面ニ於テハ齊ト絶交スルニ宜シ、  
而シテ人ヲシテ張儀ニ隨ヒ行カシメ、張儀カ誠ニ吾ニ六百里ノ地ヲ授ケ與フル上ニ、齊ニ絶  
交スルモ未ダ遅カラサルナリ、若シ吾ニ地ヲ與ヘサル時ハ、乃チ陰ニ齊ニ合休シタル謀計カ  
全ク必要ヲ現ハスナリト、楚王是ニ於テ曰寡人ハ陳子カ口ヲ閉ルヲ願フ、故ニ再ヒ彼是レ言  
フ勿レ、以テ寡人ノ六百里ノ領地ヲ得ルヲ待テト、乃チ楚ノ  
宰相爲ルノ制印ヲ以テ張儀ニ授ケ與ヘテ手厚ク賂賂ヲ爲ス、

於是遂閉關絕約

〔文〕此節ハ楚王  
カ陳軫ノ諫メチ  
聽カスシテ、張  
儀ヲ以テ楚ノ  
相ト爲シタル事  
ヲ叙ス、

秦奚貪夫孤國而與  
之商於之地六百里  
ハ、秦不貪夫孤國  
而不與之商於之地  
六百里也ノ反語、  
陰ハヒソカ、陽ハ  
アラハト訓ム、  
晚ハチソシト訓  
ム、  
宰相ノ印ヲ授ル者  
ハ、後來再ヒ來ル  
ノ日ニ楚ノ宰相爲  
ルノ證ト爲スナ  
リ、



儀以ハハオモフ  
ト訓ミ、儀以爲ノ  
略ナリ、  
詳ハ儀リナリ、  
綏ハ車ニ附ケタル  
索ナリ、障ハオツ  
ト訓ミ、落ナルナ  
リ、折節ハ風節  
ト同シ、下秦ハ一  
目置テ秦ト交ルチ  
言フ、降參ニ非ラ  
ス、朝ハ出勤スル  
ナリ、動詞ナリ、

於齊。使一將軍隨張儀。張儀至秦。詳失綏墮車。不朝。  
三月。楚王聞之曰。儀以寡人絕齊未甚邪。乃使勇士至  
宋借宋之符北罵齊王。齊王大怒折節而下秦。秦齊之交  
合。張儀乃朝。謂楚使者曰。臣有奉邑六里。願以獻大  
王左右。楚使者曰。臣受命於王以商於之地六百里。不  
聞六里。還報楚王。楚王大怒。發兵而攻秦。  
二在ル所ノ關門ノ月ヲ閉チ合從ノ約ヲ齊ニ絶ツノ意ヲ示シ、一人ノ將軍ヲシテ張儀ニ隨ヒ行  
カシメタリ、張儀カ歸リ秦ニ至ラントスルヤ、儀リテ車ノ索カ切レタル真似ヲ爲シテ車カラ  
落チ、儀ヲ受ケシト云闊ラシ秦ノ朝廷ニ出勤セサル事三箇月ノ間ナリ、楚王其事ヲ聞キ、儀  
ハ關ヲ閉チ齊ト絶交セシ事ヲ以テ寡人カ齊ト絶交スル未タ甚シクアラスト爲ス乎ト曰テ、乃  
チ勇士ニ宋ノ國ニ至リ宋ノ關門ヲ出ル制符ヲ借リ北ノ方宋ト齊ノ國界ニ出テ往キ大聲ヲ發シ  
テ齊王ノ短所ヲ辱テ罵フシメケレハ、齊王ハ之ヲ聞テ大ニ怒リ節ヲ屈シ一日置テ秦ト和親ヲ  
結ヒタルカ故ニ、秦ト齊トノ國際ハ合体スルニ至リタリ、張儀是ニ於テヤ乃チ朝廷ニ出勤シ、  
楚ノ使者ナル將軍ニ謂テ曰、臣ニ會テ秦王カラ奉賜ノ邑ノ方六里ナル有リ、夫ヲ以テ楚ノ  
大王ノ左右ニ献上スルヲ願フト、楚ノ使者之ニ言テ曰、臣ハ命令ヲ楚王ヨリ受ルニ商於ノ地  
六百里ヲ受取ル事ヲ以テシ、決シテ六里ナルヲ聞カスト、急キ還リ儀カ欺キシ事ヲ楚王ニ報

殺ハヒラクト訓  
ミ、開ト同シ、  
償ハツクナヒト訓  
ム、乃チ其代リノ  
物ナリ、  
卒ハ卒然ナリ、ニ  
ハカニト訓ム、

平ハタイラクト訓  
ミ、和親スル事ナ  
リ、  
〔文〕此節ハ軫ノ  
諫メテ聽カサル  
ノ故ヲ以テ、竟  
ニ大敗シ領地ヲ  
失フニ至リタル  
事ヲ叙ス、

要ハモトメト訓  
ミ、求ト同シ、

陳軫曰。軫可發口言乎。攻之不如此  
割地以賂秦與之并兵攻齊。是我出地於秦取償於齊也。  
王國尙可存。楚王不聽卒發兵。而使將軍屈匄擊秦。秦  
齊共攻楚。斬首八萬。殺屈匄。遂取丹陽漢中之地。楚  
又復發兵而襲秦。至藍田大戰。楚大敗。於是楚割兩城  
以與秦平。  
シケレハ、楚王大ニ怒リ、軍  
兵ヲ操出シテ秦ヲ攻メントス、 陳軫曰。 軫可發口言乎。 攻之不如此  
割地以賂秦與之并兵攻齊。 是我出地於秦取償於齊也。  
王國尙可存。 楚王不聽卒發兵。 而使將軍屈匄擊秦。 秦  
齊共攻楚。 斬首八萬。 殺屈匄。 遂取丹陽漢中之地。 楚  
又復發兵而襲秦。 至藍田大戰。 楚大敗。 於是楚割兩城  
以與秦平。  
因テ交リチ結ヒ秦ト軍兵ヲ合井シテ齊ヲ攻メ伐ツニ宜シ、 斯クスレハ領地ヲ秦ニ賄賂ニ出ス  
モ其代ハリニ領地ヲ齊ヨリ攻取ル事カ出來ルナリ、 左スレハ大王ノ國ハ幸ヒニ天下ニ存在ス  
可シト、 楚王怒テ其諫ヲ聽カス俄カニ軍兵ヲ徵發シ、 斯クシテ將軍屈匄ニ命シ秦ヲ襲シメタ  
ルニ、 秦ト齊ハ共々楚ヲ攻伐ナリ 首ヲ切ルハ萬級 且ツ將軍屈匄ヲ殺シ、 遂ニ楚領ノ丹陽ト  
漢中ノ地ヲ攻取レリ、 楚王ハ怒リ益々熱クナリ軍兵ヲ徵發シテ秦軍ノ歸路ヲ襲ヒ、 追ヒ往キ  
藍田ニ至リ大ニ戰ヒ、 楚軍又大敗ス、 是ニ於テ楚王ハ據所無ク兩城ノ土地ヲ割テ秦王ニ與ヘ  
以テ和親ヲ爲ス、 ○〔文〕以上ノ小段ハ上ノ爲文機告楚云々ノ伏案ニ應シ、 儀ノ謀略 能ク齊  
楚ノ交ヲ敗リ以テ秦齊ノ交ヲ爲シ、 以テ大ニ楚ヲ苦シメ、 以テ前ノ讎ヲ報シタル事ヲ叙ス、

秦要楚欲得黔中地。欲以武關外易之。楚王曰不願易



易ハ取り替ヘルナリ、  
頁ハ背ナリ、

甘心ハ俗ノ所云ハ  
ライセチスルト云  
フ如シ、

奉ハ受ナリ、  
節ハ命ノ如シ、

假令ハタトヘト訓  
ミ、假リ設ケ云フ  
辭、雖ニ似テ、大  
ニ異レリ、

〔文〕此節ハ楚王  
チ欺ケカ爲メ  
ニ、張儀復舊テ  
楚ニ往ク事ヲ叙  
ス、

至則楚懷王ノ五字  
ヲ、舊本ニハ楚懷  
王至則ニ作ル、是  
レ書寫ノ誤リノ

地 願得張儀而獻黔中之地。秦王欲遣之。口弗忍言。

張儀乃請行。惠王曰。彼楚王怒子之負以商於之地。是

且甘心於子。張儀曰。秦彊楚弱。臣善靳尚。尙得事楚。夫

人鄭袖。袖所言皆從。且臣奉王之節使楚。楚何敢加誅。

假令誅臣。而爲秦得黔中之地。臣之上願。遂使楚。

後黔中ノ土地ヲ得ル事ヲ欲シ望ムカラシテ、武關ノ外ニ在ル商於ノ地ヲ以テ之ニ取リ替フ事  
ヲ請求ス、楚王其要求ニ答ヘテ爲シ曰。寡人ハ地ヲ交易スルヲ願ハス、夫ノ張儀ノ奴ヲ得テ以

テ黔中ノ地ヲ献上スルヲ願フト、秦王因テ儀ヲ楚ニ遣ラント欲スレトモ、口カラ其事ヲ言ヒ  
出スニ忍ヒサリシニ、張儀ハ之ヲ聞テ乃チ楚ニ行クヲ請ヒ願フ、惠王是ニ於テ曰。彼ノ楚王  
ハ晋子カ約ニ背クヲ怒ルニ商於ノ地ヲ以テスルカラニハ、是レ將ニ晋子ヲ得テ腹イセサ  
ントスルナリト、張儀曰。否々。秦ハ強クシテ楚ハ弱シ、且臣儀本ト楚ノ御醫ノ座拂ヒナル靳尚

ニ心安シ、而シテ靳尚ノ奴ハ楚ノ夫人鄭袖ニ事ヘテ、鄭袖ガ言フ事ハ楚王カ皆シテ從フナリ、  
且臣乃チ秦王ノ命ヲ受テ楚ニ使者ニ往ケハ、楚何ソ敢テ誅戮ヲ加ヘンヤ、假リニ臣ヲ誅ス  
トスルモ、而モ臣カ一身ヲ以テ秦ノ爲メニ黔中ノ地  
ヲ得ルハ、臣カ最上ノ願ヒナリト、遂ニ楚ニ往ク、

至 則楚懷王囚張儀  
將殺之。靳尚謂鄭袖曰。子亦知子之賤於王乎。鄭袖曰。

何也。靳尚曰。秦王甚愛張儀而不欲出之。今將以土庸之

地六縣賂楚以美人。聘楚以宮中善歌謠者爲媵。楚王重地

尊秦。秦女必貴。而夫人斥矣。不若爲言而出之。

レハ、則チ楚ノ懷王ハ直ニ張儀ヲ捕ラヒ縛リ將ニ殺サントセリ、靳尚乃チ夫人鄭袖ニ謂テ、  
夫人モ亦後來夫人ノ楚王ニ服シマル、ニ至ル事ヲ知リ玉フ乎ト曰ヘハ、鄭袖曠キ問テ夫ハ何  
如ソヤト曰フ、靳尚是ニ於テ之ヲ欺シ曰。秦王ハ甚メ張儀ヲ愛スルカ故ニ儀ヲ領國ノ外ニ出ス  
ヲ欲セサリシニ、儀カ好テ強テ出テ來テ今日ノ場合ニ落人リシニ就テハ、張儀ヲ救ヒ出スカ

爲メニ、今將ニ賂賂トシテ上庸ノ土地六縣ヲ以テ楚王ニ献上シ美人ヲ以テ楚王ニ嫁入ラセ歌  
ヲ謠フノ上手ナル者ヲ以テ美人ノ御腰元ト爲サントスルナリ、果シテ然ラハ、楚王ハ六縣ノ  
地ヲ賈ラヒ受ルノ恩ヲ重シトシ秦王ヲ尊フ日トナラハ、秦ヨリ來リシ美女ハ急度身分カ貴ク  
ナリ、因テ夫人ハ擯斥セラル、ナリ、刈ルカ故ニ爲メニ王ニ勸メテ張儀ヲ出シテヤルニ宜

シ 於是鄭袖日夜言懷王曰。人臣各爲其主用。今地未

入秦。秦使張儀來至。重王。王未有禮而殺張儀。秦必

大怒攻楚。妾請子母俱遷江南。毋爲秦所魚肉也。懷王

後悔赦張儀。厚禮之如故。

是ニ於テ鄭袖ハ朝ト無ク晚ト無ク懷王ニ言テ曰、  
人臣爲ル者カ銘々ニ其主君ノ川件ヲ務メテ、

ミ、今之ヲ改ム、  
二ノ子ハアナタト  
訓ム、  
聘ハヨメイラスト  
媵ハ和名コシモ  
ト、  
斥ハシリソケラル  
ト訓ム、

用ハ務ノ如シ、

選ハカツルト訓  
ム、

〔文〕此小節ハ儀  
カ放チ赦サレタ



ル事ヲ叙ス、  
以上ノ一小段ハ  
斬倚ニ略ヒシ  
テ、再ヒ巧ミニ  
懷王ヲ欺キシ事  
ヲ叙ス、

丘ハ小高キ山ナ  
リ、  
折ハクククト則  
ミ、折リ挫クナ  
リ、  
上ノ天下ハ山東大  
名ヲ指ス、

身命ヲ願ミサルハ、則チ其職分ナリ、今然ルニ黔中ノ地方秦王ノ手ニ未ダ入ラサルニ、秦王  
カ張儀ヲシテ楚ニ來リ到着セシメタルハ、是レ大王ヲ重ニスルナリ、而ルニ大王未ダ禮謝ス  
ル事モ有ラスシテ張儀ヲ殺シナハ、秦王急度大ニ怒チ發シ楚ヲ攻メルナル可シ、妾因テ子母  
俱ニ江南地方ニ引移リ謀ヲ進ルチ請願スルナリ、秦軍ノ爲メニ魚ノ肉ノ如ク切ラル、事無キ  
機ニ致シタケレハナリト、懷王楚ニ至リ後悔シ張儀ヲ殺シ放チ、禮ヲ以テ厚ク取扱フ事前ノ如シ、  
張儀既出未去、聞蘇秦

死、乃說楚王曰、秦地半天下、兵敵四國、被險帶河、

四塞以爲固、虎賁之士百餘萬、車千乘、騎萬匹、積粟

如丘山、法令既明、士卒安難樂死、王明以嚴、將智以

武、雖無出甲席卷常山之險必折天下之脊、天下有後服

者先亡、  
張儀既ニ楚王ノ御殿ヲ出テ、未ダ楚ノ領地ヲ去ラサル時ニ、合從ノ約長ナル蘇  
秦カ死セシ評判ヲ聞キ、乃チ歸リ來リ楚王ニ說シ曰、秦ハ其領地カ天下ノ半分

ニ廣カリ、軍兵ハ四箇國ニ敵スルニ足リ、後ニ險阻ヲ負ヒ前ニ大河有リ、四方カ塞カリ以テ  
要害堅固ト爲シ、虎賁隊ト名ケル兵士ノ員數ハ百餘萬人有リ、戰車カ千輛、騎馬カ千匹、積  
粟子タル米粟ハ恰モ丘岡ノ如シ、法律條令ハ既ニ明白ニシ、士卒ハ合戰ノ困難ニ安  
シテ戰死スル事ヲ樂シミ、主君ハ公明ニシ以テ事ニ處スル殿重ナリ、大將ハ智慮深クシ以テ  
勇武ナリ、故ニ秦國ノ勢ヒヤ、雖ヘ甲冑ノ士ヲ繰出ス事無キモ既ニ常山ノ險阻ヲ筵席チクル  
ト卷クカ如クニ推シ通ツテ急度山東大名ノ脊骨ヲ折ルニ足レリ、故ニ天下中ニ於テ後ニ

降服スル者カ有レ  
ハ先ツ滅亡スル也、  
且夫爲從者、無以異於驅群羊而攻猛虎、  
虎之與羊、不格明矣、今王不與猛虎而與群羊、臣竊以  
爲大王之計過也、  
且夫ノ合從ノ約束ヲ爲ス山東大名カ、秦ヲ攻伐ントスルハ、譬  
ト羊トハ、抗敵セサルノ理ハ明白ナリ、今然ルニ楚王ハ猛虎ノ秦ニ同盟一致セズ  
テ群羊ノ山東大名ニ同盟一致ス、故ニ臣内々心ニ思フニ大王ノ計略ハ間違ヒナリト、  
凡

天下疆國、非秦而楚、非楚而秦、兩國交爭、其勢不兩  
立、大王不與秦、秦下甲據宜陽、韓之上地不通、下河  
東取成皇、韓必入臣、梁則從風而動、秦攻楚之西、韓  
梁攻其北、社稷安得毋危、  
凡ソ天下中ニ於テ疆キ國ト云フ可キハ、秦テナ  
ケレハ楚、楚テナケレハ秦ナリ、故ニ秦楚ノ兩

國カ互ニ争ヒ攻メ合ヘハ、其勢ヒ兩國ハ天下ニ双ラヒ立ツテ得ス、今大王カ秦ニ同盟セサル  
時ハ、秦ハ甲冑ノ士ヲ繰出シ宜陽ニ陣取レハ、韓ノ上ノ地方ハ路カ塞カリ、秦軍カ河東ヨリ  
攻メ下リ成皇ヲ拔取レハ、韓王ハ急度降參シ秦ニ入り來リ臣屬スルナラン、左スレハ梁ハ其  
風潮ニツレテ動搖ス可シ、秦軍カ楚ノ西方ヲ攻伐チ、韓兵ト梁軍カ楚ノ北方ヲ攻メルナラハ、  
楚ノ社稷國家ハ危  
キ無キヲ得サルナリ、  
且夫從者、聚群弱而攻至疆、不料敵而

料ハハカルナリ、  
衆ハ集ナリ、  
安得毋危ハ不得無  
危也ノ反語、

格ハハリアフト割  
ミ、抗ナリ、  
〔文〕此節ハ先ツ  
秦ノ強大ヲ誇  
言シ、次ニ楚王  
カ合從ノ黨ニ入  
ルノ非ヲ言フ、  
二ノ面ハ則ト同  
シ、交ハタカヒニ  
ト則ム、互ト同  
シ、  
與ハクミスト割  
ミ、黨スルナリ、  
社稷ハ國家ノ如  
シ、毋ハ無也、  
衆ハ集ナリ、  
料ハハカルナリ、



挑ハシカケルト訓  
辨ハ替本ニ辯ニ作  
ル、非、

〔文〕此節ハ先ツ  
楚ノ危ヲ言ヒ、  
次ニ合従家ヲ信  
ス可カラサルヲ  
言フ、

一雙ノ舟ヲ繋キ合  
セテ一雙ノ如クシ  
用ユ、之ヲ呼テ舫  
船ト曰フ、  
拒ハイタルト訓  
ミ、到ナリ、

輕戰。國貧而數舉兵。危亡之術也。臣聞之兵不如者勿  
與挑戰。粟不如者勿與持久。夫從人飾辨虛辭高主之節  
言其利不言其害。卒有秦禍。無及爲已。是故願大王

之孰計之。且夫ノ山東大名ノ合従ト云フ者ハ、群多ノ弱キ國チ一ツニ集メテ至テ強キ  
秦チ攻ルノ策ナリ、而シテ敵ノ如何チ料ラヌシテ輕々シク戰ヒ、國カ貧乏

ニシテ數々軍兵ヲ起スハ、則チ國チ危クシ滅亡スルノ法ナリ、臣カ兵法ヲ學ヒ聞キシニ兵卒  
ノ員數カ及ハサル者ハ共々ニ合戰チ仕掛ル勿レ、兵根ノ米粟カ及ハサル者ハ共々ニ籠城シテ  
久シキ日數ヲ持テ堪ヘル勿レト、夫ノ合従チ主張スル人ハ飾リ立ル辨ナ虚ナ辭チ吐キ主  
君ノ節義チ高ク褒メ立テ、利益ノ有ル事ノミ言テ其害チ言ハス、竟ニ秦ニ攻メラル、禍ノ起  
ル有ルモ、如何トモスル無クシテ止ムナ  
リ、此故ニ願フ大王カ此事チ熟考スルナ

秦西有巴蜀。大船積粟起於  
汶山浮江以下。至楚三千餘里。舫船載卒。一舫載五十  
人與三月之食。下水而浮。一日行三百餘里。里數雖多  
然而不費牛馬之力。不至十日而拒扞關。扞關驚。則從  
境以東盡城守矣。黔中巫郡非王之有。秦舉甲出武關南

面而伐。則北地絕。秦兵之攻楚也危難在三月之內。而  
楚待諸侯之救在平歲之外。此其勢不相及也。夫待弱國  
之救。忘疆秦之禍。此臣所以爲大王患也。秦ハ山國ナルモ西ニ  
巴ト蜀ヲ領有スルノ

〔文〕此節ハ楚カ  
秦ニ攻メラル、  
時ニ當テハ、諸  
侯ノ救兵ハ恃ム  
ニ足ラサルヲ言  
フ、

新城ハ城ノ名、  
執拗ニ守ルチ固守  
ト云フ、  
敵ハツカル、ト訓

大王嘗與吳人戰。五戰而三勝。陣卒盡  
矣。偏守新城存民苦矣。臣聞功大者易危。而民敵者怨  
上。夫守易危之功。而逆疆秦之心。臣竊爲大王危之。大  
王嘗與吳人戰。五戰而三勝。陣卒盡  
矣。偏守新城存民苦矣。臣聞功大者易危。而民敵者怨  
上。夫守易危之功。而逆疆秦之心。臣竊爲大王危之。大



△、疲弊ノ弊ナリ、  
 △、操難ハ操怨ト云フカ如シ、  
 列侯ハ多クノ大名ナリ、而シテ是ハ楚王ヨリ封土ヲ受ル者ヲ指ス、  
 封土ヲ受ル者ハ其証トシテ珪ヲ受ク、乃チ我族下ノ類、  
 【文】此節ハ、殆ソ楚カ秦ノ反對ニ立ツノ危キヲ言

ハ以前吳人ト合戰シ、五度ノ合戰ニシテ三度勝チタルハ善ケレトモ、陣中ノ兵卒ハ是カ爲メニ死ニ盡セリ、守リテモ無益ナル新城ヲ剛情ニ守リテ人民ノ苦シミヲ殘シタリ、臣カ聞キ及ヒタルニ夫ノ三度勝チシ如キ功ノ大ナル者ハ危キ事カ起リ易ク、而シテ夫ノ人民ノ苦シミヲ殘シタルカ如キ人民ノ疲弊スル者ハ君上ヲ怨ムト、夫レ大王ハ内ニ君上ヲ怨ム所ノ疲弊ノ人民有リ、危キ事カ起リ易キ三勝ノ戰功ヲ恃ミ、而シテ強キ秦王ノ心ニ逆カフ、故ニ臣内々大王ノ爲メニ之ヲ危フムナリ、  
 且夫秦之所以不出兵函谷十五年以攻齊趙者、陰有合天下之心。楚嘗與秦構難戰於漢中。楚人不勝。列侯執珪死者七十餘人。遂亡漢中。楚王大怒興兵襲秦戰於藍田。此所謂兩虎相搏者也。秦楚相敵。而韓魏以全制其後。計無危於此者矣。  
 願大王孰計之。  
 且夫秦王カ軍兵ヲ函谷關ノ外ニ操出シ十五年ノ久キ故テ以テ齊趙ヲ攻伐タサ、リシ所以ノ理由ハ、内々天下乃チ支那四百餘州ヲ合ハセ一統スルノ心有ルカラナリ、楚王カ以前秦ト怨ミテ結ヒ漢中ニ於テ合戰シ、楚ノ部下ノ大名及ヒ珪ヲ執ル貴キ身分ニシテ戰死スル者カ七十餘人、遂ニ漢中ノ地ヲ失ヒシニ依テ、楚王ハ大ニ忿怒シ兵卒ヲ募リ興シ秦兵ノ歸路ヲ襲ヒ伐チ藍田ニ於テ戰フタルハ、此レソ俗ニ申ス兩虎ノ戰ト云フ者ナリ、夫レ兩虎ノ戰ヒノ故ヲ以テ、秦ト楚カ互ニ疲弊シ、而シテ韓ト魏カ全キ勢ヒナリ以テ其疲弊ノ後ヲ制服スレ者ナラハ、其勢ヒ屈服セザルヲ得ス、故ニ計略ハ此ノ兩虎ノ戰ヒヨリ危キハ無シ、故ニ願フ大王カ此理ヲ篤ト考ルチ、  
 秦

ヒ、次ニ兩雄相攻ルノ非ヲ言フ、  
 △、匈ハ和名△、匈ノ古字、  
 【文】此節ハ秦楚連衡ノ利ヲ言フ、  
 索隱ニ曰、戰國ノ時二十二諸侯有リ、宋魯鄭莒ノ類、  
 詳ハ傳ナリ、覺ハアラハルト訓ミ、發覺ノ覺ナリ、經營ハ作ルナリ、混一ハ一統ノ如シ、  
 【文】此節ハ合從策ノ信スルニ足ラサルヲ言フ、

下甲攻衛陽晉。必大關天下之匈。大王悉起兵以攻宋。不至數月而宋可舉。舉宋而東指。則泗上十二諸侯盡王之有也。  
 請フ少シク秦楚連衡ノ利ヲ言フ、夫レ衛ノ陽晉ハ三晋ヲ齊楚ノ必用ノ通路ナリ、因テ秦王カ甲冑ノ士ヲ操出シ衛ノ陽晉ヲ攻ムルナラハ、急度大ニ山東大名ノ胸ニ關門ヲ閉ルカ如ク塞キ止メ、山東大名ヲ苦ルニ相違無シ、因テ楚ノ大王ハ悉ク軍兵ヲ募リ起シ以テ宋ヲ攻ルナラハ、數月ヲ出テ宋ハ拔キ取ル可シ、既ニ宋ヲ拔取テ大王勝チ誇ツタル軍兵ヲ引率シテ東ヲ指シ進ミ伐ツ者ナラハ、則チ泗水ノ邊ニ散在スル十二個ノ大名ハ皆大王ノ領有地トナルナリ、  
 凡天下。而以信約從親相堅者蘇秦。封武安君相燕。即陰與燕王謀伐破齊而分其地。乃詳有罪出走入齊。齊王因受而相之。居二年而覺。齊王大怒車裂蘇秦於市。夫以一詐僞之蘇秦而欲經營天下混一諸侯。其不可成亦明矣。  
 サテ天下ハ廣大ナリ難キハ、勢ヒナリ、而ルニ信ヲ立テ約ヲ結ヒ合從和親ヲ以テ團結ヲ互ニ堅メタル者ハ蘇秦ニシ、武安君ニ封セラレテ燕ノ政府ニ宰相トナリ、却テ内々燕王ト謀リ齊ノ國ヲ伐破ツテ其地ヲ分領セントシ、乃チ僞リ罪ヲ燕王ヨリ受ル有リト云ヒ胸ヲ出奔シ齊ノ國ニ逃ケ入りクレハ、齊王因テ其欺キヲ受テ蘇秦ヲ宰相トセシニ、宰相ノ職ニ居ル二年ヲ經テ陰謀現ハレ



境壤界ハサカヒト  
則ミ、界ノ復語、  
當時ノ大名湯沐ノ  
爲メニ大金ヲ費  
ス、故ニ土地人民  
ヲ以テ其費ニ填ル  
ニ至ル、  
効ハ致ナリ、傲ノ  
古字、

〔文〕此節ハ秦ト  
楚ノ合体ヲ上策  
ト爲スナ言フ、

重ハ惜ムナリ、憚  
ト爲スモ亦通ス、

燕ハニコロスト則  
ム、

得黔中ハ、與ヘス  
シテ止ムヲ云フ、

タリ、齊王乃チ大ニ怒リ蘇秦ヲ市町ニ於テ車裂キニセリ、夫レ一人ノ詐僞師ノ蘇秦ヲ以テ  
廣大ナル天下ヲ組合セテ諸大名ヲ一統セント欲スル、其合從策ノ成就セサルヤ明カナリ、

今秦與楚接境壤界。固形親之國也。大王誠能聽臣。

臣請使秦太子入質於楚。楚太子入質於秦。請以秦女爲

大王箕帚之妾。効萬室之都以爲湯沐之邑。長爲昆弟之

國。終身無相攻伐。臣以爲計無便於此者。

上ヨリ視ルモ互ニ相親シミ交ハル可キノ國ナリ、故ニ誠ニ能ク臣カ主張スル連衡策ヲ聽キ入  
ルレハ、臣請フ秦ノ太子ヲ楚ニ入質タラシメン、因テ請フ楚ノ太子ヲ秦ニ入質ト爲スナ、臣  
又請フ秦ノ美女ヲ以テ大王ノ御室ヲ掃除セシムル妾ニ獻セン、又請フ萬戶集ル都會ノ地ヲ獻  
シ以テ大王ノ湯沐ノ料ト爲スナ、斯クシテ末長ク兄弟ノ國ト爲リ、身ヲ終ル迄互ニ攻メ合フ

事無ケン、臣カ思フニ今日ノ計  
略ハ此レヨリ便利ナル無シト、  
於是楚王已得張儀而重出黔中之地

與秦。欲許之。屈原曰。前大王見欺於張儀。張儀至。

臣以爲大王烹之。今縱弗忍殺之。又聽其邪說不可。懷

王曰許儀而得黔中。美利也。後而倍之不可。卒許張儀

與秦親。是ニ於テ楚王既ニ張儀ノ説ヲ聽クヲ得テ黔中ノ地ヲ出シテ秦ニ獻與スルヲ惜ム  
乃チ張儀ノ連衡ニ組スルノ請ヒテ許サント欲ス、時ニ屈原諫テ曰、以前大

王ハ張儀ニ欺カレタリ、而ルニ張儀再ヒ來ル、臣因テ思フ大王ハ儀ヲ烹殺スナラント、今假  
令ハ儀ヲ殺スニ忍ヒサルモ、又復其邪曲ナル連衡ノ説ヲ聽用ルハ不可ナリト、儀王答テ曰、

儀ノ請ヒテ許シテ黔中ノ地ヲ得ルハ、大利益ナリ、一旦承知シテ後ニ其請ヒニ背クハ不可ナ  
リト、卒ニ張儀ノ請ヒテ許シテ秦ト連衡シ和親ヲ爲ス、○〔文〕以上ノ一段ハ、儀カ楚王ヲ説  
キ伏セ、漸ク連衡ノ仲

問ニ入レタル事ヲ叙ス、  
張儀去楚。因遂之韓。說韓王曰。韓地險  
惡山居。五穀所生。非菽而麥。民之食。大抵飯菽藿羹。

一歲不收。民不饜糟糠。地不過九百里。無一歲之食。

料大王之卒。悉之不過三十萬。而厮徒負養在其中矣。

除守微亭鄣塞。見卒不過二十萬而已矣。

二游說シ曰、韓ノ領地ハ險阻ニシ地味悉シク山住居ナリ、五穀ノ中ニテ生エル所ノ者ハ、豆  
ノ類ニ非ラサレハ麥ナリ、刈ルカ故ニ人民ノ食物ハ、大抵豆ト菽ノ汁ヲ作り飯ニ代フ、若シ

一箇年不作ニシテ取入レセサレハ、人民ハ糟ヤ糠モ腹一杯食ハレメナリ、領地ノ廣サハ九百  
里ニ過キスシテ、二箇年分ノ食物無シ、大王ノ兵卒ヲ計算スルニ、惣勢ヲ悉ク繰出スモ三十  
萬人ニ過キス、而シテ小使ヒヤ傷人ヲ百ヲ看護シタリスル者モ其三十萬ノ  
中ニ在リ、微亭ト鄣塞ヲ守ル十萬ノ兵ヲ除キ去レハ、其現卒ハ二十萬人ノミ、  
秦帶

〔文〕此節ハ韓ノ  
人民兵卒等ノ事

美ハヨキト訓ム、  
倍ハ背ナリ、  
卒ノ上ニ遊本故ノ  
字有リ、是レ衍、  
今之ヲ削ル、  
〔文〕此節ハ楚王  
カ屈原ノ諫ヲ聽  
カス、連衡策ニ  
黨セシ事ヲ叙  
ス、  
飯ハクラフト訓  
ム、而ハ則ナリ、  
菽ハ和名カハミト  
リ、收ハトリイ  
ト訓ム、  
厮徒ハ和名コモ  
ノ、又中間ト云  
フ、  
兵ノ實數ヲ云テ見  
卒若クハ見兵ト云  
フ、



チ音フ、  
 徒跣ハカケマハリ  
 ト訓ム、科ハアラ  
 ハスト訓ム、  
 貫頤ハ半面ヲ頤ニ  
 嵌メコムナル可  
 シ、字書ニ貫ハ穿  
 ナリト、舊註ニ兩  
 手ヲ以テ頤ヲ捧テ  
 敵中ニ入ルト曰  
 フ、怪甚シ、探前  
 ハ前足ヲ風シテ胸  
 ニ至ルヲ音フ、跌  
 ハフミト訓ム、勝  
 ハチトルト訓ム、  
 勝ハ皆ナリ、  
 【文】此節ハ秦軍  
 ノ強盛ヲ誇言  
 ス、

甲百餘萬。車千乘。騎萬匹。虎賁之士。戎兵之衆。徒  
 跣科頭貫頤奮戰者。至不可勝計。秦馬之良。探前跌後。  
 蹄間三尋騰者。不可勝計。  
 秦國ノ如キハ甲冑ヲ皆ル兵卒ノ員數ハ百萬  
 人。戰車ノ數力千乘。騎馬ノ數力萬匹。虎  
 賁隊ノ士。戎狄ヨリ募集スル所ノ兵卒ノ衆多ナル、戰場ヲ走リ廻ハリ兜ヲ被ラズ頭ヲ現ハシ  
 頤ヲ包ミ奮激突戰スル者ノ多キハ、皆々ハ計算ス可カラサルニ至ル、秦ノ馬ノ善良ナルヤ、  
 前足ヲ風シ胸ヲ探ルカ如キ狀ヲ爲シ後足ヲ踏テ立チ上カリ、一足跳ヒ二三尋ノ間數ヲ躍リ越  
 ヘル者ノ多キハ、皆ハ計算ス可カラス。○戎兵之衆ノ一句四字ハ、舊本ニ在テハ秦馬之良ノ  
 句ノ次ニ在リ、是レ錯簡  
 ナリ、故ニ今之ヲ移ス、

山東之士被甲蒙冑以會戰。秦人捐甲  
 徒跣以趨敵。左挈人頭。右挾生虜。夫秦卒與山東之卒  
 猶孟賁與怯夫。以重力相壓猶烏獲之與嬰兒。夫戰孟賁  
 烏獲之士以攻不服之弱國。無異垂千鈞之重於鳥卵之上。  
 以無幸矣。  
 山東大名ノ兵士ハ甲ヲ被リ冑ヲ着テ合戰スルニ、秦ノ人ハ兜ヲ脱キ捨  
 テ徒立チトナリ赤ハタカニテ敵中ニカケ込ミ、左手ヲ以テ切り取ツタ  
 ル人ノ頭ヲ提ケ持チ、右ノ手ヲ以テ生キテ居ル捕子ヲ抱ヘルナリ、夫レ秦ノ兵卒ト山東ノ兵  
 卒トハ譬ヘハ猶辨慶ト臆病者ノ如シ、秦人ノ大勇力ヲ以テ山東ノ人ヲ壓シ附ケルハ猶  
 孟ト鳥ハ古ノ勇

士、嬰兒ハ和名ミ  
 トリゴ、  
 【文】此節ハ山東  
 ノ兵ト秦兵ノ懸  
 隔ヲ甚言ス、  
 比周ハ今ノ徒党ナ  
 リ、  
 註誤ハアヤマラス  
 ノ覆註、  
 【文】此節ハ合從  
 家ノ害ヲ音フ、

苑ハ和名ソノ、又  
 ニハ、  
 毋ハ無ナリ、  
 與秦ハ舊本ニ爲秦  
 ニ作ル、今試ニ之  
 ナ改ム、

加藤清正ト小兒トノ如シ、夫レ辨慶ヤ清正ノ如キ士ヲ戰ハセ夫ヲ以テ不服ノ弱キ國ヲ攻メル  
 ハ、丁度千萬貫ノ重キ石ヲ鷄卵ノ上ニ乗セルニ異ナル無シ、僥倖ノ勝チヲ得ル無キ必然ナリ、  
 夫群臣諸侯不料地之寡。而聽從人之甘言好辭。比周  
 以相飾也。皆奮曰聽善計可以疆霸天下。夫不顧社稷之  
 長利而聽須臾之說。註誤人主。無過此者。  
 夫レ群多ナル臣下ヤ  
 大名共ハ己ノ領地ノ  
 寡ク小ナルヲモ考ヒ料ラス、而シテ合從策ヲ主張スル人ノ甘キ音語ヤ辨察難ク聽テ、徒党シ  
 以テ互ニ合從策ヲ飾リ立テ、音フヤ、皆奮テ奮ヒ吾カ計略ヲ聽用フレハ夫ヲ以テ天下ニ於テ  
 強キ霸王タル可シナト云ヒ立ルナリ、夫レ社稷國家ノ長久ノ利益ヲ顧着セスシテ  
 暫時姑息ノ說ヲ聽ク、人君國主ヲ誤マラシムル計略ハ、是レヨリ甚シキ者無キナリ、

大王不事秦。秦下甲據宜陽斷韓之上地。東取成臯滎陽。則  
 鴻臺之宮桑林之苑。非王之有也。夫塞成臯絕上地。則王  
 之國分矣。先事秦則安。不事秦則危。夫造禍而求其福  
 報。計淺而怨深。逆秦而順楚。雖欲毋亡不可得也。故  
 爲大王計。莫如與秦。  
 大王カ若シ屬國ト爲リ秦王ニ事ヘヌトナラハ、秦ハ甲  
 士ヲ繰出シ宜陽ニ陣取リ韓ノ上方地方ノ路ヲ斷チ切リ



〔文〕此節ハ楚カ  
連衡ニ党セサレ  
ハ、秦カ必ス之  
ヲ攻伐ツヲ旨  
フ、

非爲ハ舊本ニ非以  
ニ作ル、是轉寫ノ  
誤リ、故ニ改ム  
焉、

〔文〕此節ハ秦ニ  
事フルノ利ヲ旨  
フ、

東ノ方成阜ト陽ヲ乘ツ取ル時ハ、則チ鴻塗ニ在ル宮殿ト桑林ノ苑囿トハ大王ノ所有ニ非ラ  
サルナリ、夫レ成阜ノ通路ヲ塞キ上方地方ノ道ヲ斷チ切ル時ハ、則チ大王ノ國ハ二ツニ分ル  
、ナリ、故ニ先ツ秦王ニ事フレバ安堵ナリ、秦王ニ事ヘサレハ國危シ、夫レ自ラ禍ノ種ヲ作  
テ却テ幸福ヲ願ヒ求メ、計略カ淺クシテ深ク人ヲ怨ムハ愚ナリ、秦王ノ意ニ逆フテ楚ニ從ヘ  
ハ、雖ヘ國ノ亡フル無キヲ欲スルモ得可カラサルナリ、故  
ニ大王ノ爲メニ計略ヲ爲セハ、秦ニ同盟スルヨリ益キ無シ、**秦之所欲莫如弱楚**  
**而能弱楚者莫如韓、非爲韓能彊於楚也、**其地勢然也、

今王西面而事秦以攻楚、秦王必喜、夫攻楚以利其地、  
轉禍而說秦、計無便於此者、秦王カ欲シ願フ所ハ楚國ヲ弱クスルニ在  
リ、而シテ楚ヲ弱クスル者ハ韓ヲ第一ト

斯ク云ヘハトテ、韓能ク楚ヨリモ強シト曰フニ非ラサルナリ、其地勢ノ然ラシムルナリ、  
今大王西ニ面テ向テ秦王ニ事ヘ以テ楚ヲ攻ル者ナラハ、秦王ハ急度喜フ、夫レ楚ヲ攻メ以  
テ其弊ヒ取ツタル地ヲ以テ利益ヲ得、秦ニ攻メラルノ禍ヲ  
變シテ秦王ヲ喜ハス、今日ノ計略ハ是レヨリ便利ナル無シ、**韓王聽儀計、張儀**

歸報、秦惠王封儀五邑、號曰武信君、韓王乃チ儀ノ連衡ノ計略ヲ  
聽キ用フ、張儀是ニ於テ歸

使張儀東說齊湣王曰、天下疆國無過齊者、大臣父兄

殷ハ盛ナリ、

朋党比周ハ徒党ノ  
複語、

〔文〕此說ハ輕ク  
齊王ノ計策ノ失  
當ヲ駁ス、

雖ハタトヘト則  
ム、  
亡國ハ滅亡シテ仕  
拜ノ國ナリ、

殷衆富樂。然而爲大王計者、皆爲一時之說、不顧百世之

利。從人說大王者、必曰、齊西有疆趙、南有韓與梁、齊

負海之國也。地廣民衆、兵彊士勇、雖有百秦、將無奈

齊何。大王賢其說而不計其實、夫從人朋黨比周、莫不

以從爲可、秦王是ニ於テ張儀ヲシテ東ノ方齊ノ湣王ニ游說セシメ曰、天下ノ強キ國ハ  
齊ヲ第一ト爲シ、大臣ヤ父兄方ハ封セラレテ殷盛ニシ衆民ヲ支配シ富ミ樂

メリ、是ハ結構ナルモ、然モ大王ノ爲メニ計略ヲ運ラズ者ハ、皆一時姑息ノ說ヲ爲シテ百世  
永久ノ利益ヲ顧着セス、合從ヲ主張シ大王ニ游說スル者ハ必ス曰、齊ハ西ニ疆キ趙有リ、南  
ニ韓ト楚トカ有リ、以テ齊ノ藩屏ト爲リ、且齊ハ背ニ海ヲ負フノ國ナリ、故ニ敵ノ攻入ル可  
キ無ク、領地廣ク人民カ衆多ニシ、兵強ク士ハ勇武ナリ、故ニ百個ノ秦有ルモ、將ニ齊ノ國  
ヲ奈何セントスルヤト、大王其說ヲ信者トシテ其實際ノ如何ヲ考ヒ計ラ  
ス、夫レ合從ヲ主張スル人ハ徒党ヲ爲シ、合從ヲ以テ妙策ト爲サ、ル莫シ、**臣聞之齊**

與魯三戰而魯三勝、國以危、亡隨其後、雖有戰勝之名、

而有亡國之實、是何也、齊大而魯小也、今秦之與齊

也、猶齊之與魯也、秦趙戰於河漳之上、再戰而趙再勝、



〔文〕此節ハ小弱ハ強大ニ敵スルノ不可ナルヲ言フ、

嫁ハヨメニヤルナリ、娶ハ嫁ヲ取ルナリ、昆ハ兄ナリ、効ハイタスト訓ミ、獻スル儀、悉ク人数ヲ繰出スチ悉クスト云フ、孰ハ然ノ古字、篤トト云フ如シ、

秦戰於番吾之下。再戰又勝秦。四戰之後。趙之亡卒數十萬。邯鄲僅存。雖有戰勝之名。而國已破。是何也。

秦彊而趙弱

〔文〕危力之ヲ聞キ及シニ齊ト魯ト三度戰テ魯カ三度勝チ、魯國夫ヲ以テ危ク、滅亡ノ機其後ニツレテ起ル、然レハ雖ハ戰ヒ勝ツノ名譽有ル

モ、而モ亡國ノ實有リ、是何ノ故ソヤ、答テ曰齊ハ國カ大ニシテ魯ハ小ナレハナリ、今秦ト齊トヤ、猶齊ト魯トノ如キナリ、秦軍ト趙兵ト河漳ノ邊ニ於テ戰ヒ、兩度戰テ趙カ兩度秦ニ勝チタリ、又番吾ノ下ニ於テ戰ヒ、兩度戰ヒ又秦ニ勝テリ、四度ノ戰ヒノ後ヨリ之ヲ觀レバ、趙カ兵卒ヲ亡スヤ數十萬人ニシ、其勢ヒ趙ノ首都ナル邯鄲ハ僅カニ存在スルニ至ル、然レハ雖ハ戰ヒニ勝ツ名譽有ルモ、而モ國既ニ破ル、ナリ、是レ何ノ故ソヤ、秦ノ國ハ強クシテ趙ハ弱クシテハナリ、今秦楚嫁女娶婦。爲

昆弟之國。韓獻宜陽。梁効河外。趙入朝。澠池。割河間。以事秦。大王不事秦。秦驅韓梁攻齊之南地。悉趙兵渡清河指博關。臨菑即墨非王之有也。國一日見攻。雖欲事秦不可得也。是故願大王孰計之也。

〔文〕今日ノ強大ナル概略ヲ言ヘハ、秦ト楚ト五ニ處ナリ、嫁ニ遣ツタリ女房ヲ貰ツタリシ、兄弟ノ國ト爲リ、韓王ハ宜陽ヲ秦ニ獻上致シ、梁ハ河外地方ヲ獻上シ、趙王ハ秦ニ入り來テ秦王ニ澠池ニ朝觀シ、且河間地方ヲ割テ獻上シ、趙國ト爲

僻ハカタヨルト訓ミ、一方ニ偏スルヲ云フ、陋ハ賤ナリ、

敝邑ハ和名ツマラヌムラ、ケチナムラ、收率ハマトメツレト訓ム、賓ハ擯ノ古字、退ゲルナリ、儼ハ痛ク恐レルナリ、力ハツトメト訓ミ、勦ノ古字、勦搖ハウコクノ復語、

齊王曰。齊僻陋隱居東海之上。未嘗聞社稷之長利也。乃許張儀。〔文〕齊王是ニ於テ之ニ答テ曰、齊ノ東方ノ海邊ニ片寄リ引込ミ隱レテ住居スル國ナリ、是ヲ以テ寡人未ダ嘗テ社稷國家ノ長久ノ利益ニ就テ計策ヲ聞キシ事ナカリシニ、今始テ其長策ヲ聞クヲ得タリト、乃チ張儀ノ連衡策ニ同盟スル事ヲ許セリ、○〔文〕以上ノ一段ハ、張儀カ連衡策ヲ以テ齊ノ番王ヲ説キ落シタル事ヲ叙ス、張儀去。西說趙王曰。秦王使使臣效愚計於大王。大王收率天下以賓秦。秦兵不敢出函谷關十五年。大王之威行於山東。敝邑恐懼懾伏。繕甲厲兵。飾車騎。習馳射。力田積粟。守四封之內。愁居懾處。不敢動搖。唯恐大王有意督過之也。

〔文〕張儀乃チ齊ヲ去リ、西ノ方趙王ニ游説シ曰、齊村ノ秦王致テ使節ノ臣張儀ヲシテ愚ナル計略ヲ趙ノ大王ニ進メシム、大王前ニ山東大名チ一ト纏メトシ其勢ヒチ以テ秦ヲ退



舊本ニハ唯ノ下ニ  
恐ノ字無シ、是レ  
誤脱ノミ、今補  
フ、督過ハセメル  
ノ復語、舊注以テ  
深ク過チテ貴ルノ  
義ト爲ス、拘ハ  
ル、

〔文〕此節ハ秦カ  
督テ趙ヲ恐レシ  
事ヲ甚言ス、是  
レ揚筆ノミ、

今以ノ今ハ、韓諸  
國、サテト訓ム、

敵甲ハ古弊ノ甲、  
澗兵ハ鈍刀ノ類、  
敬ハ少シ、シミウヤ  
マフナリ、

〔文〕此節ハ甲子  
ノ日ニ會戰ノ事  
ヲ云ヒ送リシ事  
ヲ叙ス、

ク近ケサルニ依テ、秦ノ軍兵ハ函谷關ノ外ニ足ヲ踏ミ出サ、ル十五年ノ間ナリ、其間ニ大王  
ノ威光ハ旭日ノ升ルカ如ク赫然ト山東大名ノ間ニ行ハル、是ヲ以テ弊村ノ王ハ恐レヒツクリ  
シテ俯シ縮ミ、甲冑ヲ作り兵卒ヲ勵マシ、戰車ヲ騎馬ヲ飾リ調ヘ、馳セ廻リタリ弓ヲ射タリ  
スル等ノ武藝ヲ操練シ、勤テ田ヲ作り兵糧ノ爲メニ米粟ヲ積ミ貯ヘ、封セラレタル四方ノ領  
分内ヲ守リ固メ、常ニ心ニ心配シテ居リ心ニ痛ク恐レ居リ、故テ身動キモ  
セメ理山ハ、只管趙ノ大王カ寡人ヲ貴メラル、ノ意有ルヲ恐ル、カラナリ、  
今以大

王之力舉巴蜀并漢中包兩周遷九鼎守白馬之津。秦雖僻

遠然而心忿含怒之日久矣。今秦有敵甲澗兵軍於澠池

願渡河踰漳據番吾會邯鄲之下。願以甲子合戰。以正殷

紂之事。敬使使臣先聞左右。

サテ往年趙ノ大王ノ雄威勢力ヲ以テ巴蜀  
ヲ攻拔キ漢中ヲ并吞シ東西ノ兩周王ヲ籠絡  
シ傳位ノ九鼎ヲ周ノ王室ヨリ趙王ノ手元ニ移シ秦ヲ退ケルカ爲メニ軍兵ヲ備テ白馬ノ津ヲ固  
メ守ル等ノ事ヲ傳ヘ聞ク時ハ、秦ハ雖ヘ中國ヨリモ片寄リ遠キ國ナルモ心ニ忿然ト怒リテ會  
ムハ十五年ノ久キ日數ナリ、今秦因テフルホケタル甲冑ヲ身ニ着シ鈍キ兵器ヲ手ニ取り澠池  
ニ於テ軍立テセリ、因テ願フ秦軍ハ是ヨリ河水ヲ渡リ鄆山ヲ越ヘ番吾ニ陣取リ進ミ行テ邯鄲  
ノ城下ニ於テ趙ノ兵ト相出遇フ事ヲ、因テ願フ甲子ノ日ヲ以テ合戰スル事ヲ、夫ヲ以テ周ノ  
武王カ軍兵ヲ引率シ殷ノ紂王ノ罪ヲ糾シタル故事ニ倣ラヒ勝敗ヲ決セン、故ニ其時ニ勝チシ  
者カ周武ニシテ負ケシ者ハ殷紂ノミ、是カ爲メニ敬テ  
使臣儀ヲシテ前以テ此事ヲ大王ノ侍臣ニ奏聞セシム、  
凡大王之所信爲從者

楚漢ハマトハスノ  
復語、

是ハヨシ、非ハア  
シ、

〔文〕此節ハ合從  
策ノ信スルニ足  
ラサルヲ言フ、

稱ハ世間ニ云ヒ解  
ラスナリ、藩ハ屏  
ナリ、其藩屏ト爲  
リ君ヲ守ル、故ニ  
大名ヲ藩ト曰フ、  
孤居ハ和名トトリ  
ホツチ、  
求欲ハ欲ノ復語、

約ハツ、メルナ  
リ、故ニ合ノ義、  
必ハ決ナリ、  
臣ハカクスト聞

恃蘇秦。蘇秦熒惑諸侯。以是爲非。以非爲是。欲反齊

國。而自令車裂於市。夫天下之不可一亦明矣。

サテ大王カ  
信用シ合從  
ヲ爲ス者ハ皆蘇秦ヲ頼ミニス、而モ夫ノ蘇秦ノ奴ハ大名ヲ惑ハシ、是ヲ以テ非ト爲シ、非ヲ  
以テ是ト爲スナリ、後ニ齊ノ國ニ於テ叛逆ヲ企テント欲シテ、而シテ自己ノ身ヲ市町ニ於テ  
車裂キナラシメタリ、則チ天下ノ  
一統ノ出來ヌノ理モ亦明カナリ、  
今楚與秦爲昆弟之國。而韓梁稱

爲東藩之臣。齊獻魚鹽之地。此斷趙之右臂也。夫斷右

臂而與人鬪。失其黨而孤居。求欲毋危。豈可得乎。

今秦發三  
秦ハ兄弟ノ國ト爲リ、其上ニ韓ト梁ト二箇國ハ臣ト爲リ東方ノ藩ト云ヒ觸ラシ、齊モ屬國ノ  
禮ヲ取り魚鹽ノ地方ヲ秦王ニ獻スルニ至リタレハ、此レチ人休ニ譬ヘナハ趙ハ右ノ臂ヲ切リ  
落サレタル人ノ如シ、夫レ右ノ臂ヲ切落サレテ人ト喧嘩シ、其徒黨ノ者ヲ  
尖フテ一人リトナレハ、危キ無キヲ欲スルモ、豈危ク無キヲ得可ケンヤ、  
今秦發三

將軍。其一軍塞午道。告齊使與師渡清河軍於邯鄲之東。

一軍軍成臯。驅韓梁軍於河外。一軍軍於沁池。約四

國爲一以攻趙。趙服。必四分其地。是故不敢匿意隱情



△、左右ヲ指シ言フハ、此レ韓魏ノミ、其實ハ王ヲ指ス、案ハ止メルナリ、案兵ハ秦ノ兵ノ伐ツヲ止メルナリ、趙ノ兵ヲ止ルニ非ラス、

〔文〕此節ハ四國カ趙ヲ攻メル事ヲ諱言シ、以テ趙王ヲ感服セシ事ヲ叙ス、

上ノ擯ハ恣マ、ナリ、下ノ擯ハ專ラナリ、敵ハ掩フナリ、精事ハ政事ヲ執ルヲ云フ、與ハ參與ナリ、奉祀ハ祭祀ヲ崇ルナリ、乃チ政事ヲ執ルヲ云フ、且ハ將ナリ、方將ハマサニノ復

先以聞於左右。臣竊爲大王計。莫如與秦王遇於澠池。面相見而口相結。請案兵無攻。願大王之定計。

今乃秦王命シ三人ノ將軍ヲ出

發シ、其一將軍ハ齊趙ノ東四ニ當ル午道ノ通路ヲ塞キ、以テ應援スル者無カラシメ、齊王ニ命シテ軍勢ヲ起シ清河ヲ渡リ邯鄲ノ東ニ陣取ラシメ、一將軍ハ成皋ニ陣取リ、韓ト梁ト軍兵ヲ驅使シ河外ニ於テ陣取ラシメ、一將軍ハ秦ノ澠池ニ於テ陣取リ、秦齊韓梁ノ四國ノ兵ヲ合シ一致シ以テ趙ノ國ヲ攻メ、趙カ降服セハ、其地ヲ四箇國ニ分ケ取ルト決シタリ、是ノ故ニ政ヲ意チ匿サス心情ヲ隱サスシテ先ツ其事ヲ大王ノ左右ノ臣ナリテ奏聞スルナリ、臣儀カ使命ヲ受テ大王ニ奏聞スル所ハ此ノ如シ、然リト雖モ臣儀ハ敢テ事ヲ好マス、臣儀因テ内々大王ノ爲メニ計略ヲ運ラシメ、今般ノ如キハ大王躬自ラ秦王ト澠池ニ於テ遇フテ面會シテ口舌互ニ和親ヲ結フヨリ善キ策無シ、臣儀因テ請フ其間ハ必ス秦ノ三軍ヲ引止メテ趙ヲ攻ル無カラシメン、因テ願フ其間ニ大

王カ早ク其計策ヲ決定スルヲ。趙王曰先王之時。奉陽君專權擅勢。

蔽欺先王。獨擅綰事。寡人居屬師傅。不與國謀計。

先王弃群臣。寡人年幼。奉祀之日新。心固竊疑焉。以爲一從不事秦。非國之長利也。乃且願變心易慮割地謝前過以事秦。方將約車趨行。適聞使者之明詔。趙王許

張儀。趙王乃乃儀ノ説ヲ聞キ恐レ答テ曰先王乃乃父ノ時ニハ、奉陽君カ政權ヲ專ラシシ頃寡人ハ常ニ師範ヲ傳役ノ手ニ養ハレ、國家ノ政略謀計ニ關係致サス、其後父先王ハ死去セシモ、寡人ハ年カ幼少ニシ、位ニ即クモ政事ヲ執ル日ハ淺シ、而モ心中本ヨリ内々之ヲ疑ヒ、合從和親ニ專一ニシ秦王ニ事ヘサルハ、國家長久ノ利益ニ非ラサルナリト思ヘリ、因テ將ニ合從ノ心ヲ變シ和親ノ考ヒヲ易ヘ領地ヲ割テ献上シ以前ノ過失ヲ謝シ以テ秦王ニ事ヘルコトヲ願ハントシ、將ニ車ヲ支度シ走り秦ニ行カントス、丁度其時使者張儀君ノ來テ明ナル秦王ノ詔勅ヲ告ルヲ聞クハ、此上無キ僥倖ナリト、趙王乃乃連衡策ニ從フ事ヲ許ス、○〔文〕以上ノ一段ハ、儀カ趙王ヲ感服セシメタル事ヲ叙ス、

張儀

趙王乃乃儀ノ説ヲ聞キ恐レ答テ曰先王乃乃父ノ時ニハ、奉陽君カ政權ヲ專ラシシ頃寡人ハ常ニ師範ヲ傳役ノ手ニ養ハレ、國家ノ政略謀計ニ關係致サス、其後父先王ハ死去セシモ、寡人ハ年カ幼少ニシ、位ニ即クモ政事ヲ執ル日ハ淺シ、而モ心中本ヨリ内々之ヲ疑ヒ、合從和親ニ專一ニシ秦王ニ事ヘサルハ、國家長久ノ利益ニ非ラサルナリト思ヘリ、因テ將ニ合從ノ心ヲ變シ和親ノ考ヒヲ易ヘ領地ヲ割テ献上シ以前ノ過失ヲ謝シ以テ秦王ニ事ヘルコトヲ願ハントシ、將ニ車ヲ支度シ走り秦ニ行カントス、丁度其時使者張儀君ノ來テ明ナル秦王ノ詔勅ヲ告ルヲ聞クハ、此上無キ僥倖ナリト、趙王乃乃連衡策ニ從フ事ヲ許ス、○〔文〕以上ノ一段ハ、儀カ趙王ヲ感服セシメタル事ヲ叙ス、

〔文〕此節ハ趙王カ連衡ニ加入シタル事ヲ叙ス、奔群臣ハ其死ヲ謂フ、約ハク、ルト訓ミ、車ノ案ヲシメルヲ云フ、

之所親莫如趙。張儀乃去。北之燕說燕昭王曰。大王嘗以其姊爲代王妻。欲并代。約與代王遇於句注之塞。乃令工人作爲金斗。長其尾。令可以擊人。與代王飲。陰告

厨人曰。即酒酣樂進熱噉。反斗以擊之。於是酒酣樂進

熱噉。厨人進斟。因反斗以擊代王殺之。王腦塗地。其

姊聞之。因摩笄以自刺。故至今有摩笄之山。代王之凶

厨人ハ和名料理人而モ酌人ト爲シ看目、熱ハアツキト訓ム、

噉ハ和名吸物、厨人ハ和名料理人而モ酌人ト爲シ看目、熱ハアツキト訓ム、

厨人ハ和名料理人而モ酌人ト爲シ看目、熱ハアツキト訓ム、



訓ミ、廢ト通ス、  
膾ハ和名ノウミ  
ノ、  
筭ハ和名カシサ  
シ、對ハ酒ヲツク  
ナリ、

〔文〕此節ハ隱然  
趙王ハ燕ヲ并吞  
スルノ意有ルヲ  
言フ、  
効ハイタス、獻ノ  
如シ、

〔文〕此節ハ趙ト  
党スレハ秦忠有  
ルヲ言フ、

天下莫不聞

昔趙襄子曾テ其姊ヲ代國ノ王ノ妻ト爲シテ代ノ國ヲ并吞セント欲ス  
ルヤ、代王ト句注ノ邊ニ於テ相遇フ事ヲ約束セリ、乃チ其前ニ職人  
ニ命シ金作りノ長柄ノ銚子ヲ作ラシメ、其長柄ノ銚子ノ柄ノ尻ノ方チ並ノ柄ヨリモ長クシ夫  
ヲ以テ人ヲ擊ツニ便ナラシメタリ、愈々其日トナリ代王ト酒ヲ飲ム前ニ、内々附人ニ命シ曰  
即チ酒宴カ佳興ニ入り相樂ム時ニ熱キ吸物ヲ出ス時ヲ機會トシ、銚子ヲ引ツ繰リ返ヘシ以  
テ代王ヲ擊テ殺セヨト、是ニ於テ酒宴カ佳興ニ入り互ニ樂ム時ニ熱キ吸物ヲ出シケレハ、酌  
人ハ銚子ヲ以テ酒ヲ杯ニ注キ、長柄ノ銚子ヲ引繰リ返ヘシ持テ代王ヲ擊テ之ヲ殺シタルニ依  
テ、代王ノ腦漿カ傷口カラ流出シテ席チ塗リタリ、其姊此騒動ヲ聞キ、因テ筭ヲ應キ夫ヲ以  
テ自分ト喉ヲ刺シテ死ス、故ニ今ニ至リ筭磨キ山有リ、  
夫趙王之狼戾無親

大王之所明見

夫趙王カ狼ノ如ク人情ニ戻リ親愛ノ心無キ恰モ昔ノ趙襄子ニ似テ、  
動モスレハ大王ヲ代王ノ如クセント欲スルハ、大王カ常ニ明カニ  
見ル所

且以趙王爲可親乎。趙興兵攻燕。再圍燕都而劫

王。大王割十城以謝。今趙王已入朝。澠池。効河間以事

秦。今大王不事秦。秦下甲雲中九原。驅趙而攻燕。則易

水長城非大王之有也。且大王ハ趙王ヲ以テ親ミ交ル可キ人物ト爲ス乎、而モ前  
大王ヲ嚇シ劫カシタルニ依テ、大王ハ餘儀無ク十個ノ城ノ有ル地方ヲ割キ趙ニ與ヘテ夫ヲ以  
テ無事ノ罪ヲ謝スルニ至リタリ、今然ルニ趙王ハ既ニ秦ニ入り來リ澠池ニ朝覲シ、河間地方

〔文〕此節ハ秦ニ  
党スルノ利ヲ言  
フ、

大男子ハ和名オト  
ナ、  
裁ハキリモリスト  
訓、上客ハ貴客  
ト云フト同シ、

〔文〕此節ハ燕王  
カ儀ノ脱ニ從ヒ  
シ事ヲ叙ス、

ナハ、丁度縣カ郡ニ附屬スルカ如キナリ、是ヲ以テ趙王ハ自己ノ一意ヲ以テハ致テ安ニ軍勢  
ヲ起シテ他ノ國ヲ攻伐ツテ得ス、夫レ然リ、故ニ今大王カ屬國ト爲リ秦王ニ事フレハ、秦王  
ハ必ス喜フ、故ニ趙軍ハ致テ安ニ暴動セス、左スレハ燕ハ是レ西ノ方ニハ強キ秦ノ援兵ヲ備  
置テ南ノ方ニ齊ヲ趙ノ患害ノ起ル無シト云者ナリ、此故ニ臣爲メニ大王カ篤ト之ヲ考ヒ計ル  
テ願フ

燕王曰。寡人蠻夷僻處。雖大男子。裁如嬰兒言。

不足以采正計。今上客幸教之。請西面而事秦。獻恒山

之尾五城。燕王聽儀。燕王因テ之カ答ヘテ爲シ曰、寡人ノ行爲ハ蠻夷流ニシ  
僻地ニ住居ス、故ニ身ノ長クハ雖ヘ大人並ナルモ、事

ヲ切リモリスル説ハ小兒ノ議論ノ如シ、故ニ夫ヲ以テ正シキ國家ノ計策ヲ取ルニ足ラズ、今  
然ルニ貴客來テ幸ニ連衡ノ策ニ加入スル事ヲ數ヘラル、カラニハ、寡人乃チ西ニ面テ秦  
王ニ事ヘ恒山ノ尾ニ在ル五城ヲ献上スル事ヲ請願スルナリト、燕王乃  
儀ノ連衡策ニ從フ、○〔文〕以上ノ一段ハ儀カ燕王ヲ説セシ事ヲ叙ス、  
儀歸報



昔ハ多クハ説ユ川  
テ、悦チ用ル少ナ  
シ、  
却ハヒマト訓ミ、  
際ト義同シ、  
昨ハ背ナリ、  
「文」此節ハ群書  
カ儀ノ身上ニ來  
ル事ニ叙ス、  
儀ハ貴メナリ、

社稷ハ國家ト爲シ  
解ス、

未至咸陽而秦惠王卒。武王立。武王自爲太子時不説張儀。及即位。群臣多讒張儀。曰無信。左右賣國以取容。秦必復用之。恐爲天下笑。諸侯聞張儀有却武王。皆哱。衡復合從。秦武王元年。群臣日夜惡張儀。而齊讓又至。儀將ニ連衡策ノ成功ヲ以テ破リ秦王ニ報告セントス、未タ秦ノ咸陽ノ都ニ到着セサル前ニ在テ秦ノ惠王卒去シ、武王立ツ、武王ハ太子爲ル時カラシテ張儀ヲ好マス、因テ王位ニ就クニ及テハ、群多ノ臣下ハ時ヲ得テ苦モ苦モト張儀ノ事ヲ讒シ曰儀ハ信義無キ奴ナリ、儀ハ商人ノ様ニ甲ノ國ニ往テモ乙ノ國ニ往テモ彼是レト秦ノ國ノ事ヲ云ヒ觸ラシ大名共ニ取り容ル手ヲ爲ス奴ナリ、故ニ秦ノ政府カ急度又彼奴ヲ擧用ヒナハ、天下中ノ笑ヒ草トナルノ恐レ有リト、諸大名モ亦張儀カ武王ト仲ノ惡シキ評判ヲ聞キ、皆々連衡ノ盟ヒニ背キ合從ヲ回復スルニ至ル、秦ノ武王ノ即位ノ元年ニ及ンテヤ、群多ノ臣下ハ朝ト無ク暮ト無ク張儀ノ事ヲ惡口シテ止マス、其上ニ齊人カラ儀ノ罪ヲ責ル書狀モ到着セリ、張儀懼テ誅ヲ乃因謂秦武王曰、儀有愚計願効之。王曰奈何。對曰爲秦社稷計者。東方有大變。然後王可以多割得地也。

張儀是ニ於テ誅戮サル、チ恐レ、乃チ因テ秦ノ武王ニ謂テ、臣儀ニ愚ナル計略ナルモ之チ獻上致サント願フ者有リト曰ヘハ、武王問フテ何ナル計略ソヤト曰フ、儀因テ之ニ答テ曰、秦

憎ハニクミト訓ム、  
連ハ結ホレテ離レサルチ云フ、

祭器ハ我三種ノ神  
器ノ類、挾ハタキ  
コムナリ、  
令儀ノ二字、舊本  
ニ入儀ニ作ル、筆  
誤ナルカ故ニ之ヲ  
改ム、  
革車ヲ備ヘテ儀ヲ  
秦ヨリ出シタル  
ハ、其旅裝ヲ載ン  
ニシ、儀ノ行ノ評  
列ヲ高クセント謀  
リシ者ニソアル、  
罷ハ止メルナリ、

ノ社稷國家ノ爲メニ計策ヲ運ラシナハ、東方山東大名ノ間ニ大變動ノ起ル有リ、斯クシテ大王カ其變動ニ乗シ多ク割キ取ル手段ヲ以テ大名ノ領地ヲ奪ヒ得ル事カ出來ルナリ、今聞齊王甚憎儀儀之所在必興師而伐之。故儀願乞其不肖之身之梁。齊必興師而伐之。梁齊之兵連於城下而不能相去。王以其間伐韓入三川出兵函谷而毋伐以臨周。祭器必出。挾天子。按圖籍。此王業也。秦王以爲然。乃具革車三十乘令儀之梁。今聞ク所ニ據レハ齊王ハ甚タ此儀ヲ惡ミ儀カ居テ事ニ決セリト、刈ルカ故ニ儀ハ願フテ此賊キ身ノ暇ヲ乞テ梁ニ往カン、左スレハ齊王カ急度軍勢ヲ起シテ梁ヲ征伐スルナラン、果シテ梁ト齊ノ兩軍カ大梁ノ城下ニ於テ戰ヒ其戰ヒカモツレテ互ニ引去ルコトカ出來ヌ協合ニ至ルヘシ、果シテ然ラハ、大王ハ兩軍カ相戰フ時間ヲ以テ韓ヲ征伐シ三川ニ入り又兵ヲ函谷關ヨリ繰出シテ攻伐フ事ナハナサスニ軍勢ヲ引率シテ周ニ推寄セレハ、周王ハ其不意ニ驚クカラシテ、周ノ先祖ヲ祭ル器ヲ出シテ和ヲ乞フニ相違無シ、其時ニ大王ハ周ノ天子ヲ抱キ込ミ、支那ノ輿地圖ト戸籍帳ヲ檢査シテ、天下ニ命令ヲ發スレハ、此レソ帝王ト爲ルノ事業ナリト、秦ノ武王ハ此計略ヲ以テ尤モナリトシ、乃チ革車ノ車三十輛ヲ備ヘテ儀ヲシテ梁ノ國ニ往カシメタリ、齊果興師伐之。梁哀王恐。張儀曰。王勿患也。請令罷齊兵。



借ノ字ノ下ニ、齊本ニハ符ノ字無シ、是レ誤脱ナリ、今之ヲ補フ、託ハ頼ムナリ、厚矣託ハ折入ツテ頼ムナリ、

梁ハ魏ナリ、本條前ニ在テハ、取ラ魏ト曰ヒ、後ニ於テハ、取ラ梁ト曰フ者ハ、年代ノ差トニ依テ、後ニハ世人カ魏ヲ稱シテ梁ト曰ヒシニ依ル者ナリ、其レ能ク此辨ヲ知レヨ、

ト齊王ハ儀ノ案ノ如ク軍勢ヲ起シテ梁ヲ征伐ス、因テ梁ノ哀王恐ル、張儀之ニ謂テ曰、大王ヨ心配フル勿レ、臣請フ齊ノ軍兵ヲ引去ラシメン、乃使其舍

人馮喜之楚、借符使之齊、謂齊王曰、王甚憎張儀、雖

然亦厚矣王之託儀於秦也、乃其腹心ノ舍人馮喜ヲシテ先ツ宋ノ國ニ往カシメ、楚ニ於テ旅行ノ割符ヲ借受ケ齊ニ往カシ

憎儀、儀之所在、必興師伐之、何以託儀、對曰、是乃

王之託儀也、齊王之ヲ難シ曰、女人ハ儀ヲ惡ム、故ニ儀カ居ル所ノ國ハ、急度軍兵ヲ起シ之ヲ伐テハ、何ヲ以テ儀ヲ秦王ニ頼マンヤ、馮喜答テ曰、是レソ乃チ

夫儀之出也、固與秦王約曰、

爲王計者、東方有大變、然後王可以多割得地、今齊王

甚憎儀、儀之所在、必興師伐之、故儀願乞其不肖之身

之梁、齊必興師伐之、齊梁之兵連於城下而不能相去、

王以其間伐韓入三川出兵函谷而無伐以臨周、祭器必出、

挾天子、按圖籍、此王業也、秦王以爲然、故具車

三十乘而入之梁也、夫レ儀ノ案ヲ出ルヤ、堅ク秦王ト約シ曰、大王ノ爲メニ計略ヲ運ラセハ、東方ニ大事變ノ起ル有リ、斯クシテ多ク割キ取

ルノ手段ヲ以テ大名ノ領地ヲ奪ヒ得可シ、今齊王ハ甚々此儀ヲ惡ム、儀カ居ル所ノ國ハ、軍勢ヲ起シ之ヲ攻メ伐ツヲ決セリ、故ニ儀ハ願テ乞身ノ暇ヲ乞ヒ梁ニ往カン、左スレハ齊王

カ急度軍兵ヲ起シ梁ヲ伐ツナラン、果シテ梁ト齊ノ兩軍カ城下ニ於テ戰ヒ其戰ヒカモツレ互ニ引去ル能ハサルニ至ル可シ、果シテ然リハ、大王カ兩軍カ戰フ時間ヲ以テ韓ヲ伐チ三川ニ

入り兵ヲ繰出シ攻メル事ヲセス周ニ推寄セシハ、周ノ先祖ヲ祭ル器械ヲ出シテ周王ハ和ヲ請フニ相違無シ、其時大王ハ天子ヲ抱キ込ミ、輿地圖ト戸籍帳ヲ按檢シ、天下ニ號令ス、此レ

ソ帝王ノ事業ナリト、秦王ハ此計ヲ以テ妙ト爲ス、故ニ車馬三十乘ヲ以テ儀ノ旅支度ヲ爲シテ梁ノ國ニ入ラシメタル者ニソアル、今儀入梁、王

果伐之、是王內罷國而外伐與國、廣隣敵以內自臨而信儀

於秦王也、此臣之所謂託儀也、齊王曰善、乃使解兵、

秦王ト相約スルハ上文ニ述ルカ如シ、今然ルニ張儀カ梁ノ國ニ入レハ、其謀略ナルヲ知ラス、大王ハ案ノ如ク梁ヲ征伐スレハ、是レ乃チ大王ノ所作ハ内ハ國家ヲ疲弊セシメテ外ハ同盟

國ヲ征伐シ爲スニ隣近ノ敵ノ數ヲ増シ夫ヲ以テ自分ト案ノ方ニ向テ張儀ヲ秦王ニ信用サセル様ニスル者ニソアル、故ニ此レソ臣カ申ス儀ヲ秦王ニ頼ムト云ノ者ナリト、齊王是ニ於テ忽

チ悟リ曰善シト、乃チ梁、張儀相魏一歲、卒於魏也、張儀ハ乃チ魏ノ

〔文〕以上ノ三節ハ、儀カ秦王ヲ欺テ車馬三十乘ヲ備ヘシメ、齊ヲシテ梁ヲ伐タシメ、梁王ヲシテ儀ヲ信セシムルノ策ヲ行ヒシ事ヲ叙ス、是レ

儀ハ疲ナリ、與國ハ同盟ノ國ナリ、



儀方梁ニ相タルヲ得ルノ因由ナリ

〔文〕此二節ハ先ツ下文ノ爲メ案ヲ立ツ

張儀ハ澤山ナル進上物ナリ、輕ハ手輕ロニ度々行キ來スルヲ云フ、

加善ノ善ハヨシミト訓ミ、好ト同ク、其交情ノ厚キヲ言フ、善軫ノ善ハヨシミト訓ミ、愛スルノ義、

獨ハトトリ……ノミト訓ム、願ノ字モ争ノ字ト爲シ看ヨ、

妾ハ和名下女、閑巷ト鄉曲ハ和名ムラサト、

良ハ善良ナリ、出婦ノ出ハ嫁ニ出

十一箇年、魏ニ於テ卒去セリ、○〔文〕以上ノ一段ハ、張儀カ魏國ノ宰相ト爲リタル事ヲ叙ス、

陳軫者游說之士。與張

儀俱事秦惠王。皆貴重爭寵。

陳軫ト云者ハ游說ノ士ニシ、張儀ト俱ニ秦ノ惠王ニ奉公シ、二人皆其身分カ貴クナリ

重シセラレ、曰 張儀惡陳軫於秦王曰。軫重幣輕使秦楚之間。

將爲國交也。今楚不加善於秦而善軫者。軫自爲厚而

爲王薄也。且軫欲去秦而之楚。王胡不聽乎。王謂陳軫

曰。吾聞子欲去秦之楚。有之乎。軫曰然。王曰儀之言。

果信矣。軫曰非獨儀知之也。行道之士盡知之矣。昔

子胥忠於其君。而天下爭以爲臣。曾參孝於其親。而天

下願以爲子。故賣僕妾。不出閭巷而售者。良僕妾也。

出婦。嫁於鄉曲者。良婦也。今軫不忠其君。楚亦何以

軫爲忠乎。忠且見弃。軫不之楚。何歸乎。王以其言爲

然。遂善待之。

張儀一日陳軫ノ事ヲ秦王ニ説言シ曰、軫ハ秦ト楚ト間ニ於テ重大ナメニ、將ニ秦ノ國ト楚ノ國ト交際ヲ取結ハントセシ者ナリ、今然ルニ楚王ハ好ミテ秦ニ爲サスシテ軫ヲ愛スル者ハ、ソハ乃チ軫カ自分ト己ノ楚王ニ取入ル事ニノミ手厚キ務メテ爲シ秦

王ノ事ニハ手薄キ務メテ爲スヲ以テノ故ナリ、且ツ軫ハ近日秦ノ國ヲ去テ楚ノ國ニ往ント欲シテ支度シテ居ルナリ、大王ハ堂シテ夫レヲ聽キナサラヌソヤト、スルト秦王ハ陳軫ニ謂テ

晋カ開キシニ晋子ハ秦ヲ去テ楚ニ往ント欲スト、誠ニ其事有リヤト曰ヘハ、軫ハ答テ左様テアルト曰フ、秦王之ヲ聽テ、張儀カ言ヒシハ、果シテ信實ナ有リント曰フ、軫是ニ於テ此

事ノ云ヒ開ラキヲ爲シ曰、軫カ楚ニ往ク事ハ、獨リ儀カ之ヲ知ルノミニ非ラサルナリ、道路ヲ通行スル人迄モ之ヲ知ツテ居ルナリ、夫ニ就テ一話有リ、昔伍子胥ハ其主君ニ至テ忠義ナ

ル者テ有リシ、因テ天下ノ大名ハ爭テ伍子胥ヲ己ノ臣下ト爲サントセリ、又曾參ハ其親ニ至テ孝行ナル者テ有リシ、因テ世間ノ年寄共ハ爭テ曾參ヲ己ノ子ト爲サントセリ、斯ル

故ヲ以テ奴僕ト下女ヲ奉公ニ出サント欲スル時ニ、其村里ノ外ニ出テスシテ履ハントスル者ノ有ルハ、乃チ善キ質ノ奉公人ナリ、又婦女子ヲ嫁ニ出サント欲スル時ニ、其村里ニ於テ嫁

ニ賣ハント望ム者有ルハ、乃チ善キ性質ノ婦人ナリ、今此軫カ若シモ其主君ニ對シテ不忠ナル者ナレハ、楚君モ亦堂シテ此軫ヲ以テ忠義ナル者ト致シマセウソヤ、雖ハ忠義ノ評判アル

モ將ニ見捨ラルハナリ、夫レ然リ、若シ大王ノ御前ヲ去ル日ニハ、此軫ハ楚ニ往カサレハ、何所ニ此身ヲ寄セマセウソヤト、是ニ於テ秦王ハ乃チ軫ノ言フ事ヲ以テ尤モト爲シ、遂ニ軫

ヲ善ク扱ヘリ、居秦期年。秦惠王終相張儀。而陳軫走楚。楚未

之重也。而使陳軫使於秦。過梁欲見犀首。犀首謝弗見。

スノ義、奔ハ捨ナリ、飯ハ其身ヲ寄セテ依頼スルノ義、待ハアツカフト訓ム、

〔文〕此節ハ陳軫カ巧ニ脱シテ儀ノ讒ヲ脱レシ事ヲ叙ス、謝ハ辭退スルナリ、



軫曰吾爲事來。公不見軫。軫將行。不得待異日。犀首見之。陳軫曰公何好飲也。犀首曰無事也。

秦ノ惠王終ニ張儀ヲ宰相トス。因テ陳軫ハ出奔シ楚ニ往キシ。楚王未タ之ヲ重ク用ヒサルナリ。而モ陳軫サシテ秦ニ使者ヲ務メシメタリ。將ニ秦ニ往カントシ。梁ヲ經過シ犀首ニ遇ハント欲ス。而ルニ犀首辭謝シテ過ハス。軫因テ晋ハ事有リ來ル。然ルニ公今軫ニ遇ハサレハ、軫ハ將ニ行カントス。他日ヲ待ツテ得スト曰ヒケレハ、犀首之ニ遇フ。陳軫因テ之ニ言テ公ハ堂シテ好ミテ酒ヲ飲ムソヤト曰フ。犀首答テ閑暇無事ナレハナリト曰フ。曰吾請令公壓事。可乎。曰

奈何。曰田需約諸侯從親。楚王疑之。未信也。公謂於王曰。臣與燕趙之王有故。數使人來曰。無事何不相見。願謁行於王。王雖許公。公請毋多車。以車三十乘可陳之於庭。明言之燕。燕趙客聞之。馳車告其王。使人迎犀首。軫因テ晋左スレハ一仕事ヲ起シ公ヲシテ仕事ニアキサセ機力。宜シ事ヲ教テ曰魏ノ宰相田需カ此頃諸大名ト約束シテ合從和親セリ。然ルニ楚王ハ之ヲ疑ヒ未タ信セサルナリ。公因テ欺キ魏王ニ語テ。臣犀首ハ燕ヲ趙ノ王ト縁故有リ。是ニ由テ燕趙ノ王

謁ハ告ルナリ。行ハ旅行ナリ。陳ハツラ子ルト訓ミ、ナラヘルヲ云フ。

カ數々人ヲ來ラシメ曰。犀首ハ無事閑暇ナレハ堂シテ來テ謁見ヲ爲サ、ルヤト。今燕趙ノ王カ臣ヲ召スヤ此ノ如シ。故ニ臣願フテ旅行スル事ヲ大王ニ告ケ奉ルト曰フ。斯ク旅行ノ事ヲ魏王ニ願ヒ告ルニ依テ、魏王カ雖ヘ公ニ旅行ヲ許ルモ、公ハ堂ノ旅行ノ車ノ數ヲ多ク備フル勿レ。公ハ只車三十乘ヲ以テ玄關前ノ庭ニ並ラヘテ飾リ立テ、置ケヨ。公ハ斯ク謀リ置テ明カニ近日燕趙ニ往クト云ヒ觸ラセヨト。軫カ仕事ヲ起スノ策ヲ教ルヤ此ノ如シ。犀首ハ乃チ其教ニ從ツテ夫レノ謀略ヲ施シケレハ、燕ヲ趙ノ游說ノ客ハ犀首カ出立スルト云フ評列ヲ聞テ其謀略ナルヲ知ラス車ヲ馳セテ燕趙ノ王ニ告ケ知ラセケレハ、燕趙ノ王ハ人ヲ遣ハシテ犀首ヲ迎ヘシムルニ至リタリ。楚王聞之。大怒

曰。田需與寡人約。而犀首之燕趙。是欺我也。怒而不聽其事。齊聞犀首之北。使人以事委焉。犀首遂行三國宰相事。皆斷於犀首。

楚王モ亦其謀ナルヲ悟ラス燕趙ノ王カ犀首ヲ迎ヘル評列ナリ。今而ルニ犀首カ燕趙ニ往クヲ見テ思ヘハ、田需ハ是レ我ヲ欺キタルナリト。猥リニ怒テ合從和親ノ事ヲ聽キ用ヒサルニ至ル。而モ齊王ノ如キハ犀首カ北ニ向ヒ燕趙ニ往クヲ聞キ、人ヲシテ齊燕趙ノ三箇國カ同盟スル事ヲ以テ犀首ニ委任セシメタリ。犀首是ニ於テ遂ニ齊燕趙三箇國ノ宰相ノ事務ヲ執リ行ヒ、事ハ犀首一人ニ決セリ。軫遂至秦。陳軫ハ既ニシテ秦ノ國ニ到答セリ。韓魏相攻。其年不解。秦惠王欲救之間。於左右。左右或曰救之便。或曰勿救便。惠王未能爲之。

楚王聞之。大怒。怒而不聽其事。齊聞犀首之北。使人以事委焉。犀首遂行三國宰相事。皆斷於犀首。

楚王モ亦其謀ナルヲ悟ラス燕趙ノ王カ犀首ヲ迎ヘル評列ナリ。今而ルニ犀首カ燕趙ニ往クヲ見テ思ヘハ、田需ハ是レ我ヲ欺キタルナリト。猥リニ怒テ合從和親ノ事ヲ聽キ用ヒサルニ至ル。而モ齊王ノ如キハ犀首カ北ニ向ヒ燕趙ニ往クヲ聞キ、人ヲシテ遂ニ齊燕趙三箇國ノ宰相ノ事務ヲ執リ行ヒ、事ハ犀首一人ニ決セリ。軫遂至秦。陳軫ハ既ニシテ秦ノ國ニ到答セリ。韓魏相攻。其年不解。秦惠王欲救之間。於左右。左右或曰救之便。或曰勿救便。惠王未能爲之。

楚王聞之。大怒。怒而不聽其事。齊聞犀首之北。使人以事委焉。犀首遂行三國宰相事。皆斷於犀首。

楚王モ亦其謀ナルヲ悟ラス燕趙ノ王カ犀首ヲ迎ヘル評列ナリ。今而ルニ犀首カ燕趙ニ往クヲ見テ思ヘハ、田需ハ是レ我ヲ欺キタルナリト。猥リニ怒テ合從和親ノ事ヲ聽キ用ヒサルニ至ル。而モ齊王ノ如キハ犀首カ北ニ向ヒ燕趙ニ往クヲ聞キ、人ヲシテ遂ニ齊燕趙三箇國ノ宰相ノ事務ヲ執リ行ヒ、事ハ犀首一人ニ決セリ。軫遂至秦。陳軫ハ既ニシテ秦ノ國ニ到答セリ。韓魏相攻。其年不解。秦惠王欲救之間。於左右。左右或曰救之便。或曰勿救便。惠王未能爲之。

楚王聞之。大怒。怒而不聽其事。齊聞犀首之北。使人以事委焉。犀首遂行三國宰相事。皆斷於犀首。

馬ハコレト訓ミ、犀首ヲ指ス代名詞、  
〔文〕此節ハ陳軫ノ策ニ依テ、犀首カ齊燕趙ノ同盟ノ宰相ト爲リシ事ニ叙ス、  
〔文〕軫遂至秦ノ一句轉提シ、軾ヲ上ノ陳軫ニ還ヘスヲ玩味セヨ、



適ハ我丁度ト云フ  
制ニ申ル、  
人不ノ不ハイナヤ  
ト訓ミ、否ノ古  
字、  
葛藤ハモツレナ  
リ、  
下等ノ人ヲ細人ト  
云フ、  
執珪ハ珪ヲ証トシ  
賜ハリ封セラレテ  
俟タル者ヲ謂フ、  
有頃ハ未幾年ト云  
フ如シ、故ハモト  
ト訓ミ、本ト同  
シ、  
舊注ハ中謝ヲ以テ  
侍御ノ官ト爲ス、  
拘ハルニ似タリ、  
豈能ハ不能ノ反  
語、  
猶且越聲也トハ、  
彼ハ今ハ貴ク富ル  
身故、越ヲ思ヒ茲

決。陳軫適至。秦惠王曰。子去寡人之楚。亦思寡人不

陳軫對曰。王聞夫越人莊寫乎。王曰不聞。

王曰。寫故越之鄙細人也。今仕楚執珪。有頃而病。楚

越不。中謝對曰。凡人之思故。在其病也。彼思越則越

聲。不思越則楚聲。使人往聽之。猶尙越聲也。今臣雖

奔逐之楚。豈能無秦聲哉。惠王曰善。

陳軫對曰。王聞夫越人莊寫乎。王曰不聞。

王曰。寫故越之鄙細人也。今仕楚執珪。有頃而病。楚

越不。中謝對曰。凡人之思故。在其病也。彼思越則越

聲。不思越則楚聲。使人往聽之。猶尙越聲也。今臣雖

奔逐之楚。豈能無秦聲哉。惠王曰善。

ハマ答ナルニ、夫  
テスラ古郷チ茲  
ヒ、猶且越聲ヲ發  
スト云フノ義ナ  
リ、  
便ハ宜ノ字ト替テ  
讀メヨ、  
願ハドウソト訓  
ム、  
餘ハ次ノ字ト爲シ  
看ヨ、上ノ惠王曰  
管ヨリ此所迄ハ皆  
惠王ノ語ナリ、  
聞ハ申シ上ケルナ  
リ、  
豎子ハ和名小僧、  
方且ハ將ノ履語、  
傷ハキツ、クト訓  
ム、死ハシナント  
スト訓ム、須ハ  
待ナリ、  
有頃ハシハラケア  
リト訓ム、甘ハム  
マキナリ、  
双虎ハ二正ノ虎ナ

或曰勿救便。寡人不能決。願子爲子主計之。餘爲寡人  
計之。秦王尙其語ヲ撰キテ、今韓ト魏カ互ニ攻メ合ヒ、一年ヲ經テモ其葛藤解ケス、因テ  
之ヲ決斷スル能ハス、故ニ堂ソ吾子先ッ吾子ノ主君楚王ノ爲  
有以夫卞莊子刺虎聞於王者乎。莊子欲刺虎。館豎子止  
之曰。兩虎方且食牛。食甘必爭。爭則必鬪。鬪則大者  
傷。小者死。從傷而刺之。一舉必有雙虎之名。卞莊子  
以爲然。立須之。有頃兩虎果鬪。大者傷。小者死。莊  
子從傷者而刺之。一舉果有双虎之功。



タル話シテ大王ニ奏聞セシ者有リシ乎、下莊子將ニ虎ヲ刺殺サントス、時ニ館内ニ服フ所ノ小僧カ之ヲ制シ止メテ、二正ノ虎カ將ニ牛ヲ食ントスルノ時ニ當テヤ、牛ヲ食テ其味ヒカ甘クレハ争フニ相違無シ、争ハハ喧嘩スルニ相違無シ、喧嘩スレハ大ナル虎ハ疵ヲ受ケ、小ナル虎ハ死スル、是レ其勢ヒナリ、故ニ疵ヲ受ケテカラ之ヲ刺殺セハ、一槍ニシテ急度二正ノ虎ヲ刺殺スト云フ名譽ヲ得ル有ルナリト曰ヘハ、下莊子ハ其說ヲ以テ尤モト爲シ、因テ傍ニ立テ二正ノ虎カ牛ヲ食フヲ待チケルニ、暫クシテ二正ノ虎ハ案ノ如ク喧嘩ヲ始メ、大キナ虎ハ疵ヲ受ケ、小サナ虎ハ死サントスルノ勢ヒニ至リタリ、下莊子是ニ於テ槍ヲ振ヒ先ッ其疵ヲ受ケタル虎カラシテ之ヲ刺殺シケルニ依テ、一槍ニシテ案ノ如ク二正ノ虎ヲ刺殺スノ手柄ヲ得ル有リシ、

今韓魏相攻、暮年不解、是必大國傷、小國亡、從傷而伐之、一舉必有兩實、此猶莊子刺虎之類也。

臣主與王何異也、惠王曰善、卒弗救、大國果傷、小國亡、秦興兵而伐、大尅之、此陳軫之計也、

シ其葛藤解ケサレハ、是レ大國ナル魏ハ大虎ノ疵ヲ受ルカ如ク疲弊シ、小國ナル韓ハ小虎ノ如ク將ニ死亡セントスルハ必然ナリ、因テ先ッ其疵ヲ受ケタル魏カラシテ征伐スレハ、則チ一度兵ヲ舉テ必ス兩國ヲ取ルノ實益有リ、何ナレハ將ニ死亡セントスル所ノ小虎小韓ハ攻メスシテ手ニ入レハナリ、此レハ丁度下莊子カ虎ヲ刺ス如キノ類ナリ、然レハ臣カ主君楚王ト大王トノ計略ニ於テ異ナル者ナキナリト、惠王曰名策名策ナリト、卒ニ孰レノ國モ救ハス捨置キケレハ、大國ノ魏ハ案ノ如ク大虎ノ疵ノ附キシト一般ニ疲弊ニ及ヒ、小國ノ韓ハ小虎ノ

何異也、不異也ノ反語、主ハ楚王ヲ指ス、尅ハ勝ツナリ、

〔文〕以上ノ一小段ハ、即チ是レ陳軫ノ附傳ナリ、

〔文〕此節ハ先ッ下文ノ案ヲ立ツ、

則韓ハ舊本ニハ且韓ニ作ル、傳寫ノ誤爲ルヤ必ス、今之ヲ改ム、錯ハ止ムナリ、

死ナントスルカ如ク衰亡ニ傾キタリ、是ニ於テ秦乃チ軍兵ヲ起シテ征伐シ、大ニ之ニ勝チタルハ、此レソ陳軫ノ計略ニ從フタルナリ、

陰晋人也、名衍、姓公孫氏、與張儀不善、犀首者魏之附ケ、公孫氏ヲ姓トシ、張儀ト仲カ宜シカラス、張儀爲秦之魏、魏王相張儀、犀首弗利、故令人謂韓公叔曰、張儀已合秦魏矣、其言曰魏攻南陽、秦攻三川、魏王所以貴張子者、欲得韓地也、則韓之南陽已舉矣、子何不少委焉以爲衍功、則秦魏之交可錯矣、然則魏必圖秦而棄儀、收韓而相衍、

魏王乃爲之、魏王乃曰、張儀ノ宰相トス、犀首之ヲ不利益トス、刈ルカ故ニ犀首乃チ人ヲシテ韓ノ公叔ニ謂ハシメ曰、張儀ノ奴ハ既ニ秦ト魏ヲ連合同盟セシメタリ、而シテ張カ連合同盟セシメタル昔ヒ草ニ魏カ軍ヲ起シ韓ノ南陽ヲ攻取ルナラハ、秦ハ三川地方ヲ攻取ラント曰ヒシ、サテ魏王カ張儀ヲ貴クシ宰相トシタル理由ハ、畢竟韓ノ領地ヲ奪ヒ得ント欲スルカラナリ、則チ其言ヒ草ノ如ク韓ノ南陽ハ既ニ攻メ拔カル、ナリ、斯クアルカラハ吾子ハ何爲レソ少シク韓ノ政事ヲ晋ニ委任シ夫ヲ以テ衍ノ手柄ト爲サ、ルソヤ、果シテ吾子カ政事ヲ衍ニ委任スレハ、則チ秦ト魏ノ交際ハ止メニナルナリ、斯ク有レハ則チ魏王ハ急度秦ヲ征伐スル事ヲ謀ツテ張儀ヲ捨テ、逕ヒ、韓ヲ取り入レテ此行ヲ宰相トスルナラント、

公叔以爲



便ハ妙策ト云フカ  
如シ、

〔文〕此節ハ犀首  
カ儀ト誓カラサ  
ルヨリ、妨ケテ  
魏ヲ去ラシメタ  
ル事ヲ叙ス、

義渠ノ長ハ夷狄ノ  
君長ナリ、  
魏ハ告ナリ、  
中ノ字ノ上ニ齊本  
ニハ曰ノ字有リ、  
是レ衍、今之ヲ削  
ル、  
燒撥焚杆ハ燒キ侵  
スノ復語、  
輕使ハ手輕ロナル  
使者ヲ度々出スチ  
云フ、  
撫ハ鎮メルナリ、  
文繡ハアヤキメナ  
リ、遣ハサクルナ  
リ、純ハ我反ノ如  
シ、致ハ招ノ如  
シ、

便。因委之犀首以爲功。果相魏。張儀去。

犀首聞張儀復相秦害之。犀首乃謂義渠君曰。道遠不得復過。請謁事情。中國無事。秦得燒撥焚杆君之國。有事。秦將輕使重幣事君之國。

君者蠻夷之賢君也。不如賂之以撫其志。秦王曰善。乃以文繡千純婦女百人遺義渠君。義渠君致群臣而謀曰。此公孫衍所謂邪。乃起兵襲秦。大敗秦人李伯之下。

〔文〕此節ハ犀首  
カ儀ト誓カラサ  
ルヨリ、妨ケテ  
魏ヲ去ラシメタ  
ル事ヲ叙ス、

〔文〕此節ハ世人  
カ蘇秦ヲ惡ム  
ハ、儀ノ誹駁ス  
ルニ依ルヲ言  
ス、

〔文〕以上ノ小段  
ハ、犀首カ義渠  
ノ君ヲ謀テ、大  
ニ秦ヲ敗リシ事  
ヲ叙ス、  
張儀列傳ヲ收拾シ  
得テ、何等ノ簡捷  
ソ、何等ノ奇幻  
ソ、

〔文〕首段ハ傾危  
ノ士ハ三晉ニ衆  
多ナルヲ斷言  
ス、  
張儀ハ儀ヲ云騶ラ  
スナリ、

齊韓趙ノ五箇國カ合從シテ秦ヲ征伐ス。時ニ陳軫乃チ秦王ニ謂テ曰。義渠ノ君ハ夷狄ノ會長  
中ニ於テ秀テタル人君ナリ、故ニ今般ノ騷動ニ就テハ賂賂ヲ以テ義渠ノ君ノ志望ヲ鎮安スル  
カ宜キナリト、秦王此策ヲ妙トシ答テ曰承知セリト、乃チ文繡千反ト婦女百人ヲ以テ賂賂ト  
シテ義渠ノ君ニ贈リケレハ、義渠ノ君ハ群臣ヲ招キテ謀議シ曰。此レソ乃チ往年公孫衍力申  
シタル中國事有ルノ日ニ賂賂ヲ贈ルト云フ時機ナリト、乃チ  
軍兵ヲ起シ秦ヲ襲ヒ伐チ、大ニ秦兵ヲ李伯山ノ下ニ敗リケル、  
張儀已卒之後、  
犀首入相秦。嘗佩五國之相印爲約長。張儀カ既ニ死スルノ後ニ於テ、  
犀首相ト爲ル。夫ハ拾遺キ犀首以前楚魏齊韓趙カ合從シテ秦ヲ伐チシ頃  
ニハ五箇國ノ宰相ト爲リ其印章ヲ身ニ帶ヒ以テ合從ノ約長ト爲リタリ、  
太史公曰。三晉多權變之士。夫言從衡彊秦者。大抵皆  
三晉之人也。太史公曰。魏氏趙氏韓氏カ分領スル所ノ三晉地方ニハ權變ノ才ニ富ミ  
シメント欲シ或ハ大名ヲ合從セシメ或ハ連衡  
セシメタル者ハ、大抵皆三晉生レノ人ナリ、  
夫張儀之行事甚於蘇秦。然  
世惡蘇秦者。以其先死而儀振翼其短以扶其說成其衡道。  
夫レ張儀カ行ヒ爲シタル惡事ハ實ニ蘇秦ヨリモ甚シ、故ニ張儀ノ惡事ヲ惡ミテ蘇秦ヲ惡マヌ  
答ナリ、然ルニ世人カ只蘇秦ノミヲ惡ムノ理由ハ、蘇秦ハ張儀ヨリ早ク死シタルニ依テ張儀  
カ附込ミ蘇秦ノ短所ヲ世間ニ云ヒ騶ラシ夫ヲ以テ己  
ノ說ヲ飾ツテ連衡ノ策ヲ成就セシメタルニ依レリ、  
要之此兩人。眞傾危



フ、  
〔文〕結收ハ其危  
險ノ山師ナルヲ  
斷言ス、

樛里子甘茂列傳第十一

樛里子者名疾。秦惠王之弟也。與惠王異母。母韓女也。

樛里子滑稽多智。秦人號曰智囊。樛里子ト云者ハ疾ト名附ケ、秦ノ惠王ノ弟ナリ、左レト惠王ト

子右更。使將而伐曲沃。盡出其人。取其城地入秦。秦

惠王二十五年使樛里子爲將伐趙。虜趙將軍莊豹拔藺。

明年助魏章攻楚。敗楚將屈丐取漢中地。秦封樛里子

號爲嚴君。秦ノ惠王八年ニ樛里子ヲ右更ニ爵シ、王乃チ樛里子ヲシテ大將ト爲シ曲沃

ノ侯ト爲シシテ將ト爲シ趙ヲ征伐セシメ、趙ノ將軍莊豹ヲ捕子ニシテ關ヲ攻拔キタリ、其明年樛里子乃チ魏章

ノ侯ト爲シシテ將ト爲シ趙ヲ征伐セシメ、趙ノ將軍莊豹ヲ捕子ニシテ關ヲ攻拔キタリ、其明年樛里子乃チ魏章

滑稽ハ酒樽ナリ、  
其音語カロヨリ輕  
ク出ル恰モ酒ノ樽  
ヨリ推々出テ虛キ  
ナル如キ、因テ譬  
テ滑稽ト曰フ、  
〔文〕首節ハ是レ  
總叙、  
爵ハ尉ヲ賜ハルナ  
リ、動詞ナリ、  
曲沃ハ魏領ナリ、  
〔文〕此節ハ樛里  
子カ封セラレ秦  
ノ侯ト爲シシテ  
故チ叙ス、

〔文〕此節ハ樛里  
子カ丞相ニ爲リ  
シ事ヲ叙ス、  
讓ハ責ナリ、

〔文〕此小節ハ下  
文ノ爲メニ案ヲ  
提ク者、

道ハ贈ナリ、  
仇猶ハ夷狄ノ一  
種、  
何則ハナセナレハ  
ト訓ム、  
號ハイロフラスト  
訓ム、

之士哉。畢免スルニ蘇秦張儀ノ二人ハ、其  
誠ニケンノンナル山師ナリサテモ、

秦惠王卒。太子

武王立。逐張儀魏章。而以樛里子甘茂爲左右丞相。秦ノ

使樛里子以車百乘入周。周以卒迎之意甚敬。楚王怒讓

周以其重秦。秦時ニ甘茂ヲシテ韓ヲ攻メ宜陽ヲ拔取ラシメ、樛里子ヲシテ車百乘ヲ

客游騰爲周

說楚王曰。智伯之伐仇猶。遺之廣車。因隨之以兵。仇

猶遂亡。何則無備故也。齊桓公伐蔡。號曰誅楚。其實

襲蔡。游說客游騰ト云ヘル者周王ノ爲メニ楚王ニ游說シ曰、周室カ重ク樛里子ヲ拔フメル

仇猶ノ君ニ大鐘ヲ載セタル廣車ヲ贈リ、廣車ヲ贈ルニ附込ミ軍兵ヲ隨ヒ往カシメタリ、是ニ

由テ仇猶ハ遂ニ滅亡セリ、何ナレハ智伯ハ只廣車ヲ贈ルトノミ云ヒ觸ラシタルカ故ニ仇猶國

ニ於テハ夫チ賊ト信シ軍兵ノ備ヘチ爲サ、ル所ヘ廣車ニ隨ヒ來リシ智伯ノ兵カ不意ニ仇猶ノ

君ヲ襲ヒ伐ナシニ依テナリ、且又齊ノ桓公カ蔡ノ國ヲ伐亡セシ時モ、其機ニテ云觸ラシテ楚



衛ハマモル、四ハ  
トヲフト訓ム、  
豈能ハ不能ノ反  
駁、

〔文〕此節ハ樛里  
子カ周ニ使ヒセ  
シ事ヲ叙ス、

〔文〕此小節ハ下  
文ノ爲メニ領テ  
提リ、  
前ハ頼ムト云フ如  
シ、

王ヲ攻メ誅スト曰テ、其賢ハ蔡ノ備ハ無キニ乘シテ不意ヲ襲フテ蔡ヲ伐亡シタリ、  
夫レ然リ、故ニ樛里子カ周ニ至ルモ、亦周ノ不意ヲ襲フ事無シト言フ可カラズ、  
今秦

虎狼之國。使樛里子以車百乘入周。周以仇猶蔡觀焉。

故使長戟居前。彊弩在後。名曰衛疾。而實囚之。且夫

周豈能無憂其社稷哉。恐一旦亡國以憂大王。楚王乃悅。

今秦ハ虎ヤ狼ノ如ク人ノ國ヲ非吞スル事ヲ好ム國柄ナリ、夫レ然リ、秦王カ樛里子ヲシテ車  
百乘ヲ以テ周ノ國ニ入ラシムルヤ、周室ハ夫ノ仇猶カ智伯ニ蔡カ桓公ニ襲ヒ伐チ亡ホサレタ  
ル例ヲ以テ之ヲ觀ル、刈ルカ故ニ長キ戟ヲ備ヘテ前ニ置カシメ、強キ弩ヲ備テ後ニ置カシメ  
タリ、故ニ名義上ヨリスレハ秦ヲ重シテ樛里子疾ヲ警衛スルト曰フト雖モ、而モ其實ハ兵  
卒ヲ以テ樛里子ヲ捕ラヘテ手ヲ出サシ得サラシメタルナリ、且夫レ周王ハ周ノ社稷國家ニ心  
配無キ能ハサルナリ、又一旦國ヲ亡シ夫ヲ以テ楚ノ大王ヲ心配サセル事ヲ恐ル、是ヲ以テ斯  
ク計ラヒシ者ナリト、楚王

昭王元年。樛里子將伐蒲。秦武王卒。昭王立。樛里子又益尊重。

王ノ即位ノ元年ニ、樛里子乃チ  
大將トナリテ衛ノ蒲城ヲ伐ツ、  
昭王ノ位ニ立ツニ及テヤ、  
樛里子前ニ倍シ益々尊ハレ重シセラルハ、昭

曰。公之攻蒲。爲秦乎。爲魏乎。爲魏則善矣。爲秦則

不爲頼矣。夫衛之所以爲衛者。以蒲也。今伐蒲入於秦。

衛必折而從魏。魏囚西河之外。而無以取者。兵弱也。

今并衛於魏魏必彊。魏彊之日。西河之外必危矣。且

秦王將觀公之事。害秦而利魏。王必罪公。

衛乃チ蒲ノ爲メニ樛里子ニ謂ヒ曰、樛里公ノ今般蒲城ヲ攻メナサルハ、秦ノ國ノ爲メナル乎、  
魏ノ國ノ爲メナル乎、魏ノ爲メナルハ子細無シト雖モ、秦ノ爲メナルハ利益ナラサルナリ、  
其故如何シトナレハ、夫ノ衛ノ衛爲ル者ハ、蒲城有ルヲ以テノ故ナリ、今然ルニ蒲ヲ攻伐  
チ秦ニ取リ入レハ、衛ハ忽チ其衛ノ衛爲ル所以ノ者ヲ失フ、故ニ勢ヒ衛ハ節ヲ屈シテ魏ニ從  
フニ相違無シ、往年魏カ四河ノ外ヲ攻メ亡スヤ、必ス取テ己ノ領分ト爲ス答ナリ、而ルニ夫  
ヲ以テ取テ己ノ領分ト爲ス無カリシ理由ハ、魏ハ其兵力弱ク有ルノ故ヲ以テ他國ノ之ヲ責メ  
ルチ恐ル、カラナリ、今然ルニ衛ノ一國ヲ以テ魏ニ合井スル時ハ、魏ハ急度強クナレ、魏カ強  
クナルノ日ニハ、西河ノ外ハ魏カ再ヒ目ヲ注クカラシテ危シ矣、且チ秦王ハ將ニ樛里公カ爲  
ス事ノ如何ヲ觀テ處置スル有ラントス、然レハ秦ニ密カ有テ、  
魏ニ利益有ル事ヲ爲セハ、秦王ハ急度公ヲ罪スルニ至ルナリ、

樛里子曰奈何。

胡衍曰公釋蒲勿攻。臣試爲公入言之以德衛君。樛里子

曰善。胡衍入蒲謂其守曰。樛里子知蒲之病矣。其言曰

病ハツカルト訓

釋ハユルシト訓

ミ、解テ免スナ

リ、

病ハツカルト訓

釋ハユルシト訓



ミ、疲ナリ、以請ノ請ハ宜シク頼ムト云フ如シ、効ハイタシト訓ミ、與フルノ義、南面ハ封土ヲ受ケ爾ノ旗トナルヲ言フ、

〔文〕此小節ハ胡衍カ樗里子ニ説シテ聽カレ、因テ出世セシ事ヲ叙ス、

〔文〕此三句ハ上文ヲ結取ス、

〔文〕以上ノ一節ハ樗里子カ蒲及ヒ皮氏ヲ攻伐セシ事ヲ叙ス、物カ兩方カラシテ他ノ物ヲ問ニ置クヲ夾ト云フ、

必拔蒲。衍能令釋蒲勿攻。蒲守恐因再拜曰。願以請。

因効金三百斤曰。秦兵苟退。請必言子於衛君。使子爲南面。故胡衍受金於蒲。以自貴於衛。

〔樗里子曰如何セハ宜シキヤ、胡衍曰公ヨ蒲人ノ罪ヲ赦シテ攻ムル事ヲ言ヒ聽カセ夫ヲ以テ南ノ君ニ公ノ道徳ヲ知ラシメン、樗里子曰宜シク取リ計ラヘヨト、胡衍乃チ蒲城ニ入り其守將ニ謂ヒ曰、樗里子ハ蒲城ノ兵卒ノ疲勞セルヲ知ルナリ、因テ其言ヒ草ニ曰是非トモ蒲城ヲ攻メ拔カント、左レトモ衍能ク彼ヲシテ蒲人ヲ赦シ再ヒ攻ル事無カラシメント、蒲城ノ守將之ヲ聞キ恐レ因テ再拜シテ、願クハ蒲人ヲ赦ス事ヲ以テ宜ク頼ムト曰ヒ、因テ金三百圓ヲ出シ與ヘテ曰、秦ノ軍兵カ誠ニ退キ去ルナラハ、吾請フ急度吾子ノ骨折リテ衛君ニ言ヒ聽カセ、吾子ヲシテ封土ヲ賜ハリ南面王ノ身分爲ラシメント、刈ルカ故ニ胡衍ハ大金ヲ蒲ノ守將ヨリ受ケ、夫ヲ以テ其身カ自ラ衛ノ國ニ於テ貴クナレリ、

於是遂解蒲而去。還擊皮氏。皮氏未降。又去。

〔樗里子既ニ胡衍ノ言ヲ聽キ用フ、是ニ於テ遂ニ蒲ノ國ミチ解テ引去リ、其還ヘリ路ニ皮氏ノ城ヲ攻伐チシニ、皮氏未タ降參ニ至ラサルニ又去ル、

昭王七年樗里子卒。葬于渭南章臺之東。曰後百歲。是當有天子宮夾我墓。樗里子疾室在於昭王廟西渭南陰鄉樗里。故俗謂之樗里子。至

正ハ丁度ナリ、直ハアタルト訓ム、

〔文〕此節ハ樗里子ノ死葬及ヒ其豫官ノ驗有リシ事ヲ叙ス、

任鄙ハ古ノ力士ノ名、百家ハ色々ノ家ナリ、諸家ト同シ、

〔文〕此節ハ少甘茂ノ出身ヲ總叙シ、以テ下文ノ端ヲ啓ラク、

蜀侯ハ張儀傳ノ貶蜀王更號爲侯モノナリ、

〔文〕此ハ甘茂カ左丞相ニ升進セシ事ヲ叙ス、

漢興。長樂宮在其東。未央宮在其西。武庫正直其墓。

秦人諺曰。力則任鄙。智則樗里。

〔昭王ノ七年ニ樗里子卒シ、渭南ノトスルノ言ニ曰吾死シ百年ノ後ニ至リ、是ノ身ヲ葬ル所ハ當ニ天子ノ宮殿カ我墓ヲ夾サム有ルヘシト、而シテ樗里子疾ノ家室ハ秦ノ昭王廟ノ西ニ於テ渭南ノ陰郷ノ樗里ニ在リ、刈ルカ故ニ俗ニ此處ヲ樗里子ト謂フ、漢ノ高祖カ與ルニ至リ、長樂宮ハ其墓ノ東ニ在リ、未央宮ハ其墓ノ西ニ在リ、武庫ハ丁度其墓ノ所ニ當レリ、秦人ノ云ヒ草ニ曰、智力有ルハ任鄙、智者ナルハ樗里ト、

甘茂者下蔡人也。事下蔡史舉先生。學百家之說。

因張儀樗里子而求見秦惠王。王見而說之。使將而佐魏章略定漢中地。

〔甘茂ト云者ハ下蔡ヲ生レタル人ナリ、故ニ下蔡ノ史舉先生ニ師事シ、博ク諸家ノ論説ヲ學ヘリ、張儀ト樗里子ニ依頼シテ秦ノ惠王ニ謁見スル事ヲ願ヒ求ム、惠王一見シテ其説ヲ奇トシ喜フ、惠王乃チ大將トシテ魏章ヲ助ケ漢中ノ地ヲ攻取リ秦領ト定メシム、

惠王卒。武王立。張儀魏章去。東之魏。蜀侯輝相壯反。秦使甘茂定蜀。還而以甘茂爲左丞相。以樗里子爲右丞相。

〔後ニ惠王卒シ武王カ立ツニ及ヒ、張儀ト魏章ハ秦ヲ去リ東ニ向キ魏ニ往ケリ、時ニ秦ノ旗下ナル蜀侯輝ノ宰相ナル壯ト云者叛逆チ企ツ、秦王乃チ甘茂ヲシテ蜀ノ亂ヲ鎮定セシム、蜀ヲ平ラキ還リシ功ニ依テ甘茂ヲ以



容ハイレト訓ム、納ト同シ、通ハ通り過ルナリ、上ノ甘茂至ハ魏ニ到若スルヲ云フ、  
 「文」此節ハ武王カ周ニ往ント望ムニ就テ、甘茂カ一策ヲ設ケタル事ヲ叙ス、

テ左丞相ト爲シ、穆里子ヲ右丞相ト爲ス、秦武王三年謂甘茂曰、寡人欲容車通三川以窺周室、而寡人死不朽矣、甘茂曰、請之魏約以伐韓、而令向壽輔行、甘茂至、謂向壽曰、子歸言之於王曰、魏聽臣矣、然願王勿伐、事成、盡以爲子功、向壽歸、以告王、  
秦ノ武王カ其即位ノ三年目ニ甘茂ニ謂ヒ曰、寡人ハ此身ヲ車ノ中ニ容レテ三川地方ヲ通過シテ周ノ王室ヲ窺ヒ見ント欲シ願フナリ、誠ニ此事ヲ爲シ遂ケレハ、寡人雖ヘ死ストモ未代迄モ朽チサルナリト、甘茂之ニ答テ曰、大王誠ニ其意有ラハ臣乃チ魏ニ往キ魏王ヲ説キ同盟ヲ約束シ以テ韓ヲ征伐セハ、夫ニ依テ周ニ至ルヲ得可シト、斯クシテ武王乃チ向壽ヲシテ甘茂ニ同行シ補佐タラシメタリ、甘茂既ニ魏ニ至リ、乃チ向壽ニ謂ヒ曰、吾子ハ秦ニ叛リ斯ノ如ク武王ニ語テ曰ヘヨ、魏王ハ既ニ臣ノ説ヲ聽キ用テ同盟セシナリ、左レトモ願クハ武王ニ於テハ決シテ早マリ韓ヲ伐ツ勿レト、吾子カ斯ク武王ニ言ヒ事カ成就スルナラハ、今般ノ手柄ハ悉ク吾子ノ手柄ト爲ス可シト、向壽是ニ於テ秦ニ歸リ甘茂ノ言ヲ以テ武王ニ報告ス、  
 王迎甘茂於息壤、甘茂至、王問其故、  
武王ハ向壽ヨリシテ、魏王ハ既ニ臣ノ説ヲ聽キ用テ同盟セシモ願クハ決シテ早マリ韓ヲ伐ツ勿レト云フ甘茂ノ上申ヲ聞キ、心ニ解セサル有ルヨリ自ら駕シ往キ、武王乃チ息壤ニ於テ甘茂ヲ招キ迎ヘ、甘茂カ既ニ息壤ニ到若シケレハ、武王乃チ其上申ノ意ヲ問フ、  
 對曰、宜陽大縣也、上黨南陽積之久矣、

倍ハコヘト訓ム、

處ハオルト訓ム、  
 自若ハ其容貌而色ニ動ク狀無キ形シ云フ辭、

杼ハ和名ヒ、機ハ和名ハタ、下ハオリト訓ム、杼ハ和名トヘイ、

名曰縣、其實郡也、今王倍數險行千里、攻之難、  
甘茂之ニ答テ曰、今般攻メ拔カント欲スル所ノ韓領ノ宜陽縣ハ廣大ナル縣ナリ、而シテ昔カラ上黨南陽ヨリシテ五般貨財ヲ宜陽ニ積ミ貯フルハ其山ヲ來ル久シ矣、是ヲ以テ宜陽ハ其名前上ヨリスレハ縣ト曰フモ、而モ其實ハ一大郡ナリ、今然ルニ大王ハ其一大郡ヲ奪取ラント欲シテ數箇所ノ險阻ナル山阪ヲ通り越ヘ行ク其里數ハ千里ナリ、然レハ之ヲ攻拔ク困難ノ事ニツアル、夫レ之ヲ攻拔クニ困難有ルニ就テハ、臣將ニ大王ニ請願セントスル者有リ、請フ左ニ其説ヲ述ヘン、  
 昔曾參之處費、魯人有與曾參同姓名者殺人、人告其母曰、曾參殺人、其母織自若也、頃之又告之曰、曾參殺人、其母尚織自若也、頃又一入告之曰、曾參殺人、其母投杼下機、踰牆而走、夫以曾參之賢、與其母之信也、三人疑之、其母懼焉、  
昔親孝行ヲ以テ名高キ曾參カ殺カ人ヲ殺セリト曰ヒシカトモ、其母ハ布ヲ織リ自若トシテ居リシナリ、暫クシ又之ニ告テ曾參カ人ヲ殺セリト曰ヘトモ、其母ハ夫テスラ布ヲ織リ自若トシ居リシナリ、暫クシ又一人之ニ告テ曾參カ人ヲ殺セリト曰ヘハ、其母ハ駭キ杼ヲ投出シ機所ヨリ下リ、土屏ヲ跳ヒ越ヘテ走テ見ニ行クシトシ、夫レ賢人ト仰ク所ノ曾參ト其母ノ信用ヲ以テスルモ、杼ケテ三人カ告テ之ヲ疑ハシムレハ、其母モ之ヲ恐ルハナリ、  
 今臣之



疑臣者ハ臣ヲ疑ハシムル者ト謂ム、特ハ只ト同シ、

開ハ廣ケルナリ、而ノ下ニ舊本以ノ字有リ、今削ル、賢ハ偉嘉ト譽メルナリ、

返ハ還ト同シ、頭ヲ伏シ首カ地ニ至ルヲ稽首ト云フ、故ニ稽首ハレ伏スナリ、

他國カラ來テ奉公スル者ヲ呼テ稱族之臣ト曰フ、其事ヲ胸ニ抱クヲ

賢不若曾參。王之信臣。又不如曾參之母。信曾參也。疑臣者。非特三人。臣恐大王之投杼也。今臣ノ賢ハ曾參ニ及ハス、大王カ臣ヲ信スルハ其上曾參ノ母カ曾參ヲ信スルニ及ハサルナリ、而シテ大王ヲシテ臣ヲ疑ハシムル者ハ只三人ノミニ非ラス、別ルカ故ニ臣ハ大王カ讒者ノ言ヲ聞テ疑ヒテ起ス譬ヘハ夫ノ曾參ノ母カ杼ヲ投出スカ如キテ恐ル

始張儀西并巴蜀之地。北開西河之外。南取上庸。以前張儀ハ四ノ方ニ於テハ巴蜀ノ土地ヲ并吞シ、北ノ方ハ秦ノ領分ヲ西河ノ外迄破ロケ、南ハ上庸ヲ取レハ、其功多ト謂フ可シ、而モ天下ノ人誰モ張儀ヲ多トセスシテ先王惠王ノ功ヲ多トセリ、

天下不以多張子而賢先王。北ノ方ハ秦ノ領分ヲ西河ノ外迄破ロケ、南ハ上庸ヲ取レハ、其功多ト謂フ可シ、而モ天下ノ人誰モ張儀ヲ多トセスシテ先王惠王ノ功ヲ多トセリ、魏文侯令樂羊將而攻中山。三年而拔之。樂羊返而論功。文侯示之謗書一篋。

樂羊再拜稽首曰。此非臣之功也。主君之力也。魏ノ文侯乃チ將トシテ中山ヲ攻メシメシニ、三年掛ツテ之ヲ攻拔キタリ、樂羊因テ國ニ還リテカラ色ケト己ノ手柄ヲ論シ争ヒケレハ、文侯乃チ其三年間ニ他ノ人カ樂羊ノ事ヲ誹謗シタル手紙一箱ヲ出シテ樂羊ニ示ス、樂羊之ヲ視テ恐レ再拜頓首シ曰、中山ヲ拔取リシハ臣ノ手柄ニ非ラサルナリ、全ク主君ノ兵力ニ依ル者ナリト、今臣羈旅之臣也。樗里子公孫奭二人者。挾韓而議之。王必疑之。是王

也。樗里子公孫奭二人者。挾韓而議之。王必疑之。是王

挾ト謂ヒ、サシハサト謂ム、

〔文〕此節ハ甘茂ノ智能ク將來ノ讒ヲ防ク事ヲ叙ス、

罷ハ止メルナリ、彼ハカシコト謂ム、平ハ和親ヲ爲スヲ言フ、

〔文〕此節ハ甘茂カ遂ニ其功ヲ遂ケタル事ヲ叙ス、〔文〕以上ノ小段ハ甘茂カ謀ヲ運ラシ武王ヲ周ニ往カシメタル事

欺魏王而臣受公仲侈之怨也。王曰寡人不聽也。請與子盟。夫レ張儀ヤ樂羊ノ大功ヲ以テスラ尙疑ル、ハ上ニ述ルカ如シ、今然ルニ臣甘茂ハ他國ヨリ來テ事ヘル旅人同様ノ家來ナリ、故ニ樗里子ヤ公孫奭ノ二人カ韓ノ事ヲ彼是レ云ヒ立テ、韓ノ宜陽ヲ攻ムルノ非ヲ誹謗スルナラハ、大王ハ急度臣カ宜陽ヲ攻拔ク事ヲ疑フナル可シ、左スレハ是レ大王ハ魏王ヲ欺テ同盟スルノ詭ヲ受ケテ臣ハ公仲侈ノ怨ミヲ受ルニ至ルナリト、武王其說ヲ聞キ因テ甘茂ニ謂テ、寡人決シテ樗里公孫等ノ誹謗ヲ聽カサルナリ、時フ吾子ト之ヲ誓ハント、武王遂ニ息壤ニ於テ甘茂ト盟フ、卒使丞

相甘茂將兵伐宜陽。五月而不拔。樗里子公孫奭果爭之。武王召甘茂欲罷兵。甘茂曰息壤在彼。王曰有之。因大悉起兵。使甘茂擊之。斬首六萬。遂拔宜陽。韓襄王使公仲侈入謝與秦平。武王竟至周而卒於周。盟ヒシ後竟ニ丞相甘茂ヲシテ軍兵ニ大將トシテ宜陽ヲ伐タシメケルニ、五箇月ヲ經テモ攻拔クヲ得ス、時ニ樗里子ト公孫奭ト案ノ如ク之ヲ争フ、武王因テ甘茂ヲ召シテ軍兵ヲ引拂ハシメント欲シケレハ、甘茂答テ息壤ハ彼所ニ在リト曰ヘハ、武王ハ忽チ誓ヒテ立テシ事ヲ思ヒ出シ成程息壤ノ誓ヒ之レ有リト曰ヒ、因テ大ニ悉ク兵卒ヲ募リ起シ、甘茂ヲシテ宜陽ヲ攻撃タシメシニ、今度ハ大勝ナテ得テ、敵ノ首ヲ切り取ル六萬級、遂ニ宜陽ヲ攻拔キタリ、韓ノ襄王是ニ於テ恐レ公仲侈ヲシテ來リ其罪ヲ謝シ秦ト和親ヲ結ハシメタリ、秦ノ武王乃チ其志望ノ如ク竟ニ周ノ國ニ至リ周ニ

來リ其罪ヲ謝シ秦ト和親ヲ結ハシメタリ。秦ノ武王乃チ其志望ノ如ク竟ニ周ノ國ニ至リ周ニ



ヲ叙ス、  
〔文〕此節ハ韓カ  
圖マレテ急テ秦  
ニ告ル事ヲ叙  
ス、

背ハ承知スルナ  
リ、  
扞ハフセクト訓  
ミ、禦ナリ、

〔文〕此節ハ甘茂  
カ秦王ヲ説キシ  
事ヲ叙ス、  
〔文〕以上ノ小段  
ハ甘茂カ韓ノ爲  
メニ昭王ヲ説テ  
救兵ヲ出サシメ  
タル事ヲ叙ス、

於テ 其弟立爲昭王。王母宣太后楚女也。楚懷王怨前

秦敗楚於丹陽而韓不救。乃以兵圍韓。韓使公仲侈

告急於秦。武王弟乃王位ニ立ツテ昭王ト曰フ、昭王ノ母ナル宣太后ハ楚國生レノ

ヲ出シ救ハサル事ヲ怨ムヤ、乃チ軍兵ヲ以テ韓ノ雍氏ヲ攻メ

後楚人。不肯救。公仲因甘茂。茂爲韓言於秦。昭王曰。太

公仲方有得秦救。故敢扞楚也。今雍氏圍。秦師不下殺

公仲且仰首而不朝。公叔且以國南合於楚。楚韓爲一

魏氏不敢不聽。然則伐秦之形成矣。不識坐而待伐孰

與伐人之利。秦王曰善。乃下師於殺以救韓。楚兵去。

韓カ危急ヲ秦ニ告ケシト雖モ、秦ノ昭王ハ新ニ王位ニ立テテ威權十分ナラス、母ナル宣太后  
ハ楚ヨリ來ル婦人ナルノ故ヲ以テ、韓ノ請ヒニ應ジテ救兵ヲ出ス事ヲ承知セス、公仲侈是ニ  
於テ甘茂ニ依頼ス、甘茂因テ韓ノ爲メニ秦ノ昭王ニ言テ曰、公仲ハ其心正ニ秦ノ救ヒノ援兵  
ヲ得ラル、有ルヲ知ル、故ニ敢テ楚兵ヲ禦キシ者ナリ、今然ルニ雍氏カ楚兵ノ爲メニ攻圍マ

此ノ平宜陽ハ次ノ  
守宜陽ヨリ數年ノ  
事ナリ、  
相長ハ共々其年カ  
成長スルナリ、  
〔文〕此節ハ下文  
ノ爲メニ綱ヲ架  
ク、

〔文〕此以下ハ蘇  
代ト向壽ノ問答  
ナリ、宜ク能ク  
之カ別ヲ爲シ讀  
ムヘシ、  
齊註ハ禽ヲ解シ禽

レテモ、秦ノ救援ノ軍兵カ殺ヨリ繰出サス、斯ク有レハ公仲ハ將ニ首ヲ仰キ秦ノ朝廷ニ出勤  
セサラントシ、韓ノ公叔モ將ニ其國ヲ以テ南ノ方楚ニ合併セントス、若シ楚ト韓ガ合併シ一  
國結テ爲ス日ニハ、魏氏モ孤立スル能ハサルヲ知ルカ故ニ、楚韓カ魏氏ニ合從相親シ秦ヲ伐  
ツ事ヲ勸ムレハ、魏氏モ敢テ聽カヌ緣由ニ行カヌ、然レハ則チ楚韓魏三箇國ノ同盟軍カ秦ヲ  
征伐スルノ形勢ハ成就スルナリ、而モ晉魏ヲス坐シテ居テ征伐サル、チ待ツノ利ハ人ヲ征伐  
スルノ利ト較レハ孰ラカ優ルヤナト、秦ノ昭王此説ヲ聞テ忽チ感悟シ答テ曰宜シト、乃チ軍  
兵ヲ殺ヨリ推出シ以テ韓ヲ救  
フ、楚兵是ニ於テ引キ去レリ、

秦使向壽平宜陽。而使樛里子甘茂

伐魏皮氏。秦王乃チ向壽ヲシテ未ダ鎮定ニ至ラサリシ所ノ宜陽ヲ平定、向壽者宣

太后外族也。而與昭王少相長故任用。向壽如楚。楚聞

秦之貴向壽而厚事向壽。向壽爲秦守宜陽將以伐韓。向壽

者ハ宣太后ノ外族ナリ、斯クシテ昭王ト幼少カラ共ニ遊嬉シナカラ其年カ共ニ成長セシカ故  
ニ昭王ニ任用サレタル人ニソアル、年長スルニ及ヒ向壽アル時楚ニ往キシニ、楚人ハ常々秦  
ノ人カ向壽ヲ敬ヒ尊フ評判ヲ聞キテ手厚ク向壽ヲモテナシケル、夫ハ捨置

使蘇代謂向壽曰。禽困覆車。公破韓辱公仲。公仲收國

復事秦。自以爲必可以封。今公與楚解口地。封小令尹



歐ト爲ス、汪苾マシ、衆隱ニ解口ハ地名ト是ナリ、或ハ蘇カカク開ラキ秦王ニ求ルノ地ト爲ス、牽強ノミ、開ハフサクト訓ム、閉ト同シ、  
 【文】此小節ハ楚ト合シ韓ヲ伐ツノ非ナルヲ言フ、  
 公仲カ蘇代ヲシテ言ハシメタル意ハ、茲ニ準ル、當ハ敵ナリ、謂ハ告ナリ、

以杜陽。秦楚合復攻韓。韓必亡。韓亡。公仲且躬率其私徒以闕於秦。願公孰慮之也。  
向壽カ將ニ韓ヲ伐ントスルヲ聞クヤ、韓ノ公仲乃チ蘇代ヲシテ向壽ニ謂ハシメ曰、格言ニ捕子ト爲リシ者カ困メハ車ヲ轉覆スルニ至ルトハ、乃チ窮鼠カ人ヲ咬ムノ勢ヒナリ、故ニ向壽公カ韓ヲ打破リ韓ノ公仲ヲ恥カシムレハ、公仲ハ乃チ韓ノ國ヲ取リ糲メテ復秦王ニ事ヘントスルノ勢ヒナリ起シ、其心ニ自分ト急度夫ヲ以テ秦王ニ封セラル可シト思フニ相違無シ、今然ルニ向壽公ハ楚王ニ秦領ノ解口地方ヲ授ケ與ヘ、且楚ノ小令尹ヲ封スルニ杜陽ヲ以テセリ、斯ク秦ト楚カ合体シ復韓ヲ攻メレハ韓ハ急度滅亡スルナリ、韓カ若シ滅亡スル者ナラハ、公仲ハ格言ノ所云捕子ト爲リシ者カ困シムナリ、公仲ハ乃チ窮鼠ナリ、左スレハ公仲ハ窮鼠ノ勢ヒナリ以テ將ニ其躬自ラ己ノ私ニ組ミン徒党ノ者ヲ引率シ往キ以テ死生ヲ秦王ニ委テ向壽公ト秦王トノ間ヲ塞キ止メントスルノミ、此レソ格言ニ申ス捕子ト爲リシ者カ困メハ車ヲ轉覆スト云フ者ナリ、故ニ向壽公カ爲ト  
 也。子爲壽謂之公仲曰。秦韓之交可合也。  
向壽之ニ答テ曰吾カタルハ、ナニモ夫ヲ以テ韓ニ敵スルト云フ緣由ニ非ラサルナリ、別ルカ故ニ吾子乃チ向壽ノ爲メニ斯ク公仲ニ告ケ曰ヘヨ、以來秦ト韓ノ交際ハ和合ス可キナリト、  
 對曰願有調於公。古人曰貴其所以貴者貴。王之愛習公也不如公孫爽。其智能公也不如甘茂。今二人者皆不得也。  
蘇代

習ハナレト訓ム、狂レ親シムノ義ナリ、親ハシタシグト訓ミ、其身ヲ以テ親ク事ヲ執ルヲ云フ、參與ト爲シ看目、主ハツカサトルト訓ム、道ハシカダト訓ミ、其義至テ輕シ、  
 【文】此小節ハ楚ト党ヲ爲スノ非ヲ言フ、  
 韓ハヨミシト訓ミ、好ト同ク、仲善ク交ルヲ言フ、  
 【文】此小節ハ宜ク韓ト親愛スヘ

親於秦事。而公獨與王主斷於國者何。彼有以失之也。  
 公孫爽黨於韓。而甘茂黨於魏。故王不信也。今秦楚爭疆。而公黨於楚。是與公孫爽甘茂同道也。公何以異之。  
蘇代是ニ於テ之カ答ヘテ爲シ曰向壽公ニ一亦チ告レラ置ムナリ、古人ノ金言ニ曰其己ノ身ヲ貴クシテ與レル人ノ身分ヲ貴クスル時ニハ己ノ身分ハ自ラ貴シト、サテ昭王カ向壽公ヲ愛シ及ハス、此所ヨリ親レハ此二人ハ政事ニ參與スルヲ得ル答ナリ、然ルニ今此二人ハ皆秦ノ政事ニ參與スルヲ得ス、而シテ向壽公一人ノミ昭王ト決斷シ國家政府ニ掌ルハ何ノ故ソヤト云ヘハ、彼二人ハアル緣由有ツテ失フ有レハナリ、其緣由ト云ヘハ、公孫爽ハ私ニ韓王ニ党シ、而シテ甘茂ハ魏王ニ党ス、此緣由有ルカ故ニ昭王ハ彼二人ヲ信用セサルナリ、今夫レ秦ト楚トカ強チ爭フ、而シテ向壽公カ私ニ楚王ニ徒党スル者ナラハ、是レ乃チ公孫爽ヤ甘茂ト其仕方チ同フスル者ナリ、向壽公ノ今日ノ仕方ハ何チ以テ之ニ異ナランヤ、  
 人皆言楚之善變也。而公必亡之。是自爲責也。公不如與王謀其變也。善韓以備楚。如此則無患矣。韓氏必先以國從公孫爽而後委國於甘茂。韓公之讎也。今公言善韓以備楚。是外舉不辟讎也。  
世



キヲ言フ、

反ハ返ノ古字、

〔文〕此節ハ武遂ト宜陽ノ人民ヲ秦ノ有トスルノ難キヲ言フ、

奚ハ何爲レソナリ、  
穎川ハ本ト楚カ韓ヨリ侵奪セシ地ナリ、因テ寄地ト曰フ、此レ韓土ノ寄語ナリ、寄地ハ和名アツケテ、

皆々楚ハ七面島ノ如ク安リニ其主義ヲ變化スル事ヲ言ヒハヤスナリ、而シテ向壽公カ是カ爲メニ共ニ滅亡スルヲ必スルハ、是レ自分ト己ノ身ヲ貴メルト云者ナリ、向壽公ハ故ニ昭王ト楚ノ七面島ノ如ク善ク變化スル事ニ就テ謀略ヲ運ラズニ如カサルナリ、因テ其變ヲ謀ルカ爲メニ、韓王ニ好ミシ夫ヲ以テ楚ニ備ヘヨ、此ノ如ク楚ニ備ヘテ爲セハ心配無キナリ、斯クセハ韓氏ハ急度先ツ公孫奭ノ意ニ從フテ事ヲ處置シ後ニ至リ國ヲ甘茂ニ任スナル可シ、左スレハ韓ハ向壽公ノ難ナリ、然ルニ今向壽公ハ韓ニ好ミシ夫ヲ以テ楚ニ備フト曰フ時ハ、乃チ是レ外ニ事ヲ慮シテ難ヲ避ケスト云者ナリ、

向壽曰然、吾甚欲韓合、對曰甘茂許公仲以武遂反宜陽之民、今公徒收之甚難、向壽曰君ノ説ハ尤モナリ、故ニ吾ハ甚々韓ノ秦ト

和合スルヲ欲セリ、蘇代之ニ答テ曰雖ヘ然ルモ甘茂既ニ公仲ニ許シ與ルニ行テ侵奪セシ武遂ヲ以テシ又曾テ捕子ニシタル宜陽ノ人民ヲ還ス事ヲ以テセリ、然ルニ今日ニ在テ向壽公カ直チニ之ヲ取リ入レテ秦ノ所有ニセントスルハ甚々困難ナリ、

對曰公奚不以秦爲韓求穎川於楚、此韓之寄地也、公求而得之、是令行於楚而以其地德韓也、公求而不得、是韓楚之怨不解而交走秦也、秦楚爭疆、而公徐過楚以收韓、此利於秦、

向壽曰然、左アレハ武遂ハ終ニ秦ノ有ト爲スナリ、蘇代答テ曰夫レダニ依テ向壽公ハ堂シテ秦ノ威光ヲ以テ韓ノ爲メニ穎川ヲ楚王ニ貰ラヒ受ル事ヲ願ヒ求メサルノ、此ノ穎川ハ韓ノ楚ニ預ケ地ナレハナリ、夫レ向壽公カ願ヒ求メテ穎川ヲ韓ニ與フルヲ得レハ、乃チ是レ秦ノ命令カ楚國ニ行ハレテ其地ヲ以テ韓ニ德ヲ施スト云者ナリ、公カ願ヒ求メテ穎川ヲ得サレハ、是ヲ以テ韓ト楚ト怨ミハ解ケスシテ互ニ走テ秦ニ依頼スルナリ、因テ秦ト楚カ強チ争フテ、斯クシテ公カソロ／＼楚ノ罪ヲ責メ夫ヲ以テ韓ヲ取リ入レ、ハ、此レ秦ニ利益ナリ、

向壽曰奈何、對曰此善事也、甘茂欲以魏取齊、公孫奭欲以韓取齊、今公取宜陽以爲功、收楚韓以安之、而誅齊魏之罪、是以公孫奭甘茂無事也、

向壽因テ又問ヒ曰此レ堂シタ策ノ、蘇代答テ曰否々此レ善長ナル謀略ナリ、其故如何トナレハ、甘茂ハ魏ヲ手掛リトシ以テ齊ノ國ヲ攻取ラント欲シ願ヒ、公孫奭ハ韓ヲ手掛リトシ以テ齊ノ國ヲ攻取ラント欲シ願フ、然ルニ今向壽公ハ曾テ宜陽ヲ攻取リ夫ヲ以テ手柄ヲ爲セシ上ニ、穎川ヲ求テ韓ニ歸スノ故ヲ以テ、楚ト韓ノ兩國ヲ手ニ入レ以テ之ヲ安堵セシメ、而シテ齊ト魏ノ罪ヲ責メル事トナル者ナラハ、是レ公孫奭ト甘茂ハ爲ス可キノ事無キニ至ルナリ故ナリ、

武遂ヲ韓ニ歸スノ時ニ當リ、向壽ト公孫奭カ争フノ緣由ヲ証ス、甘茂竟言秦昭王以武遂復歸之韓、

向壽公孫奭爭之不能得、向壽公孫奭由此怨讒甘茂、茂懼輟伐魏蒲阪亡去、樛里子與魏講罷兵、

〔文〕此節ハ向壽等カ武遂ノ件ヨリ甘茂ヲ讒スル事ヲ叙ス、

〔文〕此小節ハ穎川ヲ求メテ韓ニ歸ス策ノ善長ナルヲ論斷ス、



〔文〕以上ノ一小段ハ、甘茂カ説ニ遇ヒ逃亡スルニ至ル事ヲ叙ス、

〔文〕此節ハ下文ノ爲メニ先ツ領ヲ舉ク、

逃遁ハ逃ノ復語、無所容跡ハ身ヲ匿ス所無シト云フ如シ、此レ甚育ノ辭、會緘ハ一所ニ居テ緘クナリ、緘ハツムクト訓ム、在焉ノ焉ハカシコト訓ム、振ハ救フナリ、當路ハ其時ヲ得ルヲ言フ、

楚ヨリ求メテ韓ニ歸サント謀ルヤ、上ノ問答ニ見ルカ如シ、然ルニ甘茂竟ニ秦ノ昭王ニ言上シ武遂ヲ以テ復之ヲ韓ニ歸ヘシタリ、是ニ於テ向壽己ノ策ノ成ラサルヲ心ニ怒リ、因テ向壽ト公孫爽ト争ヒ武遂ヲ韓ニ歸ス可カラスト言フト雖モ昭王ノ許シテ得タル後故争フ事ヲ得ス、向壽ト公孫爽ハ此争ヒニ由テ怨ミ甘茂ノ事ヲ昭王ニ讒言ス、甘茂説ニ遇ヒ罪ヲ受ルヲ恐レ魏ノ蒲阪ヲ攻伐ツ事ヲ止メ逃亡シ去ル、

穆里子モ因テ魏ト和親シ兵ヲ引キ退ソク、

甘茂之ハ秦走齊逢蘇代、代爲齊使於秦、

甘茂カ秦ヨリ逃亡シ走リ齊ニ往クヤ道ニ蘇代ニ遇フ、時ニ蘇代ハ齊ノ爲メニ使節ト爲リ秦ニ往ク、

甘茂曰臣得罪於秦、懼而逃、無所容跡、臣聞貧人女與富人女會績、貧人女曰我無以買燭、而子之燭光幸有餘、子可分我餘光、無損子明、而得斯一便焉、今臣困、而君方使秦而當路矣、茂之妻子在焉、願君以餘光振之、蘇代許諾、

甘茂因テ是ニ言テ曰僕ハ罪ヲ秦王ニ得タルニ依テ、誅ヲ恐レテ逃ケ出シタルモ、此ヲ緘キケルニ、貧乏人ノ娘カ曰ヒケルニハ我ハ貧ノ故ヲ以テ燭油ヲ買フナラス、而ルニ燭三ノランブノ光ハ仕合セニ餘リカ有レハ、燭三ヨ我ニ餘光ヲ分ク矣、雖ハ斯クスルモ燭三ノ光ノ明白ニハ別ニ損スル事モ無ク、而シテ吾ハ斯ノ一ノ便利ヲ得ルナリト、今ヤ僕ハ困マシテ、此甘茂ノ女房小供ハ

彼所ニ在リ、因テ君カ使節ノ餘光ヲ以テ之ヲ救フ事ヲ願フト、蘇代乃チ之ヲ受合ヘリ、遂致使於秦、已因説秦王曰

甘茂非常士也。其居於秦。累世重矣。自殺塞及至鬼

谷。其地形險易皆明知之。彼以齊約韓魏反以圖秦。非

秦之利也。蘇代遂ニ使節ノ役目ヲ秦ニ致シ畢リ、既ニシ附込ミ秦王ニ説シ曰、甘茂ハ世

問並ノ人物ニ非ラサルナリ、甘茂カ秦ニ居ルヤ、秦王ノ代々重シ用ヒラレタリ、故ニ般ノ要害ヨリ鬼谷ニ至ルマテ、其土地ノ形狀及ヒ險シキト平ラナルトハ皆明白ニ之ヲ知レリ、故ニ彼甘茂カ齊ノ威光ヲ以テ韓魏ノ兩國ニ約束シ合從同盟シ却テ夫ヲ以テ秦ヲ謀ル者ナラハ、秦ノ利益ニ非スシテ大害ナリト、

秦王曰然則奈何。蘇代曰王不若重其

贄厚其祿以迎之。使彼來。則置之鬼谷。終身勿出。秦

曰善。即賜之上卿。以相印迎之於齊。秦王因テ問ヒ曰然ラハ堂シ

其旅用金ヲ澤山下サレ其俸祿ヲ多クシ以テ甘茂ヲ迎フルニ宜シ、彼カ飯リ來リナハ、則チ彼

ヲ鬼谷中ニ居ラシメ、一生彼ヲ他國ニ出ス勿レト曰ヘハ、秦王其策ヲ褒テ善シト曰ヒ、即チ

甘茂ニ上等公卿ノ爵ヲ賜ハリ、甘茂不往。蘇代謂齊湣王曰。夫

賢人ハ英傑ト云フ如シ、

甘茂賢人也。今秦賜之上卿以相印迎之。甘茂德王之賜

累世ノ王ノ累世ナリ、塞ハ要害ヲ指ス、反ハカヘテト訓ム、爲スマシクシテ爲スチ反テスルト云フ、

贄ハ下サレモノト訓ム、

〔文〕此小節ハ秦王カ蘇代ノ言ヲ聽キ、以テ甘茂ヲ迎フル事ヲ叙ス、



處ハ居ナリ、復ハ罪シテ没收シタルヲ本ニ回復スルヲ言フ、市ハワルト訓ミ、寶昂ノ如ク見セビラカスヲ言フ、

〔文〕以上ノ小段ハ、甘茂ヲ謀テ妻子ヲ秦ニ存セシ事ヲ叙ス、驩ハ仲力善クナルヲ云フ、

監門ハ關門ノ監察官ナリ、背ヲ背本ニ不ニ作ル、今國策ニ從

好爲主臣。故辭而不往。今王何以禮之。齊王曰善。即位之上卿而處之。秦因復甘茂之家以市於齊。

蘇代因テ齊ノ湣王ニ謂テ、夫ノ甘茂ハ偉器人物ナリ、故ニ今秦王乃チ之ニ上卿ノ爵ヲ賜ハリ宰相ト爲スノ印章ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ、而ルニ甘茂ハ大王ノ下サレ物ノ恩德ニ感シテ大王ノ臣下ト爲ル事ヲ願フ、刈ルカ故ニ辭退シテ秦ニ往カス、斯ク有レハ大王ハ何等ノ事ヲ以テ甘茂ヲ禮待スルソト曰ヘハ、齊王ハ夫レハ善イ驥梅ナリト曰テ、即チ甘茂ヲ上卿ニ位セシメテ其位ニ居ラシメタリ、スルト秦ニ於テモ其義理ニ因テ甘茂ノ家ヲ本ノ通りニシ是レ看ヨガシニ齊ニ示メシケリ、

齊使甘茂於楚。楚懷王新與秦合婚而驩。而秦聞甘茂在楚。使人謂楚王曰。

願送甘茂於秦。齊王乃チ甘茂ヲ楚ニ使者ニヤリシニ、楚ノ懷王ハ新規ニ秦ト縁組ミチ爲シ仲力善クナリシニ依テ、秦王ハ甘茂カ楚ニ居ルトノ

楚王問於范蜎曰。寡人欲置相於秦。孰可。對曰臣不足以識之。楚王曰寡人欲相甘茂。

可乎。對曰不可。夫史舉下蔡之監門也。大不爲事君。小不爲家室。以苟賤苛廉聞於世。甘茂事之順焉。故惠

王之明。武王之察。張儀之辯。而甘茂事之取十官而無罪。茂誠賢者也。然不可相於秦。

フ、苟ハムサホリト訓ミ、貪ナリ、好ムノ義ナリ、辯ハワルカシコシト訓ミ、好智ニ宮ムヲ云フ、

〔文〕此小節ハ甘茂ヲ宰相トスルノ不可ナル由ヲ推言ス、

而ノ下ニ本ト有ノ字無シ、是レ脱脱ノミ、今之ヲ補フ、内行章義之難ハ内亂ノ名、今其亂ヲ詳ニセス、諸ハ之於ト同シ、鉅ハ大ト同シ、則若チ舊本ニ則莫若ニ作ル、而モ莫

願フ、執人カ宜シク有ル乎ト曰ヘハ、范氏答テ臣ハ之ヲ識別スルニ足ラスト曰フ、楚王又問テ寡人ハ甘茂ヲ秦ノ宰相ト爲サント欲シ望ムカ宜シク有リ乎ト曰ヘハ、范氏答テ曰宜シカラ

ス、其故如何トナレハ、夫ノ史舉ハ下蔡ノ關門ノ目附役ナリ、上ハ人君ニ事ヘルコトヲ爲サス、下ハ己ノ一家ノ生計ヲ爲サス、貧賤ヲ好ミ金錢ニ至テ潔白ナルノ故テ其評判カ世間ニ聞ル程ノ偏僻ノ人物ナルニ、甘茂ハ順焉ト之ニ師事セリ、則チ甘茂ノ城固強キ見ル可シ、故ニ秦ノ惠王ノ眼明カニシ隙間無キモ、武王ノ都推深キモ、張儀ノ好智ナルモ、而モ甘茂ハ是等ノ三人ニ事ヘ十個ノ官職ヲ得テモ罪ヲ得シコト無シ、是ニ由リ之ヲ觀レハ、甘茂ハ誠ニ偉器人ナリ、偉器者ナレハ宰相ニ適ス、然モ秦ニ宰相トスルハ不可ナリ、

夫秦之有賢相。非楚國之利也。且王前嘗用召滑於越。而有内行章義之難。越國亂。故楚南塞厲門而郡江東。計王之

功。所以能如此者。越國亂而楚治也。今王知用諸越而忘用諸秦。臣以王爲鉅過矣。然則王若欲置相於秦。則若向壽者可。夫レ秦ノ政府ニ賢相有ルハ、楚國ノ利益ニ非サルナリ、且ヤ大王以前嘗テ召滑ト云者ヲ越ノ宰相ニ用ヒ、斯クシテ内行章義ノ内亂ノ起ル有リ越



ノ字ハ、是レ行、今之ヲ去ス、

ノ國カ亂レタリキ、故ニ其時ニ楚ハ乃チ南ノ方廣門ノ通路ヲ塞キ止メテ越領ノ江東ヲ楚ノ郡ト爲シタリキ、因テ大王カ當時得タル所ノ手摺ヲ考ヒ計ルニ、能ク此ノ如クムマリ仕送ケタル所以ノ緣山ハ、越ノ國カ亂レタルニ楚ハ能ク治リ居リシニ依ルナリ、サテ大王ハ此策ヲ越ニ用ルチ知リテ此謀ヲ秦ニ用ル事ヲ忘レタリ、臣故ニ大王カ甘茂ヲ以テ秦ニ宰相ト爲スハ大失策ト爲ス、左レト大王若シ宰相ヲ秦ニ置ント欲スルナラハ、則チ向壽ノ如キ者ニ宜シ、

夫向壽之於秦親也。少與之同衣。長與之同車以聽事。王必相向壽於秦。則楚國之利也。

夫レ向壽ノ秦ニ於ル親類ナリ、幼少ヨリ秦王ト衣服ヲ取替ヘテ着タリ、成長シテカラハ一所ニ車ニ乘リ万端事ヲ任セル程ノ仲合ヒナリ、故ニ大王是非トモ向壽ヲ秦ノ政府ニ宰相トセハ、於是使使請秦相向壽於秦。秦宰相向壽而甘茂竟不得復入秦卒於魏。

楚ノ懷王是ニ於テ使者ヲシテ向壽ヲ請テ甘茂ハ竟ニ再ヒ秦ニ入ル事ナラスシテ魏ニ於テ卒ス、

甘茂有孫曰甘羅。茂既死後。甘羅年十二事秦相文信侯呂不韋。秦始皇帝使剛成君蔡澤於燕三年。而燕王喜使太子丹入質於秦。

ハ其孫ニ甘羅ト曰フ有リ、甘茂カ既ニ死スルノ後、甘羅ハ年十二ニシテ秦ノ宰相文信侯呂不韋ニ事フ、秦ノ始皇帝曾テ剛成君蔡澤ヲ燕ニ使者ニ遣リ置ク三年、斯シテ燕王喜乃チ其太子丹

ノ本文ニ雜入スル者、今之ヲ去ル、

ノ爲メニ案ヲ立ツ、

何ハ詰問ノ辭、漢文典ニ就テ之ヲ學ヘヨ、

張卿ハ張唐ヲ指ス、

〔文〕此小節ハ甘羅カ致テ張唐ヲ説キ勸メント望ミシ事ヲ叙ス、

叱ハシカリト訓ム、

〔文〕此節ハ秦カ楚ノ請ヒキ聽テ向壽ヲ相スル事ヲ叙ス、

〔文〕以上ノ小段ハ、甘茂カ魏ニ死スル所以ヲ叙ス、

曰甘羅ノ次ニ、魯本ニハ甘羅者甘茂孫也ノ一句七字有リ、是レ行、注脚

ノ國カ亂レタリキ、故ニ其時ニ楚ハ乃チ南ノ方廣門ノ通路ヲ塞キ止メテ越領ノ江東ヲ楚ノ郡ト爲シタリキ、因テ大王カ當時得タル所ノ手摺ヲ考ヒ計ルニ、能ク此ノ如クムマリ仕送ケタル所以ノ緣山ハ、越ノ國カ亂レタルニ楚ハ能ク治リ居リシニ依ルナリ、サテ大王ハ此策ヲ越ニ用ルチ知リテ此謀ヲ秦ニ用ル事ヲ忘レタリ、臣故ニ大王カ甘茂ヲ以テ秦ニ宰相ト爲スハ大失策ト爲ス、左レト大王若シ宰相ヲ秦ニ置ント欲スルナラハ、則チ向壽ノ如キ者ニ宜シ、

夫向壽之於秦親也。少與之同衣。長與之同車以聽事。王必相向壽於秦。則楚國之利也。

夫レ向壽ノ秦ニ於ル親類ナリ、幼少ヨリ秦王ト衣服ヲ取替ヘテ着タリ、成長シテカラハ一所ニ車ニ乘リ万端事ヲ任セル程ノ仲合ヒナリ、故ニ大王是非トモ向壽ヲ秦ノ政府ニ宰相トセハ、於是使使請秦相向壽於秦。秦宰相向壽而甘茂竟不得復入秦卒於魏。

楚ノ懷王是ニ於テ使者ヲシテ向壽ヲ請テ甘茂ハ竟ニ再ヒ秦ニ入ル事ナラスシテ魏ニ於テ卒ス、

甘茂有孫曰甘羅。茂既死後。甘羅年十二事秦相文信侯呂不韋。秦始皇帝使剛成君蔡澤於燕三年。而燕王喜使太子丹入質於秦。

ハ其孫ニ甘羅ト曰フ有リ、甘茂カ既ニ死スルノ後、甘羅ハ年十二ニシテ秦ノ宰相文信侯呂不韋ニ事フ、秦ノ始皇帝曾テ剛成君蔡澤ヲ燕ニ使者ニ遣リ置ク三年、斯シテ燕王喜乃チ其太子丹

ノ本文ニ雜入スル者、今之ヲ去ル、

ノ爲メニ案ヲ立ツ、

何ハ詰問ノ辭、漢文典ニ就テ之ヲ學ヘヨ、

張卿ハ張唐ヲ指ス、

〔文〕此小節ハ甘羅カ致テ張唐ヲ説キ勸メント望ミシ事ヲ叙ス、

叱ハシカリト訓ム、



焉能ハ不能ノ反語、  
遊ハニハカニト訓

〔文〕此小節ハ甘羅カ文信侯ヲ説キ伏セシ事ヲ叙ス、  
執ハイツレト訓ム、挂ハツシキ、威ハオトシ、

斷ハオトスト訓ム、邑ハ村落ニシ郭有ル者ヲ指ス、小城ト爲シ看ヨ、

執ハドチラトモ訓ム、  
專ハ其政事ヲ自由自在ニスルヲ云フ、

請之而不肯。汝焉能行之。甘羅曰。夫項橐生七歲爲孔子師。今臣生十二歲於茲矣。君其試臣。何遽叱乎。

リ曰去レヨ、我身自分ト此事ヲ頼ミテサエモ承知セサレハ、汝ハ決シテ彼ヲ行ハシムル能ハスト、甘羅直ニ答テ曰、夫レ項橐ハ生レ其年僅カ七ツニシ聖人孔子ノ師匠ト爲レリ、今臣ハ生レテカラ最早十二オナリ、然レハ君其レ臣カ張卿ヲ説キ落スカ否ヤテ試ミヨ、堂シテ俄カニ叱ルソヤ、

卿之功孰與武安君。卿曰武安君。南挫彊楚。北威燕趙。戰勝攻取。破城墮邑。不知其數。臣之功不如也。

チ甘羅ヲ以テ之ヲ試ミントス、甘羅是ニ於テ張卿ニ過テ曰、君ノ手柄ハ武安君ノ手柄ト較レハ孰カ偉赫ゾ、張卿曰武安君ノ如キハ、南ニ於テハ強キ楚軍ノ勢ヒヲ挫キ、北ニ於テハ燕ト趙ト威勢ヲ以テ嚇シ、戰ハハ則チ勝チ攻レハ則チ取リ、城ヲ攻破リ外郭ヲ攻落シ、其員數ノ幾何ヲ知ラス、故ニ臣ノ手柄ハ武安君ニ及ハサルナリ、

應侯之用於秦也孰與文信侯專。張卿曰。應侯不如文信侯專。甘羅曰。卿明知其不如文信侯專與。曰知之。

テ、應侯カ秦王ニ信用サレシハ文信侯ノ專ラチルト較レハ孰ラソヤト曰ヘハ、張卿之ニ答テ、應侯ハ池モ文信侯ノ專ラナルニハ及ハスト曰フ、甘羅是ニ於テ又問テ、君ハ明カニ應侯ハ

雖ハイナムト訓ミ、否トシ難スルナリ、立ハタチトコロニト訓ム、死ハ殺サ、ルナリ、

孺子ハ甘羅ヲ指ス、ムスコト訓ム、裝治ハ支度スルナリ、

〔文〕以上ノ一節ハ甘羅カ張唐ヲ説キ伏セタル事ヲ叙ス、

稱ハ云ヒ觸ラズナリ、カコツケルナリ、遣ハヤルト訓ム、

〔文〕此節ハ甘羅カ其行ヲ許サレ

文信侯ノ專ラナルニ及ハサルヲ知ルカト曰ヘハ、張卿之ニ答テ曰明白ニ之ヲ知レリト、甘羅曰。應侯欲攻趙。武安君難之。去咸陽七里而立死於杜郵。今文信侯自請卿相。燕而不肯行。臣不知卿所死處矣。張唐曰請因孺子行。令裝治行。

甘羅是ニ於テ説シ曰、文信侯ノ專ニ及ハサル所ノ應侯カ曾テ趙ヲ攻メント去ル僅カ七里ニシテ立所ニ自殺ヲ命セラレテ杜郵ニ於テ殺サレタリ、然ルニ今應侯ノ專ナルモ尙及ハサル所ノ文信侯カ身自ラ若ニ燕ニ宰相タル事ヲ請テサエモ行クヲ承知セストアレハ、臣ハ若カ何時文信侯カラ自殺ヲ命セラレテ何所テ死スルカヲ知ラサルナリト、張唐是ニ至リ始テ悟リ、堂ソ子息三ノ周旋ニ因テ旅行セント曰テ、燕ニ旅行スルノ支度ヲ家内ニナサシメケル、

行有日。甘羅謂文信侯曰。借臣車五乘。請爲張唐先報趙。文信侯乃入言之於始皇曰。昔甘茂之孫甘羅。年少耳。然名家之子孫。諸侯皆聞之。今者張唐欲稱疾不肯行。甘羅說而行之。今願先報趙。請許遺之。始皇召見。使甘羅於趙。

既ニシ燕ニ行ク爲メニ出立スルノ日ハ定マレリ、甘羅是ニ於テ文信侯ニ謂ヒ曰、臣ニ車五乘ヲ借セヨ、然ラハ臣請フ

稱ハ云ヒ觸ラズナリ、カコツケルナリ、遣ハヤルト訓ム、



タル事ヲ叙ス、  
流石ハサスカ、

齊ハラタスト訓  
ム、割與ルナリ、

〔文〕茲ニ至テ  
ハ、文氣急ナル  
甚シ、故ニ燕太  
子丹ノ句頭ニ曰  
ノ字ヲ省ク、秦  
不欺燕也ノ次  
ニ、舊本ニ燕秦  
不相欺者伐趙危  
矣ノ二句十有  
リ、是レ註文ノ  
本文ト混淆スル  
者、今之ヲ變去  
ス、

張唐ノ爲メニ先ツ其事ヲ趙王ニ報告センノミト、文信侯因テ宮中ニ入り其事ヲ始皇帝ニ言上  
シ曰、前ノ甘茂ノ孫ノ甘羅ハ、年ヲ言ヘハ僅カ十二ノ少年ノミ、左レト流石ハ名家ノ子孫ニ  
テ偉語奴ナリ、諸大名モ皆其評判ヲ聞キ知レリ、今般張唐ハ假病ヲ構ヘ行ク事ヲ承知セサル  
テ欲シ認ミシニ、甘羅カ説キ落シテ彼ヲ燕ニ行ルコトトセリ、因テ只今甘羅ハ先ツ其山ヲ趙  
王ニ報知スル事ヲ願ヒ出テタリ、此故ニ敢テ請フ許シ甘羅ヲ先キニ  
遣ルヲト、始皇是ニ於テ甘羅ヲ召シ遇ヒ、甘羅ヲ使者トシ趙ニ遣ル、

趙襄王郊迎  
甘羅、甘羅説趙王曰、王聞燕太子丹入質秦歟、曰聞之、

曰聞張唐相燕歟、曰聞之、燕太子丹入秦者、燕不欺

秦也、張唐相燕者、秦不欺燕也、燕秦不相欺無異故、

欲攻趙而廣河間、王不如齎臣五城以廣河間、請歸燕太

子、與疆趙攻弱燕、趙王立自割五城以廣河間、

〔文〕此節ハ甘羅  
マテ出テ甘羅ヲ迎ヘケレハ、甘羅乃チ趙王ニ説シ曰、大王ハ燕ノ太子丹カ秦ニ入テ人質トナ  
リシ評判ヲ聞キシカト、趙王答テ之ヲ聞ケリト曰フ、甘羅問テ然ラハ張唐カ燕ニ宰相トナリ  
シ事モ聞カレシカト曰ヘハ、趙王答テ之ヲ聞ケリト曰フ、甘羅曰燕ノ太子丹カ秦ニ入り人質  
ト爲リシ理山ハ、燕カ秦ヲ欺カサルノ証ヲ立テシ者ナリ、張唐カ燕ニ宰相ト爲ルノ理山ハ、  
秦カ燕ヲ欺カサルノ証ヲ立テシ者ナリ、斯ク燕ト秦ノ兩國カ互ニ欺カサルノ証ヲ立ルハ異ナ  
ル緣故無シ、ソハ兩國カ同盟一致シ趙ヲ攻伐ツテ河間ノ地ヲ廣ロメ領セント欲シ願フカラナ

カ趙王ヲ説伏セ  
ル事ヲ叙ス、

始ハモトト訓ム、

〔文〕此節ハ甘羅  
カ唇舌ヲ以テ河  
間五城ト別ノ十  
一城ヲ得タルノ  
功ヲ以テ、封セ  
ラレ秦ノ旗ノ下ノ  
侯ト爲リシ事ヲ  
叙シ、以テ收結  
ト爲ス、

〔文〕上段ハ獨リ  
樛里子ノミヲ言  
フ、

關關ハムラサトト  
訓ム、

稱ハイヒハヤスナ  
リ、

リ、刈ルカ故ニ大王ハ其夷チカキ臣ニ五箇ノ城地ヲ割キ渡シ夫ヲ以テ秦王カ河間ヲ廣メルノ  
意ヲ満足セシメヨ、然ラハ臣請フ誓テ燕ノ太子ヲ追取ヘシ、而シテ強キ趙王ト同盟一致シ弱  
キ燕ノ領分ヲ攻取ラント、是ニ於テ趙王其説ニ伏シ立所ニ自ラ五箇城  
ヲ割キ與ヘ夫ヲ以テ秦王カ河間ヲ廣メ領スルノ意ヲ満足セシメケリ、

秦歸燕太子  
趙攻燕得上谷三十城、令秦有十一、甘羅還報、秦乃

封甘羅以爲上卿、復以始甘茂田宅賜之、

太史公曰、樛里子ハ秦ノ惠王ト骨肉兄弟ノ親ミチ以テ其身分ノ重ク貴キハ、

故頗采焉、

太史公曰、樛里子ハ秦ノ惠王ト骨肉兄弟ノ親ミチ以テ其身分ノ重ク貴キハ、

故頗采焉、

甘茂起下蔡閭闔、

甘羅年少、

然出一奇計、

聲稱後世、



〔文〕二段ハ甘茂ト甘羅トヲ論ス、

說シ十六城ヲ得、是ヲ以テ其聲譽ハ後世ニ云ヒハヤサル、○〔文〕二句揚、雖非篤行之君子、然亦戰國之策士也、

略詐僞ノ山師ヲ爲スサテモ、

〔文〕首節ハ穰侯ノ母及ヒ先祖姓氏ヲ叙ス、

穰侯魏冉者秦昭王母宣太后弟也、其先楚人、姓辛氏、

弟爲昭王、昭王母故號爲辛八子、及昭王即位、辛八子

號爲宣太后、

宣太后非武王母、武王母號曰惠文后、先

先武ノ先ハ、サキヲテト訓ム、

宣太后ハ武王ノ母ニ非ラス、武王ノ母ノ稱號ヲ惠文后ト曰ヒ、武王ノ死ヨリ早ク死セリ、

〔文〕二節ハ穰侯ト昭王ハ兄弟ナルモ、其母ノ異ナルヲ言フ、

父長弟曰穰侯、姓魏氏、名冉、同父弟曰辛戎、爲華陽

君、而昭王同母弟曰高陵君、涇陽君、而魏冉最賢、自惠

王武王時任職用事、

王即位以冉爲將軍衛咸陽、誅季君之亂、而逐武王后出

之魏、昭王諸兄弟不善者皆滅之、威振秦國、昭王少

宣太后自治、任魏冉爲政、

武王カ死シタルニ依テ武王ノ同腹異腹ノ弟共ハ

シタルニ、獨リ魏冉ノミハ務メテ能ク昭王ヲ王位ニ立テタルヲ爲シタリ、此故ヲ以テ昭王カ位

ニ即クニ及テハ魏冉ヲ以テ將軍ト爲シ咸陽ノ都ヲ警衛セシム、魏冉因テ季君カ企テタル乱ヲ

誅戮不定シ、其上武王ノ后ヲ逐出シ魏ニ往カシメ、昭王ノ衆多ノ兄弟ノ不善ナル者ハ皆悉ク

之ヲ誅シ滅シタルニ依テ、其威光大ニ秦ノ國ニ顯ハル、是ニ於テ昭王ハ幼少ナルヲ以テ、宣

〔文〕此節ハ宣太后ノ二弟ト昭王ノ二弟中ニ於テ、獨リ穰侯カ怡利ニシ秦政ヲ執行セシ事ヲ叙ス、

卒ハ死ナリ、カハットメト訓ミ、勉ノ古字、

諸兄弟ハ同腹異腹ノ衆多ノ兄弟ヲ云フ、

〔文〕此節ハ穰侯カ功ヲ累テ立ル

ト昭王幼少ノ故ヲ以テ、因テ秦

國ノ政ヲ專ニセシ事ヲ叙ス、



太后カ自分ト秦ノ政治ヲ爲スト云フ名義ニテ、昭王七年樗里子死シ、而使涇陽君質於齊。趙人樓緩來相秦。趙不利。乃使仇液之。秦請以魏冉爲秦相。昭王ノ七年ニ樗里子死シ、而シテ涇陽君ヲシテ齊ニ人質タリ、趙ノ政府之ヲ以テ却テ己ノ國ニ不利益ト爲シ、乃チ仇液ヲシテ秦ニ往キ魏冉ヲ以テ秦ノ宰相ト爲スコトヲ請願セシム。仇液將行。其客宋交謂液曰。秦不聽公。樓緩必怨公。公不若謂樓緩曰。請爲君母急秦。秦王見趙請相魏冉之不急且不聽我。仇液カ將カントスルヤ、其門下ノ客宋交カ仇液ニ謂テ、秦ノ政府カ若シ公ノ請願スル所チ聽キ用ヒサル時ニハ、樓緩カ公ヲ怨ムヤ必然ナリ、刈ルカ故ニ公ハ乃チ樓緩ニ謂テ君ノ爲メニ秦ニ於テ樓緩ヲ免職スル事ヲ急ニスル毋レト請願セシニ秦王ハ趙ノ政府カ魏冉ヲ相トスル事ヲ請願スルノ急ナラサルヲ見テ將ニ我カ後年魏冉ヲ秦ノ宰相ニスルト云フ請願ヲ聽キ用ヒサラントスト曰フニ、公言。而事不成以德樓子。事成魏冉固德公矣。若カス、公カ斯ク樓緩ニ言ヒ置キ、斯クシテ趙ノ請願スル事カ成就セサル時ハ公ハ夫ヲ以テ樓緩子ニ恩德ヲ施スコトニナリ、事カ成就スル日ニハ魏冉カ本カラ公チ恩德有ル人ト爲スナリ、於是仇液從之。而秦果免樓緩。而魏冉相秦。仇液是ニ於テ宋交ノ教ヘニ從ヒ

〔文〕此節ハ下文ノ爲メニ其領ヲ挈ク、宋交ヲ本ト宋公ニ作ル、今國策ニ從フ、爲君ヲ本ト爲公ニ作り、聽我ヲ聽公ニ作ル、是レ代名詞ノ作用ヲ諷ル、故ニ共ニ今之ヲ試ミニ改ム、〔文〕固德公矣、テハ、皆宋交ノ言ナリ、〔文〕此段ハ魏冉カ樓緩ニ代ツテ宰相タル緣由ヲ叙ス、

代ハカハリト則ム、虞ハ捕子トスルナリ、益ハマシト則ミ、増ト同シ、〔文〕此節ハ白起ヲ擧テ大功ヲ立テタルニ依テ、冉カ封セラレテ穰侯ト爲リシ事ヲ叙ス、魏猷河東方四百里ノ一句ハ、舊本ニ在テハ、爲秦將攻魏ノ句ノ次ニ在リ、傳書ノ其位ヲ誤書スルニ依

樓緩ニ語リシニ、斯クシテ秦ハ其請願ノ如ク果シテ樓緩ヲ免職シ、斯クシテ魏冉ハ秦ニ宰相タリ、欲誅呂禮、禮出奔齊。昭王十四年魏冉舉白起使代向壽將而攻韓魏。敗之伊闕。斬首二十四萬。虜魏將公孫喜。明年又取楚之宛葉。魏冉謝病免相。以客卿壽燭爲相。其明年燭免。復相冉。乃封魏冉於穰。復益封陶。號曰穰侯。魏冉カ宰相タルヤ、呂禮ト云者ヲ誅殺セント欲シタルニ、禮ハ早クモ齊ニ出奔セリ、昭王即位ノ十四年日ニ魏冉乃チ白起ヲ抜キ韓ケ向壽ニ代ツテ大將トナシテ韓ト魏チ攻伐タシメタルニ、白起ハ乃チ韓魏ノ軍ヲ伊闕ニ打敗リ、首ヲ切ル二十四萬級ニシ、魏ノ將軍公孫喜ヲ捕子ト爲シ、明年又楚ノ宛葉地方ヲ攻取ツタリ、魏冉ハ病氣ヲ以テ辭謝シ宰相ヲ免職シタルカ故ニ、客分ノ公卿ナル壽燭ヲ以テ秦ノ宰相ト爲ス、其明年ニ至リ壽燭免職ス、因テ冉ハ魏冉ヲ宰相トシ、乃チ魏冉ヲ穰ノ地方ニ封シ、又増シ封スルニ陶ヲ以テシ、號シ穰侯ト曰フ、穰侯封四歲。爲秦將攻魏。拔魏之河內。取城大小六十餘。魏猷河東方四百里。昭王十九年秦稱西帝。齊稱東帝。月餘呂禮來。而齊秦各復歸帝爲王。魏冉復相秦六歲而免。免二



ル、今故ニ之ヲ移  
所任舉也ノ下ニ、  
舊本ハ相嘗ノ二字  
有リ、是レ註文ノ  
本文ニ雜入スル  
者、今之ヲ交ル、  
〔文〕此段ハ穰侯  
カ累功ヲ以テ累  
進シ、其富高ク  
秦ノ王室ノ上ニ  
出ルヲ叙ス、是  
レ文章ノ揚ノ極  
點、

歲復相秦。四歲而使白起拔楚之郢。秦置南郡。乃封白  
起爲武安君。白起者穰侯之所任舉也。於是穰侯之富富  
於王室。穰侯封土ヲ受シ後四年ヲ經テ、秦ノ大將軍ト爲リ魏ヲ攻メ、魏ノ河内ヲ拔取リ、  
城ヲ奪取ル大小合シ六十餘ナリ。魏王因テ恐レ河東ノ四百方里ノ地ヲ秦ニ獻  
スルニ至ル、昭王即位ノ十九年目ニ王ト稱スルヲ廢シ秦ハ四方ノ帝ト稱シ、齊ハ東方ノ帝ト  
稱ス、一箇月計リ經テ前ニ出奔シタル呂禮秦ニ來テ帝ト稱スルノ利害ヲ言フ、斯クテ齊モ秦  
モ銘々帝ノ稱號ヲ歸ヘシテ齊王秦王ト曰フ、夫ハ兎モ角モ、魏冉再ヒ秦ニ宰相タル六年ニシ  
テ免職シ、免職スル二年ニシ又秦ニ宰相タリ、後四年ヲ經テ魏冉乃チ白起ヲシテ楚ノ郢ヲ拔  
取ラシメ、秦乃チ郢ヲ改名シ秦領ノ南郡ヲ置ク、乃チ此功ヲ賞シ白起ヲ封シ武安君ト爲ス、  
白起ナル者ハ穰侯カ拔郢ケ軍國ノ事ヲ委任スル者ナリ、今乃チ封土ヲ受ル此ノ如シ、是ニ於  
テ穰侯ノ富ハ秦ノ王  
室ノ富ヨリ富メリ、

昭王三十二年穰侯爲相國。將兵攻魏走  
芒卯入北宅。遂圍大梁。昭王カ即位ノ三十二年ニ穰侯ハ秦ノ相國ト爲リ、軍  
兵ニ大將ト爲リ魏ヲ攻メ魏將芒卯ヲ走クシ北宅ニ亂  
入、梁大夫須賈說穰侯曰。臣聞魏之長吏謂魏王。此時二梁  
戰ヲ執ル須賈カ穰侯ニ說シ曰。臣近頃魏ノ長官カ魏王  
ニ謂ヒ聽カセタル說ヲ聞ケリ、其說ハ乃チ次ノ如シ、

曰昔梁惠王伐趙。戰  
勝三梁拔邯鄲。趙氏不割而邯鄲復歸。齊人攻衛。拔故  
國殺子良。衛人不割而故地復反。衛趙之所以國全兵勁  
而地不并於諸侯者。以其能忍難而重出地也。宋中山數  
伐割地。而國隨以亡。臣以爲衛趙可法而宋中山可爲戒  
也。魏ノ長官ノ說ニ曰往年梁ノ惠王カ趙ヲ攻伐ツヤ、戰ヒ三梁ニ於テ勝チ邯鄲ヲ拔キタリ、  
故ニ趙氏ハ領地ヲ割テ惠王ニ獻スル筈ナリ、然ルニ趙氏ハ其領地ヲ割キ惠王ニ與ヘス  
シテ邯鄲ハ再ヒ趙氏ノ手ニ歸リタリ、齊人カ衛ヲ攻ルヤ、故國ヲ拔キ將軍子良ヲ殺シタリ、  
故ニ衛ハ領地ヲ割キ與ヘル筈ナリ、然ルニ衛人其領地ヲ割テ齊王ニ獻セスシテ故國再ヒ衛  
王ノ手ニ返リタリ、夫レ衛ト趙トカ敗北シテ其國カ完全ニシ兵勢カ強クナリ其領地ヲ他ノ大  
名(惠王ト齊王ト)ニ并吞サレメ緣由ト云ヘハ、衛趙ハ能ク厄難ヲ耐ヘ忍ビテ少シテモ領地ヲ渡ス  
ヲ惜ミシヲ以テノ故ナリ、大王宋ト中山ヲ看ミ、宋ト中山ノ皆ハ數々攻伐レテ其度毎ニ領地  
ヲ割キ與ヘタリ、斯クシテ宋ト中山ノ兩國ハ領地ヲ割與フルニ隨ヒテ滅亡セリ、刈ルカ故ニ  
臣カ思フニ衛ト趙ト領地ヲ惜ミ割與ヘヌハ手本トス可クシテ

秦貪戾之國也。  
蠶食魏氏。又盡晉國。戰勝暴子割八縣。地未畢入。兵  
復出矣。夫秦何厭之有哉。今又走芒卯入北宅。此非敢  
攻梁也。且劫王以求多割地。王必勿聽也。

記セヨ、  
故國ト故地ハ同  
シ、反ハ返ノ古  
字、勁ハツヨシト  
訓ム、  
重ハチシムト訓  
ム、蠶訓ハハ、カ  
ル、

戾ハモトルト訓  
ミ、背ナリ、  
舊本ニハ國也ノ下  
ニ而世親ノ三字有  
リ、是レ註文ノ  
ミ、今之ヲ交ル、  
畢ハ悉クナリ、  
劫ハチヒヤカスト  
訓ミ、赫シ恐レシ  
ムルナリ、  
厭ハアグ、又アキ

復出矣。夫秦何厭之有哉。今又走芒卯入北宅。此非敢  
攻梁也。且劫王以求多割地。王必勿聽也。



タルト訓ミ、蹇ノ古字、

晋國ハ晋ノ故地ヲ指ス、

去ハ捨ナリ、

之必ノ必ハ決ナリ、

必見欺マテハ、乃チ魏ノ長吏ノ言ナリ、

ナリ、蹇カ桑ノ葉ヲ食フ如ク次第ノ魏氏ノ領地ヲ食ヒ取り、又悉ク晋ノ故國ヲ奪フタリ、

往年戦ヒ韓ノ將暴子ニ勝チ韓領ノ八縣ヲ割取リ和親ヲ爲セシ時ニ、其割取リシ八縣ノ地カ

未タ悉ク秦ノ手ニ入ラザリシ時ニ、秦ハ忽チ其和親ヲ破リ、秦ノ軍兵カ又復爾谷關カラ出テ

韓ヲ伐ツタリ、夫レ秦ノ貪慾ハ何ソ飽キ足ル之レ有ランヤ、今般又魏將世卯ヲ打チ走ラシ北

宅マテ亂入スルハ、此ハナニモ敢テ梁ヲ攻メ平ラケルト云フ理由ニハ非ラサルナリ、ソハ將

ニ大王ヲ勅カシ夫ヲ以テ潯山領地ヲ割テ秦ニ献上セシメントスルナリ、故ニ大王決シテ承知

スル勿レ、今王背楚趙而講秦、焚趙怒而去王、與王爭事秦

秦必受之、秦挾楚趙之兵以復攻梁、則國求無亡不可

得也、願王之必無講也、王若欲講、少割而有質、不然

必見欺、今度大王カ楚趙ト同盟ノ約ニ背キテ秦ニ和親セハ、楚趙ノ王ハ怒テ大王ヲ捨テ

斯ク有テ秦カ楚趙ノ軍兵ヲ其行軍ノ間ニ挾ミ以テ再ヒ梁ヲ攻ルナラハ、則チ國家ノ滅亡無

キチ願フモ得ラレヌナリ、刈ルカ故ニ大王ノ和親スル無キニ決スルヲ願フナリ、左レトモ大

王カ萬一和親ヲ欲スルナラハ、極少々領地ヲ割與ヘ秦ヨ

リ人質ヲ取レヨ、然ラサレハ秦人ニ欺カラルルニ相違無シ、此臣之所聞於魏也

願君王之以是慮事也、以上ノ説カレ臣カ魏王ノ宮中ニ於テ長吏ノ言フ所

チ事ヲ處置スルヲ考ヒ計ルヲ願フナリ、因テ請フ試ニ臣ノ意ヲ述ヘン、周書曰惟命不予常、此言幸之

不可數也、夫戰勝暴子割八縣、此非兵力之精也、又非

計之工也、天幸爲多矣、今又走芒卯入北宅以攻大梁、

是以天幸自爲常也、智者不然、周書ニ曰此レ天命ハ常ニ於テセスト、此

ヒシ者ニソアル、夫レ戦ヒ暴子ニ勝チ八縣ヲ割キ取リシハ、軍兵腕力ノ精練ニ依ルト云フニ

非ラサルナリ、又謀計ノ巧者ト云フニ非ラサルナリ、ソハ全ク天幸ヲ多シト爲スナリ、然ル

ニ今度又大將芒卯ヲ打走ラシ北宅ニ亂入シ以テ大梁ヲ攻ルトアレハ、是レソ乃チ天幸ヲ以

テ自分ト數々爲スト云フ者ナリ、此レ愚者ノ所作ノミ、智者ハ是ノ如ク天幸ヲ數々セス、

臣聞魏氏悉其百縣勝甲以上成大梁、臣以爲不下三十

萬、以三十萬之衆守梁七仞之城、臣以爲湯武復生不易

攻也、夫輕背楚趙之兵、陵七仞之城、戰三十萬之衆、

而志必舉之、臣以爲自天地始分以至于今未嘗有者也、

攻而不拔、秦兵必罷、陶邑必亡、則前功必弃矣、臣力聞キ

及ヒタルニ今般魏氏ハ其領分百縣ニ於テ勝レタル甲冑ノ兵士以上ノ者ノミヲ悉ク募リテ大梁ノ城ヲ守

常ハシハト訓ム、度々ノ義、此レ斷章取義ノ法、斷章取義ノ說明ハ、文法學講義ニ詳カニセリ、不然ハ不如是ト同シ、天幸ハ和名モツケノシアハセ、乃チ僥倖ナリ、盡ク募ルヲ悉スト云フ、勝甲ハ撰リ拔キノ兵士ナリ、仞ハ四尺ナリ、陵ハシノキト訓ミ、凌ト同シ、舉ハ拔キ取ルナリ、落城セシムルナリ、罷ハツカレト訓ミ、疲ナリ、弃ハ失フノ義、



高サ四七二十八尺ノ城ヲ守レハ、臣カ思フニ殷ノ湯王ト周ノ武王カ再ヒ此世ニ生レ來ルモ攻  
メ易スカラサルナリ、夫レ秦軍カ輕クシク楚趙ノ軍兵ニ背キ之ヲ敵トシ、梁ノ高サ二十八尺  
ノ城ヲ凌キ、三十萬ノ衆銳ニ敵シ、斯クシテ其志ハ之ヲ拔キ取ルニ決スルモ、臣カ思フ  
ニ能ク拔キ取リシハ天下地カ始テ分レシ時ヨリ今日迄ニ未タ嘗テ有ラサル例ナリ、刈ルカ故  
ニ之ヲ攻メ戰フテ拔取ル能ハサル時ニハ、秦ノ軍兵ハ急度疲弊シ、穰侯ノ陶邑ハ  
急度滅亡センノミ、然レハ則チ穰侯カ以前進テタル手柄ハ急度皆無ニナルナリ、  
今魏  
氏方疑<sup>フ</sup>可以<sup>ハ</sup>少割<sup>ク</sup>也。願君速<sup>ニ</sup>楚趙之兵未<sup>ダ</sup>至於<sup>ラ</sup>梁。亟<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>少  
割<sup>ク</sup>收<sup>メ</sup>魏。魏方疑<sup>フ</sup>而以<sup>テ</sup>少割<sup>ク</sup>爲<sup>ス</sup>利。則君得<sup>ル</sup>所欲<sup>ス</sup>矣。楚趙怒<sup>ル</sup>  
於<sup>テ</sup>魏之先<sup>ニ</sup>己<sup>ニ</sup>也。必爭<sup>ヒ</sup>事<sup>ヲ</sup>秦。從<sup>ヒ</sup>以此<sup>ヲ</sup>散<sup>ラ</sup>。而君後擇<sup>ル</sup>焉。  
今魏  
方ニ少シク割ク策ヲ以テス可キカ疑フナリ、刈ルカ故ニ楚ト趙ノ援兵ノ未タ梁ニ到ルセサ  
ル前ニ、穰侯カ速カニ少シ領地ヲ割クト云フ策ヲ以テ魏氏ヲ取リ入レヨ、夫レ魏氏カ方ニ疑  
フカラシテ少シク領地ヲ割クト云フ策ヲ以テ利有リト爲セハ、則チ穰侯ハ將來心ノ欲シ願フ  
所ヲ得レナリ、其故如何トナレハ、楚ト趙ノ君カ魏氏ノ已等ニ先タツテ少シク地ヲ割テ秦ト  
和親スルヲ怒ルヤ、楚王ト趙王カ急度爭テ秦王ニ事ヘルニ相違無シ、左スレハ魏楚趙ノ合  
從同盟ハ忽チ此事ヲ以テ解散スルカラナリ、斯クシテ穰侯ハ後ニ楚魏趙ノ中ヲ擇ヒ取レヨ、

且君之得<sup>ル</sup>地。豈必<sup>ズ</sup>以<sup>テ</sup>兵哉。割<sup>ク</sup>晉國。秦兵不<sup>レ</sup>攻<sup>ル</sup>而魏必<sup>ズ</sup>  
效<sup>ス</sup>絳安邑。又爲<sup>ス</sup>陶開<sup>ク</sup>兩道。衛必<sup>ズ</sup>效<sup>ス</sup>單父。秦兵可<sup>レ</sup>全<sup>ク</sup>而君

開兩道ノ次ニ舊本  
ニハ幾盡故宋ノ一  
目、

楚趙怒ノ上ニ何則  
ノ二字ヲ添テ看  
ル、亦誤加ノミ、  
而以テ而得<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>作  
者、今之ヲ變ル、  
傳書ノ際ニ次句  
ヲ看テ誤加スル  
者、今之ヲ變ル、  
則君ノ句ノ上ニ必  
欲之ノ三字有リ、  
是レ註ノ本文ニ混  
スル者、亦皆變  
ル、

句四字有リ、是レ  
註文ノ本文ヲ侵汚  
スル者、今之ヲ變  
去ル、

〔文〕以上ハ皆須  
買ノ言ナリ、

〔文〕以上ノ一段  
ハ穰侯カ須買ノ  
說ヲ聽キ、以テ  
梁ノ圍ミヲ解キ  
シ事ヲ叙ス、

趙韓魏ハ乃チ三晉  
ナリ、

益ハ増ナリ、  
且ハ將ナリ、

〔文〕此節ハ穰侯  
カ數勝ノ勢ヒニ  
乘シ齊ヲ伐ツ事  
ヲ叙シ、以テ下  
文ノ領ト爲ス、

制<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。何<sup>ナ</sup>素<sup>ノ</sup>而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。何<sup>ナ</sup>爲<sup>シ</sup>而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>。願<sup>フ</sup>君<sup>ノ</sup>孰<sup>ク</sup>慮<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>。而<sup>レ</sup>無<sup>レ</sup>行<sup>ハ</sup>  
危<sup>ク</sup>。且穰侯カ今日ノ威光ヲ以テスル時ニハ領地ヲ取リ得ル、豈必<sup>ズ</sup>モ兵力ヲ以テセンヤ、穰  
侯カ晉ノ故國ニ割據スルナラハ、秦ノ軍兵ハ攻伐タサルモ魏王ハ絳ト安邑ヲ献上スル  
ニ相違無シ、又陶邑ノ爲メニ二本ノ新道ヲ開ラケ者ナラハ、衛ノ君ハ單父地方ヲ献上スルニ  
相違無シ、斯ク秦兵ハ安全ニ居テ穰侯之ヲ制服スルヲ得可シ、左レハ何ヲ求メテ得サランヤ、  
何ヲ爲シテ成就セザランヤ、故ニ穰侯カ篤ト之  
ヲ考ヒ計ルヲ願フ、而シテ危キ事ヲ行フ勿レト、

穰侯乃チ梁ノ大夫須買ノ說ヲ一聞キ畢リ之ニ答テ名  
論ナリト曰テ、乃チ梁ノ圍ミヲ解キ攻伐ヲ止メテ去ル、

明年魏背<sup>キ</sup>秦與<sup>テ</sup>齊從<sup>ヒ</sup>親<sup>ス</sup>。  
秦使<sup>シ</sup>穰侯<sup>ヲ</sup>伐<sup>ク</sup>魏。斬<sup>ル</sup>首<sup>ヲ</sup>四萬。走<sup>ラ</sup>魏將<sup>ヲ</sup>暴鳶<sup>ヲ</sup>得<sup>ル</sup>魏三縣。穰  
侯益<sup>シ</sup>封<sup>ス</sup>。明年穰侯與<sup>テ</sup>白起<sup>ト</sup>客卿<sup>ト</sup>胡陽<sup>ト</sup>復<sup>テ</sup>攻<sup>ク</sup>趙韓魏。破<sup>リ</sup>芒卯<sup>ヲ</sup>  
於<sup>テ</sup>華陽<sup>ノ</sup>下。斬<sup>ル</sup>首<sup>ヲ</sup>十萬。取<sup>リ</sup>魏之卷<sup>ヲ</sup>蔡陽<sup>ヲ</sup>長社<sup>ヲ</sup>趙氏<sup>ヲ</sup>觀津<sup>ヲ</sup>。且<sup>ニ</sup>  
與<sup>テ</sup>趙觀津<sup>ヲ</sup>益<sup>シ</sup>趙<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>兵伐<sup>ク</sup>齊。其翌年魏乃チ秦ニ背キ齊ト合從和親セリ、秦因テ穰  
侯ノ大將暴鳶ヲ打走ラシ魏ノ三縣ヲ取得タリ、穰侯其功ニ依テ封士ヲ加増ス、其翌年穰侯  
乃チ白起及ヒ客卿胡陽ト又趙韓魏ノ三晉ヲ攻メ、其將芒卯ヲ華陽ノ下ニ於テ打破リ、首ヲ切  
ル十萬級、魏ノ卷ヲ蔡陽ヲ長社ト趙領ノ觀津ヲ拔取リ、將ニ趙ニ其從  
セル觀津ヲ還ヘシ與テ秦ノ軍兵ヲ以テ趙軍ニ加勢シテ齊ヲ伐タントス、

齊襄王懼<sup>ル</sup>



遺ハ贈ナリ、  
必之ノ必ハ、其決  
シテ齊ヲ伐タサル  
ヲ請合フナリ、  
孰ハ熟ノ古字、  
習ハ老練ノ義、

百相云々ノ四句  
ハ、百相背也、不爲  
不信、百相欺也、不  
爲無行ノ二句ヲ分  
チ、斯ク排置シ四  
句ト爲スナリ、不  
爲ノ爲ハ曰ノ字ト  
爲シ看ヨ、  
無行ハ無法ト云フ  
如シ、  
其領地ヲ増スチ肥  
ト曰フ、舊本ニ  
肥趙ノ下ニ趙秦之  
深難ノ一句五字有  
リ、此レ重衍、今  
之ヲ削ル、

使蘇代爲齊陰遺穰侯書曰、

齊ノ襄王其評判キ聞キ恐レテ蘇代ニ命シ齊ノ爲  
メニ内々穰侯ニ手紙ヲ贈ラシメ曰、○(文)以下

ハ手紙

臣聞往來者言曰秦將益趙甲四萬以伐齊、

臣竊必

之弊邑之王曰、秦王明而孰於計、穰侯智而習於事、必

不益趙甲四萬以伐齊、是何也、夫三晉之相與也、秦之

深讐也、百相背也、百相欺也、不爲不信、不爲無行、

代此頃道ノ傍ニ於テ往來スル者ノ評判ニ秦ハ將ニ趙軍ニ加勢スルニ甲四萬ノ士四萬人ヲ以テシ  
テ齊ヲ征伐セントスト曰フナ聞クト雖モ、臣蘇代内々之ヲ弊邑ノ齊王ニ請合ヒテ爲シ曰、秦  
王ハ識明カニシテ計策ニ熟練シ、穰侯ハ智者ニシテ事務ニ老練セリ、刈ルカ故ニ決シテ趙軍  
ニ加勢スルニ甲四萬人ヲ以テシテ齊ヲ征伐スルヲ爲サス、是レ何ヲ以テ附カ云フトナ  
レハ、夫レ趙韓魏ノ三晉ノ徒党スルヤ、秦ノ甚シキ仇讎ナレハナリ、且三晉ノ君ハ百度互ニ  
秦トノ約ニ背クヤ、其罪ヲ謝シテ不信ナリトモ曰ハス、百度互ニ秦王ヲ欺クヤ、謝シテ無法  
ナリトモ云ハ  
ナレハナリ、今破齊以肥趙、不利於秦、此一也、  
夫ヲ以テ趙ノ國ヲ肥大ニスレハ、秦ニ利ナラスシテ害有リ、此レ臣  
カ齊王ニ請合ツテ秦ハ決シテ趙ニ加勢シ齊ヲ伐タスト云フノ一ナリ、  
秦之謀者必  
曰、破齊弊晉楚而後制晉楚之勝、夫齊罷國也、以天下

攻齊、如以千鈞之弩決潰靡也必死、安能弊晉楚、此二

也、秦ノ謀略家ハ急度曰フナラン、先ツ齊ノ國ヲ打破リ趙韓魏ノ三晉ト楚トノ軍兵ヲ疲弊  
セシメ而シテ後ニ其齊ニ勝ツタル三晉ト楚トヲ制服ス可シト、此レ大ナル誤見ナリ、  
夫レ齊ハ本カラ罷弊セル國ナリ、故ニ天下乃チ秦ト三晉及ヒ楚ノ同盟軍ヲ以テ齊ヲ攻ルハ、  
譬ハ千鈞ノ強弩ヲ以テ能ク鵬熱セル難チ射レハ急度難カ破レルカ如ク、齊ノ國ハ忽チ敗ル  
、ナリ、故ニ決シテ三晉ト楚トノ軍兵ヲ疲弊セシムル能ハス、此レ  
臣カ請合テ秦ハ決シテ趙ニ加勢シテ齊ヲ伐タスト云フノ二ナリ、  
秦少出兵則晉

楚不信也、多出兵則晉楚爲制於秦、齊恐不走、秦必走

晉楚、此三也、齊ヲ攻ルニ就キ、秦カ少々加勢ノ軍兵ヲ出ス時ハ三晉ト楚トハ秦軍ヲ  
信用セサルナリ、左レハトテ多ク加勢ノ軍兵ヲ出ス時ハ三晉ト楚ト  
ハ秦軍ニ制服サル、ナリ、楚三晉サエモ制服サル、程ノ勢ヒナレハ、齊王ハ恐レ秦ニ走リ往  
キ降参チ乞フナル可シ、秦ニ降参スレハ秦ニ益有レトモ、齊王カ秦ニ走リ行カス、走リ往テ  
三晉ト楚ト同盟ニ降参スレハ、秦ノ害爲ル甚シ、何ナレハ左スレハ齊楚ト三晉ノ五國カ同盟  
シテ秦ヲ伐ツノ形勢成就スレハナリ、此レ臣カ請合テ秦ハ決シテ趙ニ加勢シテ齊ヲ伐タスト云  
フノ三

秦割齊以啖晉楚、晉楚秦之以兵、秦反受敵、此

四也、齊ヲ攻ルニ就キ、秦カ其攻取ル所ノ齊ノ領地ヲ割キ與フト云フ口實ヲ以テ三晉ト楚  
ノ其割キ與ヘラレタル齊ニ屯據スルニ兵備ヲ以テスル時ニハ、秦ハ反テ敵ヲ受ル  
ノ失策ニ落入ル、此レ臣カ請合テ秦ハ決シテ加勢シ齊ヲ伐タスト云フノ四ナリ、  
夫晉

罷ハ疲ナリ、  
千鈞之弩ハ強キ弩  
ナリ、決ハハヤフ  
ルト訓ム、破ツテ  
膿チ出スナリ、  
靡ハ靡ナリ、潰弊  
ハ能ク熱スル難ナ  
リ、死ハヤフレル  
ナリ、ツフレルナ  
リ、是レ亦策士ノ  
險語、  
安能ハ不能ノ反  
語、  
前段ニ盡晉國ト曰  
ヒ、茲ニ晉楚ヲ曰  
フ者ハ、左ニ失ヒ  
右ニ取リ東ニ奪ヒ  
西ニ失フハ、則チ  
戰國ノ常、故ニ晉  
ノ故地ハ秦ノ有ニ  
販スルモ、三晉ハ  
尙別ニ領地ヲ有  
ス、是レ戰國形勢  
ノ變ナリ、察セ  
ヨ、秦ハ曰ルト訓



ミ、據ナリ、是レ割據ノ義、夫晉楚云々ノ句ハ、是レ辭提句、然ルニ魯本ニ楚晉楚云々ニ作ル、今試ミニ改ム、事之ノ之ハ秦王ヲ指ス、腸胃ハ人身中ノ要所、故ニ天下ノ要所ニ譬フ、反ハ返ナリ、執ハトチラト訓

〔文〕以上ハ皆蘇代カ贈リタル手紙ノ文ナリ、不行ハヤラスト訓

〔文〕以上一段ハ、穰侯カ蘇代ノ言ヲ聽キ、趙ニ加勢シ以テ齊ヲ伐ツノ謀ヲ止

楚以秦謀齊。以齊謀秦也。何晉楚之智而秦齊之愚。此五也。〔サテ三晋ト楚ハ秦王ヲ以テ品玉トシテ齊ノ國ヲ攻取ルヲ謀リ、齊王ヲ以テ品玉トシテ秦ノ國ヲ攻取ルヲ謀ル者ニソアル、堂シテ三晋ト楚ノ智者ニシテ秦ト齊ノ愚者ナルヤ、此レ臣カ請合ツテ秦ハ決シテ加勢シ齊ヲ伐タスト云フノ五ナリ、故得安邑以善事之、亦必無患矣。〕

秦有安邑。韓氏必無上黨矣。取天下之腸胃。與出兵而懼其不反也。孰利。臣故曰秦王明而執於計。穰侯智而習於事。必不益趙甲四萬以伐齊矣。〔夫レ然リ、故ニ三晋ト楚カ安邑ヲ領度患害ノ起ル氣遣ヒ無キナリ、若シ秦カ安邑ヲ領シ得ルノ日ニハ、韓氏ハ急度上黨ヲ領スル事能ハサルニ至ルナリ、今天下乃チ齊秦三晋及楚ノ腸胃トモ云フ可キ肝要ノ安邑ヲ攻取ルト、齊ヲ攻ルカ爲メニ加勢ノ軍兵ヲ出シテ其軍兵カ腹死シテ返ヘラサルヲ恐レルトハ孰カ利ナルヤ、孰カ害ナルヤ智者ヲ待タスシテ明白ナリ、臣蘇代列ルカ故ニ秦王ハ明識ニシ計策ニ熟達シ穰侯ハ智者ニシテ事務ニ習練スレハ、則チ急度趙ニ加勢スルニ四万人ヲ以テシ齊ヲ伐スルカ如キ拙策ヲ爲サスト曰フナリ、於是穰侯不行引兵而歸。〕

〔蘇代ノ手紙ニ齊ヲ攻伐スルノ利害ヲ脱クヤ此ノ如シ、是ニ於テ穰侯乃チ加勢ノ軍ヲ遣ラズ、兵卒ヲ引率シ秦ニ叛ル、〕

昭王三十六年相國穰侯言客卿竈欲伐齊取剛壽以廣其陶邑。

メシ事ヲ叙ス、穰侯ハソシルト訓ム、奸ハ巧ノ如シ、

〔文〕此説ハ穰侯カ客卿ニ話シタル言ヨリ説ニ遇ヒシ事ヲ叙ス、制ハ政ノ字ト爲シ看ヨ、擅ハ恣ナリ、風ハ盟ト同シ、侈ハ奢ナリ、復收ハ收テ本ニ復スナリ、乃チ取上ルナリ、

〔文〕此節ハ穰侯ノ敗死ヲ叙シ、以テ收結ト爲ス、

男ハチチト訓ミ、母方ノ伯父ナリ、

於是魏人范雎自謂張祿先生譏穰侯之伐齊乃越三晋以攻齊也。以此時奸說秦昭王。昭王於是用范雎。〔昭王即位ノ三十六年ニ相國穰侯乃チ齊ヲ征伐シ剛壽ヲ攻取リ夫ヲ以テ其封土ナル陶ノ邑ヲ廣メント欲スル事ヲ客卿ノ公卿竈ト云フ者ニ話シ言フ、是ノ事ニ附込ミ魏ノ人范雎カ自分カ張祿先生ト名乗リ秦ニ來リ魏侯カ齊ヲ征伐スルハ仇讐ナル三晋ノ地ヲ越ヘテ齊ヲ攻メルト云フ者ナリト譏、此時ヲ以テ秦ノ昭王ヲ奸智ナリ以テ説落ス、昭王是ニ於テ范雎ヲ用フ、〕

范雎言宣太后專制穰侯擅權於諸侯。涇陽君高陵君之屬太多富於王室。於是秦王悟。乃免相國。令涇陽之屬皆出關就封邑。穰侯出關輜車千乘有餘。穰侯卒於陶。而因葬焉。秦復收陶爲郡。〔范雎カ用ヒラル、ヤ宣太后カ政事ヲ專ラニシタリ穰侯カ威權ヲ山東大名ノ輩ニシテ皆函谷關ヲ出テ、己等カ賜リタル封邑ニ土著セシム、而シテ穰侯カ函谷關ヲ出テ行クヤ其荷物ヲ積ミタル車ハ千餘輛ナリ、穰侯ハ陶ニ於テ死シ、而シテ其所ニ葬リ、秦乃チ陶ヲ沒收シ郡ト爲ス、〕

太史公曰。穰侯昭王親舅也。而秦所以東益地弱諸侯嘗



〔文〕兩個ノ也ノ字、兩層ノ揚チ爲スチ玩味セヨ、

〔文〕上段ハ穰侯ノ富貴ハ當然ナルチ言フ、

〔文〕中段ハ其穰侯死チ言フ、

〔文〕下段ハ筆チ走ラシ戒メチ寓ス、

稱帝於天下天下皆西鄉稽首者。穰侯之功也。太史公曰、穰侯伯父ナリ、故ニ雖ヘ功無キモ貴キ極リ富ノ溢ルハ、當然ナリ、其上ニ秦カ東方ニ於テ領地チ増シ諸大名チ衰弱セシメ嘗テ四帝チ天下ニ稱シ天下ノ大名カ皆々西方ニ向ヒ首チ地迄垂レテ風スルニ至リシ緣由ハ、則チ穰侯ノ手柄ニ依ルナリ、故ニ貴極リ富溢ルハ、當然ナリ、○〔文〕揚

及其貴極富溢。一夫開

說。身折勢奪。而以憂死。而穰侯ノ位ノ貴キカ極點ニ達シ富有カ滿チ溢ルハ、匹夫カ口チ開テ昭王チ游説シケレハ、其身ノ體ハ折レ勢ヒハ奪ヒ取ラレ、斯クシテ憂ヒ悲シミチ以テ死ス、○〔文〕抑

況於羈旅之臣乎。況チ他國カラ旅行シ來テ臣事スル者ニ於テチヤ護ニ遇フテハ、誰カ其頭首チ保ツチ得ンヤ、

白起王翦列傳第十三

〔文〕二句先ツ一篇ノ領チ提ク、

〔文〕此節ハ左庶長爲ル時ノ事チ叙ス、

白起者邯人也。善用兵事秦昭王。昭王十三年而白起爲左庶長。將而擊韓之新城。是歲穰侯相秦舉任鄙以爲漢

白起ト云者ハ邯ニ於テ生レシ人ナリ、天品管ク兵チ用フルノ故チ以テ秦ノ昭王ニ事ス、

昭王ノ十三年ニ於テ白起舉ラレ秦ノ左庶長ト爲リ、大將ト爲リテ韓ノ新城チ討ツ、

〔文〕此節ハ左更爲ル時ノ事チ叙ス、

〔文〕此節ハ乃チ國尉爲ル時ノ事チ叙ス、

中守。其明年白起爲左更。攻韓魏於伊闕。斬首二十四萬。又虜其將公孫喜拔五城。是ノ歲ニ穰侯乃チ任鄙チ舉ケ以テ漢中ノ守ト爲ス、其明年ニ至リ白起轉シ左更ノ職チ務メ、伊闕山ニ於テ韓ト魏ノ兩軍チ攻討チ、首チ切ル二十萬級、其上ニ其大將公孫喜チ捕子ニシ五個ノ城郭チ攻拔リ、

〔文〕此節ハ乃チ商鞅ノ時ニ在テハ、大良造ハ秦ノ極官爲リ、其後秦僉大ト爲ルニ隨ヒ、周魯等ノ官名チ増シ用フ、故ニ白起ノ時ニ至テハ、則チ宰相ニ相當セス、

亡ハニケ、徒ハワツリト剛ム、

〔文〕此節ハ大良造爲ル時ノ事チ叙ス、

河取韓安邑以東到乾河。白起累進シ秦國ノ大尉ト爲リ、軍兵チ引率シ河チ涉リ越シ韓ノ安邑ノ東ハ乾河マテチ攻メ取リケル、

明年白起爲大良造。攻魏拔之。取城小大六十一。明年起與客卿錯攻垣城拔之。後五年白起攻趙拔光狼城。後七年白起攻楚拔鄢鄧五城。其明年攻楚拔鄢燒夷陵。遂東至竟陵。楚王亡去郢。東走徙陳。秦以爲南郡。其翌

〔文〕此節ハ乃チ商鞅ノ時ニ在テハ、大良造ハ秦ノ極官爲リ、其後秦僉大ト爲ルニ隨ヒ、周魯等ノ官名チ増シ用フ、故ニ白起ノ時ニ至テハ、則チ宰相ニ相當セス、

亡ハニケ、徒ハワツリト剛ム、

〔文〕此節ハ大良造爲ル時ノ事チ叙ス、

至リ白起更ニ進ミ大良造ト爲リ、魏チ攻伐チ之チ拔キ屠リ、城ノ大小合計六十一チ取ル、其翌年白起乃チ客分ノ公卿ナル錯ト共ニ垣城チ攻メ之チ拔キ、後五年チ魏チ白起乃チ趙チ攻メ光狼城チ拔ク、後七年日ニ白起乃チ楚チ攻メ鄢邑ト鄧邑ノ五城チ拔ク、其明年楚チ攻メ鄢チ拔キ火チ放チ夷陵チ燒キ、遂ニ東ニ進ミ竟陵ニ至レバ、楚王ハ恐レ逃亡シ郢ノ都チ去リ、東方ニ走リ往キ都チ陳ニ徙ス、

白起遷爲武安君。武安君因取楚定巫



沉ハシツムト訓

〔文〕此節ハ武安君爲ル時ノ事ヲ叙ス、

〔文〕以上ノ一小段ハ、白起ノ累虐ヲ歷叙ス、以テ下ノ長平虐殺ノ地ト爲ス、

〔文〕先ツ下文ノ爲メニ領ヲ挈ク、

謀ハ相談スルナリ、鄭ハ韓ノ首都ノ名、爲ハチサムト訓ミ、治ト同シ、當ハ其歎スル勢力ノ相當スルヲ云フ、

黔中郡 昭王三十四年白起攻魏 拔華陽走芒卯而虜三

晉將 斬首十三萬 與趙將賈偃戰沉其卒二萬人於河中

昭王四十三年白起攻韓 陘城拔五城 斬首五萬 四十

四年白起攻南陽 太行道絕之 白起累進シ武安君ト爲ル、武安君因テ趙ヲ取リ陘中ノ郡ヲ定メ置ク、昭王

ノ三十四年ニ白起乃チ魏ヲ攻メ、華陽ヲ拔キ芒卯ヲ走ラシ三晉ノ大將ヲ捕子ト爲シ、首級十

三萬ヲ切リ、趙ノ將軍賈偃ト戰ヒ其兵卒二萬人ヲ河中ニ沉メ殺ス、昭王ノ四十三年ニ白起乃

チ韓ノ陘城縣ヲ攻メ五箇ノ城郭ヲ拔キ、首級五萬ヲ切ル、 四十五年伐韓之野

王 野王降秦 上黨道絕 四十五年ニ秦乃チ韓ノ野王縣ヲ伐チ、野王

其守馮亭與民謀曰 鄭道已絕 韓必不可得爲民 秦兵

日進 韓不能應 不如以上黨歸趙 趙若受我 秦怒必

攻趙 趙被兵必親韓 韓趙爲一 則可以當秦 因使人

報趙 是ニ於テ上黨ノ守馮亭寧ハ其人民ト評議ヲ爲シ曰 上黨ノ通路ヲ秦軍ノ爲メニ斷

切ラレタル上ハ、韓ノ國都ナル鄭ノ道路ハ既ニ斷絶セリ、斯クナルカラハ韓王ハ上

黨ノ人民ヲ治ルヲ得可カラサルハ必然ナリ、然ルニ秦兵ハ湖ノ勢ヒニテ日ニ進ミ、韓軍ハ上

黨ノ應援ヲ爲ス能ハサルノ場合ニ落入リタレハ、我輩ハ上黨ヲ以テ土産トシ趙ニ叛順スルニ

宜シ、其故如何トナレハ、趙王カ若シ我輩ノ叛順ヲ受レハ、秦ハ怒テ急度趙ヲ攻ルニ相違無

シ、趙カ秦兵ノ爲メニ攻メラル、日ニハ急度韓ニ和親スルニ相違無シ、韓ト趙カ和親シ一致

ヲ爲ス時ニハ、則チ其一致ノ勢ヒヲ以テ秦ニ歎スルニ足レリ 趙孝成王與平陽

君平原君計之 平原君曰不如勿受 受之 禍大於所得

平原君曰無故得一郡 受之便 趙受之 因封馮亭爲

華陽君 趙ノ孝成王是ニ於テ平陽君平原君等ト其叛順ヲ受ルノ利害ヲ計議ス、時ニ平陽

君曰其叛順ヲ受ル無キニ宜シ、之ヲ納レ受ル時ハ、其レカ爲メニ來ル禍害ハ其

得ル所ノ上黨地方ノ大ナルヨリモ大ナリト、平原君曰否々勞苦スルノ故無ク一郡ノ地ヲ得ル

ナリ、然レハ之ヲ受ケ納ル利便ナリト、趙王固テ之ヲ受ケ納レ、因テ馮亭ヲ封シ華陽君ト曰

ス、 四十六年秦攻韓 緄氏蒞拔之 四十七年秦使左庶長

王齮攻韓 取上黨 上黨民走趙 趙軍長平以按據上黨民

四十六年ニ秦乃チ韓ノ緄氏縣及ヒ蘭邑ヲ攻メ之ヲ拔取ル、四十七年ニ秦乃チ左庶長ノ職ニ居

〔文〕此小節ハ趙カ上黨ノ民ヲ納ル、事ヲ叙ス、此レ趙カ秦兵ヲ被ル由縁ノ二



斥兵ハ斥侯ナリ、和名モノミ、犯ハ打テ掛ルナリ、釋ハ佐ナリ、

敵ハ和名トシテ、壁ハ壁ノ如ク堤ヲ築クナリ、挑ハシカケルト訓ム、讓ハ貸ナリ、

〔文〕此小節ハ廉頗力堅ク守リ戰ハサル事ヲ叙ス、此レ趙括カ代テ將トナル山

行ハ散ノ如シ、敵人ヲ味方ノ用ヲ爲サシムルヲ反間ト云フ、惡ハキヲフト訓ミ、厭ヒ恐ル、ノ義、易與ハ敗リ易シト云フカ如シ、

〔文〕此小節ハ趙王カ反間ノ旨ヲ信セシ事ヲ叙ス、此レ趙括カ代リ將タル由縁ノ二層、

白起王制列傳第十三

三十三

軍士卒犯秦斥兵。秦斥兵斬趙裨將蒯。六月陷趙軍，取二

鄣四尉。七月趙軍築壘壁而守之。秦又攻其壘。取二尉

敗其陣，奪西壘壁。廉頗堅壁以待秦。秦數挑戰，趙兵不

出。趙王數以為讓。其四月王齧乃趙王カ上黨ノ人民ヲ納ル、ニ因テ趙ヲ攻伐

ノ士卒故テ秦ノ物見ノ兵ヲ障マ、秦ノ物見ノ兵奮テ趙ノ副將蒯ヲ切殺シ、其六月ニ趙軍ノ先陣ヲ打破リ二個ノ壘ヲ拔取リ四個ノ尉官ヲ捕子ニス、七月ニ至テハ趙軍ノ先鋒ハ趙ノ土手ヲ高ク築テ之ヲ守リ出テ、戰ハス、秦軍又其壘ヲ攻メ、二個ノ尉官ヲ捕子ニシ其陣屋ヲ打破リ西方ノ壘ヲ奪ヒ取ル、廉頗ハ本陣ニ在リ其胸壁ヲ堅固ニシテ秦軍ノ來リ攻ルヲ待チ、秦兵カ數度戰ヒサ仕掛ケテモ、趙兵ハ決シテ壘外ニ出テ

而秦相應侯又使人行千金於趙為反間曰。秦之所惡。獨畏馬服子趙括將耳。廉

頗易與。且降矣。趙王既怒廉頗軍多死亡軍數敗又反堅

壁不敢戰。而又聞秦反間之言。因使趙括代廉頗將以擊

秦。其上ニ秦ノ宰相應侯カ又入テシテ千金ノ大金ヲ時キ散ラシテ趙ノ國ニ於テ反間ノ策ヲ爲サシメ、秦軍ノ嫌ヲヒ懼ル所ハ、獨リ前ノ名將馬服ノ子趙括カ大將ト爲ルヲ恐

ル、耳、廉頗ハ敗リ易ク、彼ハ將ニ降參セントシテ居ルナリト、趙王ハ前ニ既ニ廉頗ノ軍兵ノ中ニハ失亡スル者カ多ク有テ合戰ハ數度敗北シ又壘ノ堤ヲ堅固ニシテ攻テ出テ、戰ハサル事ヲ怒リ居リシニ、其上ニ又秦ノ反間ノ云フ事ヲ聞キ、夫

秦聞馬服子將。乃陰使武安君白起為上將軍。而王齧為尉裨將。令軍中有敢泄武安君將者斬。秦乃馬服ノ子息カ大將トナリシト聞キ、乃チ内々武安君白起ヲシテ上將軍ヲ爲ラシメ、斯クシテ王齧ヲ以テ尉官ノ裨將ト爲シ、軍令ヲ下シ曰、軍中ニ敢テ武安君ノ大將ヲ漏ラス者有レハ斬刑ニ處スト、

趙括至。則出兵擊秦軍。秦軍詳敗而走。張二奇兵以劫之。趙軍逐勝追造秦壁。

壁堅拒不得入。而秦奇兵二萬五千人絕趙軍後。既ニシ趙括

ルヤ、則チ兵卒ヲ繰出シテ秦ヲ擊テハ、秦軍ハ敗北スル眞似シテ逃ケ走リ、別ニ二隊ノ奇兵ヲ横合ヒヨリ繰出シ以テ趙軍ヲ劫カシ一時勝ヲ取レハ、趙軍ハ謀略ナルヲ知リス其一時勝ヲ誇ツタル秦ノ奇兵ヲ逐ヒ追ヒ掛ケ往テ秦ノ壘壁迄至リ、壁ヲ乘リ取ラント攻立ツレトモ、秦ノ胸壁ハ堅固ニ禦キ守ツテ入ルヲ得ス、斯クスル間ニ秦ノ別隊ノ奇兵二萬五千人カ趙軍ノ後路ヲ

斷絶ス。又一軍五千騎絕趙壁間。趙軍分而為二。糧道絕

而秦出輕兵擊之。趙戰不利。因築壁堅守以待救至。又

〔文〕此ハ是レ趙括カ計ニ落入ルノ初層、

卷之二

白起王制列傳第十三

三十三



括カ計ニ落入ルノ二層、

諸ハ往クナリ、至ナリ、  
遮絶ハフサキマチキルト訓ム、  
欲出ノ下ニ苻本ニハ爲四隊ノ三字有リ、今之ヲ削ル、復ハクリカヘスト訓ム、  
〔文〕此小節ハ趙軍カ兵糧其メニ遇ヒシ事ヲ叙ス、  
搏ハ撃ナリ、圍ナリ、  
樂ハコノムト訓ミ、好ナリ、  
反覆ハ引續リ返ル

隊ノ軍勢五千騎カ不意ニ起リ秦ノ壁迄推掛ケタル趙軍ト趙ノ壁壁トノ間ヲ斷キリタルノ故ヲ以テ、趙ノ軍勢ハ爲メニ別々ニ分レテ二ト爲リ、兵糧ノ道絶ヘタリ、斯クシテ秦軍ハ輕ク身ヲ裝ヒタル兵士ヲ出シテ趙軍ヲ撃チ捕マヌ、趙ノ戰ヒ因テ利アラヌ、趙軍ハ其利アラサルニ因テ俄カニ胸壁ヲ築キ堅固ニ守リ以テ救ヒノ兵ノ到着スルヲ待ツ、  
秦王

聞趙食道絶。王自之河内賜民爵各一級。發年十五以上

悉詣長平。遮絶趙救及糧食。至九月。趙卒不得食四十

六日。皆陰相殺食。來攻秦壘欲出。四五復之不能出。秦

乃趙軍ノ兵糧道絶ヘシト聞キ、秦王自ラ河内ニ往キ人民ヲ勸マス爲メニ銘々ニ爵一級ヲ賜ヒ、其年十五才以上ノ男子ヲ募リ出發シ悉ク長平ニ至ラシメ、趙ヨリ來ル救ヒノ軍兵ノ路ト兵糧運送ノ路トヲ塞キ斷キラシメシテ以テ、九月ニ至ルニ及テハ、趙ノ軍卒ハ食フコトヲ得サル四十六日ノ久キニ至リタリ、是ヲ以テ内々互ニ殺シ合ヒ食ヒ合フ慘狀ヲ現ハセリ、是

ニ於テ推寄セ來リ秦ノ陣屋ヲ攻破テ逃ケ出ント欲シ、四五度繰リ返ヘシテ攻メシモ陣堅クシテ破レズ因テ逃出ス能ハス、  
其將軍趙括出銳

卒自搏戰。秦軍射殺趙括。括軍敗。卒四十萬人降武安

君。武安君計曰。前秦已拔上黨。上黨民不樂爲秦而歸

趙。趙卒反覆。非盡殺之。恐爲亂。乃挾詐而盡坑殺之。

遺其小者二百四十人歸趙。前後斬虜首四十五萬人。

趙人大震。是ノ時ニ當テヤ、趙ノ將軍趙括モ既ニ脱レメヲ知ツテ死ヲ決シ、華々シキ秦軍狙ラヒ詰メテ趙括ヲ射殺シケリ、大將既ニ戰死セシカラニハ、何ニカハ以テ玉ル可キ、趙括カ總軍ハ盡ク敗北シ、趙ノ兵卒四十萬人皆武安君ニ降參ハ、武安君時ニ計略ヲ述ヘテ

曰、以前秦軍カ既ニ上黨ヲ攻拔キシ時ニ、上黨ノ人民ハ秦ノ人民ト爲ル事ヲ好マスシテ趙ニ叛順セリ、一休韓趙ノ兵卒ハ七面島ノ如ク心カ替リ易スケレハ、悉ク之ヲ殺サレハ、恐ラ

ク後來亂チ起スナラント、乃チ顔ツキハ生カス風ヲシテ詐テ悉ク穴ハ中ニ入レ之ヲ殺シ、僅カニ其中ノ年少ナル者二百四十人ヲ生キ殘シテ趙ニ叛ラシメタリ、前後捕子ノ首ヲ切ル四十

五萬人ノ衆多ニ至ル、趙國ノ人民是カ爲メニ大ニ震ヒ恐ル、○〔文〕以上ノ一小段ハ、則チ昭王ノ四十七年ニ自起カ長平ニ於テ趙人ヲ虐殺セシ事ヲ叙シ、以テ下段ニ於テ自起ノ自刃ヲ叙スルノ張本ト作ス、  
四十八年十月。秦復定上黨郡。秦分軍爲二。

王斃攻皮牢拔之。司馬梗定太原。四十八年十月ニ至リ、秦又攻取リシ上黨ノ郡界ヲ定ム、時ニ秦乃チ軍兵

ヲ分チ二ト爲シ、一軍ハ王斃之カ將ト爲リ皮牢ヲ攻メ之ヲ拔取ル、一軍ハ司馬梗之ヲ率ヒ趙ヨリ奪ヒシ太原ノ郡ヲ定ム、  
韓趙恐使蘇代厚

幣說秦應侯曰。武安君擒馬服子乎。曰然。又曰即圍邯

鄲乎。曰然。趙亡。則秦王王矣。武安君爲三公。武安

ナリ、挾詐ハ表面ニ仁慈ヲ現ハシ内心ニ詐リチ抱クチ言フ、抗ハ和名アナ、遺ハノコスト訓ム、擧首チ苻本ニ首級ニ作ル、是傳書ノ顛倒、今之ヲ改ム、  
〔文〕此節ハ長平ニ於テ自起カ虐殺ヲ行ヒシ事ヲ叙ス、

〔文〕此節ヲ叙シ以テ文ノ端ヲ發ラケ、

幣ハ進上物ナリ、邯鄲ハ趙ノ首都ナリ、  
語急ナルカ故ニ、



趙亡ノ句ノ頭ニ曰  
ノ字ヲ省ク、添テ  
看ヨ、  
呂望ハ太公望ナ  
リ、益ハマサルト  
訓ミ、賢サルト同  
シ、  
固ハ荷ナリ、  
三公ハ周官ナリ、  
乃チ秦ノ宰相ニ比  
シ言フ、

亡ハ無ナリ、  
〔文〕以上ハ趙ヲ  
亡スヨリハ韓趙

君所爲秦戰勝攻取者七十餘城。南定鄢郢漢中。北擒趙  
括之軍。雖周邵呂望之功。不益於此矣。今趙亡。秦王  
王。則武安君必爲三公。君能爲之下乎。雖無欲爲之下  
固不得已矣。韓王ト趙王ハ王畿司馬梗等カ來テ郡ヲ定ルヲ視テ恐レ蘇代ナシテ澤山進  
物ヲ持タセテ秦ノ應侯ニ游說セシメ曰。武安君ハ馬服ノ子息趙括ヲ捕子  
ニセシ人ナル乎ト、應侯答テ左様ト曰フ、又問テ武安君ハ邯鄲ヲ攻圍ミシ人ナル乎ト曰ヘハ、  
應侯答テ左様ト曰フ、蘇代是ニ於テ舌ヲ掉ヒ言テ曰。趙カ滅亡スル日ニハ、則チ秦王ハ天  
下ノ帝王ナリ、左スレハ武安君ハ三公ト爲ル、其故如何トナレハ、武安君カ秦ノ爲メニ戰ヒ  
勝チ攻取ル所ノ數ハ七十餘城ナリ、南ニ於テハ鄢郢漢中ヲ秦領ト定メ、北ニ在テハ趙括ノ軍  
兵ヲ捕子ニセリ、故ニ雖ヘ周ノ邵公ヤ太公望ノ大功モ、武安君ノ手柄ニハ優ラサルナリ、別  
ルカ故ニ今日趙カ亡ヒ、秦王カ帝王爲ルノ日ニハ、則チ武安君ハ三公爲ルニ相違無シ、其時  
ニナリ應侯ハ能ク武安君ノ下坐ニ坐シマス乎、雖ヘ其下坐ニ坐  
スコトナ好マサルモ、其時ニ至テハ、誠ニ據所無キ事ニソアル、秦嘗攻韓圍刑  
丘困上黨。上黨之民皆反爲趙。天下不樂爲秦民之日久  
矣。今囚趙。北地入燕。東地入齊。南地入韓魏。則君  
之所得民亡幾人。故不如因而割之。無以爲武安君功也。臣

ヨリ地ヲ割取テ  
武安君ノ功ヲ没  
スルヲ上策ト爲  
スナ言フ、

聽ハユルスト訓  
ム、罷ハヤムト訓  
ミ、合殿ヲ止メル  
ナリ、

〔文〕此節ハ韓趙  
ノ請ヒニ從テ和  
親スル事ヲ叙  
ス、

〔文〕以上ノ小段  
ハ自起ト仲カ惡  
シクナル由縁ヲ  
叙シ、以テ讒死  
ノ案ト作ス、  
任ハ甚ナリ、

代カ見ル所ヲ以テ之ヲ思フニ、秦軍カ以前韓ヲ攻メ刑丘ヲ圍ミ上黨ヲ伐チ苦シムルヤ、上黨  
ノ人民ハ秦ノ爲メニスル筈ナリ、而ルニ上黨ノ人民ハ秦ノ爲メニセシテ反テ趙ノ爲メニセ  
リ、夫レ然リ、天下中ノ人民カ秦ノ人民ト爲ルヲ好マサル其由ヲ來ル久シ、是ニ由リ之ヲ觀  
レハ、今日應侯ノ威力ヲ以テ趙ノ國ヲ伐亡スモ、而シテ北ノ地方ノ人民ハ秦ヲ避テ燕王ノ手ニ  
皈シ入ルナル可シ、東ノ地方ノ人民ハ秦ヲ嫌テ齊ニ走リ入り皈順スルナル可シ、南ノ地方ノ  
人民ハ飯順シテ韓魏ニ入ルナル可シ、左スレハ應侯カ秦ノ爲メニ攻メ取リ得タル所ノ人民ノ  
且數ハ幾ハクモ無キニ至ル可シ、別ルカ故ニ應侯ノ爲メニ計レハ韓魏兩國ノ願ヒニ附込シ  
テ地ヲ韓魏ヨリ割キ取ツテ夫ヲ以テ武安君ノ功ト爲スコト無キ様ニスルニ宜シキナリト、  
於是應侯言於秦王曰。秦兵勞。請許韓趙之割地以和。  
且休士卒。王聽之。割韓垣雍趙六城以和。正月皆罷兵。  
是ニ於テ應侯乃チ秦王ニ言ヒ曰。秦ノ軍兵ハ疲勞セリ、故ニ韓ト趙カ地ヲ割キ以テ和親  
スル事ヲ願フヲ許シ、將ニ秦ノ士卒ヲ休息スルヲ請願スト、秦王其請ヒヲ許ス、因テ韓ノ垣  
雍ト趙ノ六城ヲ割取リ以テ和親ヲ爲シ、正月ニ敵味方共ニ兵ヲ引拂ラフ、○〔文〕以上ニ  
應侯カ武安君ノ功ヲ没スルノ奸策ヲ立テシ事ヲ叙シ、以テ與應侯有隙ノ句ニ例註ヲ爲ス、  
武安君聞之。由是與應侯有隙。武安君乃チ應侯カ己ノ功ヲ没スルノ策  
ヲ爲スヲ應ヘ聞キ、是ノ事ニ由テ應侯  
ト仲カ惡  
ロクナル、其九月秦復發兵使五大夫王陵攻趙邯鄲。是時  
武安君病不任行。其九月ニ秦王復兵士ヲ發シ五大夫王陵ヲシテ將トシ趙ノ首都邯  
鄲ヲ攻メシム、是ノ時ニ武安君ハ病ヲ臥シ居リ行ク能ハス、○



佐ハ助ナリ、  
亡ハウシナフト訓  
ム、差ハイニト訓  
ミ、瘞ノ古字、  
千ニ就テ五百前後  
ナルヲ過半ト云  
フ、  
絶ハワタリト訓  
ミ、横ニ踰ヘ往ク  
ヲ云フ、  
稱ハイヒフラスト  
訓ム、  
〔文〕此ハ是レ讒  
死スル由縁ノ初  
府、

〔文〕此一節ハ下文ノ  
爲メ先ツ案ヲ立ツ、  
四十九年九月陵攻邯鄲少利。秦益發兵  
佐陵。陵兵亡五校。武安君病愈。秦王欲使武安君代陵  
將。武安君言曰邯鄲。實未易攻也。且諸侯救日至。彼  
諸侯怨秦之日久矣。今秦雖破長平軍。而秦卒死者過半。  
國內空。遠絶河山。而爭入國都。趙應其內。諸侯攻  
其外。破秦兵必矣。不可。秦王自命不行。乃使應侯請  
之。武安君終辭。不肯行。遂稱病。四十九年九月。王陵乃邯鄲ヲ攻  
メシニ利寡少ナリ、秦因テ益々兵士  
ヲ發シ陵ノ加勢ヲ爲サシメタルニ、陵カ軍兵ハ五人ノ將校ヲ戰死セシメタリ、時ニ武安君ノ  
病ヒ平癒セリ、秦王因テ武安君ヲシテ王陵ニ代ツテ大將タラシメント欲ス、而ルニ武安君答  
テ曰邯鄲ノ如キハ、實ニ未タ容易ニ攻ム可カラサルナリ、何ナレハ將ニ諸大名ノ救援ノ兵カ  
日ニ到着セントスレハナリ、彼ノ諸大名ハ秦ヲ怨ムヤ年久シキナリ、今秦軍カ雖ヘ長平ニ於  
テ趙括ノ軍ヲ破リシモ、而モ秦ノ士卒モ夫レカ爲メニ戰死スルハ過半ナリキ、是カ爲メニ秦  
國ノ内ハ空虚トナル、然ルニ今般又遠ク河ヤ山ヲ越エ往キ、斯クシテ趙ノ國都ナル邯鄲ヲ取  
ラント爭ヘハ、趙ノ軍勢ハ城内ニ應シ打テ出テ、諸大名ノ如勢ノ兵カ其外ヨリ攻メ立テレハ、  
秦ノ兵ヲ擊破ルハ必然ナリ、故ニ臣カ往テ大將トナルハ不可ナリト、秦王カ自命テ命ス

死亡ハ逃ケ失セタ  
リ戰死シタリスル  
ナリ、  
無理ニ勸メルヲ強  
ト云フ、  
起ハ病辭ヨリナコ  
スナリ、  
〔文〕此ハ是レ讒  
死スル由縁ノ二  
層、  
五人ノ一組ミナ伍  
ト云フ、  
〔文〕以上ハ白起  
カ讒ニ遇テ選簡  
ノ命ヲ蒙リシ事  
ヲ叙ス、  
數抑ハシハノ、シ  
リソクト訓ム、  
〔文〕此小節ハ白

レトモ行カス、乃チ應侯ヲシテ代リ將タル事ヲ請ハシメシニ、武安  
君竟ニ辭退シ、行クヲ好マサルヨリ途ニ病ヒニ臥スト云ヒ觸ラス、  
秦王使王齮  
代陵將。八九月圍邯鄲不能拔。楚使春申君及魏公子將  
兵數十萬攻秦軍。秦軍多失亡。武安君言曰。秦不聽臣  
計。今如何矣。秦王聞之怒。彊起武安君。武安君遂稱  
病篤。應侯請之不起。武安君ハ病ニ托シ行カス、秦王因テ王齮ヲシテ王陵ニ  
代テ大將タラシメ、八九月ノ間續ケテ邯鄲ヲ圍ミ攻  
立テシカモ拔ク能ハス、ソウスル中ニ楚王ハ乃チ春申君及ヒ魏ノ公子ヲシテ軍兵數十萬人ニ  
大將タラシメ秦軍ヲ攻立テルカ故ニ、秦軍ハ逃ケ失セル者ト戰死スル者トカ衆多ナリ、武安  
君此評判ヲ聞テ人ニ言テ、秦王ハ臣カ計略ヲ聽キ用ヒス、今ハ堂セシソヤト曰ク、秦王之ヲ  
聞キ怒リ、無理ニ武安君ヲ病辭ヨリ起シテ行カシメントセシニ、武安君ハ途ニ病カ危篤ナリ  
ト云ヒ觸ラス、應侯カ勸メ  
請ヒシカトモ起キテ行カス、  
於是免武安君爲士伍。遷之陰密。武  
安君病未能行。是ニ於テ武安君ヲ免職シ兵士ノ伍中ニ入レ、之ヲ  
陰密ニ流シ、而モ武安君再ヒ病ミ未タ行ダナラス、  
居三月。  
諸侯攻秦軍急。秦軍數却。使者日至。秦王乃使人遺百  
起不得留咸陽中。武安君既行。出咸陽西門十里至杜郵。



起カ去テ杜郵ニ至リシ事ヲ叙シ、以テ其死所ト作ス、

固ハ必ナリ、快々ハ怒ミヲ含ムナ形ス、

自裁ハ自殺ノ如シ、引ハ手ニ取ルヲ云フ、到ハケヒキルト謂ミ、頸ヲ切ルナリ、詐ハタマヌナリ、阮ハ坑ト通シ用フ、

〔文〕此節ハ白起カ護ニ過フテ死スル事ヲ叙ス、〔文〕以上ノ一大段ハ、則チ是レ白起ノ列傳、

武安君病ミ居ル三月ノ後ニ及テハ、諸大名ノ軍カ秦軍ヲ攻討ツ愈々急劇ナリ、秦軍因テ引キ退ク數回ニ及ヒ、其使者カ日々到着ス、秦王心ニ恥ツルノ餘リ乃チ人ヲシテ白起ノ所ニ遣ハシ決シテ咸陽ノ中ニ逗留スルヲ許サスト命令ヲ傳ヘシム、武安君ハ因テ既ニ出テ行キ、咸陽ノ西方ノ都門チ出テ行ク十里ニシ杜郵ニ到着セリ、

應侯群臣議曰。白起之遷。其意尙快々不服有餘言。秦

王乃使使者賜之劔自裁。武安君引劔將自剄曰。我何罪

于天而至此哉。良久曰。我固當死。長平之戰。趙卒降

者數十萬人。我詐而盡阮之。是足以死。遂自殺。武安

君之死也以秦昭王五十年十一月。死而非其罪。秦人憐

之。鄉邑皆祭祀焉。〔秦ノ昭王ハ應侯及ヒ郡臣ト評議シ、白起ノ遷謫サル、之、其意ニ尙快々ト怒ミ罪ニ服セスシテ何カ外ニ言ヒシ事ヲ聞

ケリト曰ヒ、秦王乃チ使者ヲシテ九寸五分ヲ賜ハリ自殺スル事ヲ命ス、武安君ハ因テ九寸五分ヲ手ニ取り將ニ自分ト首ヲ切り落サントシ曰、我ハ天ニ何等ノ罪ヲ受ル事カ有テ此場合ヒニ至ルヤト、稍釋ラケテ曰、我レ意ヲ決シ當ニ死スヘシ、長平ノ戰ヒニ於テ、趙ノ士卒ノ降参スル者ハ數十萬人ナリシニ、我詐シテ盡ク之ヲ穴ニ入レテ殺シタリキ、是ノ罪ヲ以テ十分ニ死ス可キナリト、遂ニ自殺セリ、武安君ノ死スルヲ秦ノ昭王ノ五十年十一月ナリ、武安君ノ死ハ死ス可キ罪有ルニ非ラス、故ニ秦ノ人民カ之ヲ憐ムヤ、後代ニ至テモ孰レノ村里テ

モ皆武安君ノ靈ヲ祭ル、王翦者頻陽東郷人也。少而好兵事。秦始皇

王翦ト云者ハ頻陽ノ東郷ノ人ニソアル、幼少ヨリ兵學ヲ始ミ長シテ秦ノ始皇ニ事フ、始皇十一年翦將攻趙、閼與、破

之拔九城。十八年翦將攻趙。歲餘遂拔趙。趙王降。盡

定趙爲郡。明年燕使荊軻爲賊於秦。秦王使王翦攻燕

燕王喜走遼東。翦遂定燕薊而還。秦使翦子王賁擊楚

楚兵敗。還擊魏。魏王降。遂定魏地。〔始皇即位ノ十一年ニ王翦大將トナリ趙ノ閼與ヲ攻メ之

ヲ破リ九箇ノ城郭ヲ拔キ屠ル、十八年ニ王翦大將トナリ趙ヲ攻メ、一年餘ヲ掛リ遂ニ趙ヲ拔取リ、趙王降参ス、因テ趙ノ國郡ヲ改メ定メ秦ノ郡ト爲ス、其翌年王翦乃チ荊客荊軻ヲシテ始皇ヲ刺ス事ヲ秦ノ宮中ニ於テ爲サシメタリ、秦王怒リ王翦ヲシテ燕ヲ攻メシム、燕王喜是ニ於テ逃ク走テ遼東ニ行ク、王翦遂ニ燕領ノ薊ヲ秦領ト定メテ破ル、秦別ニ王翦ノ子息王賁ニシテ楚ヲ擊タシメシニ、楚ノ軍兵敗北ス、王賁破

燕王。而破楚師。秦ノ始皇既ニ三晉ヲ討チ亡ホシ、燕王喜ヲ走ラシ、秦將

李信者年少壯勇。嘗以兵數千逐燕太子丹至於衍水中。

威勢ノ逞キヲ壯ト云フ、

〔文〕此節ハ王氏ノ父子ヲ概叙シ、以テ下文ヲ開ラク、

〔文〕此ハ是レ一段ノ綱領ヲ提ク者、故ニ一小段ト作ス、

賊ハ亂暴ト云フ如シ、乃チ始皇ヲ刺殺サント爲セン事ヲ指ス、舊本ニハ本籍中ノ楚ノ字ヲ改メ、皆荆ニ作ル、ソハ秦カ楚ヲ勝テ荆ト云フニ依ル、然モ說者ニ便ナラス、故ニ今皆之ヲ改書ス、



幾何、幾ノ複語、

欲攻取楚ノ四字、

〔文〕下文ノ爲メ、

二綱領ヲ提ク、

而モ此ハ是レ綱

領ノ半分ナリ、

而足ノ而ハ、則ト

同シ、

怯ハ臆病ナリ、

老ハオホレト訓

ミ、老ノ古字、

飯老ノ老ハ際居ス

ルノ義、

〔文〕此小節ハ雖

ヘ長キモ、上チ

束リ下ニ移レノ

過渡、

會ハテアハントス

ト訓ム、

隨ハ逐フナリ、

卒破得丹。始皇以爲賢勇。於是始皇問李信吾欲攻取楚

於將軍度用幾何人而足。李信曰不過用二十萬人。始皇

問王翦。王翦曰非六十萬人不可。始皇曰王將軍老矣。

何怯也。李將軍果勢壯勇。其言是也。遂使李信及蒙恬

將二十萬南伐楚。王翦言不用因謝病。歸老於頻陽。

李信ナル者ハ年ハ寡少ニシ壯健勇猛ナリ。以前兵卒數千人ヲ引率シ燕ノ太子丹ヲ逐掛ケ往キ

衍水村ノ中迄至リ、竟ニ其手勢ヲ打破テ丹ヲ捕ラヘ得タリ、始皇是ヲ以テ彼ハ偉猛者ニシテ

勇猛ナリト、始皇是ニ於テ普レテ攻取ラント欲シ願フニ就テハ將軍ニ於テ見積リシ所テハ

幾人ヲ用フレハ十分ナリヤト李信ニ問ヘハ、李信ハ答テ二十萬人ヲ用フレハ過分ナリト曰フ、

始皇此事ヲ以テ王翦ニ問ヘハ、王翦ハ答テ六十萬人ヲナケレハ不可ナリト曰フ、始皇是ニ

於テ一人リ普テ謂テ曰王將軍ハ老耄セリ、堂シテ臆病ナルソヤ、李將軍ハ案ノ如ク威勢カ壯

シ、頻陽ノ古郷ニ 李信攻平與。蒙恬攻寢。大破楚軍。信又

攻鄢郢破之。於是引兵而西。與蒙恬會城父。楚人因隨

之。三日三夜不頓舍。大破李信軍入兩壁。殺七都尉。

秦軍走。始皇聞之大怒。是ニ於テ兩將ハ二ダ手ニ分レ、李信ハ楚ノ平與ヲ攻

メ、蒙恬ハ楚ノ寢ヲ攻メ、大ニ楚軍ヲ破ル、李信又

鄢郢ヲ攻メ之ヲ破リ、是ニ於テ兵卒ヲ引率シテ西ニ向テ往キ、城父ニ於テ蒙恬ト出遇ハント

ス、楚人ハ夫ニ附込テ之ヲ逐ヒ、三日三晩碌々落着テ物モ食ハス宿モ取ラズ追ヒ掛ケ往キ

城父ニ至リ、大ニ李信カ軍ヲ打破リ李信ト蒙恬ノ兩陣屋ニ亂入シ、七人ノ都尉官

ヲ殺セハ、秦軍ハ一ト支ヘモ支ヘスシテ逃ケ走ル、始皇此報知テ聞テ大ニ怒ル、 自馳

如頻陽。見謝王翦曰。寡人以不用將軍計。李信果辱秦

軍。今聞楚兵日進而西。將軍雖病。獨忍弃寡人乎。王

翦謝曰。老臣罷病悖乱。惟大王更擇賢將。始皇謝曰已

矣。將軍勿復言。王翦曰大王必不得已用臣。非六十萬

人不可。始皇曰爲聽將軍計耳。於是王翦將兵六十萬人

三度ノ食事ノ如ク

落着テ飯ヲ食フチ

頓ト云フ、舍ハヤ

トルト訓ミ、動

詞、壁ハ陣營ナ

リ、

〔文〕此小節ハ李

信ノ敗ヲ叙ス、

是モ亦過脈、

馳ハカケツケルナ

リ、如ハ往クナ

リ、雖ハタトヘト

訓ム、非ハ捨ナ

リ、惟ハ疲ナリ、

悖亂ハ志慮マトマ

ラスシテ亂ル、ナ

リ、惟ハ子カフト

訓ミ、願フナリ、

舊本唯ニ作ル、

非、

〔文〕此小節ハ楚

ヲ征伐スルニ就

テ、王翦カ六十

萬人ニ將タルノ

命ヲ受ケタル事



ヲ叙ス、  
 〔文〕王翦將兵六十萬人ノ八字ハ、綱領ノ半分ナリ、茲ニ至リ綱領始テ全テ得タリ、文法何等ノ奇幻ソ、  
 美田ハ善キ田ナリ、何ハナニト訓ミ、詰言動詞ナリ、助詞ノ解釋ハ、東京兩國横山町出雲寺瀧店ヨリ發行スル漢文典ニ詳カナリ、  
 〔文〕此半節ハ王翦カ田宅等ヲ多ク貸ヒ受ル事ヲ叙ス、  
 賂ハ回ナリ、乞貸ハ乞ヒ受ルナリ、已甚ハハナハタシノ復語、但ハワタ

臣ハ病ミホウケ志慮カ取リトマラス、刈ルカ故ニ大王カ考ヒ替ヘ別ニ善キ將軍ヲ擇フ事ヲ願フト曰ヘハ、始皇又罪ヲ謝シテ云ヒ分ケテ言フヲ止メナサレヨ、將軍再ヒ辭退ノ語ヲ言フ勿レト曰フ、王翦是ニ於テ己ノ望ミヲ述テ大王カ是非トモ今般據所無ク老臣ヲ使用セントナラハ、軍勢ハ六十萬人ニ非ラサレハ不可ナリト曰フ、始皇之ニ答テ曰望ミノ爲メニ將軍ノ計略通り六十萬人ヲ承知セリト、王翦是ニ於テ軍兵六十萬人ニ大將トナル、

田宅園池甚衆。始皇曰將軍行矣。何憂貧乎。王翦曰爲大王將有功。終不得封侯。故及大王之嚮臣。臣亦及時以請園池爲子孫業耳。始皇大笑。王翦カ出立スルヤ、始皇帝自身之ヲシナカラ美田美宅美園美池ヲ請ヒ貰フテ甚タ多クアリケレハ、始皇ハ之ヲ答メテ其様ナ事ヲ領着セスシテ、將軍行キナサレヨ、堂シテソソナニ貧乏チ心配シナサルソヤト曰ヘハ、王翦之ニ答テ然ラズ、往昔ハ功有レハ封土ヲ賜ハリテ大名旗下ト爲リシカトモ、今日ノ制度ニテハ、大王ノ將軍ト爲リ功有ルモ、終ニ封セラレテ侯爲ルヲ得ス、刈ルカ故ニ今大王ノ意カ臣ニ向フ矢先キニ乘シ、臣モ亦信用サル、時機ニ乘シ以テ懲服ツテ園池ヲ澤山ニ貰ラヒ置テ子孫ノ爲メニ身代ヲ作り置クノミト曰ヘハ、始皇之ヲ聞テ大ヒニ笑フ、

既至關。使使還請善田者五輩。或曰將軍之乞貸亦已甚矣。王翦曰不然。夫秦王怛而不信人。今空秦國甲士而專委於我。我不多請田宅爲子孫以自堅。願令秦王坐而疑我耳。王翦ハ既ニ函谷關ニ到着スル途ノ間ニ、使者ヲ還ヘシヤリ善キ田宅ヲ始皇ニ請ヒ貰ラハシムル事五度ナリ、因テ或人カ之ヲ誹テ將軍ノ乞食主義モ亦甚シト曰ヘハ、王翦曰否々然ラス、夫ノ秦王ハ疑ヒ深クシテ人ヲ信セス、而ルニ今秦ノ國中ノ戰士ヲ盡クシテ軍國ノ事ヲ取ラ我ニ委任セリ、我此時ニ於テ澤山ニ田宅ヲ請ヒ受テ子孫ノ身代ヲ作テ自ラ堅メル様子ヲ示サ、レハ、反テ秦王ヲシテ宮中ニ坐シテ我ヲ疑ハシムルニ至ルナリト、

カヒフカクシテト訓ム、昔々ツ、空ハ悉スノ義、耳チ舊本ニ邪ニ作ル、而モ此句ハ願落語ニシテ反語ニ非ス、故ニ改ム、  
 〔文〕此半節ハ其多ク請フノ意ヲ言フ、  
 拒ハフセクト訓ム、挑ハシカケルト訓ム、水チ以テ休ヲ洗フヲ沐浴云フ、撫循ハ善ク養フテ已ニ馴ラヌチ云フ、  
 〔文〕此半節ハ王翦ノ兵略ヲ叙ス、  
 或人投石ヲ解シ兵法ト爲スハ、拍ハレリ、超ハトフト訓ミ、跳ト同シ、

王翦益軍而來。乃悉國中兵以拒秦。王翦至堅壁而守之。不肯戰。楚兵數出挑戰終不出。王翦日休士洗沐。而善飲食撫循之。親與士卒同食。王翦案ノ如ク李信ニ代テ楚ヲ伐ツ、楚乃チ國中ノ兵士ヲ悉クシ以テ秦ヲ防グ、而ルニ王翦ハ到着スルノ後陣屋ヲ堅固ニ構ヘ之ヲ守テ肯テ戰ハス、楚兵力數度戰ヒテ仕掛ケテ終ニ出テス、王翦ハ日々兵士ヲ休息セシメ髮ヲ洗ヒ休ニ行水セシメ、其上善ク士卒ニ飲ミ食ヒセシメ親カ子ヲ愛スル様ニ兵士ノ機嫌ヲ取り、其身親シク士卒同様ノ食物ヲ食ヒ少シモ將軍ノ附テ無シ、  
 久之王翦使人問軍中戲乎。對曰方投石超距。於是王翦曰士卒可用矣。楚數挑戰而秦不出。乃引而東。翦因舉兵追之。



鶏ノ蹴爪ヲ以テ敵ヲ拒クガ如キ意ニテ人ヲ蹴ルヲ距ト云フ、故ニ距ハケルト訓ム、略定ハ乗取ルト云フカ如シ、  
 【文】此半節ハ王勳カ項燕ノ軍ヲ破リ勝ニ乗シ楚國ヲ伐チ平ケタル事ヲ叙ス、  
 【文】此半節ハ策ヲ走ラシ其子賁ノ事ニ及ビ、以テ上文ヲ收拾スル者ナリ、  
 【文】以上ノ一小段ハ王翦父子カ始皇ヲ佐ケ天下ヲ并吞シタル事ヲ叙ス、  
 【文】此節ハ上ヲ束リ以テ下文ヲ

令壯士擊之。大破楚軍。至蕘南。殺其將軍項燕。楚兵遂敗走。秦因乘勝略定楚地城邑。歲餘虜楚王負芻。竟平楚地爲郡縣。

久シク經テ後ニ王翦乃チ人ヲシテ陣屋ヲ巡リ陣中ノ兵士ハ遊ヒ戯ル、クヲサシタリ蹴クヲサシテ遊ヒ餘念無シト曰ヘハ、是ニ於テ王翦ハ士卒ハ漸ク用ル事ノ出來ル様ニナリト曰フ、而モ楚兵カ數々散ヒテ仕掛ケテモ秦兵ハ出テ、戰ハズ、楚軍ハ因テ退屈シ軍兵ヲ引上ケ東ノ方ニ販リ往ケリ、王翦夫レニ附込テ俄ニ令テ發シ軍兵ヲ起シ之ヲ追ハシメ、勇壯ノ士ヲシテ追ヒ擊テ掛ケシメ、大ニ楚ノ軍ヲ打破リ蕘南マテ至リ、楚ノ將軍項燕ヲ殺ス、楚兵ハ因テ遂ニ大崩レテ敗走スレハ、秦軍ハ附込ミ勝チニ乘リ楚國ノ城ヲ邑ヲ乘取リ、一年餘リニシテ楚王負芻ヲ捕子ニシ、竟ニ楚國ヲ打平ラケテ秦ノ郡縣ト爲ス、

因南征百越之君。而王翦子王賁與李信破定燕齊地。

秦始皇二十六年盡并天下。王氏蒙氏功爲多。名施於後世。

王翦ハ其勝ヲ誇ツタル勢ヒニ因テ南方百越ト云フ多クノ夷狄ノ君迄モ征伐シ、其上ニ王翦ノ子息ト李信トハ燕齊ノ地方ノ兵ヲ打破リ不定ニ至ラシメタリ、畢竟秦ノ始皇カ即位ノ二十六年ニ至テ悉ク天下ヲ并吞シタルハ、王翦氏ト蒙恬氏ノ手柄ヲ多シト爲ス、故ニ其名譽カ後世ニ傳ハレリ、

秦二世之時。王翦及其子賁皆已死。而又滅蒙氏。

秦ノ二世皇帝ノ時ニ至テハ、王翦及ヒ其子息王賁ハ皆既ニ死去シ、其上

引起ス者、反ハ叛ナリ、鉅鹿城ハ趙ニ在リ、時ニ趙ハ俄ニ起ル、故ニ新造ト云フ、殺伐ハ殺戮ノ如シ、不祥ハ惡報ヲ指ス、何ハイリハクト訓ム、幾ト何ハ韻同シ、故ニ通用ス、當時未ダ主權ヲ取ル者無シ、故ニ降諸侯ト曰フ、  
 【文】此一小段ハ王翦ノ雄モ三代ノ後ニ至リ滅亡ニ版セシ事ヲ叙ス、  
 【文】此ハ乃チ文法學講義卷ノ四

又大切ナル蒙氏ヲ亡ホシタリ。陳勝之反秦。秦使王翦之孫王離擊趙。圍趙王及張耳鉅鹿城。或曰王離秦之名將也。今將彊秦之兵攻新造之趙。舉之必矣。客曰不然。夫爲將三世者必敗。必敗者何也。以其所殺伐多矣。其後受其不祥。今王離已三世將矣。居無何。項羽救趙擊秦軍。果虜王離。王離軍遂降諸侯。

陳勝ノ謀反ヲ企ルヤ、秦乃チ王翦ノ孫ニ當ル所ノ王離ヲシテ趙ヲ擊ル或人カ評シテ王離ハ秦ノ名將ナリ、今乃チ強秦ノ軍兵ニ大將ト爲リ秦ニ叛テ新タニ興シタル趙ヲ攻レハ、之ヲ攻拔クヤ必然ナリト曰ヘハ、一人カ之ニ答テ否々決シテ然ラス、夫レ大將ト爲ル事カ三代續ケハ急度敗北スト云フ格言有リ、急度敗北スルハ何ノ由縁ソヤト云ヘハ、其三代ノ間ニ殺ス所ノ衆多ニシテ、其後世子孫カ其惡報ヲ受ルヲ以テノ故ナリ、今乃チ王離ハ既ニ三代ノ大將ナリ、故ニ其敗北スルヤ必然ナリト曰フ、斯クスル幾日モ經サルニ、楚ノ項羽カ趙ノ加勢ヲ爲シテ秦ノ軍兵ヲ伐チ、秦ノ如ク王離ヲ捕子ト爲セリ、因テ王離ノ軍勢ハ遂ニ峰起スル所ノ大名ニ降參セリ、

太史公曰鄙語云。尺有所短。寸有所長。

太史公曰鄙キ人ノ語ニ云ヘル有リ、一尺ハ長



ノ五十章ノ所云  
引語起法ナリ、

〔文〕此節ハ鄒語  
ノ所云長所ニ

シ、乃チ揚ナ  
リ、

〔文〕以上ノ一段  
ハ、白起ノ長所

ト短所トヲ論  
ス、

夷ハ平ナリ、

〔文〕以上ハ揚、  
以下ハ抑、

物ハ没ナリ、

亦ハ白起ト王翦ニ  
跨リ下ス、

〔文〕以上ノ一段  
ハ、王翦ノ長短

ヲ論ス、

キモ時トシテハ其長キ一尺カ短カ過キテ間ニ合ハヌ事有リ、一寸ハ短キモ時トシテハ  
其短キ一寸カ長カ過キテ間ニ合ハヌ事有リトハ、其レ豈ト白起ト王翦ノ事ナルカナ、 白

起料敵合變。出奇無窮。聲震天下。 白起カ敵ノ情勢ヲ見積リ其戰ヒ  
ノ變化ニ應シテ攻撃ヲ爲シ、巧

ミニ奇兵ヲ繰出シテ神變不可思議ナルヲ以テ、 然不能救患於應侯。 斯ク白  
白起ノ名聲ハ實ニ天下ヲ震動セシメタリ、

ミニ敵ヲ謀リ自由ニスル技倆有レハ、亦巧ミニ應侯ノ奸計ヲ脱スル答ナリ、然ルニ白起ハ  
讒言ノ患害ヲ應侯ニ於テ自分ト救フ能ハサリシハ、鄒語ノ所云短所ニソアル、○〔文〕抑、

王翦爲秦將夷六國。當是時翦爲宿將。始皇師之。 王翦  
ノ大將ト爲リ齊楚韓魏燕趙ノ六國ヲ伐平ラケリ、是ノ時ニ當テハ王翦ハ老功ノ將軍爲リ、刈

ルカ故ニ始皇帝ノ我儘モノヲ以テスラ之ヲ師範トナセリ、王翦ガ匹夫ヨリ起リ、斯ル至高ノ  
地位ニ達シタルハ、其用兵ノ術ノ神變不可思議ナル

ニ依レリ、是レ鄒語ノ所云長所ニソアル、○〔文〕揚 然不能輔秦建德固其  
根柢。偷合取容以至物身。及孫王離。爲項羽所虜。不

亦宜乎。 王翦ノ智ハ斯ク神變不思議ナリ、故ニ其神變不思議ノ智ヲ振ヒ秦王ヲ輔佐シ  
道徳ヲ高ク立テ、政府ノ根本ヲ堅固ニスル答ナリ、然ルニ彼ハ秦王ヲ輔佐シ

容ル事ノミヲ務メテ夫ヲ以テ其身ノ一生ヲ没スルニ至ル、則チ是ヲ以テ鄒語ノ所云短所ヲ見  
ル、其孫王離ニ及ヒ、楚ノ項羽ノ捕子ト爲ル、王翦ノ末ノ並ニ至ルモ亦白起ノ末路ノ斯ク有

ルモ亦尤モノ道理ナラス乎、何ナレハ彼ノ二人ハ暴ヲ行フヲ知テ徳ヲ積ムヲ知ラザレハナリ、

〔文〕末段ハ筆ヲ  
走ラシ以テ自家

ノ感慨ヲ寓ス、

彼各有所短也。 上文ノ如ク論シテ觀レハ、彼ノ白起ト王翦トノ神變不思議ノ奸  
智ヲ以テスラ尙餘々ニ短所カ有ルナリ、況ヤ史公カ道徳ヲ以テ

壓制ナル武帝ニ事ルヲヤ、其腐刑ニ遇フテ終  
リテ善クセサルモ亦止ムヲ得サル事ニソアル、

史記列傳講義卷之二 畢



44/3/38

明治廿五年十月九日印刷  
同 年十月十日出版

版權所有 價二十五錢

版權登錄



著者

東京市麴町區一番町六番地

岡

三



發行者

全 本郷區本郷二丁目十七番地

西村

元

印刷者

全 京橋區月町廿四番地豐興社

三井駒治

發行所

九同館

東京市本郷區龍岡町二十六番地



同 盟 發 行 所

二西閣

東京市本郷區本郷湯島壹丁目壹番地  
市川孫市

有終閣

全 全  
西 本郷一丁目五番地  
田安三郎

咲文堂

全 全  
西 本郷二丁目十七番地  
村元

穆々堂

全 全  
奧 春木町三丁目廿四番地  
村周助

積運堂

全 全  
金 切通坂町廿一番地  
原寅作

半田屋

全 全  
中 春木町三丁目廿二番地  
尾種五郎

尙成堂

全 全  
山 春木町二丁目廿二番地  
山口徳次郎

三河屋

全 全  
齋 本郷壹丁目四番地  
藤權右衛門

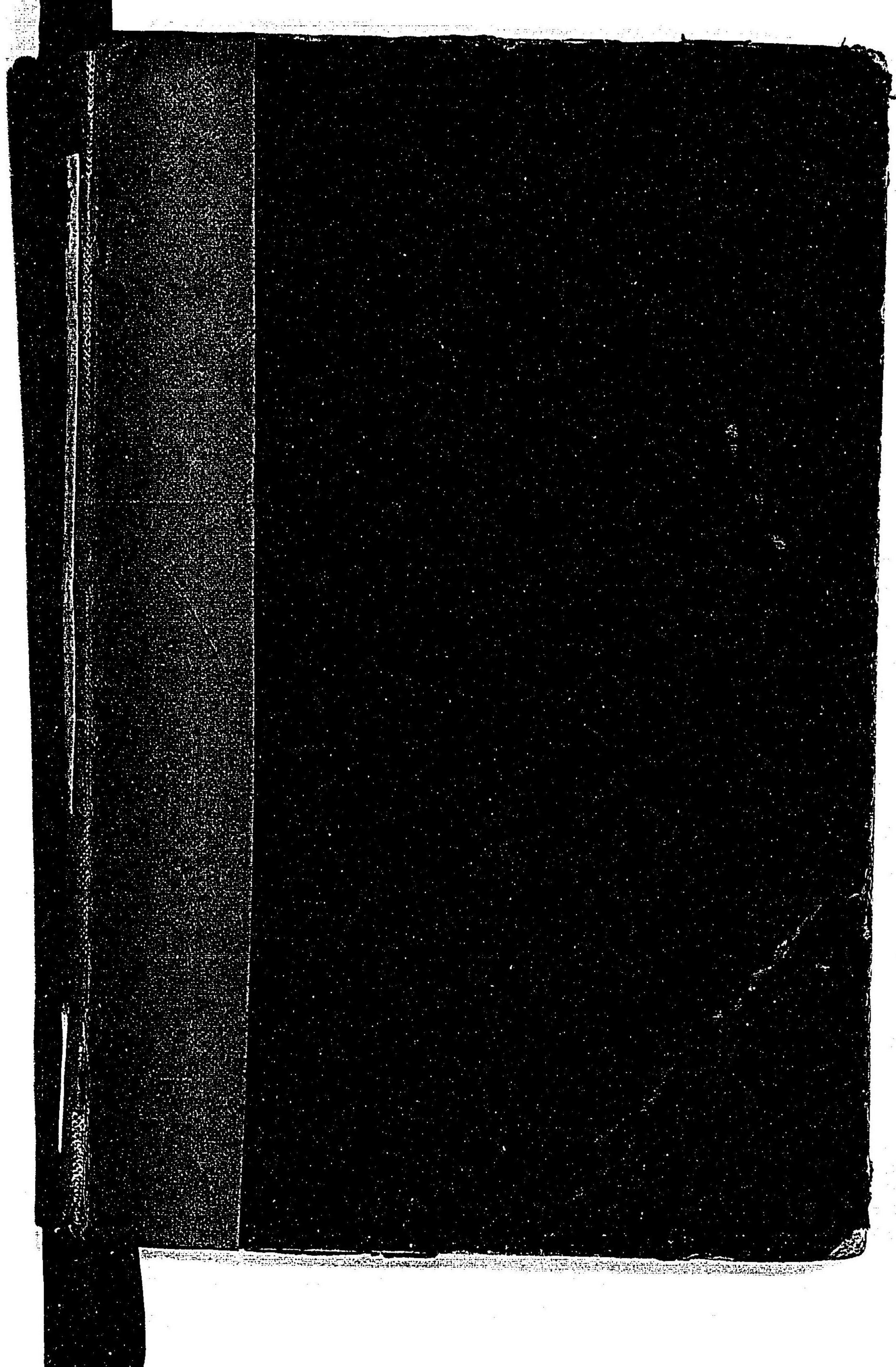
森屋

全 全  
森 本郷龍岡町廿六番地  
保



43  
87







43  
87

003074-000-5

43-87

史記列伝講義 ( 釐頭解釈 )

岡 三慶 / 解

M2-5

ACC-0758





